



TITLE:

京大生の科学観と保守性 2017

AUTHOR(S):

太郎丸, 博

CITATION:

太郎丸, 博. 京大生の科学観と保守性 2017. 2018: 1-291

ISSUE DATE:

2018-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/230683>

RIGHT:

京大生の科学観と保守性 2017

京都大学文学部 社会学研究室

2017 年度 社会学実習 報告書

太郎丸 博 編

2018 年 3 月

目次

調査の概要と尺度の検討	太郎丸 博	1
第1章 科学観と保守性		23
権威主義的態度と学問観の関係	高 明柔	24
権威主義的服従態度と学問観	清水 智基	35
保守的な価値観と科学観・学問観の関連	西尾 英人	45
保守的な科学観と関連する判断軸について	前田 紗代子	64
学生の学問観と保守性	中尾 凌	72
保守主義と科学観が イノベーションに与える影響	仲井 章良	81
保守的な人ほど科学に対して批判的なのか	都築 杏樹	88
第2章 内閣支持に関する分析		97
安倍内閣支持と学問観	塩谷 奈津美	98
科学観と保守主義の関係	角田 知佳	108
「社会的要請の高い分野」とは何か？ 一京大生の科学観と安倍内閣支持のデータを用いた検討—	桑原 啓	113
大学生の自民党支持と権威主義との 関係性について	青山 夏樹	122
科学に対する肯定感と安倍内閣支持度の 関連についての分析	大西 佑佳	131
安倍政権支持と性役割意識、 権威主義との関係	中島 隆文	138
第3章 性役割意識に関する分析		149
権威主義と性別役割分業意識との関係 —京都大学学生へのアンケート調査の分析から—	龔 嘉欣	150
性別役割分業意識と、相対的学者信頼度、 呪術信仰の関係について	河原 優子	162
性役割意識と保守性の関連性	許 蔚欣	171
男女平等主義と科学観の関係	清 菜々穂	183
「女性らしさ」との関連項目	藤久 可奈	191
権威主義的態度と性役割意識の相関	平手 千賀	204

性役割分業意識と性別、政治的態度の関連	鈴木 かな	214
第4章 文系／理系の比較分析		223
学問の信頼感における		
ジェンダー差と文理差について		
一京大生へのアンケート調査に基づいて一	王 毅青	224
文理別の学問肯定感と権威主義	岡本 奈々	238
文系学問に対する有効感と		
保守主義的態度の関係性	久松 春陽	255
京大生の保守的態度と文系学問観	竹内 竜生	268
調査票		283
単純集計表		287

調査の概要と尺度の検討

太郎丸 博

1. 問い——保守主義と科学観はどう関係するのか

前年度と同様に保守主義と科学観の関連を検討するために調査を行った。科学に対する一般市民の理解と支持は、科学の発展のために必要な条件である。しかし、ポスト・トゥルースといった言葉が喧伝されているように、何が事実／真実なのかを軽んじるような風潮が近年強まっている。米国の研究ではこのような科学に反する態度は保守主義者の間で相対的に強いと言われているので、そのような傾向があるか、京大の学生に関して調べてみた。

なお、この章では一貫して人文学や社会科学も含めて科学という言葉を用いる。人文学や社会科学を「科学」とは明確に区別し、その差異を強調するような研究者が少なからず存在することは承知しているが、私はこういった学問分野の境界を本質化するような議論には批判的である。実際、これまで学問分野に対する信頼感や支持を分析した結果を見ると、人文学や社会科学を支持する人は自然科学も支持しやすいという結果が得られており、科学に対する支持や信頼を研究する際に両者をア priori に区別して考えるのは適切とは思えないのである。

2. 授業と調査の概要

授業では例年通り、研究課題に関連する論文をいくつか読み、さらに 2015 年に私が行った政治意識と科学観に関する調査データを少しだけ分析してもらった後に、班に分かれて質問文案を検討してもらった。各班の担当した質問項目は以下のとおりである。

1. 科学支持、
2. 相対的大学信頼度
3. 性役割意識、
4. 権威主義的態度、
5. 呪術信仰

科学支持と相対的大学信頼度は、科学に対する信頼や支持を測定するためのものであり、性役割と権威主義的態度が保守主義関連の項目である。保守 vs. リベラル／革新といった対立軸は漠然と使われており、必ずしも明確な定義が共有されているわけではない。また、科学と対立するような「保守」が日本に存在するとしてもどのような保守なのかははっきりしないため、今年はこの二つについて調べることにした。呪術（magic）信仰とはヴェーバー的な意味で用いており、科学的知識にもとづかない予測や人々の行為や運命の操作への信頼のことである。呪術信仰は理論上は科学とは対立する態度であるが、一般市民にとっては天気予報も占いも、予測のロジックがブラックボックス化されていることがしばしばあるという点では大差ない。そういう意味では必ずしも両者は対立するともいいきれないため、確認のために質問項目に盛り込んだ。

これらの構成概念を測定する質問項目案を作るために、先行研究や既存の調査で用いられてきた質問項目を学生に調べるよう指示し、それらをもとにして質問項目案を作ってもらった。その項目案に対して私がコメントし、学生がそれをもとに最終質問項目案を作り、多少の文言の統一などを私が行い、質問紙の草稿を作った。つまり、学生が決めた質問項目を基本的にはそのまま使っているため、私の目から見ればあまり適切とは

思えない質問項目も質問紙に盛り込んでいる。それはこの調査があくまで教育を第一の目的としているからであり、教員に強制／矯正された成功よりも、トライアンドエラーからのほうが学ぶことが多いと考えたからである。

これを受講学生自身にプリテストしてもらい、さらに微修正を行ってから質問紙を完成させた。実査は京都大学の授業（受講人数の多い講義）の前または後に出席している学生に対して配布し、回答してもらった。有効回収数は 424 で、すべての変数に関してリストワイズで欠損値のあるサンプルを除去すると、398 になる。以下の分析はこのリストワイズしたサンプルを使う。調査に協力してもらった授業は学生に自由に選ばせているので、サンプルは京大の学生からの無作為抽出にはなっていないことはもちろんである。ただし、この調査の目的は意識項目間の相関をみることであり、上記の意識項目が授業に出席するかどうかや授業の種類と強く相関しているとは考えにくいので、この調査は今後の研究の参考になるパイロット・サーベイであると考えられる。

10 月に実査を行い、その後データの入力、クリーニングを経て分析を行った。授業では基礎的な集計の他に、95%信頼区間付きの平均値のプロットと主成分分析、重回帰分析の基礎を教えたので、そういった手法を用いたレポートが書かれている。この後に続く章は学生のレポートのうち学生がこの報告書への掲載（つまり京大のレポジトリでのレポートの公開）を承諾したものである。

3. 尺度構成

以下ではこの調査で調べた科学支持、相対的大学信頼度、性役割意識、権威主義的態度、呪術信仰の 5 つの概念を測定するための質問項目に関して、それぞれ因子分析を行い、どの程度うまく測定ができているか検討する（すべて連続変数として扱う）。なお、

この章でとりあげる意識変数は Q5 の 1, 2, 3, 7 番目の質問を除いてすべて短鋒形の分布をしている。個々の変数の分布に関しては巻末の単純集計表を参照されたい。

また、意識変数間のゼロ次の関連を見るとおおむね線形であるが、16%の組み合わせで曲線的な関係が見られた。具体的には、回答者 i の j 番目の意識項目への回答を X_{ij} とすると、すべての意識項目の組み合わせで（合計 812 通り）、

$$X_{ij} = \beta_0 + \beta_1 X_{ik} + \beta_2 X_{ik}^2 + \epsilon_i \quad (j \neq k)$$

というモデルを OLS で推定し、 β_2 が 5% 水準で有意になるかどうかを調べた。その結果が 16% の組み合わせで有意になった。帰無仮説が正しくても 5%の確率で有意な結果が出てしまうが¹、16% という数字はこれを大きく超えている。偶然という可能性も排除できないが、慎重な検討が必要である。

3-1. 科学支持

科学支持に関する質問項目は以下の 8 つに対して「そう思う」から「そう思わない」までの 5 択で態度を尋ねたものである。

1. 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援すべきである。
2. 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。
3. 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。
4. 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。
5. 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。

¹ 812 回 β_2 の検定を行ったが、「 β_2 がすべてゼロ」という帰無仮説のもとで偶然 5% 水準で有意な結果が出てしまう比率は、812 個の β_2 の分布は独立ではないが、期待値としては 5% になろう。

6. 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

以下では「そう思わない=0」「どちらかと言えばそう思わない=1」「どちらとも言えない=2」「どちらかと言えばそう思う=3」「そう思う=4」と数値を割り振って分析する。上の8変数の平均値と標準偏差は図1、相関係数は表1のとおりである。平均値を見ると1「政府支援」と3「物理学」が若干高いが、せいぜい0.5程度の差である。

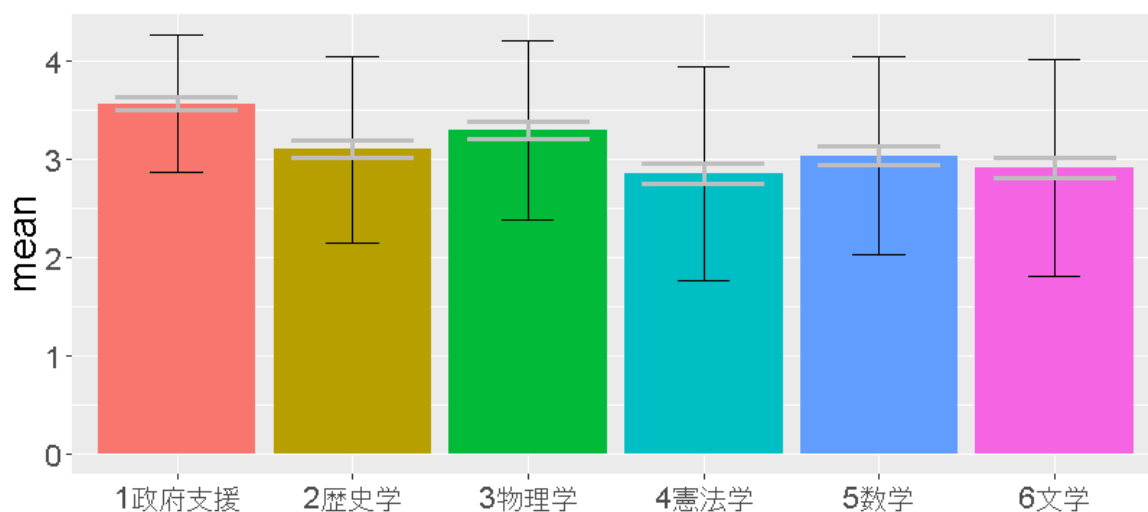


図1 科学支持の平均値、95%信頼区間（灰色のエラーバー）、標準偏差（黒いエラーバー）

表1 科学支持の相関係数（ピアソンの積率相関係数）

	1 政府支援	2 歴史学	3 物理学	4 憲法学	5 数学	6 文学
1 政府支援	1.00	0.20	0.28	0.12	0.24	0.20
2 歴史学	0.20	1.00	0.22	0.37	0.19	0.39
3 物理学	0.28	0.22	1.00	0.32	0.31	0.27
4 憲法学	0.12	0.37	0.32	1.00	0.23	0.34

5 数学	0.24	0.19	0.31	0.23	1.00	0.49
6 文学	0.20	0.39	0.27	0.34	0.49	1.00

1 政府支援と 4 憲法学の相関係数は 5%水準で、その他はすべて 0.1%水準で有意

相関係数はすべて有意であるが、特に 5 数学と 6 文学のあいだで .49 で最大である。これは「学問としての」というワーディングに起因していると思われるが、ワーディングの類似している 3 物理学と 4 憲法学の相関は .32 でそれほどでもない。

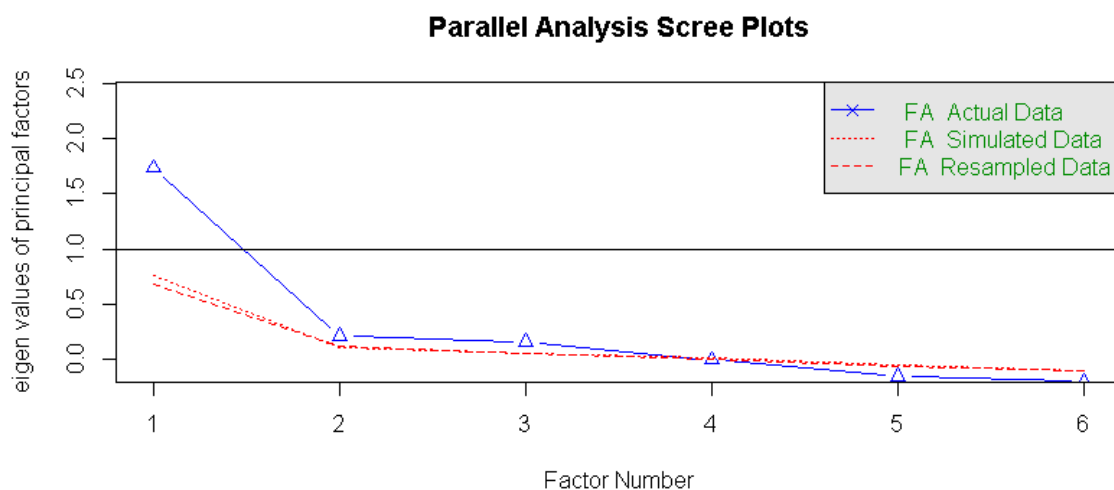


図 2 科学支持の因子分析のスクリープロット

これらの科学支持に関する 6 変数を探索的因子分析（最尤法）にかけた結果のスクリープロットが図 2 で、幾つかの適合度指標を示したのが表 2 である。

表 2 因子分析の適合度

因子数	RMSEA	BIC	SRMR
1	0.115	2.033	0.068
2	0.101	-4.028	0.043

3	0.016
4	0.008

図 2 を見ると、「ひじ」を基準に考えれば因子数は 1 つで十分である。しかし BIC や SRMR を基準とすれば 2 因子でもよさそうである。並行性分析の結果は微妙だが一因子を採択すべきであろう。2 因子解の因子負荷量を見ると、数学の負荷量が 1（つまり共通性も 1）になってしまっている。これはいわゆるヘイウッド・ケースと呼ばれる状態で、推定値は正しくないと考えられる。そこで、1 因子解を採用する。因子負荷量は順に 0.35, 0.51, 0.48, 0.51, 0.59, 0.71 である。

3-2. 大学信頼度

大学の研究機関を企業や政府、マスコミに比べてどの程度信頼しているのかを調べるために、「環境汚染の原因」と「景気対策」について上記の四機関が見解を表明したときに、それをどれくらい信じるか尋ねている（5 点尺度）。ワーディング等の詳細は巻末の質問紙を参照されたい。科学支持と同じようにして「信頼しない」から「信頼する」までの選択肢に 0～4 の値を割り振り、それらの平均とその 95%信頼区間、標準偏差を示したのが、図 3 である。

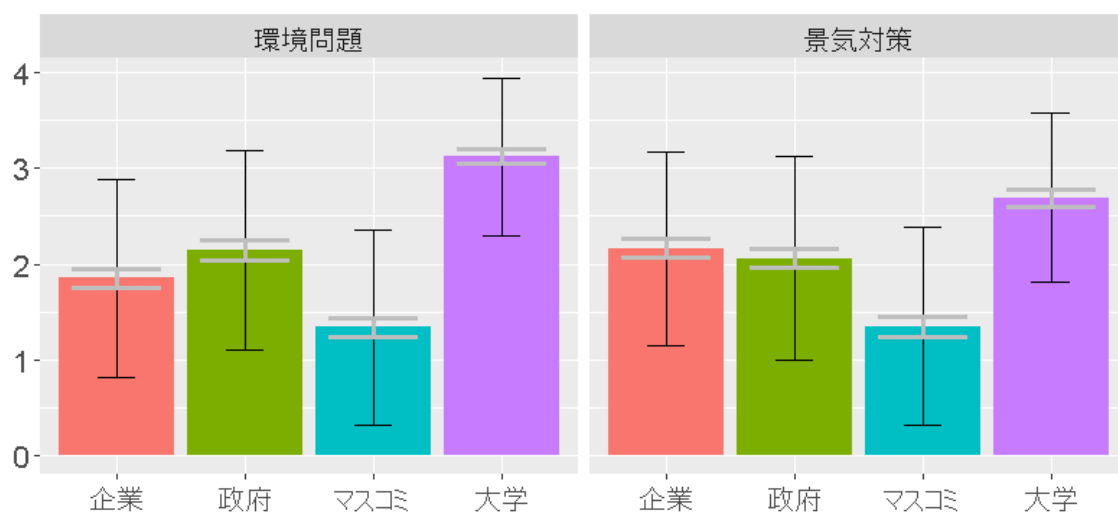


図 3 環境問題と景気対策に関する四機関の見解への信頼度の平均値、95%信頼区間（灰色のエラーバー）、標準偏差（黒いエラーバー）

マスコミへの信頼度の平均値が最も低く、大学が最も高い。企業と政府が両者の間で環境問題の場合は政府のほうが平均信頼度が高く、景気の場合は両者の信頼区間はかさなっており、ほとんど差はないといえる。これらの相関係数が表 3 である。

表 3 四機関への信頼の相関係数（ピアソンの積率相関係数）

	環境問題				景気対策			
	企業	政府	マスコミ	大学	企業	政府	マスコミ	大学
環境問題								
企業		0.5 ***	0.22 ***	0.25 ***	0.52 ***	0.39 ***	0.2 ***	0.12 *
政府	0.5 ***		0.31 ***	0.4 ***	0.36 ***	0.56 ***	0.22 ***	0.24 ***
マスコミ	0.22 ***	0.31 ***		0.1 *	0.19 ***	0.22 ***	0.71 ***	0.14 **
大学	0.25 ***	0.4 ***	0.1 *		0.21 ***	0.27 ***	-0.01	0.53 ***
景気対策								
企業		0.52 ***	0.36 ***	0.19 ***	0.21 ***	0.46 ***	0.28 ***	0.25 ***
政府	0.39 ***		0.56 ***	0.22 ***	0.27 ***	0.46 ***	0.33 ***	0.3 ***
マスコミ	0.2 ***	0.22 ***		0.71 ***	-0.01	0.28 ***	0.33 ***	0.18 ***
大学	0.12 *	0.24 ***	0.14 **		0.53 ***	0.25 ***	0.3 ***	0.18 ***

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$,

最尤法で探索的因子分析をして、適切な因子数を検討した結果が、図 4 と表 4 である。

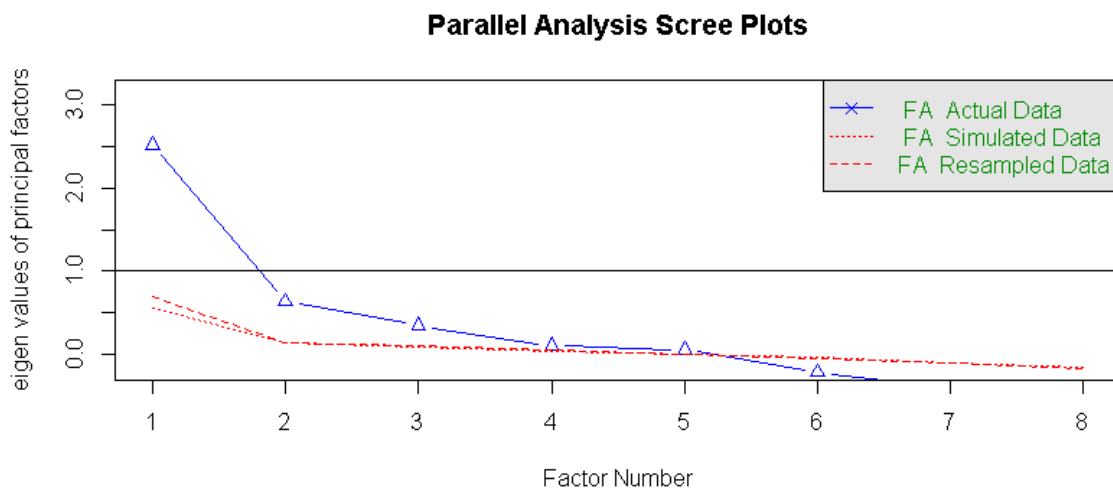


図 4 信頼度の因子分析のスクリープロット

「ひじ」を基準とすれば 1 因子で十分であるが、平行分析からは 2~3 因子が示唆される。RMSEA と BIC からは 4 因子、SRMR からは 3 因子以上が示唆されるが、これもヘイウッド・ケースが発生しており、2 因子以上のモデルでは「景気・マスコミ」の負荷量や共通性が 1 になってしまう。本稿の目的が大学に対する信頼度を適切に測定することであることも鑑みて、一因子モデルを採択する。一因子モデルの負荷量は順に 0.62, 0.73, 0.42, 0.44, 0.61, 0.71, 0.43, 0.4 である。この因子は一般的な信頼感をあらわすと考えられる。

表 4 四機関に対する信頼度の因子分析の適合度

因子数	RMSEA	BIC	SRMR
1	0.231	318.377	0.139
2	0.183	105.979	0.084
3	0.164	38.925	0.045
4	0.130	3.218	0.020
5			0.000

3-3. 大学信頼度の二つの指標

上記の相関係数や因子分析の結果から明らかなように、大学に対する信頼度は一般的な信頼感の影響を受けていると考えられる。このような一般的な信頼感の影響を取り除く方法として相対的大学信頼度と、固有大学信頼度という二つの指標を、環境問題と景気対策のそれぞれについて作る。

相対的大学信頼度

相対的大学信頼度とは大学に対する信頼度から、その他の機関に対する信頼度の平均値をひいた値である。すなわち、

$$\text{相対的大学信頼度} = \text{大学信頼度} - \frac{\text{企業信頼度} + \text{政府信頼度} + \text{マスコミ信頼度}}{3}$$

と定義する。このようにすれば、一般的な信頼感の影響は相殺され、他の機関に比べて大学をどの程度信頼するのかがわかるはずである。これを環境問題と景気対策のそれぞれについて計算し、それらのヒストグラムを示したのが図 5 である。相対的大学信頼度はゼロより大きいと大学に対する信頼度のほうが相対的に大きいことを意味する。環境問題も景気対策も大半の回答者は大学のほうをより信頼しているが、特に環境問題のほうが大きな値を示すことが多い。ちなみに両者の相関係数は、0.55 である。

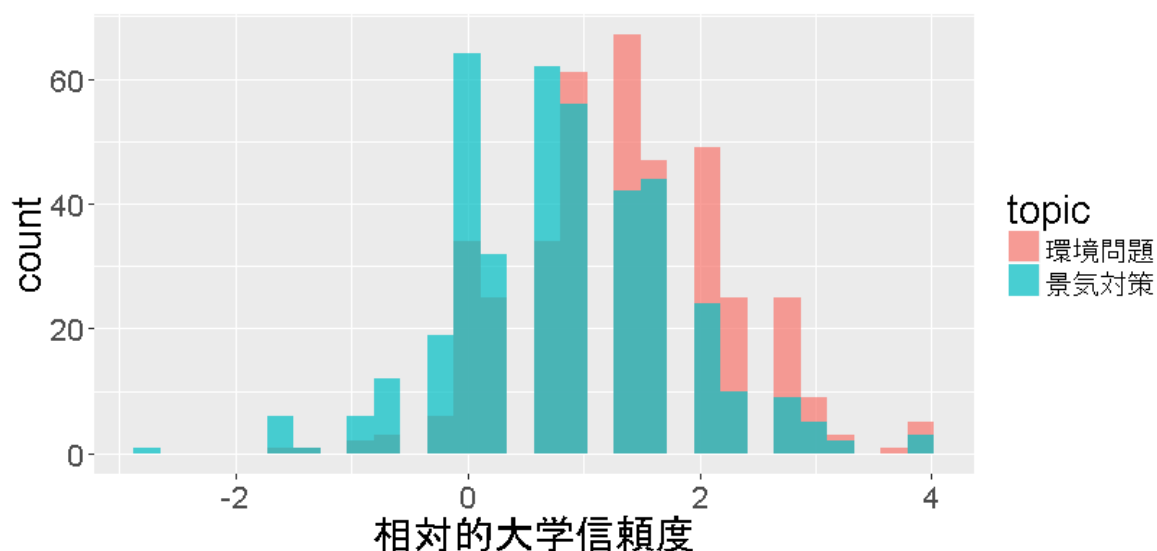


図 5 相対的大学信頼度のヒストグラム

固有大学信頼度

固有大学信頼度とは、大学に対する信頼度から一般的な信頼感の影響を取り除いた残差である。具体的には以下のように操作化する。

1. 一般的な信頼感は上で行った 8 項目の信頼感の因子分析の一因子解の因子得点 (Thurstone 法) で測定する。これを F_i と呼ぶ。
2. 一般的な信頼感に大学に対する信頼感 (Y_i) を回帰させる (OLS)。すなわち、 $Y_i = \beta_0 + \beta_1 F_i + \epsilon_i$ というモデルを推定する。
3. 上の回帰分析の結果得られた残差 (ϵ_i) を、固有大学信頼度とする。これを環境問題と景気対策のそれぞれについて計算すると、両者の分布は図のようになり、両者の相関係数は 0.4 である。

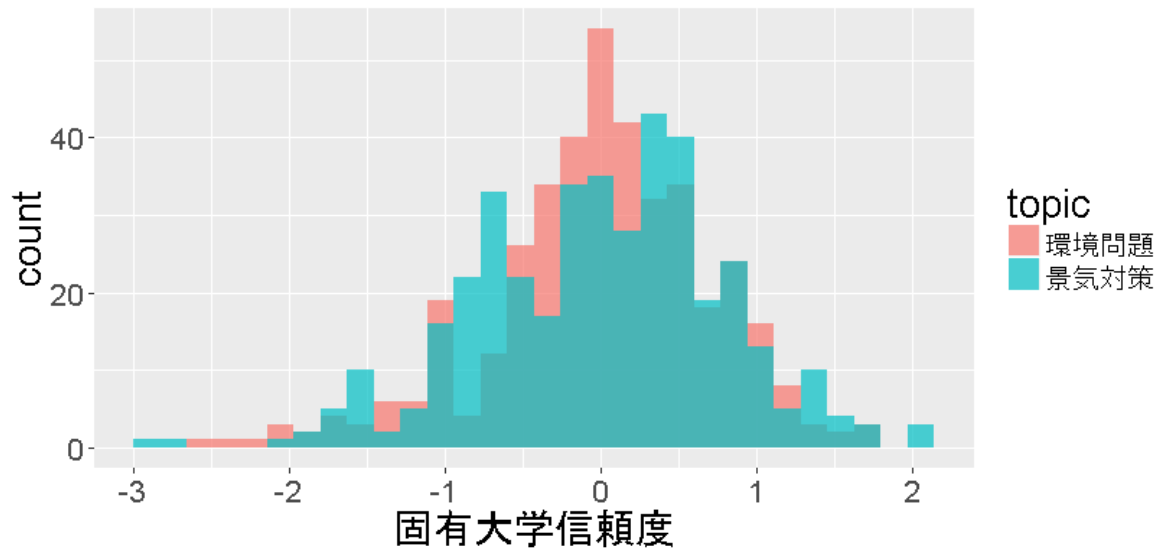


図 6 固有大学信頼度のヒストグラム

3-4. 性役割意識

性役割意識に関する質問は以下の 5 つの考え方に対する賛否を尋ねたもの（「賛成」から「反対」までの五択）である。（ ）内の語は以下で用いる略称である。

1. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ（夫外妻家）。
2. 概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける（フルタイム）。
3. 夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事をもたない方がよい（十分収入）。
4. 男性は「育児休業制度」を積極的に利用したほうがよい（男育休）。
5. 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している（男指導者）。

4「男育休」以外は「反対」から「賛成」までの選択肢に 0～4 の値を割り振り、4「男育休」は逆に「賛成」から「反対」までの選択肢に 0～4 の値を割り振って値が大きくなるほど性役割意識が強くなるようにした。それらの平均とその 95%信頼区間、標準偏差を示したのが、図 7 である。

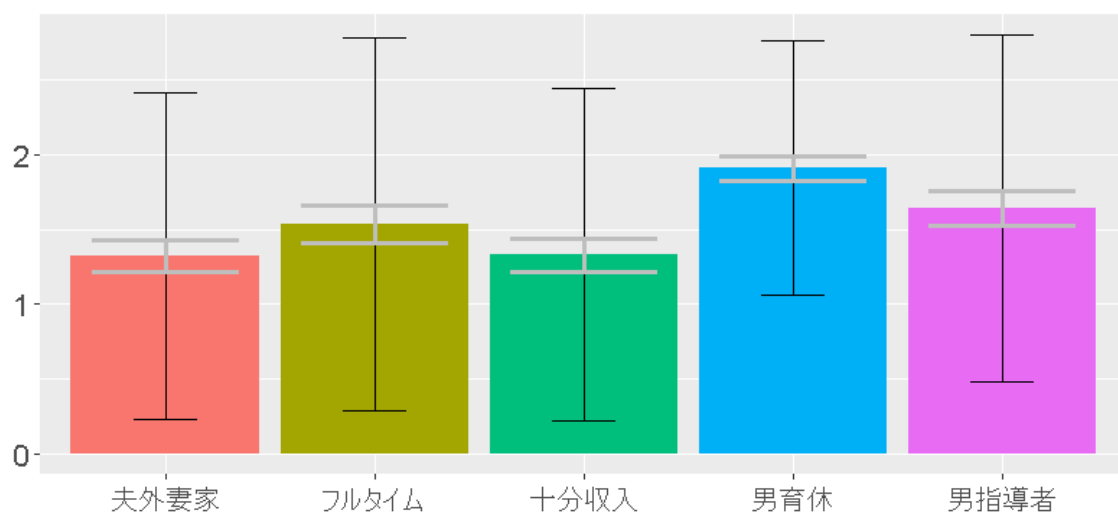


図 7 性役割意識の平均値、95%信頼区間（灰色のエラーバー）、標準偏差（黒いエラーバー）

4「男育休」が特に平均値が高く、1「夫外妻家」と3「十分収入」で低い、これらの平均値の差は 0.59 なのであまり大きな違いではなく、授業に出ている京大生の性役割意識は「どちらともいえない」よりはやや性役割に否定的な傾向と言えよう。次にこれらの相関係数を示したのが、表 5 である。

表 5 性役割意識の相関係数（ピアソンの積率相関係数）

	夫外妻家	フルタイム	十分収入	男育休	男指導者
夫外妻家		0.55	0.63	0.18	0.44
フルタイム	0.55		0.57	0.09	0.37
十分収入	0.63	0.57		0.1	0.34
男育休	0.18	0.09	0.1		0.2
男指導者	0.44	0.37	0.34	0.2	

2「フルタイム」と4「男育休」、3「十分収入」と4「男育休」の組み合わせ以外はすべて 0.1%水準で有意

4「男育休」だけがその他の項目との相関が弱い。つまり、男性の育休と女性の就業を切り離して考える学生が少なからずいることが示唆される。

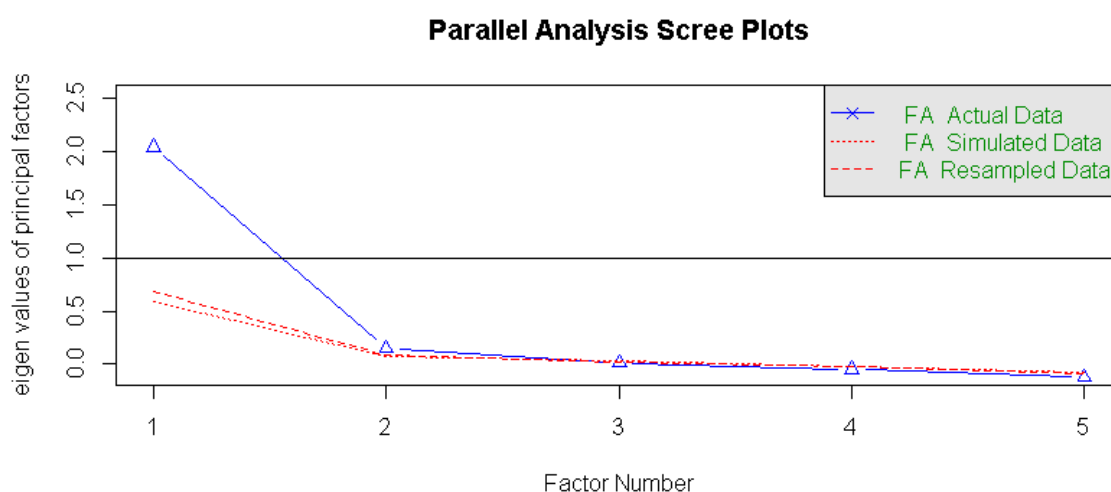


図 8 性役割意識の因子分析のスクリープロット

最尤法で探索的因子分析をして、適切な因子数を検討した結果が、図 8 と表 6 である。RMSEA だけが 2 因子解を支持し、それ以外の基準からは 1 因子で十分と考えられる。4「男育休」を分析から除外すれば一因子できれいにまとまるが、これも性役割意識の項目と十分考えられるので、除外せずに一因子解を採択する。一因解の因子負荷量は順に 0.81, 0.71, 0.77, 0.18, 0.51 である。

表 6 因子分析（性役割意識）の適合度

因子数	RMSEA	BIC	SRMR
1	0.077	-13.328	0.045
2	0.039	-4.400	0.012
3			0.000

3-5. 権威主義的態度

権威主義的態度に関する質問は以下の 4 つの考え方に対する賛否を尋ねたもの（「賛成」から「反対」までの五択）である。（）内の語は以下で用いる略称である。

1. 伝統を守っていれば、問題は起こらない（伝統）。
2. どんな状況でも法律には従わなければならない（法律）。
3. 自分より権力のある人には従わなければならない（権力）。
4. この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである（指導者）。

権威主義的であるほど数値が大きくなるように 0～4 の整数を割り振った。これら 4 つの変数をの平均とその 95%信頼区間、標準偏差を示したのが、図 9 である。

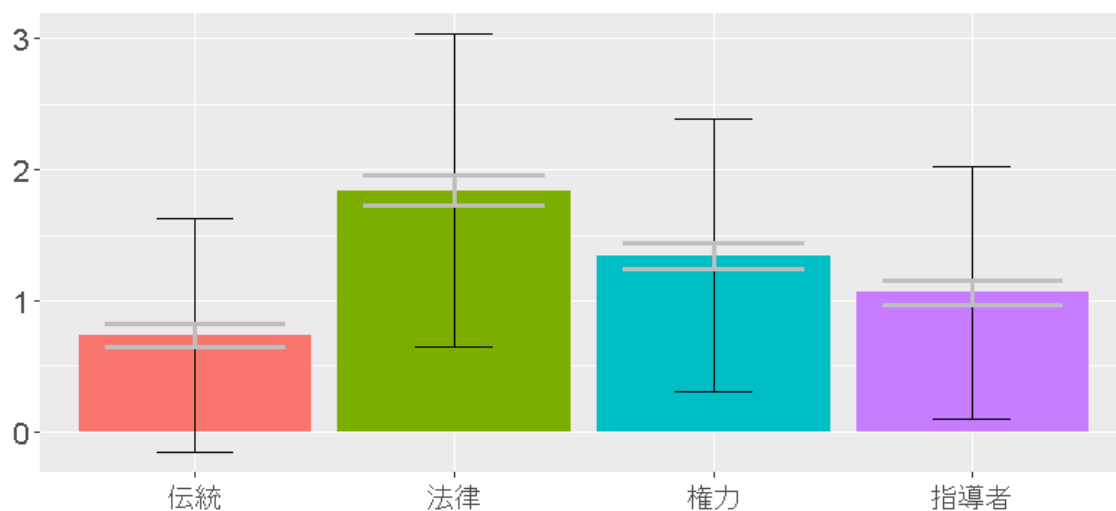


図 9 権威主義的態度の平均値、95%信頼区間（灰色のエラーバー）、標準偏差（黒いエラーバー）

さすがに「伝統」は平均値が 1=「どちらかといえばそう思わない」よりも有意に低い
 が、「法律」となると 2=「どちらともいえない」に近い平均になっている。次にこ
 れらの変数間の相関係数を示したのが表 7 である。

表 7 権威主義的態度の相関係数（ピアソンの積率相関係数）

	伝統	法律	権力	指導者
伝統		0.15	0.37	0.41
法律	0.15		0.40	0.21
権力	0.37	0.40		0.48
指導者	0.41	0.21	0.48	

1「伝統」と 2「法律」の相関係数は 1%水準で、その他はすべて 0.1%水準で有意

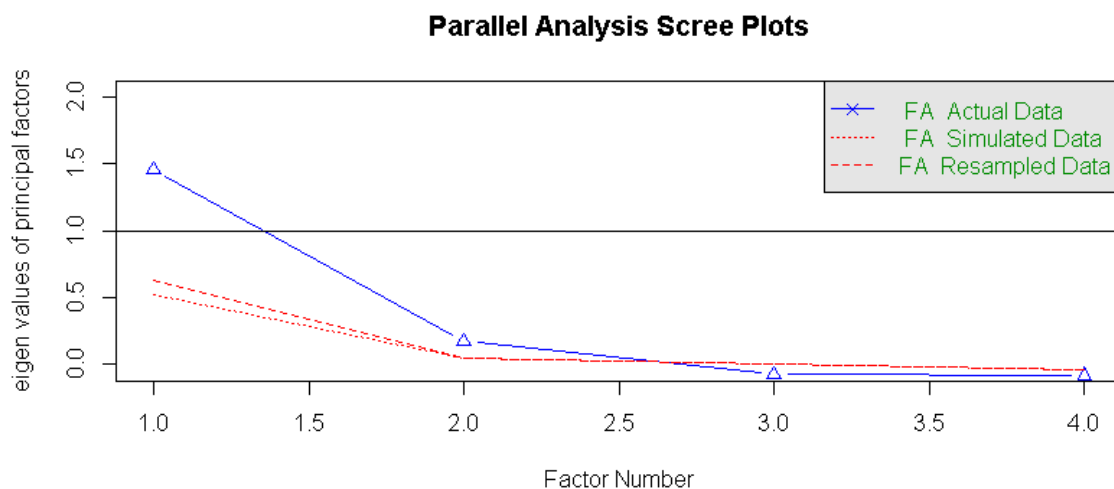


図 10 権威主義的態度の因子分析のスクリープロット

2「法律」と他の項目との相関がやや小さいが、全般に高い相関がある。これらを最
 尤法で探索的因子分析をして、適切な因子数を検討した結果が、図 10 と表 8 である。

RMSEA と SRMR がやや大きい、肘の位置や並行分析の結果からは一因子解が支持される。項目が 4 つしかないことも鑑みて一因子解を採択する。一因子解の因子負荷量は順に 0.51, 0.43, 0.77, 0.64 である。

表 8 因子分析（権威主義的態度）の適合度

因子数	RMSEA	BIC	SRMR
1	0.143	6.105	0.06
2			0.00
3			0.00

3-6. 呪術信仰

呪術信仰の項目は以下の 5 つである。まず、以下のようなことがどの程度あったかを、「3 そう思う」「2 どちらかといえばそう思う」「1 どちらかといえばそう思わない」「0 そう思わない」の 4 択でたずねている。

1. 自分の子どもの名前を考えると、姓名判断を参考にしようと思う（姓名判断）。
2. 自然の中に、人間の力を超えた何かを感じる（自然）。
3. 神社やお寺でのおみくじの結果は気になる（みくじ）
4. 忌み言葉（受験前の「滑る、落ちる」、結婚式での「たびたび、切れる」など）は気になる（忌み詞）
5. さまざまな占いの中には科学的なものもある（占い）

これらの平均値とその 95%信頼区間、標準偏差を示したのが図 11 である。

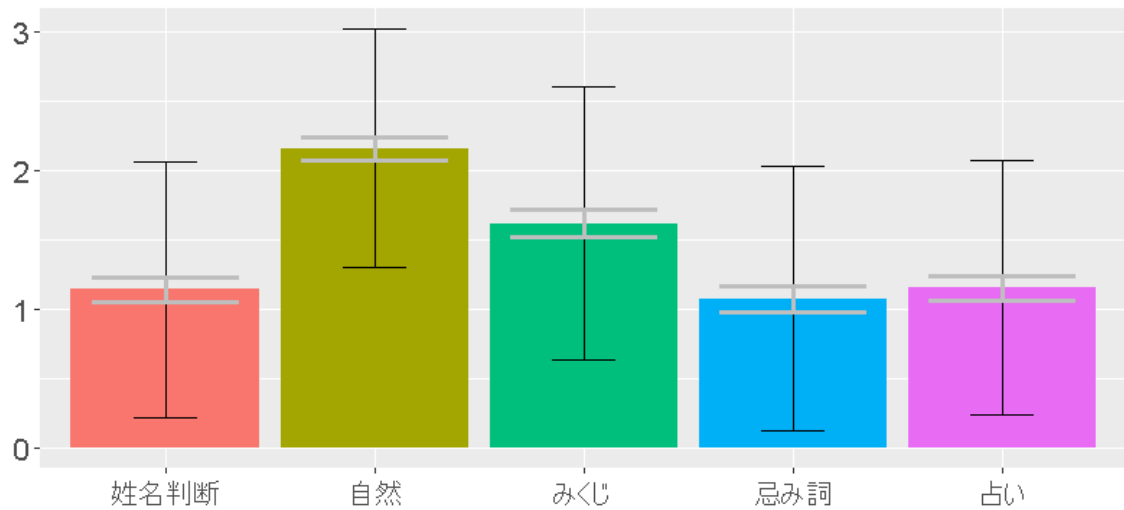


図 11 呪術信仰の平均値、95%信頼区間（灰色のエラーバー）、標準偏差（黒いエラーバー）

二番目の「自然」の平均値がもっとも高く、2=「どちらかといえばそう思う」より大きい。その次に平均値が大きいのが三番目の「みくじ」、その他はほぼ同じ平均値で1=「どちらかといえばそう思わない」ぐらいの値である。以上の5つの呪術信仰に関する質問項目間の相関を示したのが、表9である。

表 9 呪術信仰の相関係数（ピアソンの積率相関係数）

	姓名判断	自然	みくじ	忌み詞	占い
姓名判断		0.22	0.33	0.41	0.20
自然	0.22		0.18	0.13	0.17
みくじ	0.33	0.18		0.46	0.20
忌み詞	0.41	0.13	0.46		0.20
占い	0.20	0.17	0.20	0.20	

すべて 0.1%水準で有意

二番目の「自然」と五番目の「占い」と他の項目との相関がやや弱いですが、すべて 0.1% 水準で有意ではある。さらに因子分析（最尤法）した結果のスクリープロットが図 12 で、その他の適合度指標をまとめたのが表 10 である。

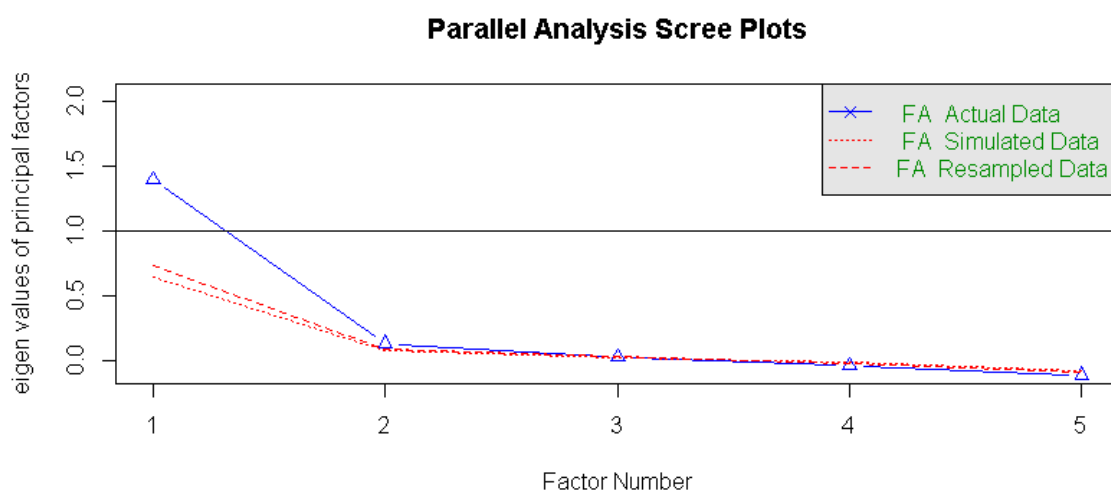


図 12 呪術信仰に関する態度の因子分析のスクリープロット

RMSEA がわずかに 0.05 を上回ってはいるが、その他の基準では一因子解が支持されるので、一因子解を採択する。因子負荷量は順に 0.58, 0.28, 0.63, 0.69, 0.33 である。

表 10 因子分析（呪術信仰）の適合度

因子数	RMSEA	BIC	SRMR
1	0.056	-18.748	0.041
2	0.000	-5.825	0.005
3			0.000

4. 指標間の関係

学問観と保守主義、呪術信仰の関係を以下では概観していく。科学観の指標には、科学支持の因子得点と、環境問題と景気対策に関する相対的大学信頼度と固有大学信頼度（計5つ）を用いる。保守主義の指標には前の節で行った性役割意識、権威主義の因子分析からえた因子得点（Z得点化したもの）、および安倍内閣支持（0＝「ほとんど支持していない」から3＝「かなり支持している」までの4択）を用いる。

上記の諸変数と女性ダミーの相関係数を示したのが、表11である。科学支持と4種類の大学信頼度の相関は弱い、景気対策に関する相対的大学信頼度と固有大学信頼度との相関は有意である。科学支持と保守主義の指標の関係をしてみると、性役割意識と権威主義、安倍内閣支持に関しては、予測通りマイナスの相関が見られるが、呪術信仰との相関は有意ではない。4種類の大学信頼度と保守主義の指標の相関を見ると、権威主義が概ね予測通りのマイナスの相関を示しているものの、性役割意識と安倍内閣支持に関しては、「相対大学.景気」以外は有意な相関がない。呪術信仰は性役割意識や権威主義的態度とプラスに相関しており、常識的に理解できる結果であるが、「固有大学.景気」とプラスの有意な相関がある。つまり呪術信仰の強いものほど大学の景気対策に関する見解を信じやすいという傾向がわずかながら見られる。

表 11 尺度間の相関係数（ピアソンの積率相関係数）

	科学支 持	相対大学. 環境	相対大学. 景気	固有大学. 環境	固有大学. 景気	性役割	権威主 義	呪術信 仰	内閣支 持
女性	0.19***	-0.01	0.03	0	0.11*	-0.26***	0.01	0.13*	-0.17***
科学支持	0.19***	0.03	0.1*	0.09	0.1*	-0.16**	-0.16**	-0.08	-0.13*
相対大学. 環境	-0.01	0.03	0.55***	0.87***	0.47***	-0.04	-0.18***	-0.03	-0.02

相対大学. 景気	0.03	0.1*	0.55***		0.52***	0.87***	-0.11*	-0.2***	0.04	-0.12*
固有大学. 環境	0	0.09	0.87***	0.52***		0.4***	-0.07	-0.17***	-0.02	-0.01
固有大学. 景気	0.11*	0.1*	0.47***	0.87***	0.4***		-0.07	-0.1	0.1*	-0.07
性役割	-0.26***	-0.16**	-0.04	-0.11*	-0.07	-0.07		0.37***	0.19***	0.27***
権威主義	0.01	-0.16**	-0.18***	-0.2***	-0.17***	-0.1	0.37***		0.28***	0.16**
呪術信仰	0.13*	-0.08	-0.03	0.04	-0.02	0.1*	0.19***	0.28***		-0.03
内閣支持	-0.17***	-0.13*	-0.02	-0.12*	-0.01	-0.07	0.27***	0.16**	-0.03	

*** p<.001, ** p<.01, * p<.05,

最後に科学支持と四種類の大学信頼度を従属変数として重回帰分析を行った。独立変数は上記の保守主義、呪術信仰の指標とその二乗、および女性ダミーで、AIC を基準とした後退ステップワイズ法で変数を選択した。その結果が表 12 である。係数が書かれていない欄は、その係数を除くと AIC が減少する、つまりモデルの適合度がよくなるため、ステップワイズ法でモデルから除去されたことを意味する。性役割意識の行はまったく係数が書かれていないが、これはどの従属変数に関してもモデルの適合度をよくする効果がないということである。また有意でない係数があるのは、有意でなくてもモデルから除去すると AIC が増加することもあるからである。

表 12 科学観の回帰分析（ステップワイズ法で AIC が最小のモデル）

	科学支持	相対大学. 環境	相対大学. 景気	固有大学 環境	固有大学 景気
(Intercept)	-0.14 *	1.27 ***	0.69 ***	-0.04	-0.05
	(0.06)	(0.06)	(0.07)	(0.04)	(0.05)
女性	0.36 ***				0.18 *
	(0.10)				(0.09)
権威主義	-0.15 **	-0.21 ***	-0.27 ***	-0.15 ***	-0.12 *
	(0.05)	(0.05)	(0.06)	(0.04)	(0.05)
呪術信仰			0.12 *		0.12 *
			(0.06)		(0.05)
内閣支持	-0.07				
	(0.05)				

性役割二乗		0.09 *		0.05	
		(0.04)		(0.03)	
権威主義二乗			0.08		
			(0.05)		
呪術信仰二乗	0.07				
	(0.05)				
内閣支持二乗			0.13 *		
			(0.06)		
<hr/>					
R ²	0.07	0.04	0.07	0.04	0.04
N	398	398	398	398	398
<hr/>					
*** p < 0.001, ** p < 0.01, * p < 0.05					

まず、権威主義が一貫してマイナスの有意な効果を持っている。性役割意識は効果があるとは考えられず、内閣支持もモデルから除外されているか、モデルに残っていても有意ではない。興味深いのは呪術信仰の効果で、景気対策に関する相対的大学信頼度と固有大学信頼度に正の有意な効果を示している。つまり、呪術を信じる人ほど景気対策に関して大学を信頼するということである。二乗項のいくつかがモデルに残っているが、すべて有意なので、中間回答選好による疑似相関の可能性もあるが、あまり多くないので偶然有意になっているだけという可能性もある。

5. 議論

今回の調査結果は、昨年度の調査結果と比べると仮説通りの結果が多少は出ているが、ちょっとしたワーディング等によって結果が変わってしまっている可能性も否定できず、もう少し慎重に指標の有効性を検討する必要があるだろう。

第 1 章

科学観と保守性

権威主義的態度と学問観の関係

高 明柔

1. 導入

アメリカのトランプ大統領は当選前後、科学に関する議題をめぐって、科学者たちとの関係が悪化してきた。具体的にいうと、彼は科学者の意見を聞かずにパリ協定を脱退し、科学研究に対する予算を削減し、科学の有用性を明らかに軽視している。つまり、アメリカにおいて、科学と政治の対立は激しくなっている。日本では、科学と政治の対立はそれほど激しくないが、完全に調和しているわけでもない。

そこで、本研究は権威主義的態度と個人の学問観との関係を分析してみる。

Fromm (1941) によると、権威主義的性格はナチズムの炎上に潜在する人格的構造である。彼は権威主義的性格をサド=マゾヒズムとしてとらえ、権威のある者への絶対的服従と自己より弱い者に対する攻撃的性格の共生とした (Fromm, 1941)。後にアドルノらは権威主義的パーソナリティを測定する F 尺度を作り出し、右翼的な政治的態度との繋がりを検証した (原田, 1992)。原田 (1992) によると、権威主義的傾向と保守的な政治的態度が強く相関していると示されている。吉川 (1994) も権威主義的傾向によって、伝統工業的価値を認めやすく、環境問題についての関心も少なくなるという関係が存在していると提示している。

そこで、本研究では、「権威主義的態度が強くなるほど、学問の有用性を低く評価する」という仮説を立てる。保守主義的政治態度の他に、権威主義的態度という側面で科学と保守主義の関係を明らかにしてみる。

2. 方法

2-1. データ

本研究が用いるデータは京都大学の学部生および院生を対象に実施された質問紙調査「科学と政治に関する意識調査」であり、サンプルサイズが 424 である。

2-2. 変数

2-2-1. 権威主義的態度

本研究の独立変数は権威主義的態度であり、質問紙から、以下の四つの質問項目を使用した。

- q5x6 伝統を守っていれば、問題は起こらない。
- q5x7 どんな状況でも法律には従わなければならない。
- q5x8 自分より権力のある人には従わなければならない。
- q5x9 この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである。

すべて、「0 そう思わない」「1 どちらかというと思わない」「2 どちらともいえない」「3 どちらかというと思う」「4 そう思う」の 5 点尺度で態度を尋ねた。

各質問項目の記述統計量は表 1 で示す。

表 1 独立変数（権威主義的態度）の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差
伝統守る	415	0.75	0.900
法律従う	416	1.85	1.186

権力者従う	416	1.34	1.050
指導者頼る	416	1.08	0.970

各質問項目間の相関行列は表 2 で示す。

表 2 独立変数間の相関行列（Pearson の相関係数）

	伝統守る	法律従う	権力者従う	指導者頼る
伝統守る		.137**	.377**	.408**
法律従う	.137**		.375**	.205**
権力者従う	.377**	.375**		.499**
指導者頼る	.408**	.205**	.499**	

** 相関係数は 1% 水準で有意（両側）。

四つの質問項目間の信頼性係数 α は 0.658 であり、足し合わせることができる。足し合わせた新たな変数は「権威主義」と名付ける。

2-2-2. 他の独立変数

Gross（2013）によると、学科別によって大学教授の政治的態度も異なるため、学生の学部も学問の有用性に対する認知に影響を与えるかもしれない。

学部の他に、性別、安倍内閣の支持度も学問観に影響を与えるかもしれない。そのため、それらも独立変数として分析してみる。

性別と学部に関して、以下のような質問項目がある。

- q1 あなたの所属する学部と性別を教えてください。

_____学部 1 男 2 女

安倍内閣の支持度に関して、以下のような質問項目がある。

- q4 あなたは安倍内閣を支持していますか。

この質問項目は、「0 ほとんど支持していない」「1 あまり支持していない」「2 やや支持している」「3 かなり支持している」の 4 点尺度で、安倍内閣の支持度を尋ねた。本研究では、安倍内閣を支持するほど、保守主義的政治態度が強くなると見なす。

「権威主義」と他の独立変数の記述統計量は表 3 で示す。

表 3 各独立変数の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
権威主義	415	5.03	2.90	0	15
性別	424	0.74	0.44	0=女性	1=男性
学部	422	0.56	0.50	0=文系	1=理系・その他
安倍内閣の支持度	409	1.51	0.83	0	3

2-2-3. 学問の有用性の認知

本研究の従属変数は学問の有用性に対する認知であり、質問紙から、以下の六つの質問項目を使用した。

- q2x1 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援するべきである。

- q2x2 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。
- q2x3 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。
- q2x4 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。
- q2x5 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。
- q2x6 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

すべて、「0 そう思わない」「1 どちらかというと思わない」「2 どちらともいえない」「3 どちらかというと思う」「4 そう思う」の 5 点尺度で学問観を尋ねた。

各質問項目の記述統計量は表 4 で示す。

表 4 従属変数（学問の有用性の認知）の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差
科学支援	424	3.55	0.71
歴史学	423	3.11	0.94
物理学	423	3.29	0.90
憲法学	422	2.86	1.08
数学	424	3.04	1.02
文学	424	2.92	1.09

各質問項目間の相関行列は表 5 で示す。

表 5 従属変数間の相関行列（Pearson の相関係数）

	科学支援	歴史学	物理学	憲法学	数学	文学
科学支援		.200**	.286**	.125*	.258**	.199**

歴史学	.200**		.232**	.372**	.178**	.379**
物理学	.286**	.232**		.331**	.301**	.265**
憲法学	.125*	.372**	.331**		.231**	.343**
数学	.258**	.178**	.301**	.231**		.496**
文学	.199**	.379**	.265**	.343**	.496**	

** 相関係数は 1% 水準で有意（両側）。

* 相関係数は 5% 水準で有意（両側）。

六つの質問項目間の信頼性係数 α は 0.703 であり、足し合わせることができる。足し合わせた新たな変数は「学問の有用性」と名付ける。

「学問の有用性」の記述統計量は表 6 で示す。

表 6 従属変数（学問の有用性）の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
学問の有用性	421	18.75	3.68	6	24

3. 結果

3-1. 学問の有用性の性差

男女で学問の有用性に対する認知には差があるかどうかを検証した結果は図 1 で示す。

図 1 によると、学問の有用性に対する認知の平均値は女性のほうが男性より高く、男女の 95%信頼区間は重なっていなかった。よって男女の平均値には統計的に有意な差があるといえる。

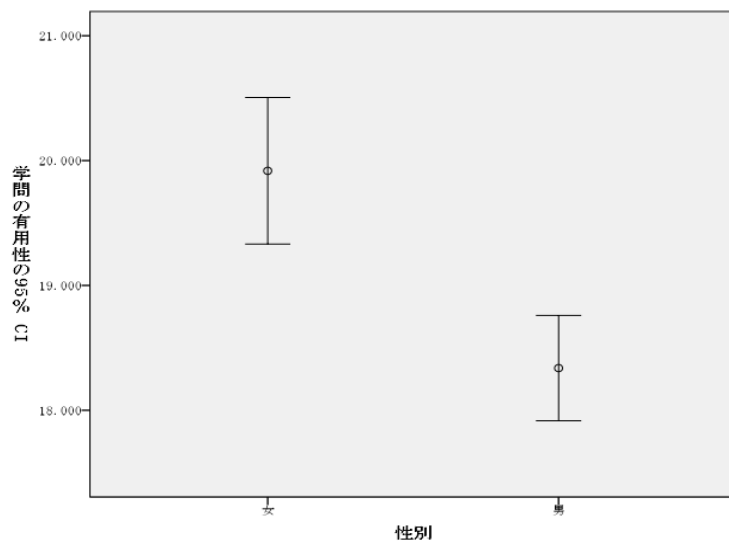


図 1 「学問の有用性」の男女別の平均値（95%信頼区間）

3-2. 学部による学問の有用性に対する認知の差異

文系/理系・その他で学問の有用性に対する認知には差があるかどうかを検証した結果は図 2 で示す。

学問の有用性に対する認知の平均値は文系のほうが理系・その他より高く、95%信頼区間は少し重なっており、有意な差があるといえる。

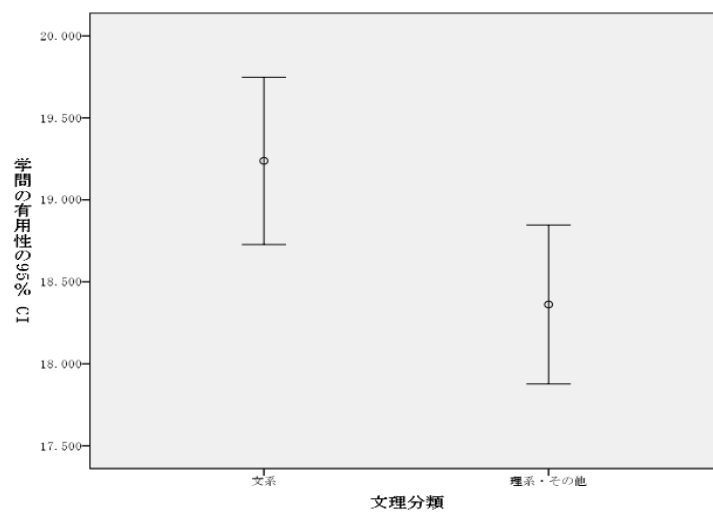


図 2 「学問の有用性」の学部別の平均値（95%信頼区間）

3-3. 学問の有用性と保守主義的政治態度の関係

保守主義の政治態度の程度別で学問の有用性に対する認知には程度の差があるかどうかを検証した結果は図3で示す。

図3によると、安倍内閣を支持するほど、つまり、保守主義的政治態度が強くなるほど、学問の有用性を少し低く評価する傾向があるとみられる。

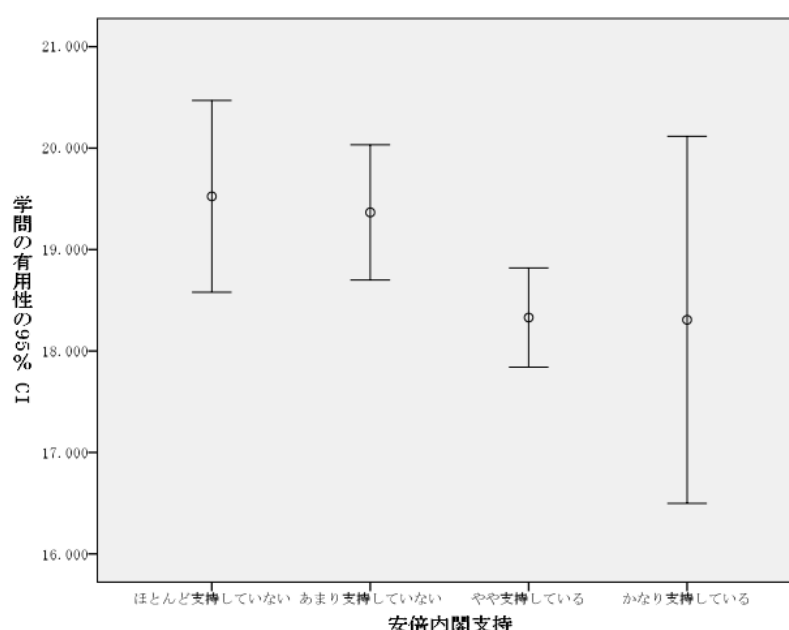


図3 「学問の有用性」の安倍内閣の支持度別の平均値（95%信頼区間）

3-4. 重回帰分析の結果

「学問の有用性」を従属変数とし、「権威主義」、性別、学部、安倍内閣の支持度を独立変数として重回帰分析を行った結果は表7で示す。

表7によると、「学問の有用性」に対して、権威主義的態度は有意な効果があり、権威主義的態度が強くなるほど、学問の有用性を低く評価する傾向がある。性別の効果は有意であり、男性より、女性が学問の有用性を高く評価する傾向がある。学部と安倍内閣の支持度は学問の有用性に対する認知に有意な効果がないとみられる。

多重共線性の診断は行われ、すべての VIF 統計量が少し 1 を越えており、独立変数間の相関が少ないと考えられ、多重共線性の問題が起きていなかったといえる。

注目すべきなのは、図 2 において学問の有用性に対する認知に関して、文系/理系・その他は有意な差があるが、重回帰分析の結果では、学部間の差は消えたといえる。それはおそらく、他の独立変数の影響で、学部の効果は解釈されたかもしれない。つまり、学部と学問の有用性に対する認知は擬似相関であり、独立変数を増やすことで学部のような実際は相関していない変数を洗い出すことができた。

表 7 重回帰分析の結果

	学問の有用性	VIF
切片	21.314*** (.539)	
権威主義	-.160* (.063)	1.019
性別	-1.264** (.427)	1.094
学部	-.566 (.375)	1.088
安倍内閣の支持度	-.346 (.224)	1.063
N	402	
調整済み R 二乗	.054	

***p<.001, **p<.01, *p<.05, カッコ内は標準誤差

4. 議論

本研究は重回帰分析を通じて、京都大学の学生の権威主義的態度と学問観の関係を明らかにしてみた。結果として、権威主義的態度は有意であり、権威主義的態度が強くなるほど、学問の有用性を低く評価する傾向があり、本研究の仮説が支持された。それはおそらく、権威主義的態度が強くなると、伝統や既存の規範を守る意識が強くなるから、社会変革を目指す科学を敵として見なしているかもしれない。

性別の効果は有意であり、男性より、女性が学問の有用性を高く評価する傾向がある。

Gross (2013) の研究結果と異なり、文系か理系かは有意ではない。それはおそらく文系の学問（憲法学・歴史学・文学）と理系の学問（数学・物理学）が加算され統合されて一つの指標で分析したから、それぞれの学問に対する学部間の差が相殺されたかもしれない。加えて、学部別の学問の有用性に対する認知には有意な差があったが、重回帰分析で有意でなくなるのは、他の独立変数の影響によるものと考えられる。

学問観アメリカの経験的事実とも異なり、保守主義的政治態度も有意ではない。それはおそらく、安倍内閣は積極的に科学技術イノベーション総合戦略を行っており、保守主義的政治だとしても科学を抑制しようとしなから。

今後の課題について、権威主義的態度以外の保守主義的態度が学問観に与える影響を検証してみると考えられる。たとえば、性役割意識が学問観に及ぼす影響を分析して進んでいく。

文献

Fromm, Erich, 1941, *Escape from Freedom* Farrar & Rinehart. (=2000, 刘林海译
《逃避自由》国际文化出版公司)

Gross, Neil, 2013, *Why are professors liberal and why do conservatives care?*

Harvard University Press.

永吉希久子, 2016, 『行動科学の統計学：社会調査のデータ分析』 共立出版

吉川徹, 1994, 「現代社会における権威主義的態度尺度の有用性」『ソシオロジ』 39
(2) :125-137

原田唯司, 1992, 「権威主義的傾向, 権威に対するイメージと政治的態度」『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』 42:199-212

太郎丸博, 2005, 『人文・社会科学のためのカテゴリーカル・データ解析入門』 ナカニシヤ

太郎丸博編, 2017, 『京大生の科学観と保守性』 京都大学文学部社会学研究室 太郎丸博

権威主義的服従態度と学問観

清水 智基

1. はじめに

1-1. 問題

今日、日本の学術界におけるあらゆる学問分野での専門分化が進んでいる。専門分化によって、各研究分野での高度化や効率化が進む一方で、分野を超えた横断的な研究がされなくなっている。それぞれの学者は自らの専門以外への関心を失い、狭い視野の中で研究を行っている。その結果、自身の専門に関しては他の誰よりも詳しいといった学者が増え、各分野ではいわゆる「権威」と呼ばれる人たちが乱立している。「権威」たちが構築する専門家システムへの信頼は高い。自分の経験しか信じない欧米人に対して、日本人は権威者の言葉を鵜呑みにする傾向がある（安藤）。学問に対しても同様に日本人は盲目的であるのではないか。本稿は権威主義と学問観の関係性を明らかにすることを目的とする。これらの関係性を明らかにすることで、日本のアカデミズムにおける専門家システムを再考する契機になると考えられる。

1-2. 先行研究

権威主義については、アドルノ（1980）が社会的性格の一つとして権威主義的パーソナリティを研究した。これは、硬直化した思考によって権威主義を無批判に受け入れ少数派を憎む性格のことである。フロム（1952）によると、権威主義は弱者に対する攻撃を意味する権威主義的攻撃と強者に対する服従を意味する権威主義的服従の共生にある。このような社会的性格を持つ人々がファシズムを受け入れたとした。また小林

(1989) は、強者と弱者のそれぞれに対する攻撃－服従の二軸からなる図式をつくり、権威主義と保守主義が密接に関連することを示す(図 1)。これらの先行研究を踏まえ、本稿では、「権威主義的であるほど、学問に対して肯定的である」、また「権威主義的であるほど、保守主義的である」という仮説を立て、権威主義と学問観の関係性を調べた。

2. 方法

2-1. データ

京都大学の学部生及び院生を対象に、質問紙調査「科学と政治に関する意識調査」を行った(有効回答数 424)。

2-2. 変数

本稿では、新たに「権威主義」、「安倍内閣支持」、「学問効用支持度」を示す変数を作成する。

2-2-1. 権威主義

以下の質問項目を使用する。

◎「1.賛成」「2.どちらかと言えば賛成」「3.どちらともいえない」「4.どちらかと言えば反対」「5.反対」の 5 点尺度で尋ねた。

- ・この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである。(Q5X9)

この質問項目の記述統計量は表 1 の通りである。

表 1 変数（権威主義的態度）の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差
指導者に頼るべき	416	3.92	0.97

それぞれの変数を反転させたものを新たな変数「指導者」として使用する。点数が高いほど権威主義的態度が高いことを示す。

また、以下の質問項目を使用する。

◎「1.信頼する」「2.どちらかという信頼する」「3.どちらともいえない」「4.どちらかという信頼しない」「5.信頼しない」の5点尺度で尋ねた。

・以下に挙げる団体が、A.環境汚染の原因について、B.景気対策について、それぞれ見解を表明したとして、あなたはそれをどれぐらい信頼しますか。（5点尺度）

a 企業 b 政府 c マスコミ d 大学の研究機関（Q3）

それぞれの質問項目の記述統計量は表 2、表 3 の通りである。

表 2 変数（環境汚染の原因についての信頼度）の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差
環境汚染 企業	424	3.16	1.024
環境汚染 政府	424	2.86	1.05
環境汚染 マスコミ	423	3.65	1.013
環境汚染 大学	423	2.79	0.502

表 3 変数（景気対策についての信頼度）の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差
景気対策 企業	423	2.83	0.996
景気対策 政府	423	2.93	1.06

景気対策 マスコミ	423	3.63	1.029
景気対策 大学	423	2.55	0.632

それぞれの変数を反転させたものを新たな変数として使用する。点数が高いほど団体への信頼度が高いことを示す。

表 4 と表 5 は、変数「指導者」とさきほど作成した新たな変数の相関関係を調べたものである。表 4 から、環境汚染の原因については、指導者に頼るべきだと思っている人ほど企業の見解を他団体より信頼する傾向にあることがわかる。同様に表 5 から、景気対策については、指導者に頼るべきだと思っている人ほど政府の見解を他団体より信頼する傾向にあることがわかる。

表 4 変数（指導者と環境汚染）の相関行列

	環境汚染 企業	環境汚染 政府	環境汚染マスコミ	環境汚染 大学
指導者	.103*	0.08	-0.091	0.057

* は 相関係数は 5% 水準で有意（両側）。

表 5 変数（指導者と景気対策）の相関行列

	景気対策 企業	景気対策 政府	景気対策マスコミ	景気対策 大学
指導者	.118*	.204**	-0.004	0.03

**は 相関係数は 1% 水準で有意（両側）。

* は 相関係数は 5% 水準で有意（両側）。

表 4 から環境汚染の原因についての見解における相対的な企業の信頼度を算出するために、企業に対する信頼度から残りの 3 つの団体に対する信頼度の平均値を引いた値を「相対的企業信頼度（環境汚染）」と定義する。また、同様にして表 5 から「相対的政府信頼度（景気対策）」と定義する。数値が大きいほど信頼度が高くなるように調整

した。「相対的企業信頼度（環境汚染）」と「相対的政府信頼度（景気対策）」を足し合わせたものを新たな変数「権威主義」とした。また、最小値が 0、最大値が 1 になるように正の一次変換を施した。図 2 は変数「権威主義」の度数分布表である。

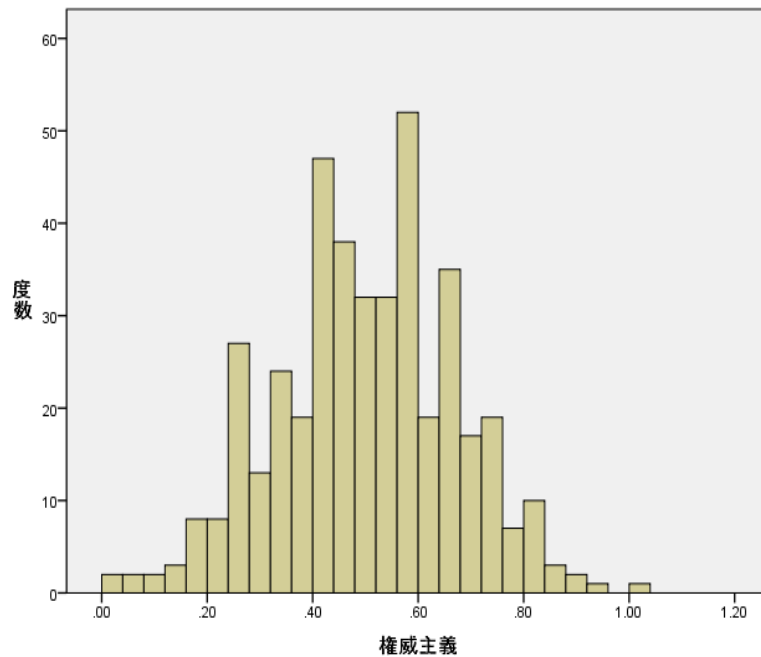


図 2 変数「権威主義」のヒストグラム（平均値 0.4809、標準偏差 0.17150）

2-2-2. 安倍内閣支持

以下の質問項目を使用する。

◎ 「1.かなり支持している」「2.やや支持している」「3.あまり支持していない」「4.ほとんど支持していない」の 4 点尺度で態度を尋ねた。

・あなたは安倍内閣を支持していますか。(Q4)

この質問項目の記述統計量は表 6 の通りである。

表 6 変数（安倍内閣支持度）の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差
安倍内閣支持度	409	2.49	0.826

また、Q4 を反転させたものを新たに「安倍内閣支持」とする。点数が大きいほど安倍内閣支持が高いことを示す。

2-2-3. 学問支持効用度

以下の質問項目を使用する。

◎「1.そう思う」「2.どちらかというと思う」「3.どちらともいえない」「4.どちらかというと思わない」「5.そう思わない」の 5 点尺度で尋ねた。

・さまざまな学問や科学に対する以下の意見についてどう思いますか。(5 点尺度)

- 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。(Q2X2)

- 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。(Q2X3)

- 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。(Q2X4)

- 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。(Q2X5)

- 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。(Q2X6)

表 7 は各質問項目の記述統計量、表 8 は各変数の相関行列を示している。

表 7 変数（学問効用支持度）の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差
歴史学は役に立つ	423	1.89	0.94
物理学は役に立つ	423	1.71	0.902
憲法学は役に立つ	422	2.14	1.079
数学は役に立つ	424	1.96	1.019

文学は役に立つ	424	2.08	1.087
---------	-----	------	-------

表 8 変数（学問効用支持度）の相関行列

	歴史学	物理学	憲法学	数学	文学
歴史学は役に立つ		.232**	.372**	.178**	.379**
物理学は役に立つ			.331**	.301**	.265**
憲法学は役に立つ				.231**	.343**
数学は役に立つ					.496**
文学は役に立つ					

**は 相関係数は 1%水準で有意（両側）。

それぞれの変数を反転させたものをそれぞれ「歴史学」、「物理学」、「憲法学」、「数学」、「文学」という新たな変数として使用する。点数が高いほど、学問効用支持度が高いことを示す。

3. 結果

3-1. 権威主義の性差

男女の権威主義の程度に差があるかを検討した。図 3 は変数「権威主義」の男女別の平均値を示している。平均値は女性が男性を上回っているものの、男女の 95%信頼区間が重なっており有意な差は見られなかった。

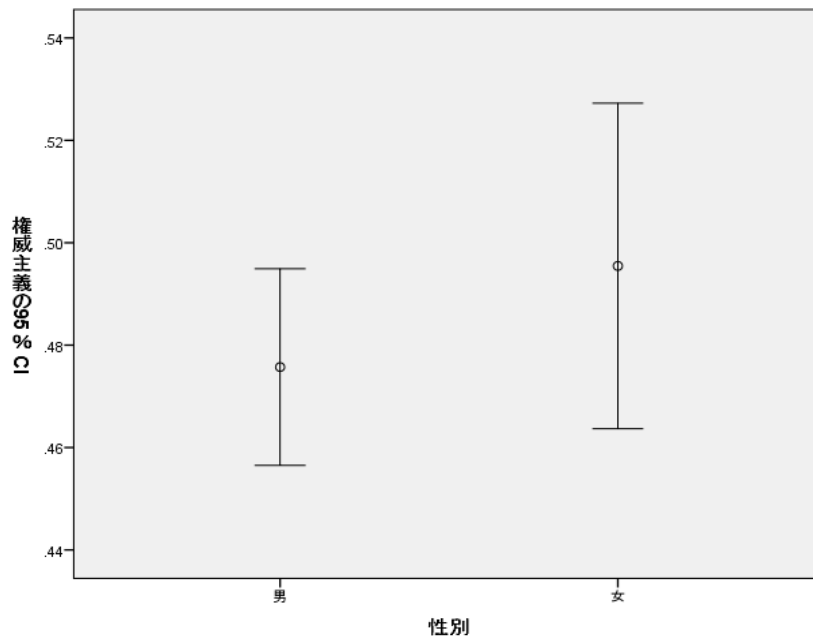


図3 変数「権威主義」の男女別の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

3-2. 新たな変数間の相関行列

新たに作成した変数の相関係数を計算したのが表9である。

「権威主義」について、「安倍内閣支持」との相関係数が.314、「憲法学」との相関係数が.116であった。いずれも有意な正の相関である。

「安倍内閣支持」について、「歴史学」との相関係数が-.215、「憲法学」との相関係数が-.119、「文学」との相関係数が-.134であった。いずれも有意な負の相関である。

表9 新たな変数間の相関行列

	安倍内閣支持	歴史学	物理学	憲法学	数学	文学
権威主義	.314**	0.006	0.029	.116*	0.036	0.016
安倍内閣支持	1	-.215**	-0.029	-.119*	-0.008	-.134**

**は 相関係数は 1%水準で有意 (両側)。

* は 相関係数は 5%水準で有意 (両側)。

4. 議論

4-1. 結果のまとめ

本稿で作成した新たな変数間での相関関係を調べた結果をまとめる。

権威主義と学問効用支持度に関しては「憲法学」のみ正の相関が見られたが、その他の学問との相関は見られなかった。すなわち、「権威主義的であるほど、学問に対して肯定的である」という仮説は部分的には支持されるが、その関係性を明らかにすることはできなかった。

また、権威主義と安倍内閣支持について正の相関が見られた。安倍内閣を保守政党と見なすならば、「権威主義的であるほど、保守主義的である」という仮説は支持された。

安倍内閣支持と学問効用支持度に関しては、「歴史学」、「憲法学」、「文学」と負の相関が見られた。

4-2. 考察

権威主義が「憲法学」とのみ正の相関を示したのは、日本の憲法の特異性が関係していると考えられる。日本国憲法は硬性憲法であり一度も改正されたことがない。この事実が憲法学を権威あるものたらしめているのではないだろうか。現在盛んに憲法改正の議論が進んでいるが、改正が実施されれば憲法学に対する見方も変化するはずである。一方、他の学問とは相関を示さなかった。「歴史学」や「文学」は人によって解釈が多様であるという理由で、「物理学」や「数学」は自然科学に対する信頼感の欠如が理由で、権威だと思わなかったと考えられる。

安倍内閣支持と「歴史学」、「憲法学」、「文学」と負の相関を示したのは、安倍政権の政策による部分が大きいと考えられる。慰安婦や南京大虐殺などの歴史認識をめぐる歴史学者との対立、安保法制や憲法 9 条改正への動き、文部科学省の文系学部廃止騒動な

どが主な原因であると考えられる。

4-3. 本稿の意義と課題

権威主義者が、他の学問とは相関を示さない中で、憲法学だけを権威あるものとして認識していることが分かった。このことは、日本のアカデミズムにおける専門家システムを見直しにおいて大きな意義があると言えるだろう。

また、本稿では権威主義の中でもフロムが言う権威主義的服従の側面と学問観の関係のみを調べた。今後の課題として、権威主義的攻撃を問う質問項目との相関の調査が挙げられる。

文献

安藤邦男,『経験主義の欧米人、権威主義の日本人』,

(www.wa.commufa.jp/~anknak/a-kotowaza-09-keiken.htm)

T. W. アドルノ,1980,『権威主義的パーソナリティ』,青木書店

E. フロム, 1952,『自由からの逃走』, 東京創元社

小林久高, 1989,「権威主義・保守主義・革新主義: 左翼権威主義再考」,『社会学評論』,

39 巻 4 号 ; 392-405

保守的な価値観と科学観・学問観の関連

西尾 英人

1. 導入

現在、アメリカでは伝統的なキリスト教的価値観を順守する保守的な層と科学と学問を擁護する文化人、知識人、科学者達との間で対立が深まっている。例としては義務教育において進化論を教えるべきなのか否かという論争が挙げられる。1996年にヨハネ=パウロ2世が進化論を概ね認め、創造論と進化論は矛盾しない旨を表明した（Giovanni Paolo II, 1996）が、未だにアメリカの中ではキリスト教保守派を中心に進化論への根強い支持がある。そして保守的な価値観と科学の対立が近年急速に深まっている。象徴的な出来事は、2017年初めのドナルド=トランプ大統領就任だ。彼の支持基盤はキリスト教保守派やアメリカで斜陽化した産業に従事する労働者や中産階級だという。そしてトランプ大統領はアメリカ合衆国環境保護局（EPA）の研究予算を大幅に削減することを表明した（CNN 2017）。このことに対しアメリカでは科学者を中心に大きな反発が広がっており、一部ではデモ活動も行われている。ここではアメリカでは保守的な価値観が反科学・反学問と結びついていると考える。この保守的な価値観が反科学・反学問と結びつくという傾向は日本では見られるのだろうか。まず初めに、ここでの「科学」は主に自然科学を指していることを示しておく。アメリカでのこのトレンドの大きな要因は伝統的・保守的なキリスト教的価値観であった。しかし日本では伝統的で無意識的な宗教的価値観、宗教的行為（八百万の神、初詣など）はある程度一般的ではあるが、それが反科学に結びついているのだろうか。しかし、保守的な動きが反学問に結びついていると考えられる事例はいくつか考えられる。それは（1）安倍晋三政

権と自由民主党（以下自民党）による政策と、(2) 教科書問題をはじめとした歴史修正主義の問題が考えられる。

(1) 自民党安倍政権による政策

現在政権を担っている安倍晋三自民党政権は年々国公立大学への交付金を減らしており（旺文社教育情報センター 2016）、現在国公立大学は、大学間の格差や学部間の格差はあれども、全体として慢性的な資金難に陥っていると言える。また、文部科学省は各国公立大学に人文科学系や社会科学系の学部を縮小し、代わりに自然科学系や応用科学系の学部を増やすように指示しているようにも受け取れる通知を発した（文部科学省 2015）ことは記憶に新しく、人文科学系や社会科学系の大学教員、知識人、学生から大きな反発の声が上がった。安倍政権によるこれらの政策は反学問的であると言える。そしてこれらの風潮は今に始まったものではない。自民党は「55年体制」に代表されるように、長年日本の保守勢力のトップとして存在し続けてきた。国公立大学への給付金減少も、元々は平成15年の国公立大学の法人化に関するものであり、これらは全て自民党政権が推し進めてきたことであつた。そして20世紀後半の新自由主義の風潮に影響された政府のスリム化、財政の見直しという名目のもとで行われてきた民主化の風潮の一環であると考えることが出来る。よって反学問的な政策は、安倍政権固有のものではなく保守勢力である自民党に通じるものであると私は考える。では自民党、特に安倍政権の科学に対する政策はどうだろうか。第48回衆議院選挙の自民党選挙公約における科学技術の項を参照する。

- 「科学技術力は国力に直結する」との考えのもと、「世界で一番イノベーションに適した国」を目指し、「第5期科学技術基本計画」に基づき、「Society5.0」の実現に向けた科学技術イノベーションの活性化を官民挙げて推進するとともに、5年

間総額26兆円の政府研究開発投資を目指します。

- 世界最高水準の研究拠点の形成や人材の育成・確保を行います。また、人工知能、材料、光、両市などの先端的な研究開発を支援し、産学官共創システムを構築します（自由民主党 2017）

公約上では安倍政権は科学に対して積極的な姿勢を見せている。しかし、人文科学や社会科学に対しての言及は存在しなかった。内閣府が提出している第5期科学技術基本計画においては、一層の大学の組織改革の必要性を説いていた（内閣府 2016）。私は安倍政権を初めとする保守勢力が人文科学や社会科学に対して消極的な姿勢を見せるのは、学問そのものへの反発ではなく、イデオロギー的対立が存在しているからだと考える。大学において、人文科学や社会科学の担い手であった知識人や大学教員は所謂「リベラル」であったり「左翼」に属していることが多いというのは有名な話である。保守が反学問に結びついているのではなく、保守対革新という構造が当事者の無意識の上に生じているのではないかと私は考える。

（2）歴史修正主義

歴史修正主義に関する問題は、歴史学の分野において度々問題になっている。例としては、「新しい歴史教科書をつくる会」の活動などが挙げられる。歴史修正主義についての説明を引用しておく。

「修正主義」とは、主流とされるような歴史研究や歴史解釈に対して、史・資料の「新たな」解釈に基づいて「修正」を加えようとする動向をさし（中略）、本稿では、第二次世界大戦後に、押し付けられた「戦勝国」史観からの脱却を政治的な意

図を込めて主張する「修正主義」を歴史修正主義とする。(戦後歴史学用語辞典2012: 335)

教育学者藤岡信勝は「自由主義史観」を提唱し、藤岡の著作である1999年に扶桑社から出版された『教科書が教えない歴史』は大ベストセラーになった。そして「新しい歴史教科書をつくる会」はこの「自由主義史観」に基づいた歴史教科書を制作することを目指とする団体である。「新しい歴史教科書をつくる会」の趣意書には以下のように書かれている。そしてその中に「自由主義史観」がどのようなものかも表れている。

戦後の歴史教育は、日本人が受けつぐべき文化と伝統を忘れ、日本人の誇りを失わせるものでした。特に近現代史において、日本人は子々孫々まで謝罪し続けることを運命づけられた罪人の如くにあつかわれています。冷戦終結後は、この自虐的傾向がさらに強まり、現行の歴史教科書は旧敵国のプロパガンダをそのまま事実として記述するまでになっています。世界にこのような歴史教育を行っている国はありません。(新しい歴史教科書をつくる会 1997)

この「自由主義史観」という考え方に対し、様々な歴史学者達の間から歴史修正主義であるとして批判の対象になっている。岡部は、歴史学という学問は歴史学は必ずどこかで書き手の価値観が入り込んでしまうため、自然科学のような客観性や論理性だけでは成り立たないとしつつも、歴史学は学問である以上、歴史叙述は他者によって意義が認められないと学問として成り立たないとしている。また歴史学によって切り取られる事象の基準は時代によって移り変わるため、不断に「修正」されなければならないと述べて、修正することそのものは否定していない。岡部は戦後の歴史学はネーション・ステートを一つの枠組みとしていた古い歴史学のあり方から脱却し、マルク・ブロック

やリュシアン・フェーヴル、フェルナン・ブローデルらに代表されるアナール学派が社会史を創設し、世界的な歴史の相対化のトレンドが始まったとしている。そして日本の国民という概念も相対化されつつあるとした上で（歴史学研究会 2000: 3-11）岡部は次のように述べている。

「自由主義史観」は「皇国史観」や素朴実証主義を修正して歴史学に科学性を付与しようとしてきた日本と世界の戦後歴史学にたいして、国民ないし民族の概念を日本にかんしてことさら絶対化し、戦後歴史学を「自虐史観」として攻撃する。

（歴史学研究会 2000: 11）

また、岡部は藤岡の『教科書が教えない歴史』のような歴史叙述を「通俗歴史主義」として批判し、「歴史事象の選択がきわめて恣意的で、実証分析の手続きがいちじるしく粗雑であり、学問的論争の形態と要件をそなえていない」（歴史学研究会 2000: 13）と強い批判を加えているが、「通俗の言論は数十万の桁で流通してじみな学問の成果を駆逐する」（歴史学研究会 2000: 13）。と脅威的な存在であることを認めている。先程の国民という概念の絶対化に関しては、高橋は「新しい歴史教科書をつくる会」の趣意書の「日本人は子々孫々まで謝罪し続けることを運命づけられた罪人の如くにあつかわれています。」という部分を引用した上で、ある国家や民族が犯罪的な行為を行った時に、その子孫がその罪をそのまま引き継ぐといったロジックは「本質主義的な」国民観であるとしていて（高橋哲哉 2001: 6）、これは岡部の言う「絶対的」な国民観と同じものを指示していると私は考える。そして高橋はこれは個人に置き換えて考えた場合、自身の親や祖父母の犯した罪がそのまま自分にも適用されるということになり、明らかに不合理であると批判している（高橋哲哉 2001: 7）。さらに高橋は、歴史修正主義を批判する立場の人々も、自らの世代が戦中世代の罪を引き継いでいるかのように責任を果た

さねばならないと主張することは、同じく「本質主義的」国民観に陥っているもので（高橋哲哉 2001: 8-9）、戦後世代には果たすべき「戦後責任」があると主張している（高橋哲哉 2001: 12-13）。

このように、歴史修正主義や自由主義史観をめぐり、歴史学の中で大きな対立が生まれている。ここにも先程と同じようなイデオロギー対立を確認することが出来る。すなわち、右翼的な歴史修正主義と、戦後主流であった反省的で左翼的な主流の歴史学の対立だ。どちらの方が妥当性が高いかについては本論の趣旨から外れるので触れないことにする。ここで重要なのは、たとえどちらも歴史学の成果であるとしても、保守的な価値観や勢力が主流な歴史学の潮流・勢力と反発している点だ。よって私は歴史修正主義・自由主義史観の問題は保守的な価値観が反学問を示している一つの例であると考える。

2. 手法

2-1. 仮説

以上の（1）と（2）の事例より、私は以下のような仮説を検証したいと思う。

仮説（a）保守的な価値観は反学問、特に反人文科学や反社会科学的な態度を示す。

仮説（b）保守的な価値観は反科学（反自然科学・反応用化学）的な態度とは結び付かない。

2-2. データと変数

使用するデータは2017年10月に京都大学の学生対象に行われたアンケートである。

保守的な態度の指標としては、性役割態度の強さと安倍政権支持度を使用することにした。その結果、質問項目として以下9つの質問項目を使用した。

1. Q1X2. 性別
2. Q2X1. 知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援するべきである。
3. Q2X2. 歴史学は、日本の将来を考えるうえで有用である。
4. Q4. あなたは安倍内閣を支持していますか。
5. Q5X1. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ。
6. Q5X2. 概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける。
7. Q5X3. 夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事をもたない方がよい。
8. Q5X4. 男性は「育児休業制度」を積極的に利用したほうがよい。
9. Q5X5. 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している。

質問項目1に関しては女性を0、男性を1とするダミー変数へと変形した。質問項目4は4点尺度で、1と4以外の質問項目に関しては全て5点尺度である。そして数字が大きいほど反科学的態度、反学問的態度、保守的態度を示すように向きを揃えてある。

分析にあたっては基本的な記述統計量を示した後、まずはピアソンの相関分析を行い、各項目間の相関係数を分析する。その中では学問や科学に対する態度と保守的な態度を示す価値観だけではなく、保守的な態度の指標とした性役割態度、安倍政権支持度の相互の相関を分析する。その際に、質問項目5-9の回答の値を足し合わせ、最小値が0で最大値が1になるように調整したものを変数10「性役割意識」として使用する。0に近づくほど性役割意識が低く、1に近づくほど性役割意識が高くなる。このように性役割態度、安倍政権支持度の相互の相関を分析するには以下のような理由が存在する。

確かに自民党は長年日本の保守勢力のトップとして存在し続けているが、そのうちの一時期の政権の支持者全員が全て強力な保守的価値観を持っていると言えるのだろう

か。勿論支持者の中には強い保守的価値観を持った人々も存在するであろうが、支持者のうち多くの人々が強い保守的な価値観を持っているとは言えないと私は考える。アンケートを実施した2017年10月はちょうど第48回衆議院選挙のあった月であり、衆議院選でどちらを支持したかなどの判断が一定の割合で含まれていると推定出来る。第48回の衆議院選挙では直前期に自民党のカウンターパートの主勢力として存在していた民進党が小池百合子率いる希望の党や枝野幸男率いる立憲民主党へと分裂し、混乱の様相を見せた。また2009年から2012年までの民主党政権時代の強烈な円高や東日本大震災への対応の遅れは有権者にとって記憶に新しく、安定を求めた層が安倍政権を支持したとも考えられる。保守的な価値観の項目として使用する前に検討が必要であると私は考える。

その後に質問項目2と3を従属変数とし、質問項目1,4と変数10を独立変数とする重回帰分析を行い、各指標が反学問、反科学的な態度にどの程度の影響を与えるか分析する。

3. 分析

3-1. 記述統計量

今回の調査で使用した9つの質問項目の記述統計量は表1の通りである。

表1 記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
1. 性別	424	1	2	1.26	.439
2. 科学は政府が支援すべき	424	1	5	1.45	.713
3. 歴史学は役立つ	423	1	5	1.89	.940
4. 安倍内閣支持	409	1	4	2.51	.826

5. 夫が働き、妻は家庭	417	1	5	2.31	1.084
6. 女性のフルタイム労働は家庭に悪影響	417	1	5	2.53	1.233
7. 夫に収入あれば妻は働かないほうがいい	418	1	5	2.31	1.107
8. 男性は育児休業を利用すべき	417	1	5	1.91	.851
9. 男性のほうが指導者に適任	417	1	5	2.62	1.154
有効なケースの数（リストごと）	405				

3-2. 各項目間の相関

次に、ピアソンの相関分析を用いて各項目間の相関を分析する。相関を分析した結果を下の表2に示した。

表2 相関

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
質問項目1	1	.079	-.201**	-.167**	-.219**	-.111*	-.254**	-.102*	-.076
質問項目2	.079	1	.200*	-.032	.011	-.039	-.007	.078	-.021
質問項目3	-.201*	.200*	1	.215**	.056	.049	.124*	.186**	.108*
質問項目4	-.167*	-.032	.215*	1	.272**	.175**	.184**	.191**	.286**
質問項目5	-.219*	.011	.056	.272**	1	.545**	.623**	.178**	.430**
質問項目6	-.111*	-.039	.049	.175**	.545**	1	.575**	.092	.360**
質問項目7	-.254*	-.007	.124*	.184**	.623**	.575**	1	.112*	.351**
質問項目8	-.102*	.078	.186*	.191**	.178**	.092	.112*	1	.206**
質問項目9	-.076	-.021	.108*	.286**	.430**	.360**	.351**	.206**	1

表2より、質問項目5-9間は質問項目8を除いて比較的高い相関を示していることが分かる。質問項目4は質問項目5-9とやや相関があることが分かる。次に、質問項目4と変数10の平均値を図1に示した。

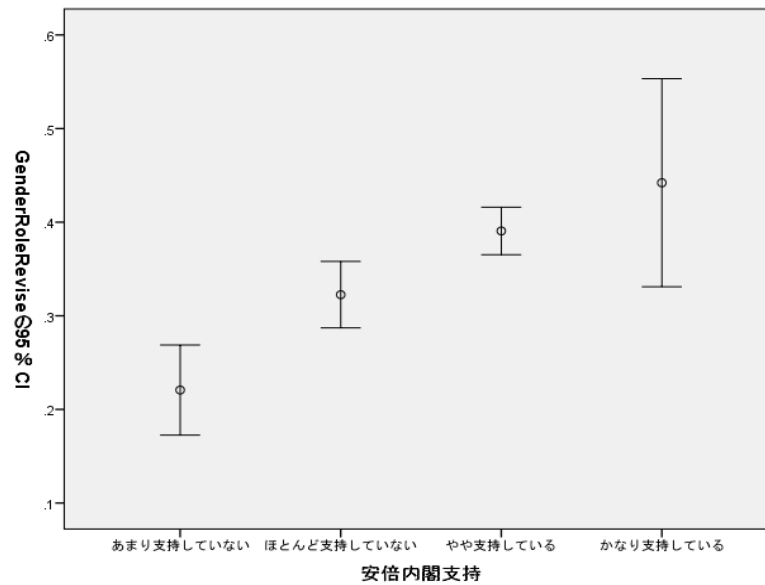


図 1 変数10と質問項目4の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

図1より、変数10と質問項目4は概ね相関関係があると認められる。しかし、安倍内閣をかなり支持していると回答した人々のエラーバーはかなり長くなっている。安倍政権を支持していない人は概ね性役割意識が低い、安倍政権を支持している人々の性役割意識は多様であることに注意しなければいけない。しかし、以上の結果より、安倍内閣支持度を保守的な価値観として扱うことは有効であることが確認された。

次に科学観・学問観との関連であるが、質問項目2、3と質問項目4・9の間の相関は概ね低いものになったが、質問項目4が質問項目3とやや相関を示した。また、質問項目1は質問項目3とやや相関を示した。以上より、性別と安倍政権支持度が反学問的な価値観と若干の相関を示しているという結果が得られた。

3-3-1. 科学観における重回帰分析

次に、科学観における重回帰分析を行う。質問項目2を従属変数とし、質問項目1,4-と変数10を独立変数として扱う。図2に質問項目1と質問項目2、図3に変数10と質問項目2、図4に質問項目4と質問項目4の平均値を示した。

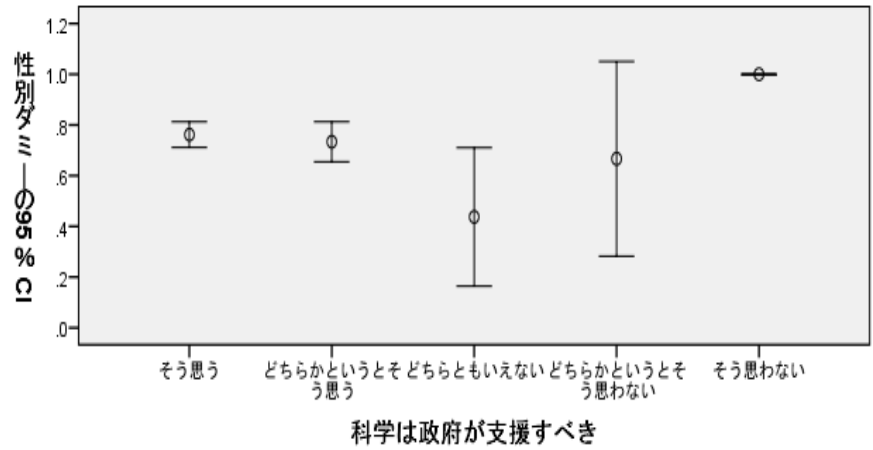


図 2 質問項目1と質問項目2の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

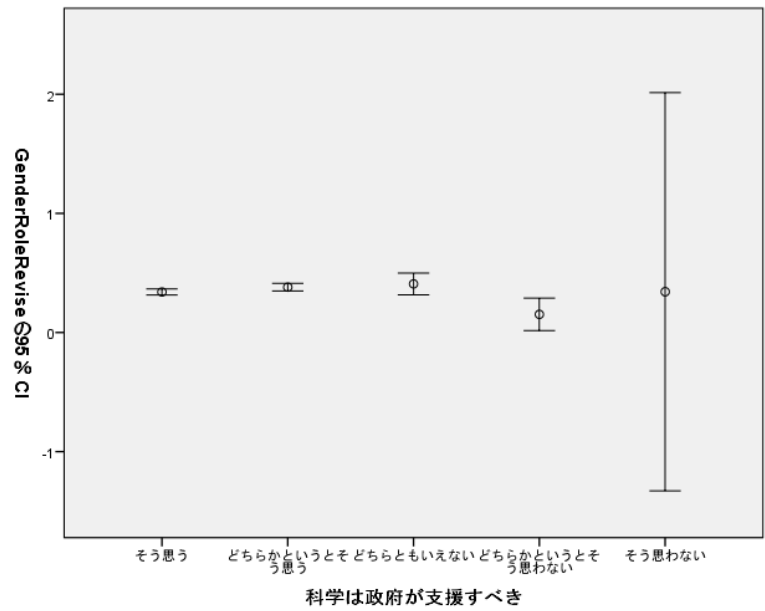


図 3 変数10と質問項目2の関係（エラーバーは95%信頼区間）

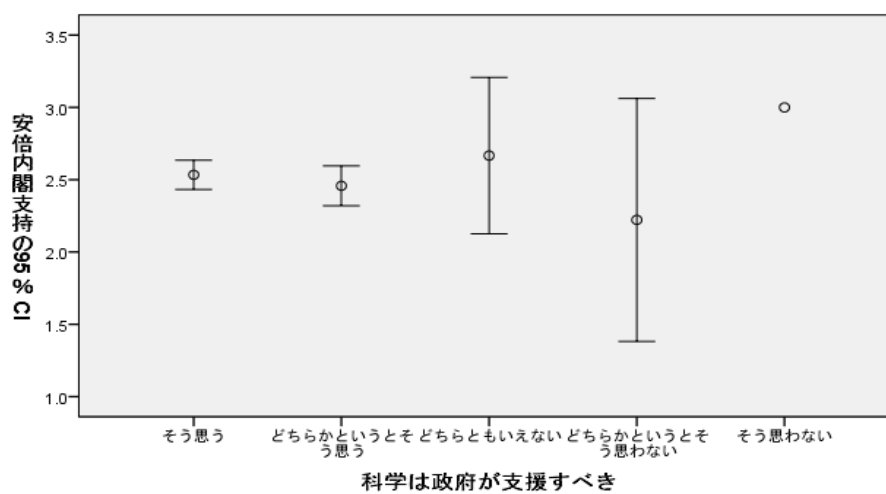


図 4 質問項目4と質問項目2の関係（エラーバーは95%信頼区間）

次に、重回帰分析の結果を表3に示す。

表3 科学観に関する重回帰分析の結果1

モデル	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
1	.092 ^a	.009	.001	差
				.695

a. 予測値: (定数)、安倍内閣支持, 性別ダミー, GenderRoleRevise。

表3 科学観に関する重回帰分析の結果2^a

モデル	係数	標準誤差	有意確率
1 (定数)	1.568	.120	.000
1. 性別ダミー	-.142	.081	.082
10. GenderRoleRevise	.068	.182	.711

4. 安倍内閣支持	-.019	.044	.664
-----------	-------	------	------

表3より、調整済みR2乗値は0.001で、投入した質問項目と変数のうち、有意である可能性があるのは質問項目1の性別のみであった。しかし、図2の平均値のグラフを見る限り、あまり有意であるとは言えない結果になった。

3-3-2. 学問観における重回帰分析

次に、学問観における重回帰分析を行う。質問項目3を従属変数とし、質問項目1,4-と変数10を独立変数として扱う。まずは図5に質問項目1と質問項目3、図6に変数10と質問項目3、図7に質問項目4と質問項目3の平均値を示す。

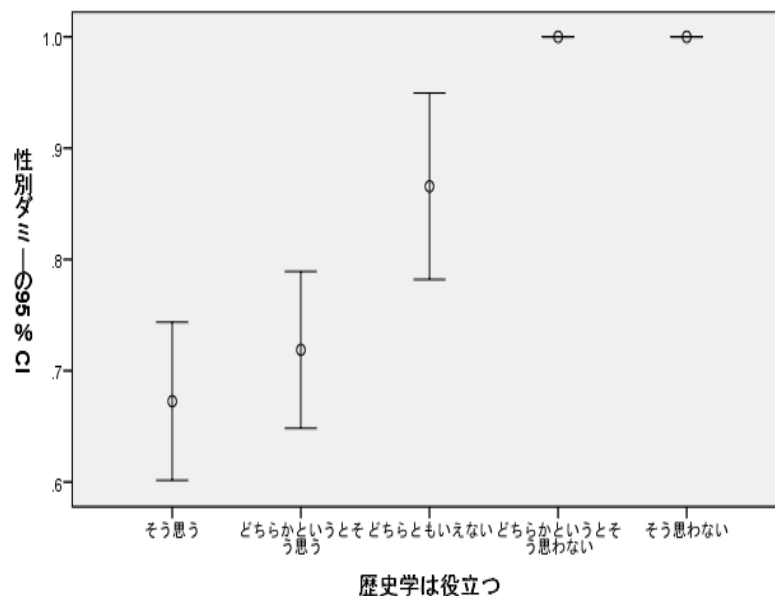


図 5 質問項目1と質問項目3の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

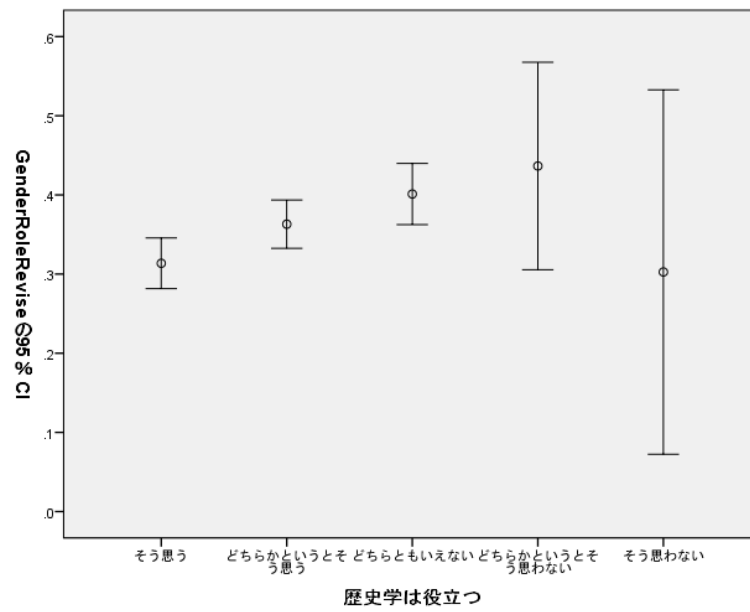


図 6 変数10と質問項目3の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

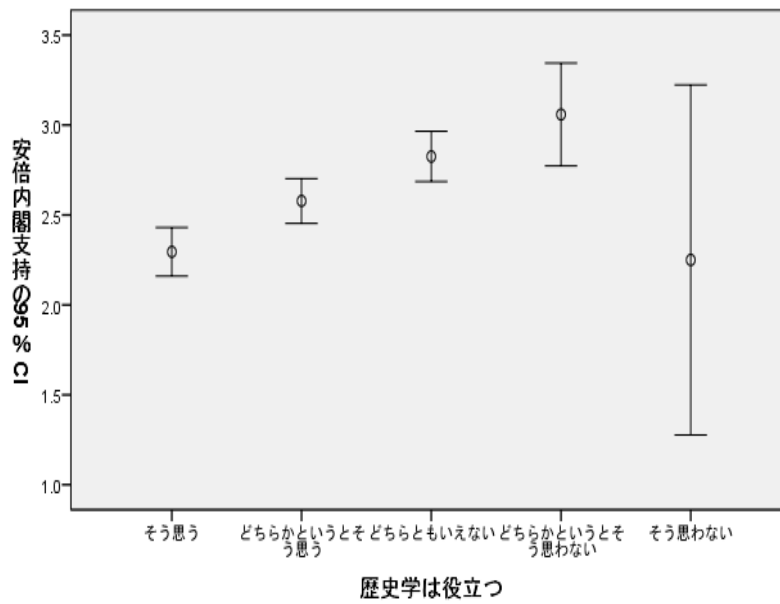


図 7 質問項目4と質問項目3の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

次に、重回帰分析の結果を表4に示す。

表4 学問観に関する重回帰分析の結果1

モデル	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
1	.274 ^a	.075	.068	.914

a. 予測値: (定数)、安倍内閣支持, 性別ダミー, GenderRoleRevise。

表4 学問観に関する重回帰分析の結果2

モデル	係数	標準誤差	有意確率
1 (定数)	1.058	.158	.000
1. 性別ダミー	.333 **	.107	.002
10. GenderRoleRevis	.251	.240	.296
e			
4. 安倍内閣支持	.200 ***	.059	.001

** p < .01, *** p < .001

表4より、調整済み R2乗値は0.068で質問項目1と質問項目4は1%水準で有意であることが分かる。しかし、図7より安倍政権に強く支持している人のエラーバーは長くなっていることに注意しなければならない。しかし、性別と安倍政権支持度には若干ではあるが相関が見られることが分かる。

4. 考察

以上の結果より、仮説（a）と仮説（b）ともに妥当性が高いことが証明された。保守的な価値観はあまり反科学には関連がなく、性別と安倍政権支持度が学問観に若干の影響を与えていることが分かった。女性より男性の方が、そして安倍政権を支持しない人より支持している人の方が反学問的な態度を示すであろうことが結論として得られた。

しかし、今回の調査では議論することが出来なかった点が多く存在する。1つ目に母集団の偏りが考えられる。京都大学の現役の学生というのは、社会一般を広く表した集団とは言い難い。また、科学や学問に携わる学生という身分であるために、科学や学問に積極的に否定的な態度を取るとは考えにくい。今回の調査ではコーホートや社会階級という観点を全く議論することが出来なかった。柴谷は自然科学の研究においてエリート主義が確認出来ると指摘している（柴谷 1973: 88-95）。反科学には一種の反エリート主義も関係しているのかもしれない。また、反ワクチンなど反科学と考えられる事例は依然として多数存在している。さらなる調査が求められている。

文献

Giovanni Paolo II, 1996, *MESSAGE DU SAINT-PÈRE JEAN-PAUL II*

AUX MEMBRES DE L'ASSEMBLÉE PLÉNIÈRE DE

L'ACADÉMIE PONTIFICALE DES SCIENCES, La Santa Sede

([https://w2.vatican.va/content/john-paul-](https://w2.vatican.va/content/john-paul-ii/it/messages/pont_messages/1996/documents/hf_jp-ii_mes_19961022_evoluzione.html)

[ii/it/messages/pont_messages/1996/documents/hf_jp-](https://w2.vatican.va/content/john-paul-ii/it/messages/pont_messages/1996/documents/hf_jp-ii_mes_19961022_evoluzione.html)

[ii_mes_19961022_evoluzione.html](https://w2.vatican.va/content/john-paul-ii/it/messages/pont_messages/1996/documents/hf_jp-ii_mes_19961022_evoluzione.html) 2018年1月19日アクセス)

CNN, May 20, 2017, “President's fiscal 2018 budget would slash EPA spending by 30%”

([http://edition.cnn.com/2017/05/19/politics/congress-epa-final-budget-](http://edition.cnn.com/2017/05/19/politics/congress-epa-final-budget-cuts/index.html)

[cuts/index.html](http://edition.cnn.com/2017/05/19/politics/congress-epa-final-budget-cuts/index.html) 2018年1月19日アクセス)

旺文社教育情報センター, 2016, 「28年度 国立大学法人運営費交付金」.

(http://eic.obunsha.co.jp/pdf/educational_info/2016/0516_1.pdf 2018年1月19日アク

セス)

文部科学省, 2015, 「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」

(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/062/gijiroku/_icsFiles/afiel

[dfile/2015/06/16/1358924_3_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/062/gijiroku/_icsFiles/afiel) 2018年1月19日アクセス)

自由民主党, 2017, 「自民党政権公約2017」.

(https://jimin.ncss.nifty.com/pdf/manifest/20171010_manifest.pdf 2018年1月19日

アクセス)

内閣府, 2016, 「第5期科学技術基本計画 本文」.

(<http://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/5honbun.pdf> 2018年1月19日アクセス)

歴史科学協議会編, 2012, 『戦後歴史学用辞典』東京堂出版.

新しい歴史教科書をつくる会, 1997, 「新しい歴史教科書をつくる会 趣意書」.

(<http://www.tsukurukai.com/aboutus/syuisyo.html> 2018年1月19日アクセス)

歴史学研究会, 2000, 『歴史における「修正主義」』青木書店.

高橋哲也, 2001, 『歴史／修正主義』岩波書店.

柴谷篤弘, 1973, 『反科学論』みすず書房.

保守的な科学観と関連する判断軸について

前田 紗代子

1. はじめに

この目まぐるしく変化する現代において、「意思決定」は至極難しくなっている。私は現在就職活動の最中にいるが、やはり企業の研究成果や実績等のエビデンスが大切になっていると感じている。人々が行為するにあたって、その考え方には軸がある。では、保守的な科学観を持つ人は、非科学的な（数値化できない）もの、即ち、運試しや伝統、権力でなく、科学的な（数値化しうる）ものを日頃から信頼しているのだろうか。本稿ではこの仮説を検証していく。これら进行分析することで、人間の行動についてより理解が深まると考えている。

2. データと方法

2.1 調査概要

2017年10月11日から10月24日にかけて、京都大学に所属する424名の大学生を対象を限定したアンケート調査を実施した。本研究では、その調査結果进行分析する。

2.2 使用する変数

本レポートで主として注目する変数は、自然科学は役立つか、即ち、科学観に対する保守性である。

保守性（対科学）は6変数（「そう思わない」～5「そう思う」の5点尺度）で測定す

る。質問文は以下の通りである。

「さまざまな学問に対する以下の意見についてどう思いますか？あなたの考えに一番近いものを一つ選んでください。」

Q2x1r 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援すべきである。

Q2x2r 歴史学は、日本の将来を考えるうえで有用である。

Q2x3r 物理学は、政府のエネルギー政策の決定役立つ。

Q2x4r 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。

Q2x5r 学問としての数学は、社会をより豊かにするために有用である。

Q2x6r 学問としての文学は、社会をより豊かにするために有用である。

これと以下の変数群の関係を考察する。

「マスコミ」への信頼度と「大学の研究機関」への信頼度は以下の質問に対する回答（1「信頼しない」～5「信頼する」の5点尺度）から測定する。質問文は以下の通りである。

「以下の団体が景気対策について、それぞれ見解を表明したとして、あなたはそれをどれくらい信頼しますか。あなたの考えに最も近いものを一つずつお答えください。」

Q3b3r マスコミ

Q3b4r 大学の研究機関

安倍内閣支持度は以下の質問に対する回答（1「支持していない」～4「かなり支持している」の4点尺度）から測定する。

Q4r あなたは安倍内閣を支持していますか。

「権力」への従属度と「非科学的な運試し」への信頼度は以下の質問に対する回答（1「反対」～5「賛成」の5点尺度）から測定する。質問文は以下の通りである。

「次の考え方について、あなたはどのように思いますか？あてはまるものに○をつけてください。」

Q5x8r 自分より権力がある人には従わなければならない。

「非科学的な運試し」への信頼度は以下の質問に対する回答（1「そう思わない」～5「そう思う」の4点尺度）から測定する。質問文は以下の通りである。

「次の考え方についてあなたはどのように思いますか？」

Q6x3r 神社やお寺でのおみくじの結果は気になる。

2.3 分析の手順

本分析での手順を確認する。まず、保守性（対科学）と変数群の相関分析を行う。結果について、相関が全くみられないものは除外し、主成分分析を実施する。最後に、主成分分析からの推定を回帰分析で確認していく。

3. 分析結果

前提として、上記の質問に、伝統と法律に関するものを加えた。それらの相関行列は

以下の表 1 である。

表1 相関分析の結果								
		あなたは安倍内閣を支持していますか。	伝統を守っていれば、問題は起こらない。	自分より権力のある人には従わなければならない。	神社やお寺でのおみくじの結果は気になる。	「マスコミ」の景気対策への見解を信用する	「大学の研究機関」の景気対策への見解を信用する	どんな状況でも法律に従わなければならない
未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援すべきである。	Pearson の相関係数	.032	-.077	-.059	-.038	-.123*	.087	.006
歴史学は、日本の将来を考えるうえで有用である。	Pearson の相関係数	-.215**	.010	-.104*	.028	-.012	.182**	-.057
物理学は、政府のエネルギー政策の決定役立つ。	Pearson の相関係数	-.029	-.122*	-.090	-.111*	-.029	.093	-.002
憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。	Pearson の相関係数	-.119*	-.092	-.058	-.015	.141**	.166**	.031
学問としての数学は、社会をより豊かにするために有用である。	Pearson の相関係数	-.008	-.097*	-.049	-.136**	.016	.058	.031
学問としての文学は、社会をより豊かにするために有用である。	Pearson の相関係数	-.134**	-.030	-.135**	-.120*	-.050	.019	.035
**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。								
*. 相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。								

表 1 から、保守性（対科学）と伝統や法律の遵守の相関は殆んど見受けられないことが分かる。そこで、これらの変数は除外して分析を進める。この相関行列を主成分分析にかけた結果得ることができた固有値と累積説明率は表 2 の通りである。

表2 主成分分析の結果（固有値と累積説明率）		
主成分	固有値	累積説明率
1	2.523	21.232
2	1.376	33.547
3	1.205	45.184
4	1.081	56.221

因子抽出法：主成分分析

表 2 から、3 次元で図示する。3 次元解の結果を示したのが以下の図 1 である。

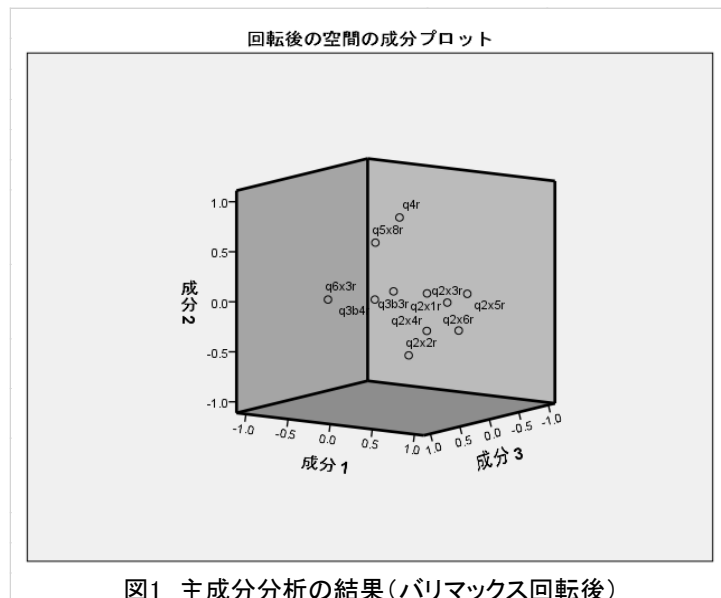
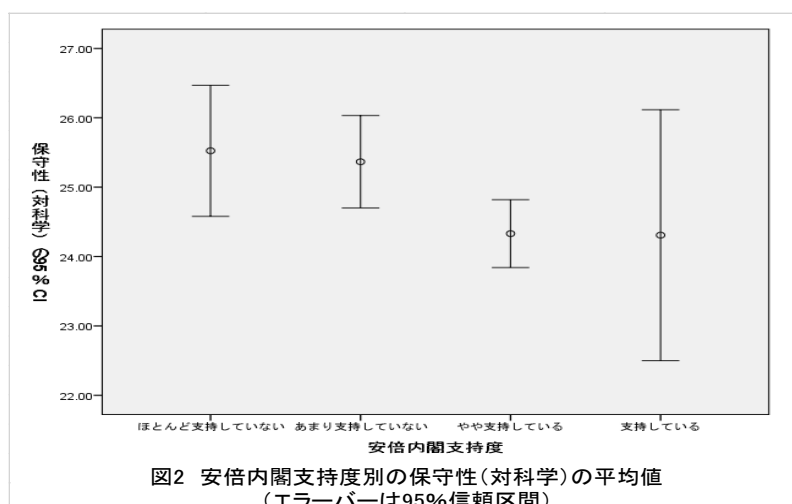


図1を見ると、q2r群〔保守性(対科学)〕は特にq4r(安倍内閣支持度)から離れており、保守的な科学観を持つ人々は安倍内閣を支持することとやや反対の傾向にあることが分かる。一方、q3b群とは接近しており、正の傾向がうかがえる。

そこで、諸々の変数別に保守性(対科学)の平均値を計算した結果が以下の図2～図6である。



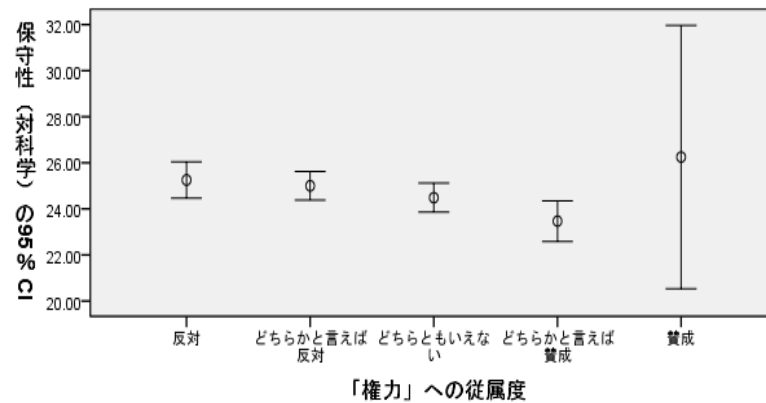


図3 「権力」への従属度別の保守性(対科学)の平均値
(エラーバーは95%信頼区間)

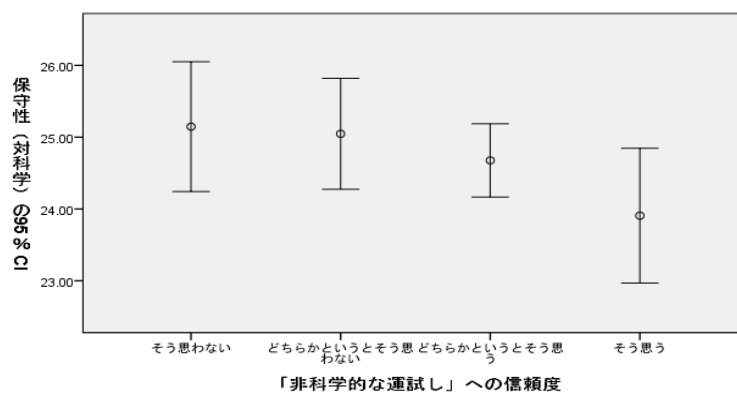


図4 「非科学的な運試し」へ信頼度別の保守性(対科学)の平均値
(エラーバーは95%信頼区間)

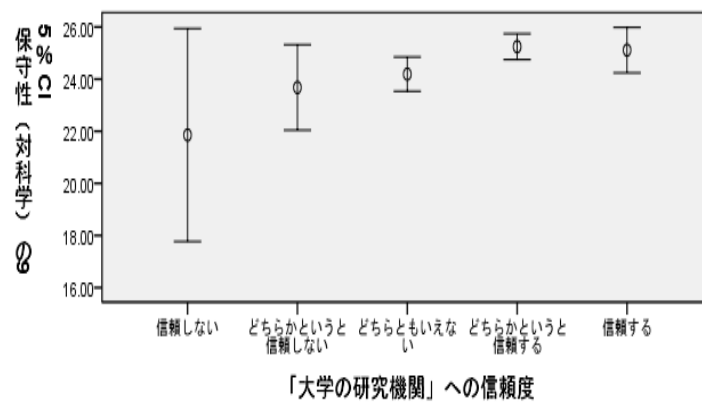


図5 「大学の研究機関」への信頼度別の保守性(対科学)の平均値
(エラーバーは95%信頼区間)

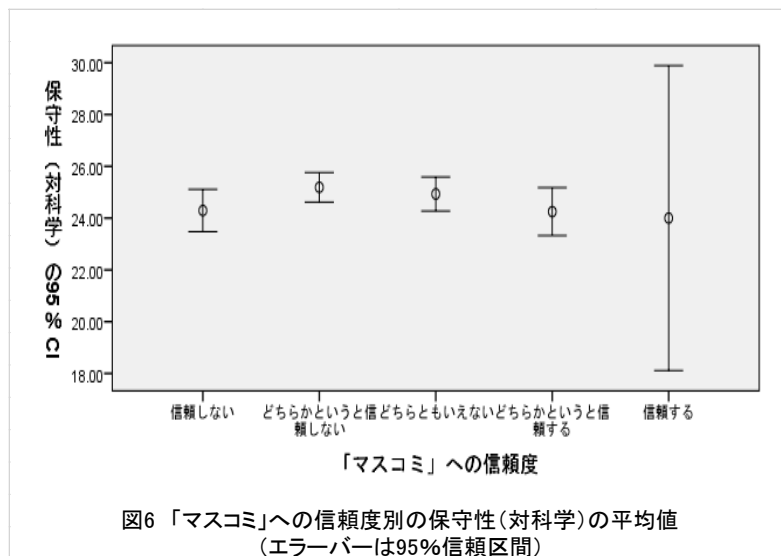


図 5 より、「大学の研究機関」への信頼度が高い程、保守性（対科学）が上昇する傾向がみられる。一方、図 2 と 4 より、安倍内閣支持度・「非科学的な運試し」への信頼度が低い程、保守性（対科学）が上昇する傾向にある。また、図 3 と 6 より、「権力」への従属度・「マスコミ」への信頼度と保守性（対科学）に関連はあまりないことが分かった。これらを重回帰分析した結果が表 3 である。

表3 保守性（対科学）の回帰分析の結果			
	係数	標準誤差	有意確率
(定数)	25.544	1.072	.000
「マスコミ」への信頼度	-.141	.178	.431
「大学の研究機関」への信頼度	.767	.210	.000
安倍内閣支持度	-.569	.220	.010
「権力」への従属度	-.320	.179	.075
「非科学的な運試し」への信頼度	-.430	.186	.021

この結果を見ると、「大学の研究機関」への信頼度と安倍内閣信頼度のみ、0.1%水準で有意な結果となった。

4. 議論と問題点

これまでの結果から、「大学の研究機関」を信頼しているほど、安倍内閣を支持していないほど、「非科学的な運試し」を信頼しないほど、保守的な科学観を持つことが分かった。つまり、保守的な科学観を持つ人は、非科学的な（数値化できない）もの、即ち、運試しや伝統、権力でなく、科学的な（数値化しうる）ものを日頃から信頼しているのだろうか、という仮説は一定正しいことが示されたように思う。

意外だったのは、保守的な科学観を持つことと「マスコミ」への信頼度の相関が弱かったことである。これは、報道機関の伝える情報が事実であるか否かという認識の違いに課題があるのではないだろうか。この違いの調査結果を含めることが必要である。また、人間の行為にあたっては、周囲の人々（家族や友人）の意見等も影響を与えうる。社会学における理論分野も含めて、さらに詳しく分析せねばならない。

文献

矢崎慶太郎（2017） 「信頼：社会学の基礎前提とソーシャル・ウェルビーイング調査結果の検討」『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』第3巻9頁から31頁

学生の学問観と保守性

中尾 凌

1. 問題設定

本論文の問題設定は、大学生において学問の有用性は保守主義とどれほど関係するかを検討することにある。この問題設定の背景について、以下で説明を行う。

近年、安倍内閣といった保守主義的な勢力の台頭の理由として、若者に保守化の傾向が強いということが挙げられている。ここで言われている若者がどの年齢までを指しているのはさして明確ではない。しかし、ここではこの若者の概念を学生の枠に当てはめて考えていく。大人と若者の対比として考えるのならば、社会人と対比されるのは学生であるからである。もちろん 20 代、30 代の保守化についての言説も存在するが、ここでは学生に限定して話を進めていく。この保守化言説は安倍内閣台頭の中でよく耳にするようになり、それが事実として正しいか否かに関する先行研究も存在している。この言説が真に正しいか否かを測定する一つの基準として、本論文ではその学生の特徴の部分に目を向ける。

つまり、学生の本質的特徴の一つである、学問的教育を受けていることをここで採り上げる。教育は思想や態度形成に影響することが知られている。もちろん、学問的教育が個人に与える影響は様々で、それによって学生が画一的な思想を持つということはなく、保守主義的か否かの態度形成もさまざまであると考えられるが、その思想形成において学問的教育がその一助となっていると考えられるだろう。

その態度形成の一つとして、教育の主な目的である学問を、有用視するか否かを取り

出す。これは、アメリカの先行研究で、保守主義と科学観において関係が認められていることをもとに考えている。この研究では科学に絞って考えているが、ここではそれ以外にも文学や数学などその他の学問についてとの相関も考える。アメリカでの事例は宗教が強い影響を与えており、日本はアメリカとは宗教を始め文化、社会構造が異なる。そのため本論文の分析は保守化しているとされる若者の思想傾向の特徴を知るうえで一つのヒントとなると考えられる。

そこで本論文は、学生における学問の有用視が保守性と如何に相関するかを調べることで、保守的学生の思考の特徴を描き出そうとするものである。それぞれの学問のうち、どういった学問を肯定するかによって思想傾向が異なるのならば、その学問的教育や学問に対しての個人思想が保守的態度と深く関連するということになる。その場合には、学生がどの学問を好むかが保守的態度を押して図る一つの測定器となり、これからの保守的態度の研究の一助となると考えられる。

しかし、保守について考える際には、その保守がどういったものであるかを考慮する必要がある。一般に保守的態度とされているものが、政治態度における保守とは関連がないことも考えられるからだ。その場合、政治的には保守政党に投票していても、日常生活では保守的ではないとも考えられる。そのため、保守的な態度と政治思想における保守との境界についても調べることで、政治的保守と日常態度的保守の違いがあるのかをはっきりさせて、今後の研究における保守主義の定義を明らかにする。

測定以前の予測としては、この質問項目で測定を行った場合、理系学問を有用視せず、文系の、歴史学や憲法学のような学問を有用視する学生のほうが、保守的態度においても強い傾向があると考えていた。理系学問に関しては、アメリカの科学観に関する研究をもとにして、それを拡大して科学は理系的、それら以外は文系的と大別して推測していた。もちろん、アメリカと日本では社会構造など多くの土壌が異なり、日本では学問に対する宗教的な垣根は存在しないが、学問それ自体は共通のものであり、新技術など

は伝統などと反発する要素を持つと考えられるため、学問への傾向が類似する可能性はあると考えられたからである。ただし、保守的態度に関しては、内閣支持度とは別物になるのではないかと推察される。日本に限った話ではないが、保守革新というイデオロギーの対立が消滅しているという言説が存在する。そのため、ここにおいても保守的とされる内閣と、日常の態度とは連関しない可能性があると考えられるからである。

本論文では第2節で分析方法、第3節でその分析結果、第4節でその結果についての考察をまとめている。

2. 分析方法と予測

今回の調査では、データとして京都大学の学生を対象とした。

今回の調査で測定したのは、学問を有用視するか否かと、保守主義的態度への賛成度である。前者を測定するために、以下のような質問項目によって、それぞれの学問観について測定を行った。以下の質問項目は、「1. そう思う」、「2. どちらかということそう思う」、「3. どちらともいえない」、「4. どちらかということそう思わない」、「5. そう思わない」の5段階で測定した。

- 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援するべきである。
- 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。
- 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。
- 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。
- 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。
- 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

また、以降はこれらの質問項目を、「科学は政府が支援」、「歴史学の有用性」、「物理学の有用性」、「憲法学の有用性」、「数学の有用性」、「文学の有用性」と表すことにする。

これに対して後者の保守的態度を問う項目については、保守的態度をいくつかの要素に分けて質問を行った。今回は保守的態度を、伝統、法律、権力、指導者の4つそれぞれに対して保守主義に分けて、質問項目を以下のように設定した。以下の質問項目は、「1. 賛成」、「2. どちらかといえば賛成」、「3. どちらともいえない」、「4. どちらかといえば反対」、「5. 反対」の5段階で測定した。また、保守的とされる安倍内閣支持度についても、「1. かなり支持している」、「2. やや支持している」、「3. あまり支持していない」、「4. ほとんど支持していない」の4段階で測定した。

- 伝統を守っていれば、問題は起こらない。
- どんな状況でも法律には従わなければならない。
- 自分より権力のある人には従わなければならない。
- この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである。
- あなたは安倍内閣を支持していますか。

こちらも以降、「伝統服従」、「法律服従」、「権力服従」、「指導者服従」、「安倍内閣支持」と表すことにする。

これらの質問項目で得た回答から相関を見出すにあたって、質問項目に加工を行った。それぞれの回答において、肯定と否定の数値を逆転させ、肯定側の数値が大きくなるような0を始点とした関数を作り、それらによって相関の測定を行っている。まず保守主義同士の関連を調べるために、それぞれの保守的態度について主成分分析を行った。そ

の後、それぞれの保守的態度と学問の有用性について、相関の有無を調べるために、重回帰分析を行った。

それぞれのデータの詳しい分析結果を、次章から説明していく。

3. 分析結果

まず先に、基準となる保守主義と安倍内閣支持度との関連を調べる。今回は伝統服従、法律服従、権力服従、指導者服従の保守的態度と、安倍内閣支持について主成分分析を行った。その結果が以下である。

表 1

主成分分析の結果(固有値と累積説明率)		
主成分	固有値	累積説明率 %
1	2.1	41.4
2	1	61.9

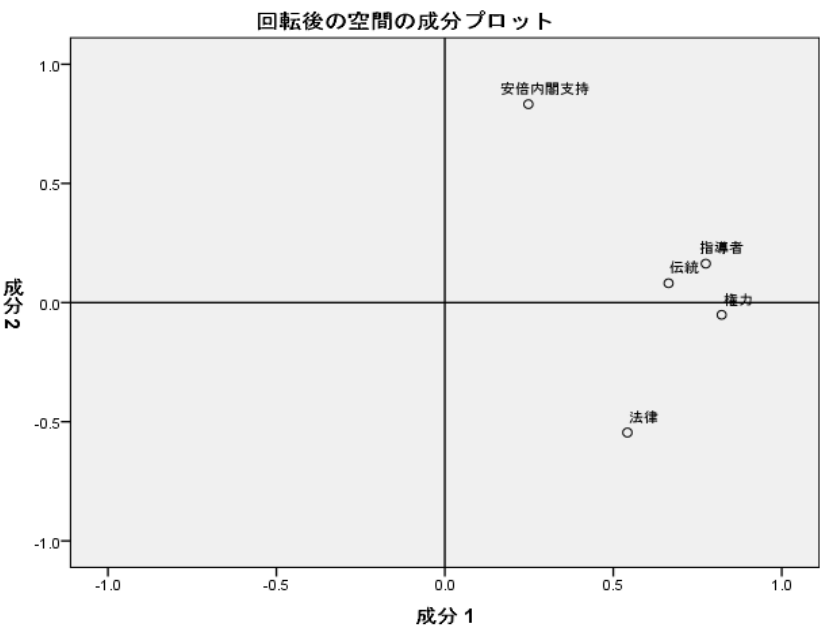


図1 主成分分析の結果（バリマックス回転後）

表 1 及び図 1 より、安倍内閣支持はその他の保守主義的態度とはかけ離れているということがわかる。その中でも特に指導者服従、伝統服従、権力服従の項目ではその相関が特に強く、法律服従は他のものとは少し離れているといえる。

結果として、安倍内閣支持はその他の保守主義的要素とは連関が少なく、政治における保守主義と、その他の保守主義とは別に考えられると推察できる。次に安倍内閣支持に近いのは指導者服従、または伝統服従であり、指導者服従に関しては内閣が指導者の一種であるために近しいのだと推測される。

上記を踏まえて、それぞれの保守的態度と学問の有用性について、重回帰分析を行った。その結果がそれぞれ以下表 2 である。なお、以下の表における有意確率は、* = 5% 水準で有意、** = 1% 水準で有意、*** = 0.1% 水準で有意、とする。

表 2	伝統服従			法律服従			権力服従		
	係数		標準誤差	係数		標準誤差	係数		標準誤差
(定数)	1.336	***	0.265	1.886	***	0.352	2.061	***	0.308
科学は政府が支援	-0.061		0.066	0.02		0.087	-0.041		0.076
歴史学の有用性	0.063		0.053	-0.124		0.07	-0.065		0.062
物理学の有用性	-0.086		0.055	-0.022		0.072	-0.06		0.063
憲法学の有用性	-0.065		0.046	0.054		0.062	0.02		0.054
数学の有用性	-0.064		0.051	0.014		0.068	0.037		0.059
文学の有用性	0.035		0.05	0.051		0.067	-0.118		0.058
	指導者服従			安倍内閣支持					
	係数		標準誤差	係数		標準誤差			
(定数)	1.919	***	0.282	1.842	***	0.246			
科学は政府が支援	0.065		0.07	0.083		0.061			
歴史学の有用性	-0.137	*	0.056	-0.169	***	0.048			
物理学の有用性	-0.166	**	0.058	0.017		0.049			
憲法学の有用性	0.014		0.049	-0.029		0.042			

数学の有用性	-0.078	0.054	0.048	0.046
文学の有用性	0.031	0.053	-0.073	0.045

表 2 を見ると、ほとんどの保守主義的態度において、学問との有意の関係は認められない。それぞれの関係のうち有意と認められるのは、指導者服従と歴史学及び物理学との関係と、安倍内閣支持の歴史学との関係のみであり、その他については全く有意の相関ではなかった。特に相関があった部分に注目すると、歴史学が指導者服従と安倍内閣支持に関して負の相関を示している。これは、先ほど述べた要素のため、共通の結果がみられたと考えられる。また、物理学と指導者服従との間にも負の相関がみられる。しかし、これらは有意であるといっても相関係数は小さく、関連が強いとは言えない。

4. 考察

以上の結果から、仮説とは異なり、ほとんどの保守主義が学問とは関係しないということが分かった。科学観に話を限定したとしても、アメリカの先行研究のような相関がみられないどころか、その他の学問においてもほとんどに相関はなく、強い相関を示すものはなかった。これは日本の教育の下では、学問に肯定的かどうかは伝統や権力を重んじるかどうかと関連せず、その態度形成に影響しないということを示している。学生が学問の世界と、政治やその他に関しての保守主義とは別問題に考えているとするならば、学生保守化言説の原因は学問に帰することはできないということである。

更に、そもそも保守化自体、政治的なものとそれ以外のものとで異なっていることも明らかになった。安倍内閣を支持するかどうかは、普段の態度が保守的かどうかとはあまり関係がないのである。もちろん、指導者服従という点においては、安倍内閣を無条件に信じている基盤となっている可能性も考えられるが、その他の伝統や法律のような内閣と同義ではないものに関してはその関連が弱いといえる。

ただ、ほとんど保守主義と学問との間に関係がないとは言っても、歴史学に関しては内閣や指導者との関連がみられた。これは安倍内閣が述べた「侵略の定義」といった談話に関連するのではないかと考えられる。安倍首相の歴史認識に関して議論があったがために、歴史を重要視するか否かが負の相関という形で現れたのではないかと推察できる。しかし、最も問題とされている憲法の分野に関してはそういった関係がみられていないことから、その学問自体の評価と、個々の問題についての評価とは関連がないとも考えられる。この点は問題自体への態度と、内閣への態度、そして保革意識を問うような先行文献によって補足されている。ただ、弱い相関にせよ有意に存在している、物理学と指導者服従との関連を説明するのは難しい。今回の質問項目では、物理学の有用性をエネルギー政策に限定しており、そのエネルギー政策の点からこの相関がみられた可能性がある。単純に個々の学問の有用性を問うのであれば、質問項目の統一などが効果的であったと考えられる。

これらのことから、学生の保守化の言説が正しいか否かを考えていく場合に、アメリカの先行研究とは異なり、その学問への肯定感との強い関係はないものとして考えられる。また、問題とされる保守を定義する際の、政治的なものとの区別という一つの基準を示すことができたと考えられる。これからも安倍内閣が支持され続けるのならば、こういった言説はまた議論の対象になっていくだろう。この言説が正しいか否かの判断材料の一つとして、本論文のような学生を対象にした意識調査とその分析をこれからも積み重ねていく必要があると考える。

文献

稲増一憲・三浦 麻子 『オンライン調査を用いた「大学生の保守化」の検証：彼らは何を保守しているのか』 関西学院大学社会学部紀要 (120), 53-63 2015-03

関西学院大学社会学部研究会

保守主義と科学観がイノベーションに与える影響

仲井 章良

1. 研究の背景・目的

ここ数年、数多の日本人研究者がノーベル賞を受賞したことなどを見る限り、日本の科学研究は国際的に高い水準を維持しているように見える。しかし、山口（2016）によれば、科学の中心をなす物理学や分子生物学の日本におけるアクティビティは今世紀に入って低下している。ノーベル賞を受賞した研究内容もその多くは20年以上前の研究成果に基づくものだ。同時にサイエンス型産業の国際競争力低下も現代日本の大きな問題である。これらが意味することは日本のハイテク企業からイノベーションが生まれなくなったということであり、その背景には1990年代を中心とした企業研究所の閉鎖や日本独自の政府による科学研究支援体制が尾を引いているというのが山口の主張である。山口の論点が政治や企業関係といった社会構造に着目したものであった一方で、文化的な要因は日本のイノベーション衰退に影響を及ぼしてはいないのかという疑問が生じる。政治が科学に影響を与えているというのであれば、政治を形作る世論の在り方、すなわち国民の考え方もまた科学やイノベーションに大きな影響を及ぼしていても決して不自然ではない。本稿では社会における人々の思想、特に保守および革新の立場を一つの文化的要因とみなし、その傾向によってイノベーションを支えるような人々の科学への肯定感が変化するのかを検証する。それにより、科学への肯定感が強く、イノベーションを生み出しやすい社会の在り方を考察し、これからの日本のモデルとなる社会像を見出すことが本稿の目的とするところである。

2. 方法

今回、人々の保守主義と科学観の関係を導くために使用するデータは 2017 年に京都大学文学部社会学実習の授業の中で行われた、京都大学内の無差別に選ばれた学生を対象とする「科学と政治に関する意識調査」である。以下、提示する質問と回答は全てこの調査内のものとする。

分析の上でまず、科学とイノベーションに対する肯定感を測る変数としては

Q2X1 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援するべきである。

を用いる。

また、人々の保守・革新に対する立場を測る変数としては、一般的に安倍内閣が保守的であるとみなされることを参考に、

Q4 あなたは安倍内閣を支持していますか。

によって測ることとする。

よって一つ目の分析では、保守/革新の立場が科学・イノベーションに対する肯定感にどのように影響するのかを調べるために、「かなり支持している」から「ほとんど支持していない」までの 4 点尺度である安倍内閣支持度を「かなり支持している」と「やや支持している」の二つを「支持」の立場、「あまり支持していない」と「ほとんど支持していない」の二つを「不支持」とする二点尺度に置き換えた。また **Q2X1** も本来は五
点尺度であるが、「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらともいえない」を

「支持」、「そう思わない」「どちらかというと思わない」「どちらともいえない」を「不支持」という二点尺度に置き換え、最後にこの二つの質問に対する回答の分布を調べた。

次に、二つ目の分析では山口（2016）の指摘を参考に、イノベーションを生み出すような社会構造、すなわち企業の科学研究を肯定するような態度に保守・革新の立場がどのように影響するのかを調べる。そのために、

Q3 以下に挙げる団体が、**A. 環境汚染の原因について、B. 景気対策について、**それぞれ見解を表明したとして、あなたはそれをどれくらい信頼しますか。あなたの考えに最も近いものを **a~d** のそれぞれについて、一つずつお答えください。

への回答の中でも **a** 企業に対する回答（「信頼する」から「信頼しない」の 5 点尺度）を用いた。ここでは、**Q3** の **a** における回答を「信頼する」「どちらかという信頼する」「どちらともいえない」に回答したものを「信頼する」、「信頼しない」「どちらかという信頼しない」「どちらともいえない」に回答したものを「信頼しない」とする 2 点尺度に置き換え、一つ目の分析で用いた二点尺度の安倍内閣支持度との回答の関係を調べた。

最後に、**Q2X1** が一般的な肯定間の強さが予想されるものであることを考慮し、一つ目の分析を補足する意味で、より広義の科学への信頼感が保守・革新の立場と実際に相関するものであるのかを調べた。そのために調査中で科学への信頼度を測る以下の **Q2** の質問群の回答平均値と安倍内閣支持度との相関を計算した。

Q2X1 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府

が支援すべきである。

Q2X2 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。

Q2X3 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。

Q2X4 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。

Q2X5 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。

Q2X6 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

3. 結果

表 1 は一つ目の分析の結果を示したものである。

表1 安倍内閣支持と政府による科学支援に関する回答状況

			科学支援		合計
			支持	支持しない	
安倍内閣支持	支持	度数	240	5	245
		安倍内閣支持の %	98.0%	2.0%	100.0%
	不支持	度数	159	5	164
		安倍内閣支持の %	97.0%	3.0%	100.0%
合計	度数		399	10	409
	安倍内閣支持 の %		97.6%	2.4%	100.0%

表 1 を見ると、政府による科学支援に関しては安倍内閣を支持している・いないにかかわらず 95%以上が支持するという結果となった。このことから、政府による科学支援については、保守/革新の立場に関係なく一般的な肯定感が存在すると言える。

次に、二つ目の分析の結果が表 2 と表 3 である。

表2 安倍内閣支持と企業信頼度（景気対策）に関する回答状況

			企業信頼（景気対策）		合計
			信頼する	信頼しない	
安倍内閣支持	支持	度数	193	52	245
		安倍内閣支持の %	78.8%	21.2%	100.0%
	不支持	度数	118	46	164
		安倍内閣支持の %	72.0%	28.0%	100.0%
合計		度数	311	98	409
		安倍内閣支持の %	76.0%	24.0%	100.0%

表3 安倍内閣支持と企業信頼度（環境汚染）に関する回答状況

			企業信頼（環境汚染）		合計
			信頼する	信頼しない	
安倍内閣支持	支持	度数	160	85	245
		安倍内閣支持の %	65.3%	34.7%	100.0%
	不支持	度数	87	77	164
		安倍内閣支持の %	53.0%	47.0%	100.0%
合計		度数	247	162	409
		安倍内閣支持の %	60.4%	39.6%	100.0%

表2・3より、安倍内閣支持状況によって企業が行う科学への信頼度にそれほど大きな差はみられなかった。ただし環境汚染に関しては、安倍内閣を支持しない革新的な考えの者の方が企業への信頼度がやや低いと言える。また、全体として企業が行う科学への肯定感の一つ目の分析で調べた「政府による科学支援」への肯定感よりも低いことが分かる。

最後に、三つ目の分析の結果を図1に示す。なお、科学信頼度については数値が大きくなるほど信頼度が高くなるように回答の向きを揃えている。

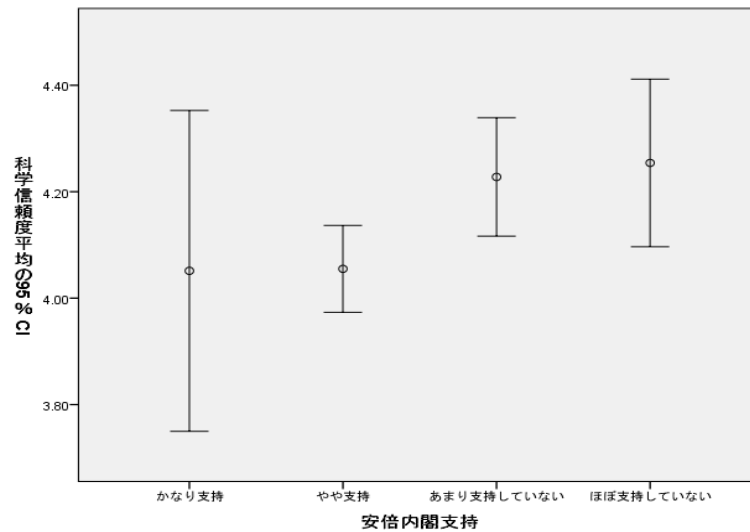


図 1 科学信頼度の平均と安倍内閣支持度との相関

図 1 では、科学信頼度の平均値は安倍内閣を支持していない者、つまり革新的な立場を取ると考えられる者ほど高いという、ゆるやかな相関関係が見られる。

4. 考察

一つ目および二つ目の分析の結果より、安倍内閣支持度をもとにした保守/革新の態度は政府による支援や企業による科学といった形での科学に関する肯定感にそれほど大きな影響を及ぼさないということが導かれる。日本人研究者のノーベル賞受賞が国全体で大きくもてはやされるように、依然として日本社会には科学研究において成果を挙げるのが重要なことであるという共通認識があり、科学以外に関する価値観にかかわらず現代人全般が科学に対する肯定感を強く持つ傾向にあることがこの結果の一因として考えられる。ただし、三つ目の分析において、科学全般への信頼度と安倍内閣支持度にある程度の相関が出ていることを考えると、すべての科学が個々の思想にかかわらず肯定されるとは必ずしも言えない。このことから「政府が科学研究を支援すべきだ」

という言説を助長するような要素が社会の中に存在することが予想される。

また、環境汚染については安倍内閣に不支持である者ほどやや企業への信頼度が低いという結果が出たことについては、革新的な考え方の者ほど企業活動が社会に好影響を与えるというステレオタイプに捉われず、環境汚染を促すなどといった企業活動の負の側面に目を向けていることが考えられるが、今回の分析だけでは十分な考察ができないため、より検討が必要であろう。

一方、全体としての信頼度で言うと、政府が科学研究を支援することへの肯定度がほぼ 100%に迫るのに対し、企業が行う科学活動への肯定度は 6〜7 割程度にとどまった。このことは科学そのものを肯定する意識の強さの割に、依然企業が科学研究を行うことに対して世間の理解が追い付いていないことを示唆している。このことから、山口が示したような企業科学の衰退によるイノベーションの停滞と世間の企業科学への肯定度の低さには同時性の点である程度の関係性が認められる。

これらのことを総合して考えると、イノベーションを生み出すような企業科学の盛んな社会を作り出すためにはやはり世論という文化的要因は無視できるものではない。具体的な意味で言えば、現在のように科学全般に曖昧な肯定感があることに満足していたのでは、実質的にイノベーションに必要な企業による科学がいつまでも理解を得られないままになってしまうだろう。それを防ぎ、再び日本の科学イノベーションを活性化させるには、企業が科学を行うことへの理解形成を行う必要がある。そして政府が科学を支援することへの現状の肯定感の高さを考えれば、理解形成から実質的な支援までを主導する主体としての役割は国家が引き受けるのが最もふさわしいと言えるだろう。

文献

山口栄一（2016）『イノベーションはなぜ途絶えたか』ちくま書房。

保守的な人ほど科学に対して批判的なのか

都築 杏樹

1. はじめに

世界でも日本でも、近年の科学技術の進歩は特に著しい。自動車はまもなく運転手を必要としないレベル 4 の“自動運転”が市場に出回るようになるし、すでに自動追従などの機能を兼ね備えた自動車は一般家庭にまで普及している。また、人工知能 AI の研究もどんどん発展し、ニュースでその名を耳にしない日も珍しい。話しかけるだけでメッセージの送受信や商品の注文等してくれるスマートスピーカーは、手ごろなサイズや値段に改良され、数々の家庭で親しまれている。そのほかにも無数の“最先端の科学”が実際に一般家庭にまで浸透し、現代多くの人がある恩恵を受けて暮らしている。また平均寿命の延長や国民の健康にも、最先端の技術が大きく貢献しており、がんが不治の病でなくなる日もそう遠くないようだ。人類の発展にはもはや科学技術は不可欠だった声さえ聞こえてくる。

しかし、そんな科学技術の発展のためには、膨大な資金がかかることは自明の事実である。国が企業や研究室に支援をして研究を進めていくことになる。そしてその国の税金の元手となるのは、私たち国民から集める“税金”である。そこで、どんな性質をもった人々が科学を支持しているもしくはしないのかを知ることは重要である。話しかけると指示に従ってくれるスマートスピーカーや、運転手のいない自動運転技術を搭載した車など、科学技術の進歩の賜物には、想像もつかなかったような“新しい”“革新的な”ものがほとんどだ。そう考えるとやはり、政治や性役割などにおいて“保守的”

な考えを持っている人々は科学や科学技術の進歩をあまり支持しないのだろうか。本稿では、京都大学の学生に行ったアンケート結果をもとに、保守的な人ほど科学に対して批判的であるのかどうかを検証したい。

2. 方法

“科学を支持している” 度合については、

- ① 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援すべきである。
- ② 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。
- ③ 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。
- ④ 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。
- ⑤ 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。
- ⑥ 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

以上の 6 つの意見に対する賛否を 5 段階で尋ねた回答を足し合わせたものを用いる。数字が大きくなるほど科学に肯定的であることになるように数値を反転したデータで分析する。足し合わせた科学肯定度合の最小値は 5、最大値は 30 で以下のような分布である（図 1 参照）。

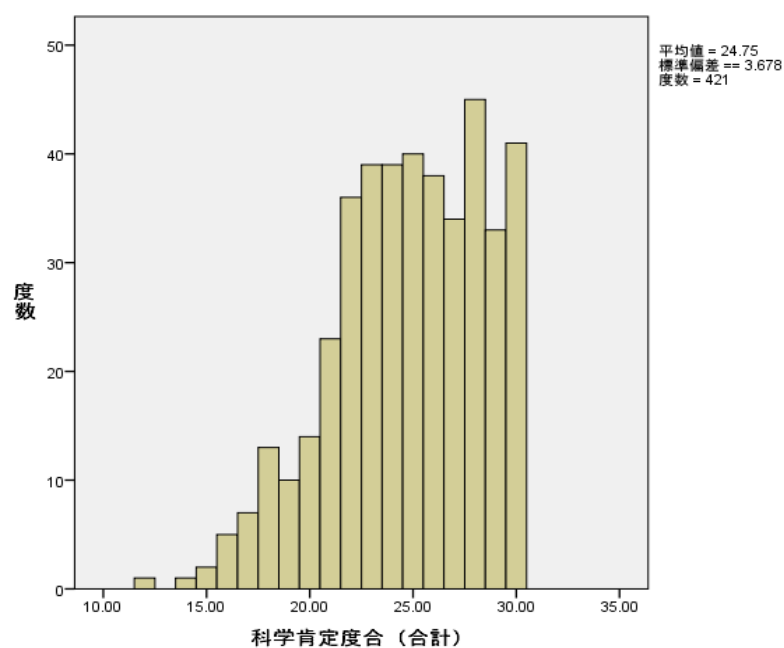


図1 科学肯定度合についてのヒストグラム

“保守的である” ことについては、「性役割意識が強い」ほど、「権威主義に肯定的である」ほど、また「安倍内閣を支持している」ほど、保守的であると考えられるため、この3つの指標を用いる。

性役割態度については、以下の5つの意見に対する賛否を5段階で尋ねた回答を足し合わせたものを用いる。

- ① 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ。
- ② 概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける。
- ③ 夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事をもたない方がよい。
- ④ 男性は「育児休業制度」を積極的に利用したほうがよい。
- ⑤ 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している。

権威主義肯定度合については、以下の4つの意見に対する賛否を5段階で尋ねた回

答を足し合わせたものを用いる。

- ⑥ 伝統を守っていれば、問題は起こらない。
- ⑦ どんな状況でも法律には従わなければならない。
- ⑧ 自分より権力のある人には従わなければならない。
- ⑨ この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである。

安倍内閣支持度合については、「あなたは安倍内閣を支持していますか」という質問に対して「かなり支持している」から「ほとんど支持していない」までの4択で尋ねている。

3. 分析・結果

科学支持度合を従属変数、性役割意識、権威主義肯定度合、安倍内閣支持度合を独立変数として回帰分析を行う。

まず、性役割意識、権威主義肯定度合、安倍内閣支持度合の回答別に科学の肯定度合の平均値を計算した結果が図 2、図 3、図 4 である。

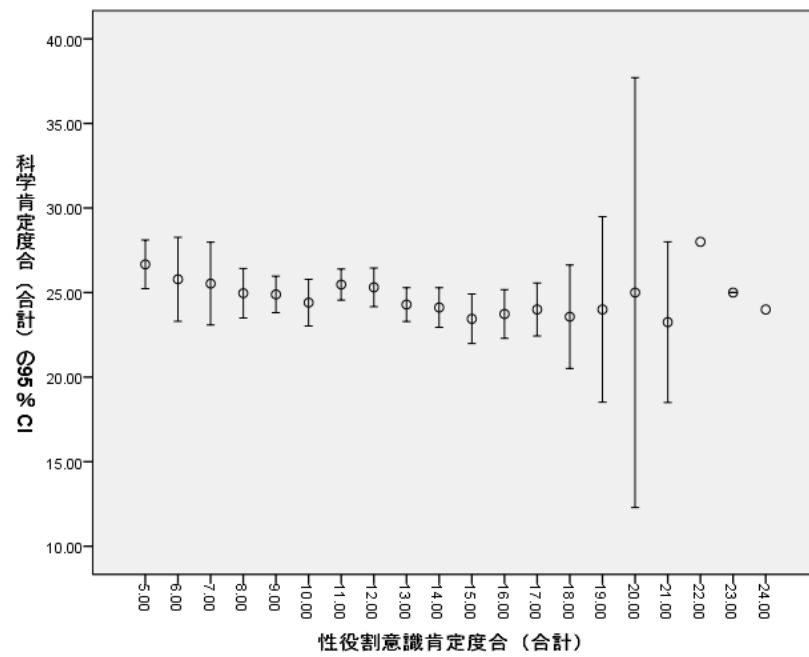


図 2 性役割意識の強さ別の科学支持度合の平均値

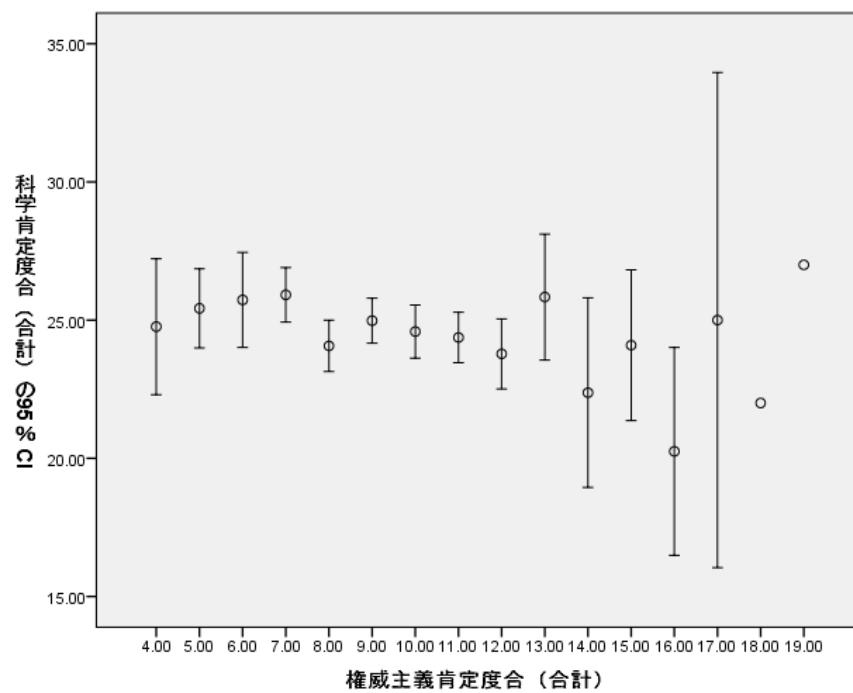


図 3 権威主義肯定度合別の科学支持度合の平均値

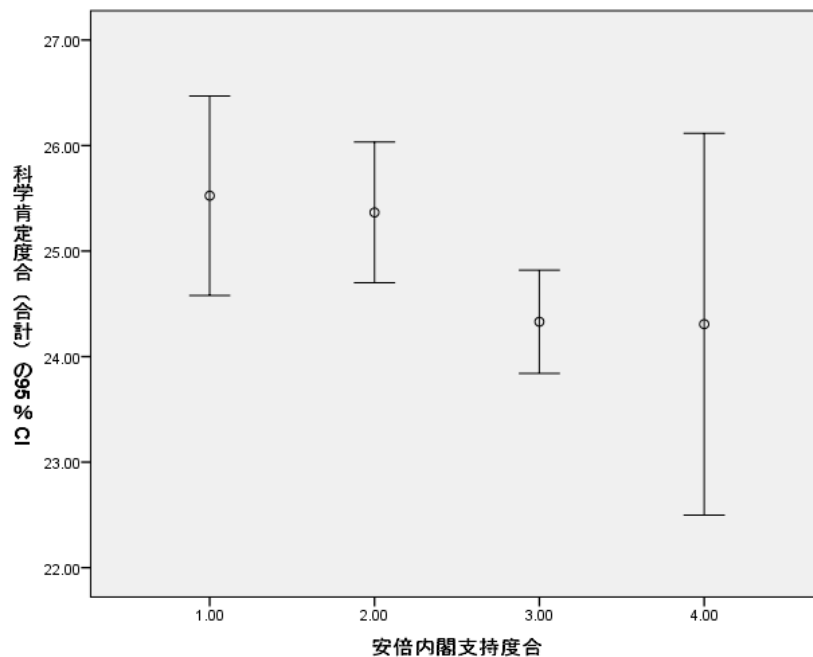


図4 安倍内閣支持度合別の科学支持度合の平均値

図2、図3をみると、ともにほぼ横ばいである。しかしぶれ幅をみると、性役割意識が強いほど、また権威主義に肯定的であるほど、科学支持度合にぶれ幅が大きくなることがわかる。図4をみると、安倍内閣支持度合1～3まで（すなわち、「かなり支持している」「やや支持している」「あまり支持していない」「ほとんど支持していない」のうち、安倍内閣を「ほとんど支持していない」から「やや支持している」まで）では、グラフは仮説に反して右肩下がりとなっている。そしてぶれ幅でみると、図2、図3と同じように、安倍内閣支持度合が強い（＝保守的）であるほど、科学支持度合にぶれ幅がみられる。

さらに、重回帰分析した結果が表1である。

表1 科学支持度合の回帰分析の結果

	係数	標準誤差	有意確率
(定数)	270976	.807	.000

性役割意識	-.123	.052	.018
権威主義肯定度合	-.102	.066	.123
安倍内閣支持度合	-.339	.231	.143

有効サンプル数 : 401 R2乗 : .043

仮説の予想に反し係数は負になったが、これについても、有意確率がとても大きく、5%を超えているために、この結果から従属変数と独立変数間に相関関係があるとは言い難い。

性役割意識、権威主義肯定度合、安倍内閣支持度合、そして科学支持度合の変数をつくるために用いたもとの質問すべてを使った主成分分析もみる。

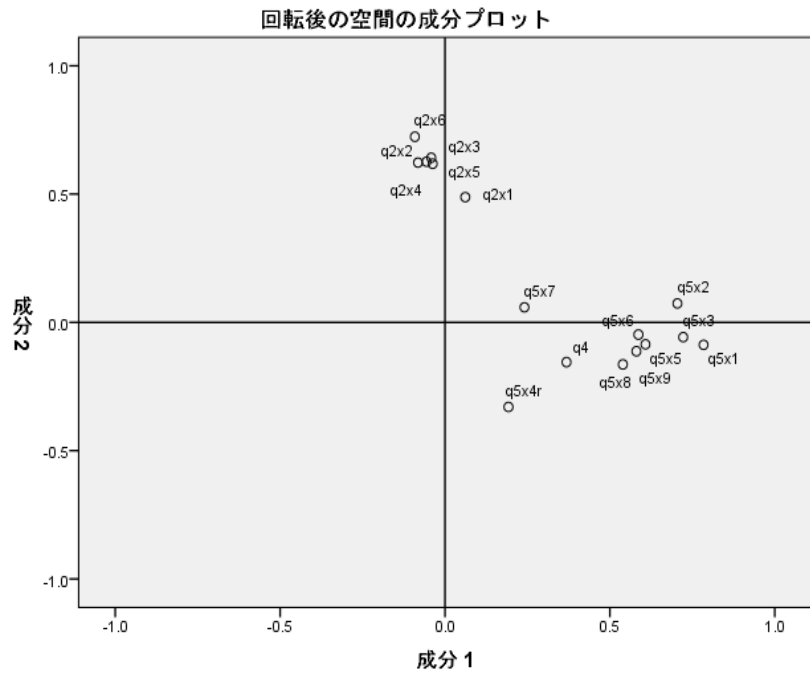


図 5 主成分分析の結果

Q2 (x1-6) が科学支持度合に用いた学問に関する質問、q4 が安倍内閣を支持するかどうか、q5 (x1-5) が性役割意識に用いた質問、q5 (x6-9) が権威主義肯定度合に用い

た質問である。2次元でみてみても、たしかに「性役割意識の強さ」「権威主義肯定度合」「安倍内閣支持度合」は近く相関しているものの、それらと「科学支持度合」との間には距離がある。

4. 議論

「性役割意識の強さ」や「権威主義への肯定度合」、そして「安倍内閣の支持度合」などからわかる“保守的な態度”のあるひとほど科学には肯定的でないと考えたが、仮説は支持されなかった。今回の分析結果では残念ながら「科学支持度合」と「保守的度合」との間には有意な相関は見られなかった。本研究に用いたデータは京都大学の学生に対して行ったアンケート結果を利用しているが、本学が国の誇る研究機関であるが故か、図1でみたように科学支持度合のヒストグラムがピラミッド型にならないほど科学に肯定的な学生が否定的な学生に比べて非常に多かったということも関係しているのだろうか。

しかし、主成分分析の2次元解（図5）でみたとおり、「性役割意識の強さ」と「権威主義的態度への肯定度合」と「安倍内閣支持度合」の3つの間の距離は近く、3つは相関していた。やはり、最近はまだ減ってきたかと思われていたが、“男は仕事、女は家事”だったり、そのような考え方を持つ人は現在の大学生にも存在し、その考えを持つ人は同様に“権力のあるひとには従うべきだ”というような権威主義的な態度にも肯定的で、そして現在の安倍内閣も支持しているということである。“保守的”な態度であると考えられるこの3つがきれいに相関していたという事実が得られたことは興味深い。

また、科学支持度合と“保守的”であるかもしくは“革新的”であるかどうかは、本当に相関していないのだろうか。質問を変えてアンケートをとったり、“保守的”とみ

なす指標をもっと模索するなどして、この関係をもっと研究してみたい。そして、ますます科学技術が発展し、国民から集めた税金で科学に膨大な支援をする必要がある現代において、なにが“科学”にたいして肯定的な態度を生み出しているのかを突き止めたものである。

第 2 章

内閣支持に関する分析

安倍内閣支持と学問観

塩谷 奈津美

1. はじめに

2015年6月、文部科学省が出した文書により、人文系学部廃止騒動が起こった。文書『国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて』に記載されていた、「特に教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については、（中略）組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努めることとする」という文が物議を醸すこととなった。後に文部科学省は、廃止の対象は「ゼロ免課程」の教員養成系であると釈明したが、人文系の学部・大学院については「社会的要請の高い分野への転換」を求めることで路線を決定している。哲学者山口裕之が『人文系学部は廃止？日本の大学改革現状と課題』で取り上げているように、実際には、科学研究費補助金などから見ても人文社会科学系が冷遇されているといったことはなく、文部科学省も廃止を最初から全く検討していなかったことは事実だろうが、問題が報道によって加熱しすぎたために国民のイメージに強く影響してしまったこともまた事実であろう。

本レポートでは、「安倍内閣を支持する人ほど、理系科目を重視し、文系科目を軽視する傾向にある」と仮定し、京都大学の学生に質問紙調査を行った結果を用いて以下で証明していきたい。

2. 統計・結果

質問紙から、以下の学問に関する六つの質問項目を使用する。

Q2 さまざまな学問や科学に対する以下の意見についてどう思いますか？あなたの考えに一番近いものを一つ選んでください。

q2x1 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援すべきである。

q2x2 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。

q2x3 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。

q2x4 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。

q2x5 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。

q2x6 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

回答は全て5点尺度で、数値が大きくなるほど「そう思う」に近くなるように変数を反転させている。

また、質問紙から、安倍内閣支持に関する以下の質問項目を使用する。

Q4 あなたは安倍内閣を支持していますか。

回答は4点尺度で、数値が大きくなるほど「支持する」に近くなるように変数を反転させている。

Q2 のそれぞれの変数の記述統計表は以下の表1の通りである。

表1 記述統計表

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差

政府の科学支援	424	.00	4.00	3.5495	.71287
歴史学は役立つ	423	.00	4.00	3.1087	.94015
物理学は役立つ	423	.00	4.00	3.2908	.90186
憲法学は役立つ	422	.00	4.00	2.8555	1.07904
数学は役立つ	424	.00	4.00	3.0377	1.01920
文学は役立つ	424	.00	4.00	2.9175	1.08733

また、Q2 の変数の相関行列は以下の表 2 の通りである。

表 2 相関行列

	政府の科学支援	歴史学	物理学	憲法学	数学
政府の科学支援	1	.200**	.286**	.125*	.258**
歴史学は役立つ	.200**	1	.232**	.372**	.178**
物理学は役立つ	.286**	.232**	1	.331**	.301**
憲法学は役立つ	.125*	.372**	.331**	1	.231**
数学は役立つ	.258**	.178**	.301**	.231**	1
文学は役立つ	.199**	.379**	.265**	.343**	.496**

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）。

*．相関係数は 5% 水準で有意（両側）。

この相関行列を主成分分析にかけた結果得られた固有値と累積説明率は以下の表 3 の通りである。

表 3 主成分分析の結果（固有値と説明率）

成分	固有値	累積説明率
1	2.418	40.299
2	.957	56.251
3	.864	70.655

因子抽出法: 主成分分析

表3を見ると、2次元で図示するのが適当であると考えられる。2次元解の結果を示したのが、図1である。

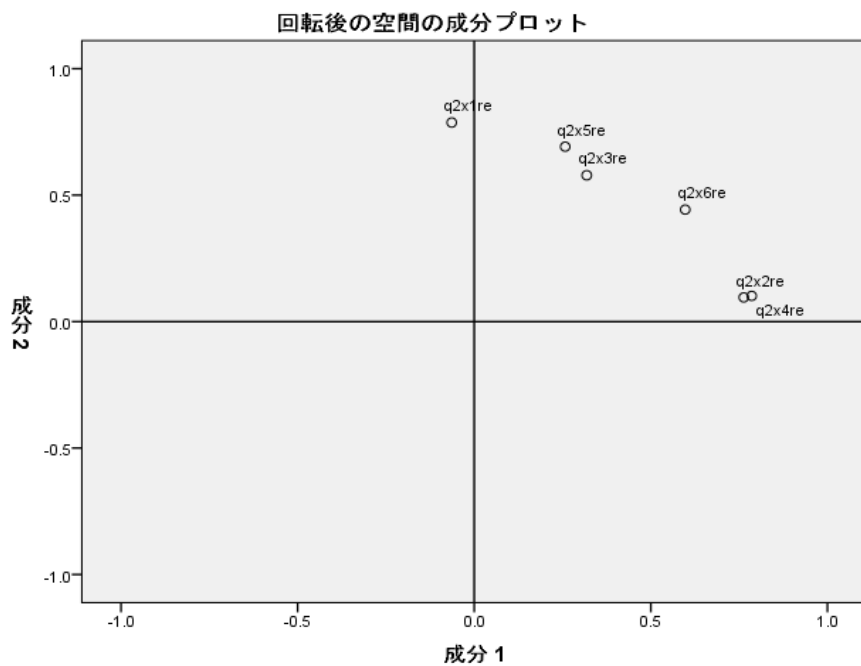


図1 主成分分析の結果（バリマックス回転後）

図1より、q2x2とq2x4、q2x3とq2x5を足し合わせることが可能である。よって、q2x2とq2x4を足し合わせて新たな変数「文系学問」、q2x3とq2x5を足し合わせて新たな変

数「理系学問」を用いる。

「安倍内閣支持」度別にみた、「文系学問」「理系学問」をどの程度重要視しているかをグラフに示したものが以下の図2、図3である。

「文系学問」「理系学問」共に変数の最大値は8、最小値は0である。

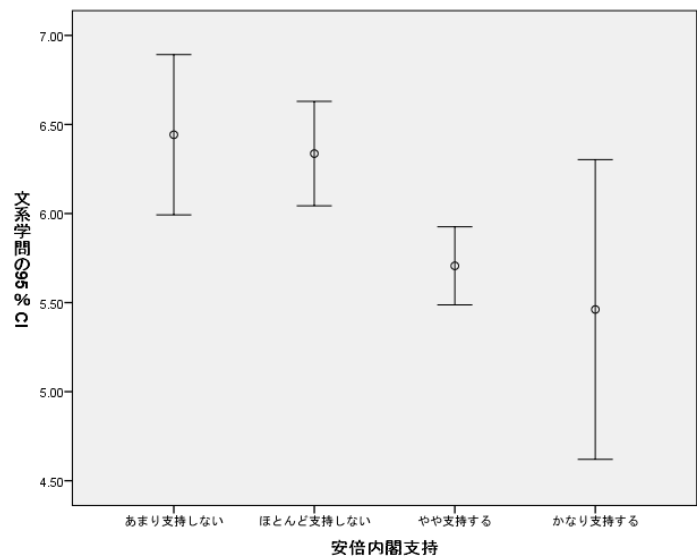


図2 「文系学問」と「安倍内閣支持」

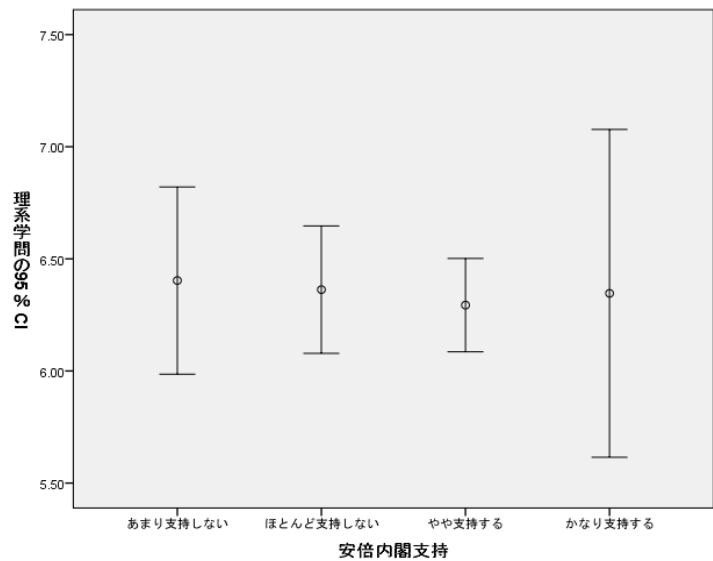


図3 「理系学問」と「安倍内閣支持」

以上を見ると、安倍内閣を支持する人ほど文系学問を重要視しない傾向にあることがわかるが、理系学問をどの程度重要視するかは、安倍内閣支持とはそれほど関係はなく、どの支持層もある程度理系学問を重要視していることがわかった。

さらに、文系/理系の男女別から学問観をはかるために、文理男女別の変数を作成した。以下の表4はその度数分布である。

表4 文理男女別度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	文系男性	115	27.1	27.3	27.3
	文系女性	72	17.0	17.1	44.3
	理系男性	197	46.5	46.7	91.0
	理系女性	38	9.0	9.0	100.0
	合計	422	99.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	.5		
合計		424	100.0		

文系/理系の男女別からみた「文系学問」「理系学問」を重要視するグラフが、以下の図4、図5の通りである。

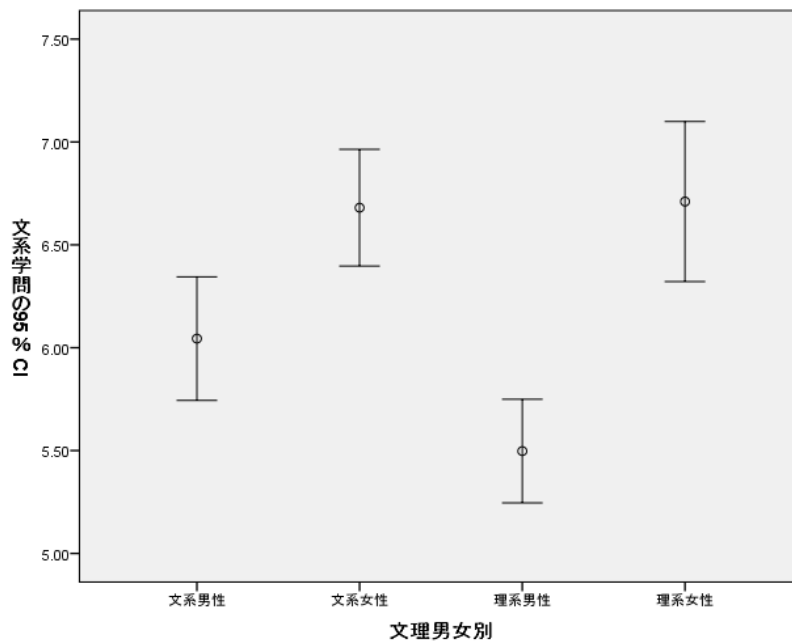


図4 文理男女別でみた文系学問の重要視度

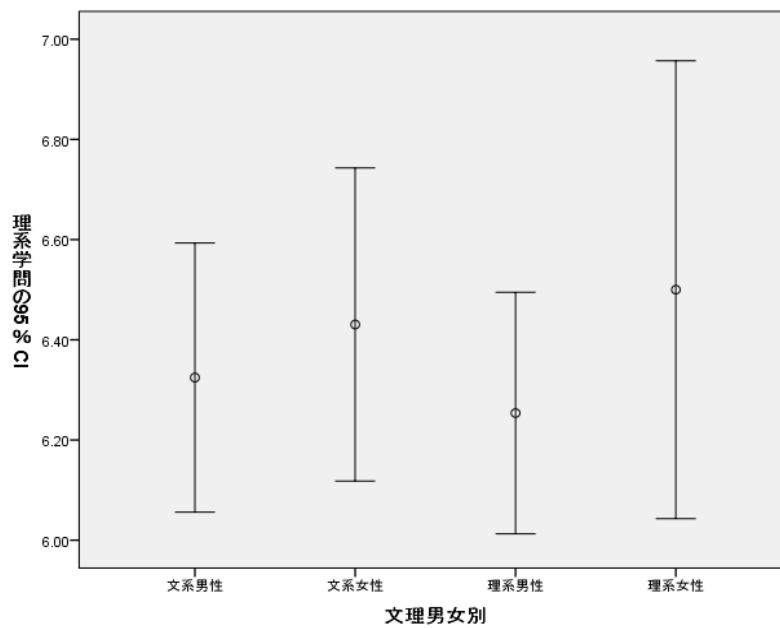


図5 文理男女別でみた理系学問の重要視度

以上を見ると、女性は文系・理系ともに文系学問を重要視している一方で、男性、

特に理系男性は文系学問を軽視する傾向にあることが分かった。また、理系学問については、文系/理系の男女に関わらずある程度重要視していることがわかった。

また、文理男女別でみた安倍内閣支持度を表したのが以下の図6である。

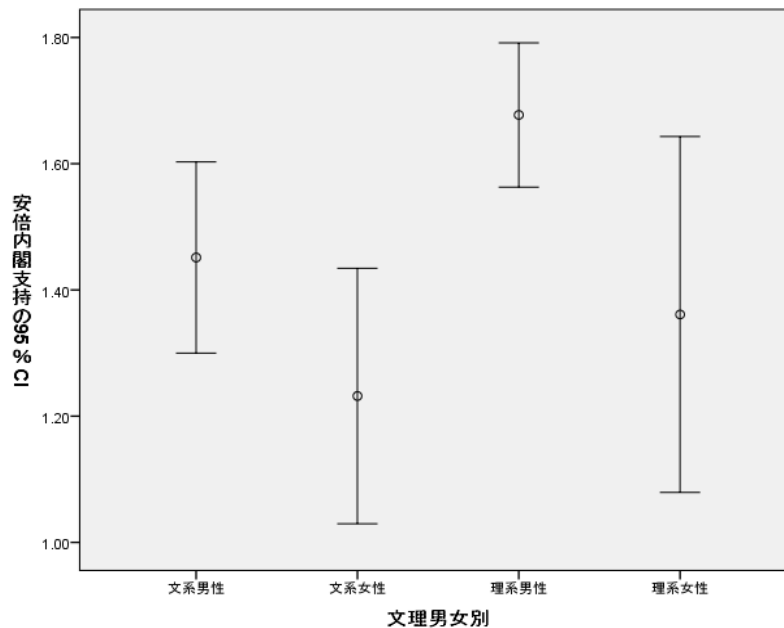


図6 文理男女別でみた安倍内閣支持度

これは、図4の、文理男女別でみた文系学問を重要視するグラフをほぼ反転したようになっていることがわかる。

つまり、文系学問を重要視する文系女性・理系女性は比較的安倍内閣支持度が低く、また文系学問を軽視する理系男性は安倍内閣支持度が高いことがわかった。

以上の結果より、「安倍内閣を支持する人ほど、理系科目を重視し、文系科目を軽視する傾向にある」といえる。

3. 考察

以上の統計結果を見て、私が興味深く感じたのは、文系学問を重要視する態度が、文系男性は文系・理系女性よりも低かった点である。理系学問を学んでいる学生ならば、文系学問の軽視もある程度理解できるものの、自らが学んでいる文系学問をそれほど重要視できないというのは皮肉なように聞こえる。このことは、人文系学部廃止騒動の過熱化の理由として、山口裕之が社会学者の吉見俊哉の言葉を借りて述べているように、

必ずしも事実とは言えない報道が、疑われることもなく世論にすんなり受け入れられたのは、「文系学部で学んだことは就職に有利ではないしお金にならないから役に立たないのだ」という「常識」が形成され、(中略) 潜在的に信じ込んでしまっている状況」(二七頁)があったからだと指摘する。こちらのほうが「より根本的な問題」であることは言うまでもない

ことと深く結びついていると考えられる。さらに、「女性は家庭を守るべきなので働かない方がよい」という風潮は薄れてきているものの、未だに「男は家庭の外で働くべきである」という風潮は残っているために、男性の方がよりこの常識にとらわれやすくなっていると考察できる。

今回データをとった京都大学に関しては、総合人間学部の設置など、文系/理系の垣根をこえた学問分野を学習する学生もいる。また、一概に文系学問、理系学問といっても、その中にもさらに意識の中で優劣の度合いが幅広くあることが考えられる。今回、文系学問の中には経済学の項目、理系学問の中には農学・化学等の項目が含まれていなかったこともあり、これらを再び加味して調査することでより具体的なデータを得ることが可能であると考えられる。

文献

文部科学省（2015 年）「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて（通知）」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/062/gijiroku/__icsFiles/afeldfile/2015/06/16/1358924_3_1.pdf

山口裕之（2015 年）「人文系学部は廃止？ ―日本の大学改革の現状と課題―」

<http://repo.lib.tokushima-u.ac.jp/ja/list/t-pubs/jhsa/25/--/item/110970>

吉見俊哉（2016 年）『「文系学部廃止」の衝撃』集英社新書

科学観と保守主義の関係

角田 知佳

1. はじめに

一般的に科学は客観的事実に基づいて物事を判断するものであると考えられているため、天動説から地動説へと人々の考えかたを大きく変化させたように、しばしば伝統や慣習を打ち破ることがある。そのため、伝統を重んじる保守主義は、戦後70年談話にみられる歴史的事実の曲解や文科相のLGBT教育に対する理解の遅れなどから分かるように科学に対して否定的になる傾向があった。この論文では、保守派の人は科学に否定的な考えを持っているのかという問いについて考察していき、日本の保守主義と科学の間に関係性はあるのかどうかを確かめていきたいと思う。

2. 分析方法

以下の科学観を測定する6変数（5点尺度）と安倍内閣支持（4点尺度）の相関関係を調べるために標準偏差を求めて、主成分分析を行う。質問文は以下のとおりである。

Q2「さまざまな学問に対する以下の意見についてどう思いますか。あなたの考えに一番近いものを一つ選んでください。」

q2x1 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援すべきである。

q2x2 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。

q2x3 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。

q2x4 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。

q2x5 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。

q2x6 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

Q4 あなたは安倍内閣を支持しますか

すべて数値が大きくなるほど「そう思う」に近くなるように数値を振ってある。

3. 分析結果

標準偏差は表1のとおりである。

Q2_1、 q2_2、 q2_3 、q4にはあまり値のばらつきが見られなかった。

表1 標準偏差

	標準偏差
科学は政府が支援すべき	.71
歴史は役に立つ	.94
物理は役に立つ	.90
憲法学は役に立つ	1.08
数学は役に立つ	1.02
文学は役に立つ	1.09
安倍内閣支持度	.83

次に科学観を測る 6 変数と安倍内閣支持の相関関係を図るために、主成分分析を行った。

表2 相関行列

		科学は政府が 支援すべき	歴史は 役に立つ	物理は 役に立つ	憲法学は 役に立つ	数学は役に 立つ	文学は役 に立つ	安倍内閣支持 度
相関	科学は政府が 支援すべき	1.000	.199	.279	.122	.243	.199	.026
	歴史は役に立 つ	.199	1.000	.221	.366	.174	.379	-.217
	物理は役に立 つ	.279	.221	1.000	.323	.298	.269	-.026
	憲法学は役に 立つ	.122	.366	.323	1.000	.231	.344	-.114
	数学は役に立 つ	.243	.174	.298	.231	1.000	.498	-.009
	文学は役に立 つ	.199	.379	.269	.344	.498	1.000	-.136
	安倍内閣支持 度	.026	-.217	-.026	-.114	-.009	-.136	1.000

この相関行列を主成分分析にかけた結果得られた固有値と累積説明率は表 3 のとおりである。

表3 主成分分析の結果

主成分	初期固有値	累積説明率%
1	2.4	34.8
2	1.1	51.1
3	.9	63.5

表3を見ると、2次元で図示するのが最適であると考えられる。2次元解の結果を示したのが、図1である。

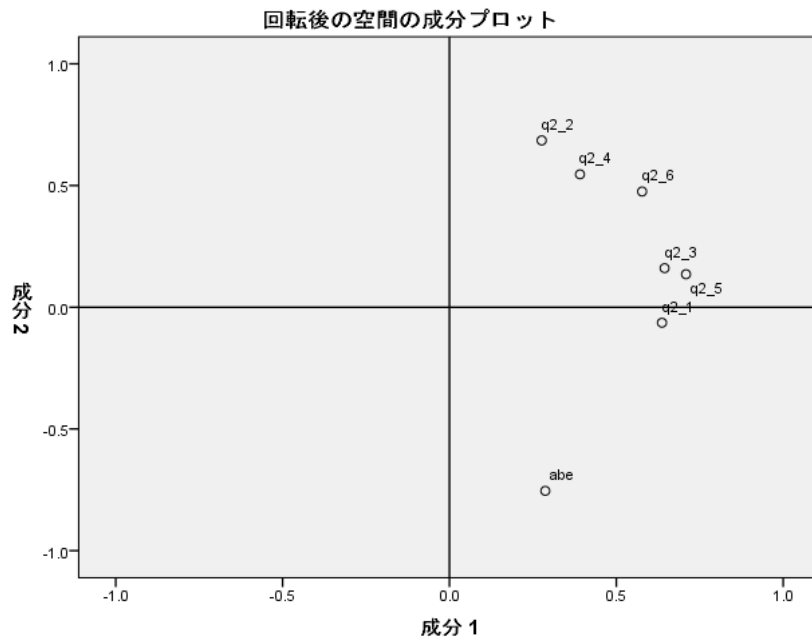


図 1 主成分分析の結果（バリマックス回転後）

図1を見ると、q2_2(歴史学は役立つ)、q2_4(憲法学は役立つ)とq2_6(文学は役立つ)はQ4(安倍内閣支持度)から大きく離れており、安倍内閣支持者、つまり保守派はこれらの意見を否定的に見る傾向があることがわかる。また、q2_3(物理学は役立つ)、q2_5(数学は役立つ)、q2_1(科学を政府は支援すべきである)といった自然科学に関する質問項目については安倍内閣支持とあまり関係ないことが示されている。

4. 考察

今回の分析では、保守派が科学に対して否定的な傾向がややあることはわかったものの、保守派が科学に対して否定的であると断言できるほどの強い相関は得られなかった。自然科学は学校教育の場で広く教えられえているため、安倍内閣を支持しているかどうかに関係なく科学を信じている人が多いのかもしれない。LGBT教育に対する理解の遅れなど、保守派が科学観に対して否定的であることの具体例を出して回答者にどのよう

に考えるのか尋ねるほうがより分かりやすい回答が得られるのではないだろうか。また、科学領域の範囲をどこまでとするかは人によって異なるため、特に自然科学以外の歴史学、憲法学、文学といった学問を科学に含めてよいのかは見当が必要であると考えられる。今後、保守派と科学観の関係性を調べる際には回答者の考える科学領域の確認と保守派と科学観の関係性についてより具体的に問う質問文が望ましいのではないだろうか。

「社会的要請の高い分野」とは何か？

—— 京大生の科学観と安倍内閣支持のデータを用いた検討 ——

桑原 啓

1. はじめに

2015 年 6 月に文部科学省によって「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」という通知が出された。とりわけ、教員養成系学部・大学院と人文社会科学系学部・大学院については、「組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努めることとする」²とあり、それについて問題視するような報道があった。例えば朝日新聞は「『国立大、文系見直しを』ニーズ踏まえ廃止・転換促す 文科省通知」と題し、文科省通知を問題視する識者のコメントと共に報じている（『朝日新聞』2015.6.9 朝刊）。そして、同年 9 月に下村博文文部科学大臣（当時）は、記者会見の中で「廃止については、文部科学省も人文科学系について実際は言及しているわけではなくて、見直しが必要ではないか」という趣旨であったと説明するに至っている³。文科省通知を批判した一連の報道について、吉見俊哉（2016）は当時安倍政権が押し通してきた安保関連法案等と一括りにする形で、通知の内容が批判され、安倍政権の批判に結びついたのでと論じている。

文部科学省の本来の意図はさて置き、国立大学には現在（2018 年 1 月 13 日）も、「社会的要請の高い分野」の充実が求められていることは否定できないだろう。たとえば、2017 年の朝日新聞の記事では、「岐阜大学（岐阜市）が 2020 年 4 月に『総合経営

² (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/kokuritu/003/shiryo/attach/1364527.htm)

³ (http://www.mext.go.jp/b_menu/daijin/detail/1361893.htm)

学部』（仮称）の新設を計画していることがわかった」とあり、その背景には「10年ほど前から地元経済団体や企業、高校関係者らから経営学部設置の要望があり、大学側も文系学部の充実や県外への学生流出の防止策を探っていた」と報じられている（『朝日新聞』名古屋版 2017.12.20 朝刊）。確かに文系学部の充実とはあるものの、地域経済の振興という「社会的要請」とは無縁であるとは言い難い。また、吉見（2016）によると、第一次世界大戦の頃から軍需産業の重要性が増したために、理系学問が重視されるようになり、第二次世界大戦後も経済成長の必要性から日本政府による理工系振興が続き、国立大学は理系中心の組織となってきた。つまり、日本の国立大学は経済成長という「社会的要請」に応える形で、理系学問を拡充してきたのだと言える。とりわけ戦後の長きにわたる自民党政権下における理系振興を考慮すると、上述の文系学部廃止への批判が、本質的に安倍政権に対する批判と結びつきやすいことは想像に難くない。

では、実際に国立大学である京都大学に通っている学生たちにおいては、どのような科学観を持つ人と、安倍政権に対する支持および公的な科学支援とが結びつくのだろうか。本稿では「安倍内閣を支持する人ほど、文系学問を軽視する傾向にある」、「理系学問を重視する人ほど、公的な科学支援を期待する」という二つの仮説を立て、調査結果を分析していく。これらの仮説を検証していく意義は、政府による科学支援という政策的課題について、本稿がその方向性を考察することに寄与し得る点にある。

2. 方法

人文科学・自然科学に関する調査項目を本稿では「科学観」と呼ぶ。科学観を知るための調査項目は、以下のような6つの意見に対する賛否を5段階で尋ね、それらに対する回答を反転させたものを用いる。

1. 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援すべきである。
2. 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。
3. 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。
4. 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。
5. 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。
6. 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

反転後のこれらの項目は、回答の数値が高くなるほど、評価が高くなるように設定してある。さらに、以上のうち、歴史学・憲法学・文学に関する項目の回答を反転させて足し合わせたものを「文系学問」という項目として扱い、同様に物理学・数学に関しては「理系学問」とする。

また、安倍内閣支持を知るための調査項目は、以下の質問に対する回答を反転させたものを用いる。

7. あなたは安倍内閣を支持していますか。

反転後のこの項目は、数値が高くなるほど、安倍内閣を支持していることを示している。

以上が本稿で扱う質問項目および、その加工方法である。

3. 結果

3-1. 科学観と安倍内閣支持

まず、各変数の関係性を確認するために、変数間の相関を算出した。それが表 1 である。

表 1 科学観・安倍内閣支持の相関係数(ピアソンの積率相関係数)

	政府科学 支援	歴史学	物理学	憲法学	数学	文学	安倍内閣 支持
政府科学 支援		.200***	.286***	.125*	.258***	.199***	.032
歴史学	.200***		.232***	.372***	.178***	.379***	-.215***
物理学	.286***	.232***		.331***	.301***	.265***	-.029
憲法学	.125*	.372***	.331***		.231***	.343***	-.119*
数学	.258***	.178***	.301***	.231***		.496***	-.008
文学	.199***	.379***	.265***	.343***	.496***		-.134**
安倍内閣 支持	.032	-.215***	-.029	-.119*	-.008	-.134**	

*** p<.001, ** p<.01, * p<.05

これらの変数間の相関を見ると、歴史学と憲法学と文学を役立つとする質問項目の相関係数が相対的に大きく 1つのグループを形成する。一方、安倍内閣支持は、全般的に科学観を構成する各項目とは相関が極めて弱い。ただし、その中でも安倍内閣支持と歴史学が弱い相関を示しており、0.1%水準で有意となっている。

次に、この相関行列を主成分分析にかけた結果得られた固有値と累積説明率は表 2 のとおりである。

表 2 主成分分析の結果（固有値と累積説明率）

主成分	固有値	累積説明率
1	2.434	34.774
2	1.145	51.124
3	.867	63.516

表 2 を見ると、2 次元で図示するのが最適であると考えられる。2 次元解の結果を示したのが、図 1 である。

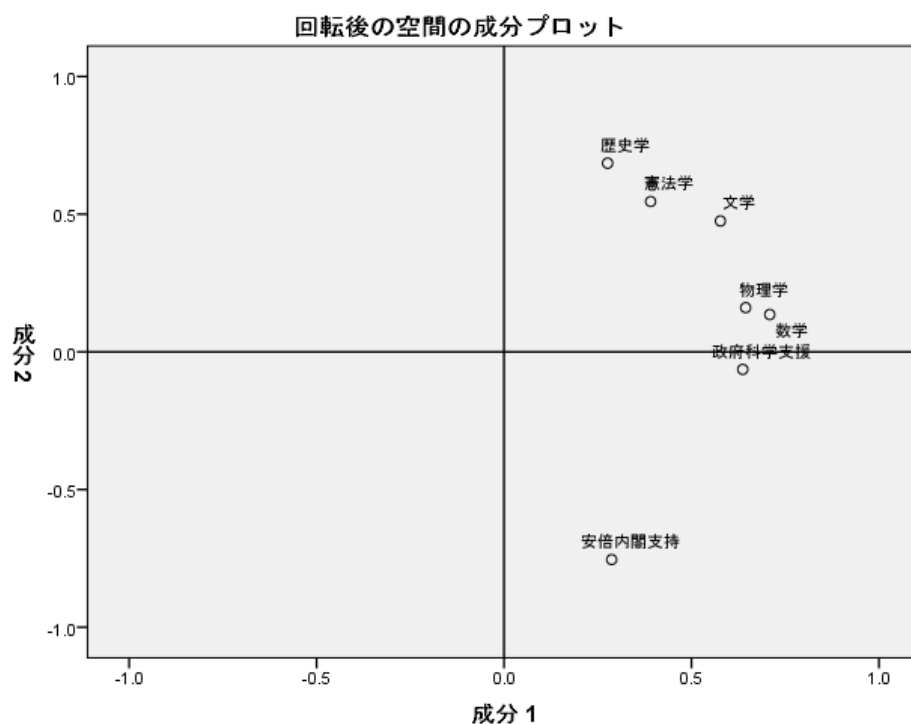


図 1 主成分分析の結果（バリマックス回転後）

図 1 を見ると、歴史学と憲法学、政府科学支援と物理学と数学でグループが構成されていることが見出せる。また、安倍内閣支持は歴史学・憲法学・文学の項目から離れて

おり、これらの学問に対する評価と安倍内閣支持は対極的關係にあると見なすことができる。一方で、物理学・数学や政府科学支援に関しては安倍内閣支持と関係があるとは言えない。

そこで、次に歴史学・憲法学・文学を足し合わせて文系学問とし、安倍内閣支持との関係性について調べることにする。文系学問に対する評価の平均値を安倍内閣支持度別に計算した結果が図 2 である。

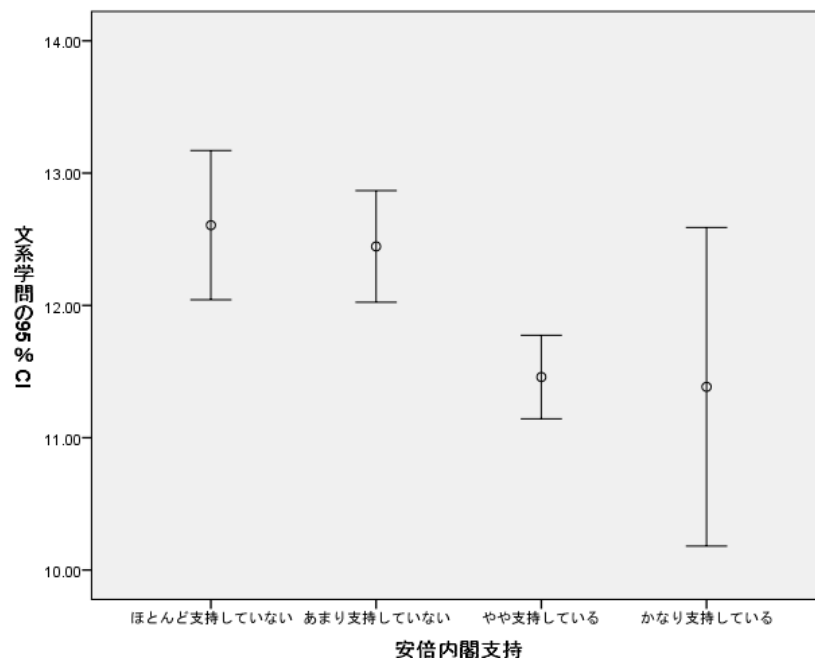


図 2 安倍内閣支持度別の文系学問に対する評価の平均値

図 2 より、文系学問に対する評価が全体的に右肩下がりになっていることがわかる。とりわけ「やや支持している」と「ほとんど支持していない」、「やや支持している」と「あまり支持していない」とでは 95%信頼区間が重なっていないため、統計的に有意な差はあるのだと言える。

3-2. 政府の科学支援に影響する科学観

次に政府科学支援と科学観に関する項目を検討する。政府科学支援と科学観との相関は表 1 で示した通りである。政府科学支援は科学観の各項目と弱く相関していた（歴史学・物理学・数学・文学は 0.1%水準で有意、憲法学は 5%水準で有意）。さらに、政府科学支援を従属変数にして、重回帰分析をした結果が表 3 である。

表 3 政府科学支援の回帰分析の結果

	係数		標準誤差
(定数)	2.999	***	0.209
歴史学	0.094	*	0.039
物理学	0.169	***	0.040
憲法学	-0.024		0.035
数学	0.117	***	0.038
文学	0.016		0.037

*** p<.001, ** p<.01, * p<.05

表 3 を見ると、独立変数のうち憲法学と文学は有意ではないが、物理学と数学は 0.1%水準で有意であり、歴史学は 5%水準で有意な結果となっている。歴史学・物理学・数学を有効だと考えているほど、科学の研究を政府が支援するべきだと考えていることがわかる。

4. 議論

本稿では、安倍政権に対する支持が科学観と結びつくのか、そして、どのような科学

観が公的な科学支援と結びつくのかについて検討してきた。

科学観に関する結果を要約すると、文系学問に対する評価は安倍内閣支持とおおむね負の相関を示している。その一方で、理系学問と安倍内閣支持との関係性は見出せなかった。また、文理を問わず、科学観に対して高い評価を下している人々は、おおむね政府の科学支援を支持し、とりわけ歴史学・物理学・数学に対する評価が高い人にその傾向を見出すことができた。

この結果から、「安倍内閣を支持する人ほど、文系学問を軽視する傾向にある」という仮説はおおむね支持されたと言っていいだろう。この点は、「社会的要請の高い分野」を重視し、支援してきた自民党政権に対するカウンターとなっている。とりわけ安倍内閣支持が歴史学との間で最も大きな負の相関を示していた点は、安倍政権下における歴史認識の問題が背景に存在すると考えられる。

また、「理系学問を重視する人ほど、公的な科学支援を期待する」という仮説もおおむね支持された。ただし、政府科学支援の回帰分析において、文系学問の項目中、唯一歴史学に影響力を見出せた。この点に関しては予想外の結果となったが、歴史資料の解読の際に科学技術が用いられる場合があることも関係しているのかもしれない。

本稿の意義は、政府による科学支援という政策的課題について、本稿がその方向性を考察することに寄与し得る点にあったことは既に述べた。京大生においては、理系学問を重視するほど、政府の科学支援を支持する傾向にあったが、歴史学に関しても若干ではあるもののそうした影響を見出せたと言っていいだろう。すなわち、京大生にとっては、必ずしも経済成長だけが科学に対する評価基準とはなり得ないのだと言える。少なくとも京大生においては、経済成長に大きく貢献するとされてきた理系学問のみならず、文系学問も「社会的要請」があるものとして認知されている可能性がある。そして、この点は、二度に渡る大戦後から現在に至るまでの日本政府による科学支援のあり方が、今後も真に「社会的要請の高い分野」を反映し得るのかという議論に一石を投じるもの

であると言えよう。

文献

文部科学省, 2015, 「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」, 文部科学省ホームページ, (2018 年 1 月 23 日取得, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/kokuritu/003/shiryo/attach/1364527.htm).

文部科学省, 2015, 「下村博文文部科学大臣記者会見録」, 文部科学省ホームページ, (2018 年 1 月 13 日取得, http://www.mext.go.jp/b_menu/daijin/detail/1361893.htm).

吉見俊哉, 2016, 『「文系学部廃止」の衝撃』集英社新書.

大学生の自民党支持と権威主義との関係性について

青山 夏樹

1. はじめに

1-1. 問題意識

近年若者の自民党支持率が上がっているようである。日本経済新聞社が行った出口調査によると 2016 年に行われた参議院選挙では、18～19 歳の比例選挙区において自民党 40%を占め、最多投票先であった。また、東京大学新聞社が東大生を対象にして行った調査では 2017 年に行われた衆議院議員選挙での自民党投票率が 50 パーセント上回った。一方で若者、とりわけ大学生が保守化をしているかという、そのような実感は得られない。そればかりか、性別役割意識に対する態度には、ある種「リベラル」と言われるような風潮さえも感じるところである。実際にこのことは教育を受けた年数が増えるほど、男女の性別役割意識に対して否定的になるという調査結果が示している。

(棚田,2017) 一方で、若者を取り巻く「保守主義」には、いわゆる保革イデオロギーの潮流を汲むものではないと考えられており、若者の多くは、対立構造自体を把握できていないという現状が指摘されている。(稲増,三浦,2015) それでは、なぜ大学生は自民党を支持しているのか。日本では高学歴層における権威主義化が報告されている。(渡辺,2017) ここでは若者が自民党を支持する理由を、その権威主義的傾向に見出すことを目的とする。

1-2. 仮説

以上から、①若者の自民党支持と性別役割意識との関係性は見られない、②自民党支持は主に権威主義的傾向に関係性があるのではないかと、という仮説を立てる。なお、今

回の質問紙調査では自民党を支持するか否かの設問は設けていなかったため、便宜上、自民党支持を安倍内閣支持と読み替えている。厳密には両者は同義とは言えないものの、今回の調査において大差は見られないものとして解釈した。

2. 方法

2-1. データ概要

本調査で用いられるデータは、2017 年 10 月に京都大学の学部生および院生を対象に「科学と政治に関する意識調査」として質問紙調査を行い得られたものである。なお有効回答数は 425 であった。

2-2. 操作

安倍内閣を支持するか否かについて問う設問として、次の設問を用いた。

- ・あなたは安倍内閣を支持していますか。

この設問は、「1. かなり支持している」「2. やや支持している」「3. あまり支持していない」「4. ほとんど支持していない」の 4 つの尺度から成る。今回は、「1. かなり支持している」「2. やや支持している」の両者を「支持」、「3. あまり支持していない」「4. ほとんど支持していない」の両者を「不支持」と読み替え、2 つの尺度とした。

性別役割意識について問う質問として、以下の 5 つの設問の回答を用いている。

1. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ。
2. 概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける。
3. 夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事をもたない方がよい。
4. 男性は「育児休業制度」を積極的に利用したほうがよい。

5. 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している。

以上の設問は全て 5 点尺度であり、「1. 賛成」「2. どちらかと言えば賛成」「3. どちらともいえない」「4. どちらかと言えば反対」「5. 反対」であり、数字が大きくなるほど性別役割分業に対し革新的な立場となる。なお 4 については、数字を反転させている。これらの 5 つの変数を足し合わせた平均を反転させたものとして、「性別役割分業への肯定感」とした。

権威主義的態度には、以下の設問の回答を用いている。

1. 伝統を守っていれば、問題は起こらない。
2. どんな状況でも法律には従わなければならない。
3. 自分より権力のある人には従わなければならない。
4. この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである。

以上の設問は全て 5 尺度であり、「1. 賛成」「2. どちらかと言えば賛成」「3. どちらともいえない」「4. どちらかと言えば反対」「5. 反対」であり、数字が大きくなるほど権威主義的態度に対し否定的な態度となる。4 つの変数を足し合わせた平均を反転させたものとして、「権威主義的態度への肯定感」とした。

3. 調査結果

3-1. 度数分布およびヒストグラム

安倍内閣支持および、性別役割分業への肯定感、権威主義的態度への肯定感の結果は次のようになった。

表 1 安倍内閣支持に関する度数分布表

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	支持	245	57.8	59.9
	不支持	164	38.7	40.1
	合計	409	96.5	100
欠損値	システム欠損値	15	3.5	
合計		424	100	

京大生のおよそ60%が安倍内閣支持を支持していることがわかる。

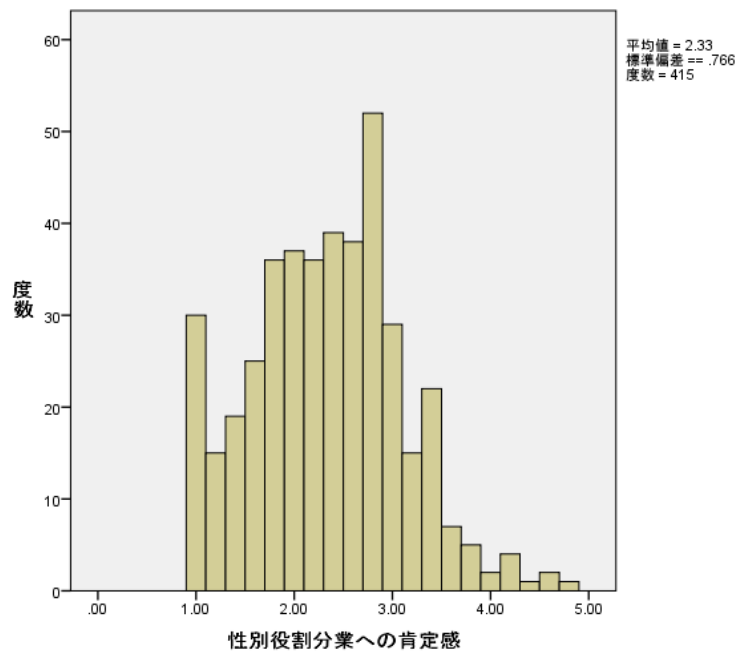


図1 性別役割分業への肯定感のヒストグラム

表2 性別役割分業への肯定感に関する記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
性別役割分業への肯定感	415	1.00	4.80	2.3320	.76626
有効なケースの数	415				

これは数字が大きくなるほど、性別による役割分業に関して賛成の立場をとる。すな

わち、性別役割意識に対して保守的ということになる。上記のヒストグラムによれば、平均値が2.33であり、また3.00よりも左側に度数が集中しているため、全体として性別役割意識に対しては革新的な人が多いといえる。なお最小値は1.00、最大値は4.80であった。

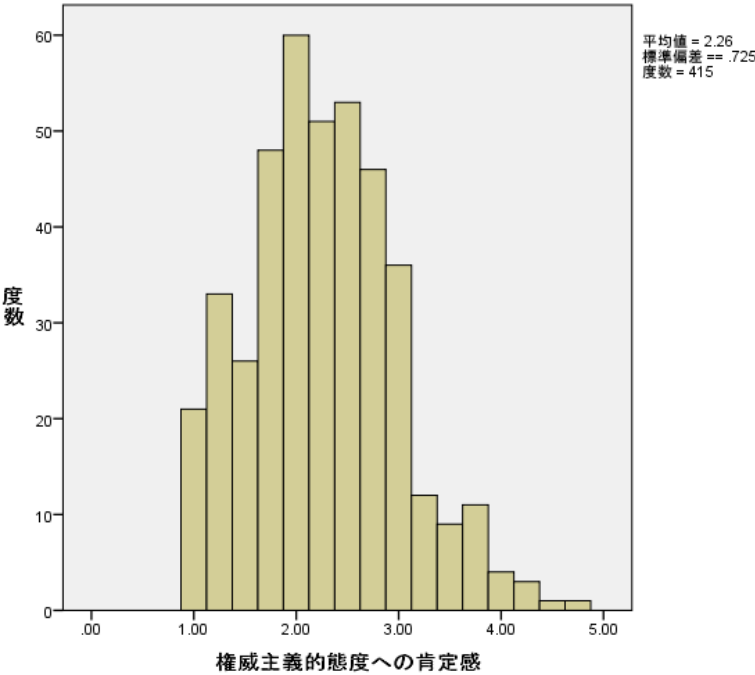


図2 権威主義的態度への肯定感のヒストグラム

表3：権威主義的態度への肯定感に関する記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
権威主義的態度への肯定感	415	1.00	4.75	2.2572	.72499
有効なケースの数	415				

これは数字が大きくなるほど、権威主義的態度に関して肯定の立場をとる。上記のヒストグラムによれば、平均値は2.26であり、3.00よりも左側に度数が集中しているため、全体としては権威主義的な態度には否定的な立場をとっている人が多いことがわかる。なお最小値は1.00、最大値は4.75であった。

3-2. 安倍内閣支持との関係性

安倍内閣支持と性別役割分業への肯定感および権威主義的態度への肯定感とのグラフは以下のようになった。

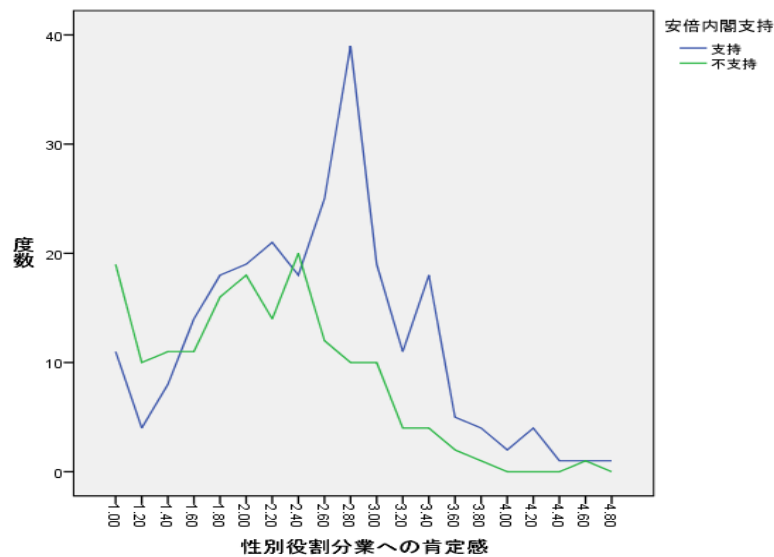


図3 性別役割分業への肯定感と安倍内閣支持不支持別折れ線グラフ

全体としてグラフの形自体は、支持・不支持においては大きな違いは見られないものの、最も安倍内閣を支持している人の度数が集中している値は、不支持の人のそれに比べて大きい。また、少なからず安倍内閣を支持している人は性別役割意識が保守的であるといえるだろう。また、不支持の人が1.00から1.40ほどの間において支持している人の度数を超えているため、不支持の人ほど性別役割意識については革新的であるといえるだろう。

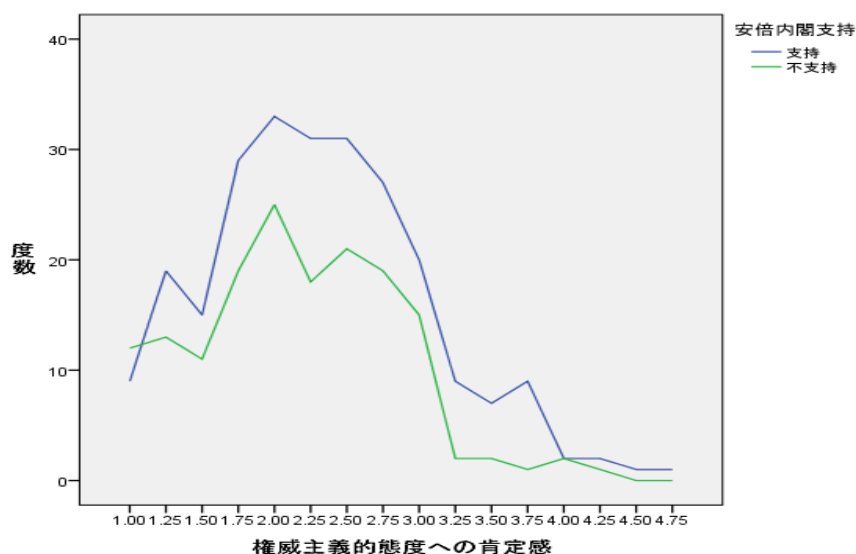


図4 権威主義的態度への肯定感の安倍内閣支持不支持別折れ線グラフ

全体として、それほど支持・不支持における違いは見られないものの、3.75付近においては、支持については度数の盛り上がりを確認できるため、安倍内閣を支持しているかつ権威主義的な態度についてある程度強く肯定的な立場をとっている人がいることがわかる。しかしながら、それほど支持と不支持の間に大きな違いが見られるとは言えないだろう。

4. 考察

4-1. 結果

本稿では、①若者の自民党支持と性別役割意識との関係性は見られない、②自民党支持は主に権威主義的傾向に関係性があるのではないかと、を検証すべく、安倍内閣支持と性別役割意識、権威主義的態度的関係性を分析した。調査結果においては、以上の仮説を証明できるような明確なデータを示すことはできなかった。①については、安倍内閣を支持している人は若干性別役割意識に関して保守的な傾向があり、安倍内閣支持と性別役割意識との間に何ら関係性が見られないということではなかった。②については、

安倍内閣支持と権威主義的な態度との間には、はっきりとした関係性は見取れず、権威主義的な人が安倍内閣を支持しているということを示すことはできなかった。ゆえに、現在の大学生の自民党支持については、若者の権威主義的な傾向にその理由を求めることは、今回の調査においては妥当ではないように考えられる。

4-2. 課題

そもそも大学生がなぜ自民党を支持しているのかというところに立ち返ると、そこには政治への知識の少なさがあるのではないだろうか。政治に関する知識量が少ないために、既存の政党でかつよく知っている政党、すなわち現在政権を担っている自民党を、そこまで深く考えずに支持しているとも考えることができるのではないだろうか。また、自民党以外にとりわけ政権を担えるような野党の存在が認められないと感ぜられるため、消去法として自民党を支持、安倍内閣を支持しているのではないかと考えられる。昨今の野党の分裂などを見れば、妥当な考え方といえるかもしれない。

今回は大学生の政治への関心の高低を考慮に入れずに入れて行われたため、政治への関心の低さと自民党支持との関係性については言及することができなかった。この点については今後明らかにしていく必要があるだろう。

文献

- 棚田洋平,2017,「IV. 調査結果の分析：大学生のジェンダーに関する意識と学校教育経験との関係性」,『近畿大学学生人権意識調査報告書—ジェンダー編』 3 : 104-112
- 稲増一憲,三浦麻子,2015,「オンライン調査を用いた「大学生の保守化」の検証：彼らは何を保守しているのか」,『関西学院大学社会学部紀要』 120 : 53-63
- 渡辺健太郎,2017,「文系学部卒男性がもたらす若年層の権威主義化」,『年報人間科学』,38 : 139-157

日本経済新聞電子版、2016年7月11日、「18～19歳、比例で自民に投票40% 若年層ほど高比率 参院選出口調査」

https://www.nikkei.com/article/DGXLASFS10H4J_Q6A710C1PE2000/

(2018年1月22日アクセス)

東大新聞オンライン、2017年11月8日、「衆院選×東大生 5割以上が自民党に18、19歳と20歳以上で投票率に差」

<http://www.todaishimbun.org/election20171108/>

(2018年1月22日アクセス)

科学に対する肯定感と安倍内閣支持度の関連についての分析

大西 佑佳

1. はじめに

一般的に、科学の進歩は斬新で安倍内閣（与党）を支持する保守的な人々にはそぐわないのではないかという意見が考えられる。アメリカの作家 Joel Achenbach (1960) は“Why Do Many Reasonable People Doubt Science?” (2015) において、イエール大学の Dan Kahan が 1540 人のアメリカ人を対象に、科学知識がある人ほど、より極端な回答をすることを発見した、と述べている。彼の研究では、一般的に産業界に懐疑的な人々は政府に規制を求める傾向がある。対照的に、産業界に敬意を払う人々は政府が産業界に関与してくることを望まない。

産業界に懐疑的な人々は、科学に対する肯定感が弱く、政府の規制を求めることから、政府を支持していると考えられる。反対に、産業界に敬意を払う人々は、科学に対する肯定感が強く、政府の介入を否定することから、政府を支持しない傾向があると考えられるのではないか。そこで本研究では、科学知識を持ち、科学に対する肯定感が強いほど、安倍内閣支持度は低いという仮説を立てる。以下、この仮説が成り立つかどうかを統計的手法を用いて分析し考察する。

2. 使用する変数

従属変数を「安倍内閣支持度」、独立変数を「科学に対する肯定感」とする。

安倍内閣支持度の指標として、次の質問項目を用いる。

Q4 あなたは安倍内閣を支持していますか。

- 1 かなり支持している
- 2 やや支持している
- 3 あまり支持していない
- 4 ほとんど支持していない

本分析では、これらの回答を反転させ数字が大きいほど、安倍内閣支持度が高くなるようにしてある。

科学に対する肯定感の指標については、以下の主成分分析の結果から、人文系科目（歴史学、憲法学）と理系科目（物理学、数学）を用いることにする。

まず、科学に対する肯定感の相関関係を調べた。以下の6項目に対して、「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらともいえない」「どちらかというと思わない」「そう思わない」の5点尺度で回答してもらった。

Q2 さまざまな学問や科学に対する以下の意見についてどう思いますか？

あなたの考えに一番近いものを一つ選んでください。

- 1 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援すべきである。
- 2 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。
- 3 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。
- 4 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。
- 5 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。
- 6 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

これら 6 変数の相関は以下の表 1 のとおりである。

表1 科学に対する肯定感の相関

相関						
	科学は政府 が支援すべ き	歴史学は日 本の将来に 役立つ	物理学はエ ネルギー政 策の決定に 役立つ	憲法学は政 府の憲法解 釈に役立つ	数学は社会 を豊かにす る	文学は社会 を豊かにす る
科学は政府 が支援すべ き	1	.200**	.286**	.125*	.258**	.199**
歴史学は日 本の将来に 役立つ	.200**	1	.232**	.372**	.178**	.379**
物理学はエ ネルギー政 策の決定に 役立つ	.286**	.232**	1	.331**	.301**	.265**
憲法学は政 府の憲法解 釈に役立つ	.125*	.372**	.331**	1	.231**	.343**
数学は社会 を豊かにす る	.258**	.178**	.301**	.231**	1	.496**
文学は社会 を豊かにす る	.199**	.379**	.265**	.343**	.496**	1
**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。						
*. 相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。						

次に、主成分分析を行ったものが以下の図 1 である。これを見ると、Q2x2（歴史学）と Q2x4（憲法学）が近く、Q2x3（物理学）と Q2x5（数学）が比較的近いことがわかる。そして歴史学と憲法学を人文系科目、物理学と数学を理系科目とすると、両者は離れているため、対立する概念の学問であると考ええる。したがって、科学に対する肯定感の指標としては、理系科目に対する回答を反転させたものと、人文系科目に対する回答とを足し合わせ平均をとったものを用いる。よって本稿では、人文系科目に否定的で、理系科目に肯定的な意見を持っているほど、科学に対する肯定感が強いと考える。

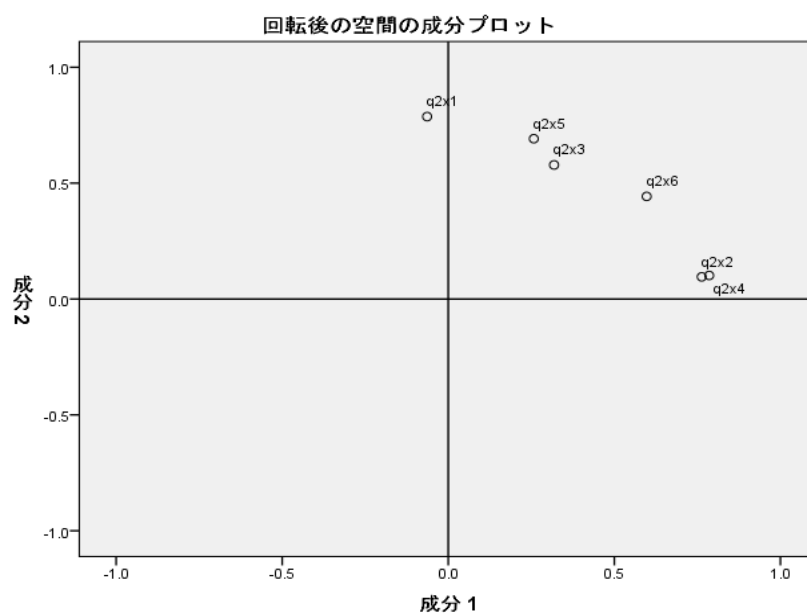


図1 科学に対する肯定感の主成分分析の結果（バリマックス回転）

3. 分析結果

科学に対する肯定感と安倍内閣支持度の重回帰分析の結果は表 2 のようになった。

表 2 重回帰分析の結果

	係数	標準誤差	有意確率
(定数)	1.869	.292	.000
物理学は役立つ	.026	.048	.590
数学は社会を豊かにする	.025	.041	.546
歴史学は日本の将来に役立つ	-.182	.046	.000
憲法学は政府の憲法解釈に役立つ	-.041	.041	.318

a. 従属変数 安倍内閣支持度合

科学に対する肯定感と安倍内閣支持度合の相関関係は表 3 のようになった。

表3 科学に対する肯定感と安倍内閣支持度合の相関

		科学に対する肯定感	安倍内閣支持度合
科学に対する肯定感	Pearson の相関係数	1	.161**
	有意確率 (両側)		0.001
	度数	421	406
安倍内閣支持度合	Pearson の相関係数	.161**	1
	有意確率 (両側)	0.001	
	度数	406	409

** . 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

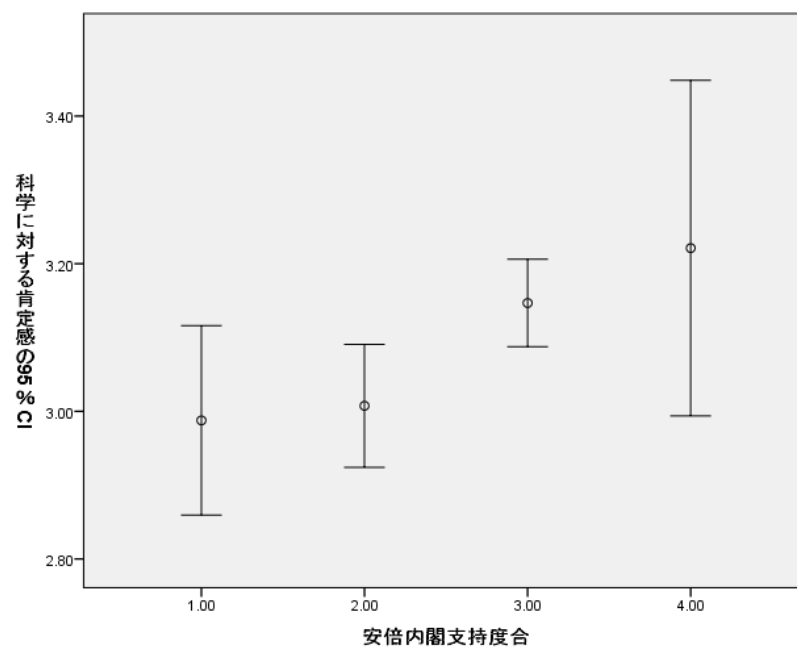


図 2 科学に対する肯定感別の安倍内閣支持度 (エラーバーは 95%信頼区間)

図 2 を見ると、科学に対する肯定感が強いほど、安倍内閣支持度が高くなる傾向があることがわかる。両者の相関係数は表 3 を見るに 0.161 と大きくはないが、弱い正の相関があることがわかった。

4. 考察と課題

仮説では、科学に対する肯定感が強いほど安倍内閣支持度は低くなる、つまり両者には負の相関があると考えたが、分析の結果、科学に対する肯定感と安倍内閣支持度が若干ではあるが正の相関を持っていることがわかった。

結果的に仮説とは反対の結論となった原因について、以下の点が挙げられる。

第一に、使用したサンプルが京大生のみであったことが考えられる。京大生は受験や一般教養科目を通して、科学の有用性を知っている。さらに、総合科学技術会議の抜本的強化など、安倍内閣の科学を振興する政策や方針等についての知識が豊富な可能性があるため、安倍内閣を支持する傾向があってもおかしくはない。

第二に、母集団の数である。本稿で仮説を立てる元としたのは、アメリカ人 1540 人のサンプルであったが、本分析で使ったのはその 3 分の 1 以下の 424 人であった。

第三に、仮説を立てる参考にしたのはアメリカの研究であり、本分析は日本人が対象であるため、国民性や国家的な違いが表れた可能性が考えられる。

第四に、質問項目が「学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。」など抽象的なイメージで答えられるものであったので、より科学知識の有無により判断が分かれる問い、例えば「原子力発電稼働に賛成か」「TPP に賛成か」等を質問項目に加えると良いだろう。

今後これらの問題を解決するには、幅広い対象と質問事項の検討が必要である。

文献

Joel Achenbach, March 2015, “Why Do Many Reasonable People Doubt Science?”,
National Geographic

(<http://kbsgk12project.kbs.msu.edu/wp->

[content/uploads/2011/02/Nat_Geo_War_on_Science.pdf](http://kbsgk12project.kbs.msu.edu/wp-content/uploads/2011/02/Nat_Geo_War_on_Science.pdf))

白石隆, 2013, 「安倍政権が打ち出した総合科学技術会議の抜本的強化」

<https://www.nippon.com/ja/column/f00018/> (最終閲覧 2018 年 1 月 18 日)

安倍政権支持と性役割意識、権威主義との関係

中島 隆文

1. Introduction

本稿では、主に性役割意識と権威主義が安倍政権支持に与える影響について考察する。以下に、性役割意識、権威主義のそれぞれと政権支持とのつながりを考察する背景や意義について述べる。

1-1. 性役割意識と安倍政権支持

自民党は 2017 年の衆議院議員選挙の公約にもみられるように、「働き方改革」の一環として女性活躍を挙げている。そこでは、従来女性の活躍の少ない産業での女性の参加推進や男性の家事・育児への参加推進が唱えられている。これらは伝統的な性役割から脱却するものと思われる。

だが、このような安倍政権の政策が真にジェンダー平等を目指すものかということについては疑問が投げかけられている。例えば、堀江（2017）は安倍政権の一連の女性活躍推進政策を社会政策ではなく経済政策として読んでいる。少子高齢化が進む社会で労働力を確保するためには、女性の社会進出を増進することが喫緊の課題となっている。安倍政権の女性活躍推進の背景にはこうした事情があり、2012 年の憲法改正草案第 24 条の家族の尊重と相互扶助の義務化に見られるような保守的な家族観を提示することで、保守層とも折り合いをつけて女性を労働力化しようとしているのだという。

今回の分析は、経済政策的な面の否定できない女性活躍政策に対して、京大生はどう感じているのか、その一端を示すものとなるかもしれない。

1-2. 権威主義と安倍政権支持

権威主義はアドルノやフロムらが分析を行った概念である。両者の用語の使い方はそれぞれ異なっているが、彼らは台頭するファシズムやナチズムを前に、心的なものやパーソナリティとしての権威主義をその説明要因として用いたのであった（奥村 2014）。その後、権威主義は反民主主義的な社会現象を説明するものとして用いられるようになった（吉川 1994）。ここでは権威主義について、質問票の Q5X6~Q5X9 から、暫定的に「因習や秩序、社会的な強者に対して盲目的に服従することをよしとする態度」のことであるといっておこう。

以上を念頭に置いて安倍政権について考察する。中北（2017）によれば、自民党における「自主憲法の制定」勢力の中心となり、主導してきたのが安倍晋三である。彼を会長とする創生「日本」の圧力から、2012 年の憲法改正草案は、2005 年の小泉純一郎総裁のもとでの改正草案よりも右傾化したものとなっている。その中でも、人権に対する制約の強化や天皇の地位を象徴から元首に変更していることは、権威主義と親和性が高いものといえよう。

だが、ここで権威主義が考案された社会的背景について述べておく必要がある。吉川（1994）によれば、権威主義は機能する前提として大衆社会を想定している。しかし現在はアドルノやフロムが思い描いたような大衆社会とは異なっており、また実証研究でも彼らの時代ほどの結果は得られていないという。安倍晋三も、大衆に積極的に訴えかけるポピュリスト的な手法は好まず、安定的な支持基盤を求め固定票を重視する向きがある（中北 2017）。

このような背景から、権威主義的な態度がどれほど安倍政権の支持に影響を及ぼすのかを分析するのは意義があることのように思われる。

2. Method

本稿では、従属変数として Q4（安倍政権支持度）を、独立変数として Q1X2（性別）、Q5X1~Q5X5（性役割意識）、Q5X6~Q5X9（権威主義）をそれぞれ用い、重回帰分析を行う。ただし、性役割意識と権威主義については、主成分分析を行い、特に強い相関があるもののみを組み合わせてその尺度とすることとした。これは、質問項目が個別的な論点を尋ねるものとなっており、回答に性役割意識や権威主義以外の様々な要因が含まれていると考えられるため、できるだけそれらの要因を排除したものをを用いる必要があると判断したからである。

2-1. 性役割意識の指標について

性役割意識を尋ねる質問のうち、Q5X4 のみ他の変数と向きが異なり、数値が大きくなるほど、つまり「反対」に近くなるほど性役割意識が高くなっている。本稿では、Q5X4 以外の変数の向きを反転させて Q5X4 にそろえ、得られた数値が大きいほど性役割が高くなるようにした。また、各変数から 1 を引き、0 から 4 の値をとるようにした。このような操作を加えた Q5X1~Q5X5 の相関行列は表 1 のとおりである。

表 1 性役割意識の相関行列

	夫は働き 妻は家庭 を守るべ き	女性のフルタ イム雇用は家 庭に悪影響が 出る	十分な世帯収 入があれば女 性は働かない ほうがいい	男性は育児 休暇を積極 的に利用す べき	女性より男性 のほうが政治 指導者にふさ わしい
相関 夫は働き妻は家庭 を守るべき	1.000	.544	.622	.180	.430
女性のフルタイム 雇用は家庭に悪影 響が出る	.544	1.000	.574	.091	.360

十分な世帯収入があれば女性は働かないほうがいい	.622	.574	1.000	.112	.350
男性は育児休暇を積極的に利用すべき	.180	.091	.112	1.000	.207
女性より男性のほうが政治指導者にふさわしい	.430	.360	.350	.207	1.000

この相関行列を主成分分析にかけた。得られた固有値と累積説明率は表 2 のようになった。

表 2 性役割意識の主成分分析の結果（固有値と累積説明率）

主成分	固有値	累積説明率
1	2.514	50.270
2	.988	70.029
3	.674	83.517

また、二次元解の結果を図示したものが図 1 である。

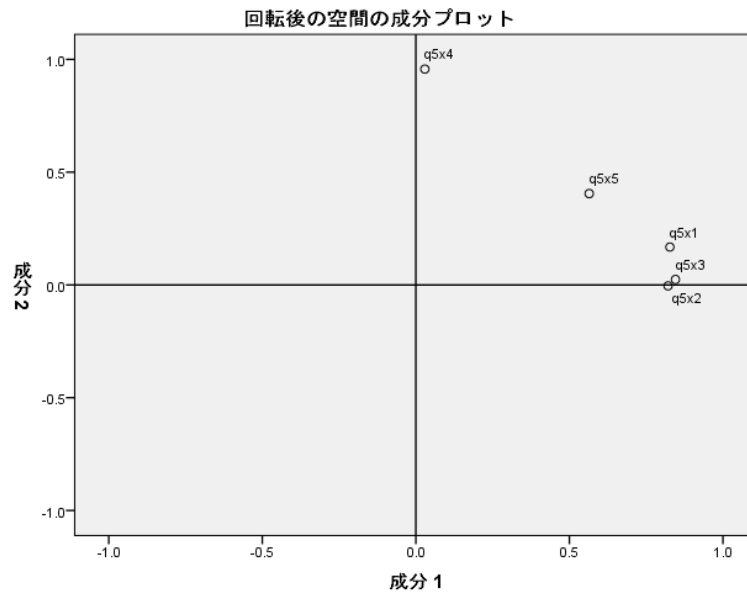


図1 性役割意識の主成分分析（バリマックス回転後）

図 1 から、Q5X1、Q5X2、Q5X3 の 3 変数が近い位置にあるため、この 3 つを性役割意識の指標として用いることとする。この 3 変数を足し合わせて 3 で割ったものを「性役割意識度」と呼ぶこととする。「性役割意識度」の特徴は、①数値が大きいほど性役割意識が強いこと、②0 から 4 の値をとることの 2 つである。

2-2. 権威主義の指標について

権威主義を尋ねる項目については変数の向きはそろっているが、数値が大きいほど権威主義度合いが強いほうがわかりやすいと判断し、すべての変数を反転させた。また、すべての変数の値から 1 を引き、0 から 4 の値をとるようにした。

このような操作を行った Q5X6~Q5X9 について、相関行列は表 3 のとおりである。

表 3 権威主義の相関行列

	伝統を守れば問題 は生じない	どんなときも 法律に従わね ばならない	権力者には従 わねばならな い	何をなすべき か知るには指
--	-------------------	---------------------------	-----------------------	------------------

					導者を頼るのが最善だ
相関	伝統を守れば問題は生じない	1.000	.137	.377	.408
	どんなときも法律に従わねばならない	.137	1.000	.379	.208
	権力者には従わねばならない	.377	.379	1.000	.497
	何をなすべきか知るには指導者を頼るのが最善だ	.408	.208	.497	1.000

この相関行列を主成分分析にかけた。得られた固有値と累積説明率は表 4 のようになった。

表 4 権威主義の主成分分析の結果（固有値と累積説明率）

主成分	固有値	累積説明率
1	2.033	50.813
2	.904	73.406
3	.600	88.417

また、2 次元解の結果を図示したものが図 2 である。

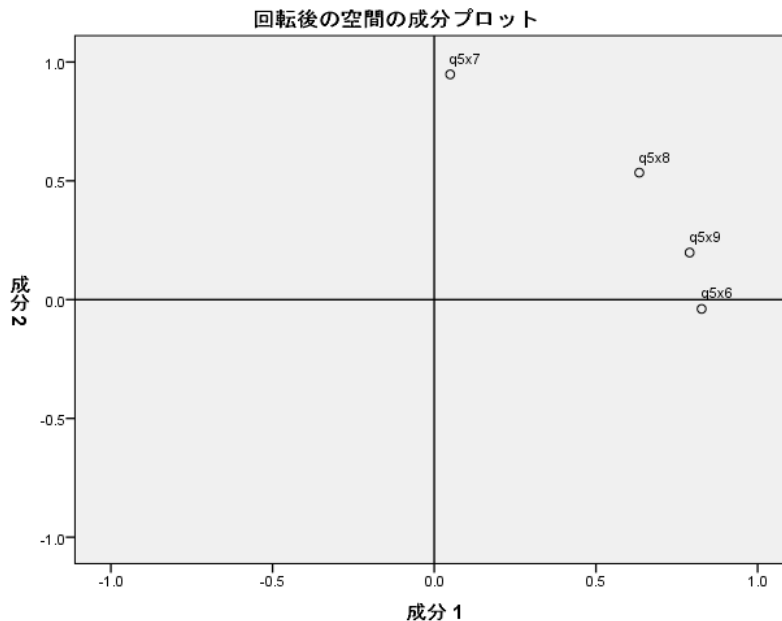


図2 権威主義の主成分分析（バリマックス回転後）

図 2 から、Q5X6、Q5X8、Q5X9 の 3 変数が近い位置にあるため、この 3 つを権威主義の指標として用いることとする。この 3 変数を足し合わせて 3 で割ったものを「権威主義度」と呼ぶこととする。「権威主義度」の特徴は、①数値が大きいほど権威主義が強いこと、②0 から 4 の値をとることの 2 つである。

2-3. 安倍政権支持度について

Q4 については、数値が大きくなるほど政権支持度が高くなるほうがわかりやすいと判断し、変数の向きを反転させた。また、反転させた値から 1 を引いた。

3. Results

まず、「性役割意識度」、「権威主義度」が安倍政権支持度に関連があるかどうかを調べるため、安倍政権支持度べつに「性役割意識度」、「権威主義度」の平均値を計算し

た。その結果をそれぞれエラーバーにして示したものが図3、図4である。

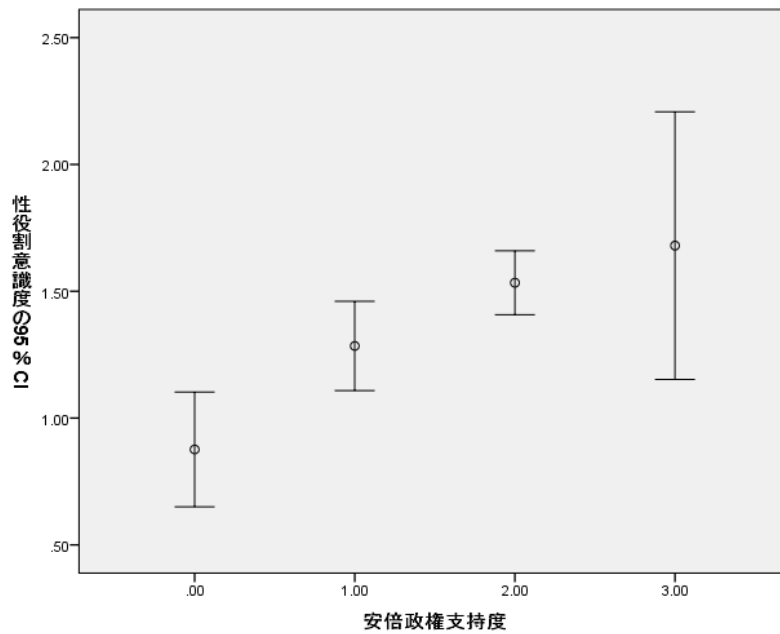


図3 安倍政権支持度別の性役割意識度平均値（エラーバーは95%信頼区間）

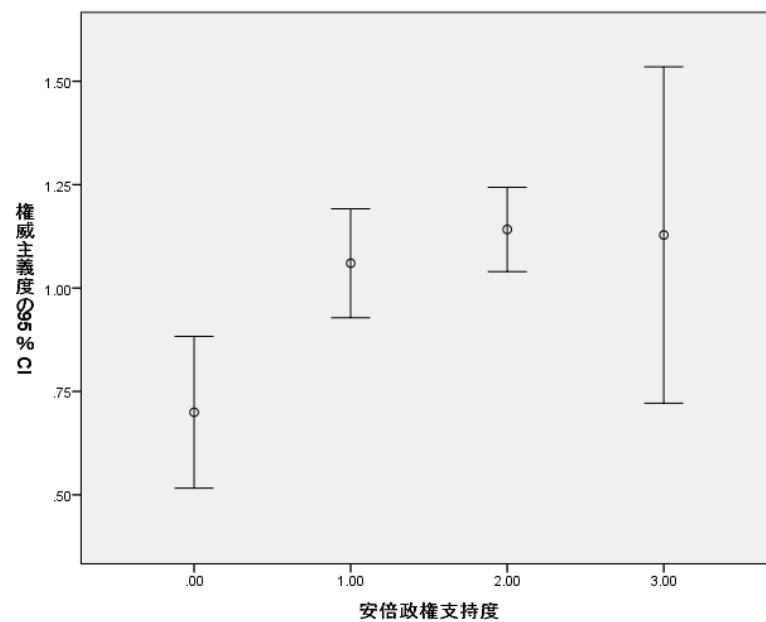


図4 安倍政権支持度別の権威主義度平均値（エラーバーは95%信頼区間）

図 3、図 4 から、「権威主義度」のほうはやや関連が弱い、「性役割意識度」、「権威主義度」のどちらもおおむね政権支持度が高いほど平均値が高くなっていることがわかる。

これに性別を独立変数として加えて重回帰分析を行った結果が表 5 である。

表 5 安倍政権支持度の重回帰分析結果

	係数	標準誤差
(定数)	1.018	.097
性別(男性ダミー)	0.236*	.093
性役割意識度	0.145***	.045
権威主義度	0.113*	.056
*p<.05、***p<.001		
R2 乗	0.8	
度数	404	

表 5 から、女性より男性のほうが、「性役割意識度」が高い人のほうが、そして「権威主義度」が高い人のほうが、安倍政権を支持しているといえる。

また、係数に着目すると「権威主義度」よりも「性役割意識度」のほうがやや大きいことがわかる。これは政権支持に対して性役割意識のほうが権威主義よりも及ぼす影響が大きいことを示している。

4. Discussion

4-1. 結果のまとめと考察

今回の分析の主眼は二つあった。一つは安倍政権のある種革新的ともいえる女性活躍政策について、根底の部分ではどう思われているのかということ、もう一つには、大衆

社会的要素が弱まる中で、権威主義は安倍政権支持という形で機能するのcaというものである。第一の問いについては、性役割意識が強いほど安倍政権を支持する傾向にあることがわかった。だからこそ安倍政権も、家族の重視のように、何らかの形で伝統的な性規範を政策に取り入れる必要があるのだろう。第二の問いについては、権威主義と安倍政権支持は親和性があることがわかった。しかしそれは性役割意識ほど強く作用するものではなかった。これは前述のように非大衆社会化の文脈で理解できることなのかもしれない。

4-2. 課題

最後に、ここでは扱うことができなかった論点を挙げたいと思う。まず、他党や他の政治家との比較ができなかったことがある。例えば、ポピュリズム的手法を押し出した小泉政権のころや、自民党よりはリベラルな民主党が政権をとっていた時代では権威主義はどのように機能していたのか、あるいはしていなかったのかについて考察することは、権威主義が政治という事象そのものを対象とするのか、それとも個々の政治家や政党を対象とするのかを考えるのに重要であろう。

また、データの制約上、イデオロギー的な要素からのアプローチができなかったことも惜まれる。今回の調査対象は学生であり、まだ本格的に労働を開始していない。そのような状態にあって、例えば「男性は育児休暇を利用すべきか？」というふうに問われてもリアリティが感じられないのではないかと思う。こうした中でイデオロギー的立場やその自己認知が決定要因として機能する面もあったのではないかと感じられる。

文献

奥村隆, 2014, 『社会学の歴史 I 社会という謎の系譜』有斐閣.

中北浩爾, 2017, 『自民党---「一強」の実像』 中央公論新社.

堀江孝司, 2017, 「安倍政権の女性政策」『大原社会問題研究所雑誌』 No.700: 38-44.

吉川徹, 1994, 「現代社会における権威主義的態度尺度の有用性 環境保護意識、ヘル
ス・コンシャスの分析視角として」『ソシオロジ』 39 (2) :125-137.

“自民党政権公約 2017”, 最終閲覧 2018 年 1 月 23 日

https://jimin.ncss.nifty.com/pdf/manifest/20171010_manifest.pdf .

第 3 章

性役割意識に関する分析

権威主義と性別役割分業意識との関係

—— 京都大学学生へのアンケート調査の分析から ——

龔 嘉欣

1. はじめに

1-1. 問題関心

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という性別役割分業は、近代家族を特徴づける主要な性格の一つである（落合，1989）。近代化による公共領域と家内領域との分離にともなって、性別による役割分業構造が形成された（牟田，1996）。近年においては女性の社会進出により、この分業体制は崩れつつあると指摘されてきた。日本の女性の就労パターンはM字カーブで描く。ところが、女性が進出している業種は偏っており、雇用形態も男性に比べてパートが多いことや、職場におけるガラスの天井の問題などがある（松田，2001）。総体的に見れば、このことはいまだ一つの当然視された社会的規範として、現代日本の社会に根ざしているといえよう。性別役割分業は日本社会の発展の要因、あるいは桎梏として、繰り返して論じられてきた。

さらに、性別役割分業意識が議論の焦点となるのは、この意識と性別役割分業行動が密接に関連していることによる。1995年SSM調査結果によると、女性の性別役割分業意識の賛否と就業形態の間に強い関連があることが示される。さて、性別役割分業意識はいかなる原因で形成されるのか。それは潜在的な性別役割分業の構造を解明することに役に立つと考えられる。その中で、伝統・因習的価値志向仮説がしばしば提起される。吉川の論文に統計的に提示されたように、男女ともに「伝統・因習的価値志向を持つ人

が、性別役割分業に肯定的である」という強い有意な関連がほぼ一貫して明らかになった（吉川 1995）。

本稿ではこうした関心から、性別役割分業意識の社会的な形成要因を分析するが、京都大学の大学生へのアンケート調査の分析からは、そのことを全面的に考察することが難しいので、本稿は質問紙に取り上げられた項目のなかで、権威主義と性別役割分業を抽出し、その関係に注目する。ほかの要因は今後の分析に割愛する。

1-2. 現代日本における権威主義と性別役割分業意識

権威主義という社会的態度は、従来から伝統的社会意識の測定に用いられてきたものであり、同時に社会構造要因と、表層的態度や具体的な行為を媒介する、いわば「定番」の心理概念である（吉川, 1995）。一方、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という通念に代表される性別役割分業意識は、むしろ現在の生活条件によって変化しやすい表層的な意識である。ゆえにここでは、前者を基層的社会意識、後者を表層的社会意識とみなして、権威主義（伝統的・因習的価値志向）が、性別役割分業意識を基底しているという因果関係を仮定する。

まず現代日本における権威主義について論じよう。アドルノによれば、権威主義的性格には、「既存の権威、慣習及び制度への過同調と潜在的破壊との共存」がある（Adorno et al. 1950: 386=1980: 208）。この論を参考にして、権威主義を測る質問は以下の4項目に対して、「賛成」から「反対」までの5点尺度で態度を尋ねた。

1. 伝統を守っていれば、問題は起こらない
2. どんな状況でも法律には従わなければならない
3. 自分より権力のある人には従わなければならない
4. この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることで

ある。

これらの間の相関係数を計算すると表 1 のようになった。

表1 権威主義の項目の相関

		q5x6 伝統を守るべき	q5x7 法律に従うべき	q5x8 権力のある人に従うべき	q5x9 指導者に頼るべき
相関係数	q5x6 伝統を守るべき	1.000	.137	.377	.408
	q5x7 法律に従うべき	.137	1.000	.379	.208
	q5x8 権力のある人に従うべき	.377	.379	1.000	.497
	q5x9 指導者に頼るべき	.408	.208	.497	1.000
有意確率 (片側)	q5x6 伝統を守るべき		.003	.000	.000
	q5x7 法律に従うべき	.003		.000	.000
	q5x8 権力のある人に従うべき	.000	.000		.000
	q5x9 指導者に頼るべき	.000	.000	.000	

次に主成分分析の結果を見てみよう。2次元解の結果を図示したのが、図 1 である。

図 1 をみると、q5x7（どんな状況でも法律には従わなければならない）という変数はほかの変数から離れているのがわかる。ゆえに、本稿では q5x6（伝統を守っていれば、問題は起こらない）、q6x8（自分より権力のある人には従わなければならない）、q5x9（この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである）という三つの変数に対する回答を反転させて足し合わせて、権威主義を表す一つの変数を作りあげる（最小値 3，最大値 15）。

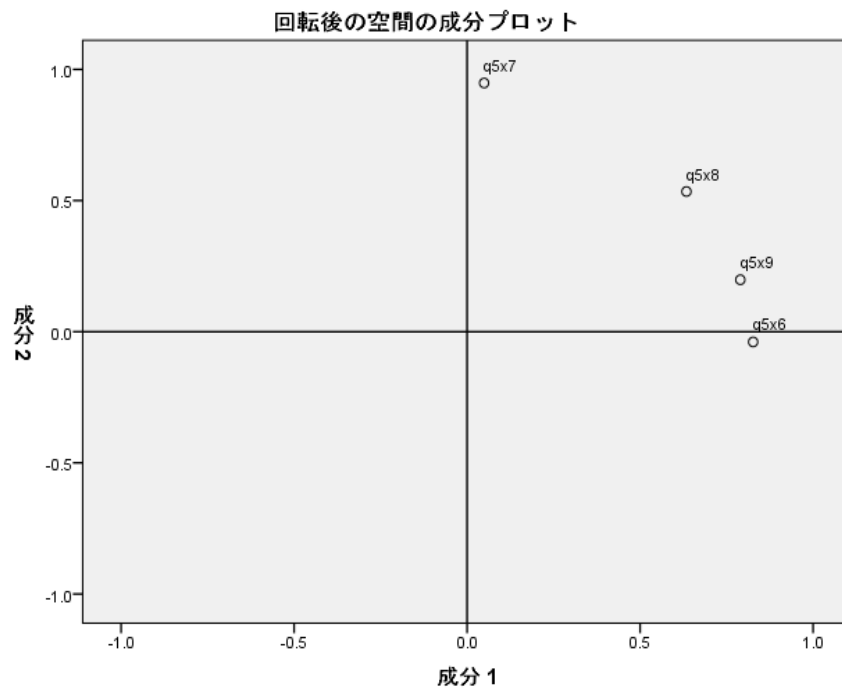


図 1 権威主義に関する項目の主成分分析の結果

次に現代日本における性別役割分業意識を見てみよう。今回はそれについての質問項目を 5 つ設けた。それに対して、同じように「賛成」から「反対」までの 5 点尺度で態度を尋ねた。

1. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ
2. 概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける。
3. 夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事をもたない方がよい。
4. 男性は「育児休業制度」を積極的に利用したほうがよい。
5. 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している。

これらの変数の相関係数は、以下の表 2 のとおりである。

表2 性別役割分業意識の項目の相関

		q5x1 夫は外、 妻は家	q5x2 女性フル タイムは家に 悪影響	q5x3 妻は仕事 しない	q5x5 男は女よ り指導者に適 する	q5x4r 男性の 育児休業利用 逆
相関係数	q5x1 夫は外、妻は家	1.000	.544	.622	.430	.180
	q5x2 女性フルタイムは家に悪影響	.544	1.000	.574	.360	.091
	q5x3 妻は仕事しない	.622	.574	1.000	.350	.112
	q5x5 男は女より指導者に適する	.430	.360	.350	1.000	.207
	q5x4r 男性の育児休業利用逆	.180	.091	.112	.207	1.000
有意確率 (片側)	q5x1 夫は外、妻は家		.000	.000	.000	.000
	q5x2 女性フルタイムは家に悪影響	.000		.000	.000	.032
	q5x3 妻は仕事しない	.000	.000		.000	.011
	q5x5 男は女より指導者に適する	.000	.000	.000		.000
	q5x4r 男性の育児休業利用逆	.000	.032	.011	.000	

次に主成分分析の結果を見てみよう。2次元解の結果を図示したのが、図2である。図2をみると、q5x4（男性は「育児休業制度」を積極的に利用したほうがよい）（この質問に対する回答を反転させた）、q5x5（一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している）という二つの変数はほかの変数から離れており、ここではq5x1（夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ）、q5x2（概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける）、q5x3（夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事をもたない方がよい）という三つの変数に対する回答を反転させて足し合わせて、性別役割分業意識を表す一つの変数を作りあげる（最小値3，最大値15）。

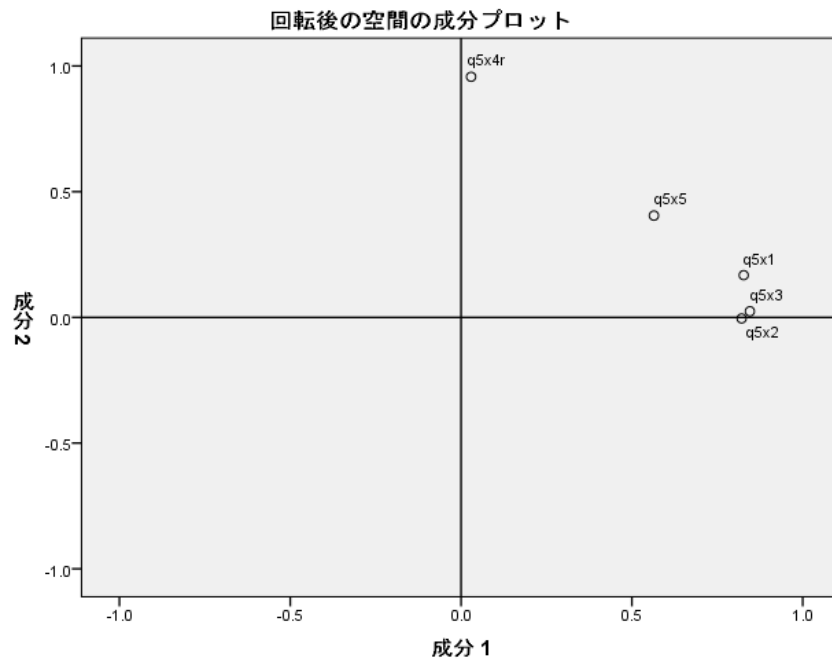


図 2 性別役割分担意識に関する項目の主成分分析の結果

2. 使用する変数

従属変数は、性別役割分業意識とする。性別役割分業意識に関する以下の質問に対する回答を反転させて足し合わせたものである（最小値 3、最大値 15）。用いた質問は以下の 3 項目に対して、「賛成」から「反対」までの 5 点尺度で態度を尋ねた。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」

「概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける」

「夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事をもたない方がよい」

独立変数には、権威主義的態度とする。権威主義的態度に関する以下の質問に対する回答を反転させて足し合わせたものである（最小値 3、最大値 15）。用いた質問は以下

の3項目に対して、「賛成」から「反対」までの5点尺度で態度を尋ねた。

「伝統を守っていれば、問題は起こらない」

「自分より権力のある人には従わなければならない」

「この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである」

それ以外に使用した、独立変数は以下のとおりである。

性別ダミー：女性＝0、男性＝1

学部・研究科（文理別）：理系とその他＝0、文系＝1

3. 分析結果

3-1. 権威主義に関する基本統計量とエラーバー

図3をみると、おおむね右肩上がりでの性別役割分業意識が上昇する傾向がみられる。つまり、権威主義的態度を持つ人ほど、性別役割分業意識が強いといえよう。

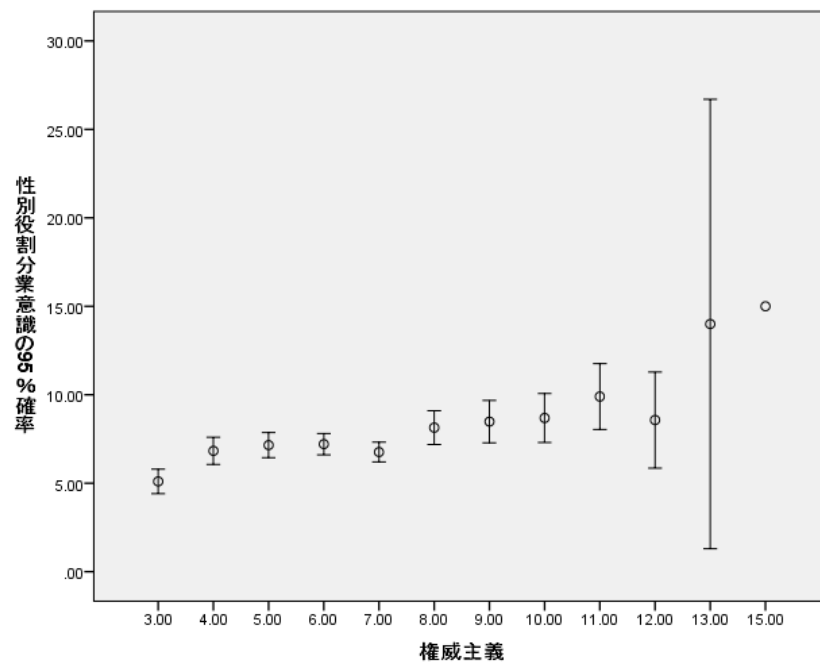


図 3 権威主義の性別役割分業意識の平均値（エラーバーは 95%信頼区間）

3-2. 男女別および学部・研究科別に関する基本統計量とエラーバー

図 4 を見ると、女性より、男性のほうは平均値が高く、男女の平均値の差に有意な差があるといえる。男性の性別役割分業意識が強いことがわかる。図 5 を見ると、文系より、理系のほうは平均値が高く、文系と理系の平均値の差に有意な差があるといえる。理系の学生の性別役割分業意識が強いことがわかる。

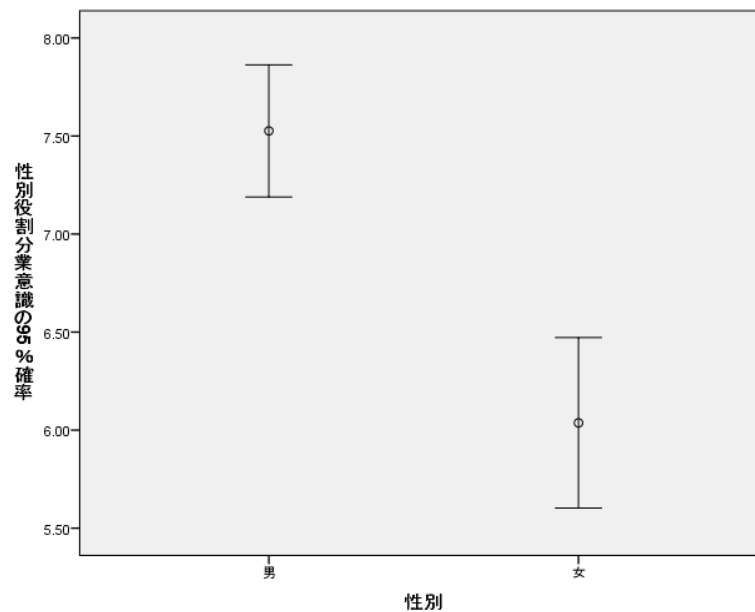


図 4 性別の性別役割分業意識の平均値（エラーバーは 95%信頼区間）

3-3. 性別役割分担意識の規定要因に関する重回帰分析の結果

表 3 と表 4 は「性別役割分担意識」を従属変数とする重回帰分析の結果である。

表3 性別役割分業意識の規定要因に関する重回帰分析の結果^b

モデル	R	R2 乗 (決定係数)	調整済 R2 乗 (調整済決定係数)	推定値の標準誤差	変化の統計量				
					R2 乗変化量	F 変化量	df1	df2	有意確率 F 変化量
1	.435 ^a	.189	.183	2.63471	.189	31.662	3	407	.000

a. 予測値: (定数)、性別、権威主義、学部・研究科。

b. 従属変数: 性別役割分業意識反転

表4 性別役割分業意識の規定要因に関する重回帰分析の結果^a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t	有意確率	B の 95.0% 信頼区間	
		B	標準誤差	ベータ			下限	上限
1	(定数)	3.458	.462		7.477	.000	2.549	4.367
	学部・研究科	-.397	.271	-.068	-1.469	.143	-.929	.134
	権威主義反転	.467	.057	.366	8.191	.000	.355	.579
	性別	1.346	.307	.203	4.391	.000	.744	1.949

a. 従属変数: 性別役割分業意識

この結果を見ると、学部・研究科は有意な効果がなくなるが(95%信頼区間を基準に)、権威主義及び性別は 99.9%の有意水準を満たす。つまり、権威主義的態度を持つ人ほど、性別役割分業意識が強い。さらに、性別役割分業意識への性別の効果を検討すると、女性より男性のほうは性別役割分業意識が強いことがわかる。

4. 結果のまとめと考察

4-1. 結果のまとめ

本稿では、権威主義が性別役割分業意識に対して正の効果をもつのかということを、京都大学の学生へのアンケート調査のデータをもとに検討してきた。結果として、京都大学の学生の中で、権威主義的態度が性別役割分業意識に対して正の効果をもっている。つまり、権威主義的態度を持つ人ほど、性別役割分業意識が強い。さらに、性別も性別役割分業と強い相関があることが確認できる。女性より、男性のほうは性別役割分業意識が強いことがわかる。ただし、学部・研究科への所属は、性別役割分業意識に対して有意な結果が見られない。

4-2. 考察および課題

では、学部・研究科は性別役割分業意識に対する何の効果もないと結論づけてよいのだろうか。それは否である。まず、米国も日本も大学では文系の教員が理系の教員より一層革新的であるという説がある (Gross, 2013; 太郎丸, 2016)。この結論を一步進めると、文系の学生は理系の学生より一層革新的であることが推測に難くないだろう。しかし、今回の調査では有意な結果が見られないのは、以上示したデータは一次的な調査で得られたもので、誤差の効果があるかもしれない。

さらに、今回の調査の母集団は京都大学の学生であった。アンケート調査を実施したのが京都大学社会学専修の学生であった。調査者たちが調査を実施したころ、共通科目の授業で協力してもらったことが多いものの、そういう共通科目の授業の多くは文系の授業であったゆえに、回収したアンケートも文系の学生が理系の学生の人数より多かった。全体的みれば、サンプルサイズが大きくなった。それゆえ、サンプルの偏差が考慮に入れなければならない。

また、文系・理系の二分法でデータをカテゴリー化したころ、実際的操縦に難題があった。京都大学の学部・研究科の分類は、明瞭に文系/理系に所属するのもあれば、文系/理系両方とも含まれているものもある。そのため簡単に「文系」、「理系およびその他」という二種類に大雑把に分類したことは調査結果に影響を及ぼしたと考えられる。文系に加えたデータは、理系の学生も含まれる可能性があるからである。今後の調査では、学部・研究科をより細かく正確に分類することが必要であろう。

文献

Gross, Neil, 2013. *Why Are Professors Liberal and Why Do Conservatives Care ?*

Harvard University Press

落合恵美子, 1989, 『近代家族とフェミニズム』勁草書房

牟田和恵, 1996, 『戦略としての家族』新曜社

松田茂樹, 2001, 「性別役割分業と新・性別役割分業—仕事と家事の二重負担」, 『現代日本の夫婦関係』岩井紀子, 2001

吉川徹, 1995, 「性別役割分業意識の形成要因—男女比較を中心に」東京大学社会科学研究所編『研究論文集 [4] JGSS で見た日本人の意識と行動』大阪商業大学比較地域研究所

太郎丸博, 2016, 「保守主義者は反学問的なのか？政治と科学に関する意識調査より」,
日本社会学会大会報告資料

性別役割分業意識と、相対的学者信頼度、呪術信仰の関係について

河原 優子

1. Introduction

本レポートは、「性別役割分業意識を持つ人は、合理的な判断を好むのか」ということを、科学観に焦点を当て、検証するものである。

近年、日本経済の向上のために、女性の労働力が必要とされている。しかし、女性が男性と同様に社会で活躍するには、さまざまな困難がある。その一つに、性別役割分業意識による女性差別が挙げられる。また、男性は女性よりも仕事第一の生活をよしとする価値観がいまだに支配的であり、負担の大きい働き方を求められる場合も多く、例年過労死が絶えない。政府主導で働き方改革が進められてはいるが、性別による社会的な価値意識や位置付けが変わらなければ、大きな変革は望めないと思われる。性別役割分業意識を解体していくためには、まずは性別役割分業意識の支持者を理解することが必要である。性別役割分業意識は、社会的に構築されたものであり、実体はなく、合理的なものではない。性別役割分業を支持する人は、他の面においても合理的な判断を好まないのだろうか。本レポートでは、性別役割分業意識を持つ人の科学観に焦点を当て、以下の仮説を検証する。

仮説 1：性別役割分業意識が強い人は、合理的見解を支持しない傾向にある。

仮説 2：性別役割分業意識が強い人は、非合理的見解を支持する傾向にある。

2. Method——使用した質問項目と変数

2-1. 性別役割分業意識

今回のテーマを検討するために、まず性別役割分業観を問う Q5 の項目群を用いた。Q5 は「次の考え方について、あなたはどのように思いますか？あてはまるものに○をつけてください。」という質問によって、聞かれたものである。質問は、

Q5①「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ。」

Q5②「概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける。」

Q5③「夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事をもたない方がよい。」

Q5④「男性は「育児休業制度」を積極的に利用したほうがよい。」

Q5⑤「一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している。」

であり、「賛成」から「反対」までを 1～5 の 5 点尺度でたずねた。検証にあたって、性別役割意識の弱いほうが 1、強いほうが 5 となるように数値を整え、全ての項目の平均をとり、「性別役割分業意識」の変数とした。また、クロス表において、わかりやすくするため、「どちらでもない」状態の変数 3 を除き、1～2（2 を含まない）を性別役割分業意識「低」、2～3（2 を含む）を「比較的低」、3～4（4 を含まない）を「比較的高」、4～5（4 を含む）を「高」とグループ化した。

2-2. 合理的見解に対する支持——相対的学者信頼度

次に、合理的見解に対する支持は、他者の科学的見解に対する信頼で表されるものとし、Q3 をもとに「相対的学者信頼度」を算出した。Q3 は「以下に挙げる団体が、A. 環境汚染の原因について、B. 景気対策について、それぞれ見解を表明したとして、あなたはそれをどれぐらい信頼しますか。あなたの考えに最も近いものを a～d のそれぞれについて、一つずつお答えください。」という質問で、a 企業、b 政府、c マスコミ、

d 大学の研究機関にたいして、それぞれ「信頼する」から「信頼しない」まで 1～5 の 5 点尺度でたずねた。そして、d 大学の研究機関の数値から、a 企業と b 政府と c マスコミの平均値を引き、信頼度が高いほど数値が大きくなるように整えたものを「相対的学者信頼度」の変数とした。

2-3. 非合理的見解に対する支持——呪術信仰度

非合理的見解に対する支持は、非科学的な呪術信仰をするか否かで表されるものとし、Q6 の①～④項目群を用いた。Q6 は「次の考え方について、あなたはどのように思いますか？」という質問によって問われたものである。

Q6①自分の子どもの名前を考えると、姓名判断を参考にしようと思う。

Q6②自然の中に、人間の力を超えた何かを感じる。

Q6③神社やお寺でのおみくじの結果は気になる。

Q6④忌み言葉（受験前の「滑る、落ちる」、結婚式での「たびたび、切れる」など）は気になる。

という質問にたいして、「そう思う」から「そう思わない」まで 1～4 の 4 点尺度でたずねた。この数値を、「そう思う」が 4 に、「そう思わない」が 1 になるように整え、①～④を平均したものを、「呪術信仰度」とした。

また、「そう思う」と「どちらかというと思う」、「そう思わない」と「どちらかというと思わない」を合わせて、呪術信仰を「する」「しない」にグループ化した。

3. Result

3-1. 重回帰分析の結果

使用した変数の記述統計量を示したものが、表 1 である。

表 1 記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
性別役割分業観	415	1	4.8	2.332	0.766
相対的学者信頼度	423	-1.33	4	1.089	0.829
呪術信仰度	414	1	4	2.424	0.587

そして「相対的学者信頼度」「呪術信仰度」を独立変数、性別役割分業意識を従属変数として、重回帰分析を行ったものが、表 2 である。

表 2 性別役割分業観に対する呪術信仰度と相対的学者信頼度

	係数	標準誤差
(定数)	1.960	0.165
相対的学者信頼度	-0.106 **	0.045
呪術信仰度	0.202 ***	0.064

***p<0.01 **p<0.05

表 2 から、呪術信仰度は 1%水準、相対的学者信頼度は 5%水準で有意であった。したがって、全体として、性別役割分業意識の強い人ほど、相対的学者信頼度は低く、呪術信仰をする傾向にあると言える。以下では、それぞれの内容を詳しく検討する。

3-2. 相対的学者信頼度・性別役割意識と男女差

まず、この調査における男女と文系・理系その他の度数分布を示したものが表 3 である。

表 3 文系・理系その他の度数分布と男女比

	男	女	合計
文系	115 61.50%	72 38.50%	187 100.00%
理系その他	197 83.80%	38 16.20%	235 100.00%
合計	312 73.90%	110 26.10%	422 100.00%

さらに、性別役割分業意識について、男女・理系文系の差を図 1 に示した。

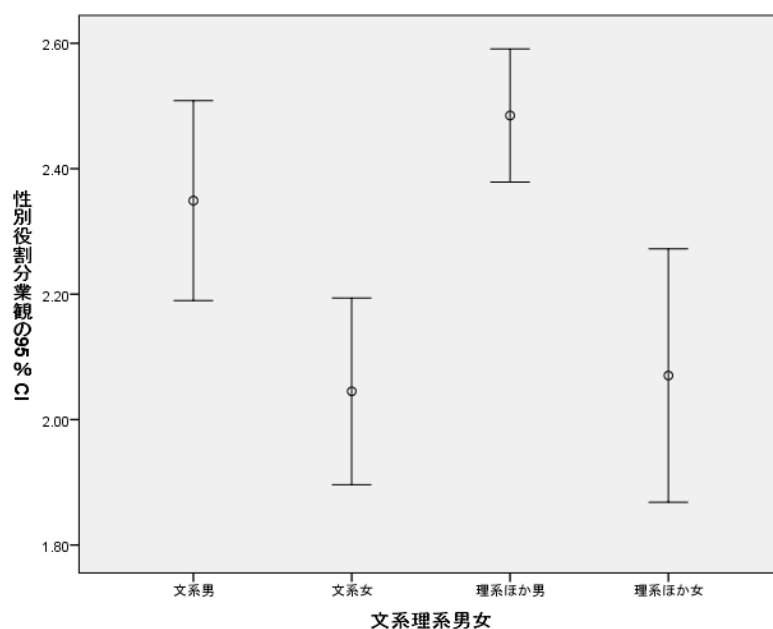


図 1 性別役割分業意識と理系文系男女

図 1 から、性別役割分業意識は、文系理系ともに、あきらかに男性の方が強いことが見て取れる。性別役割分業意識の強い人は、主に男性で理系に多く、今回のアンケート調査では理系の男性が多いため（表 3）、それが表 2 の重回帰分析の結果にも反映されていると考えられる。

では、男性に比べて性別役割分業意識の低い女性の相対的学者信頼度は、男性とは異なるのだろうか。文系・理系その他の男女の相対的学者信頼度を計算したものが、図2である。

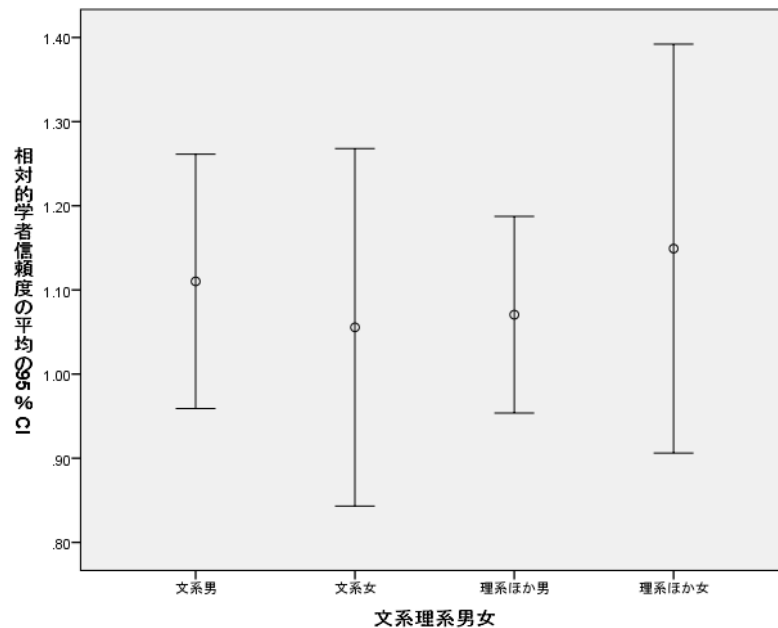


図2 文系・理系その他の相対的学者信頼度

図2より、相対的学者信頼度は、男女においてのみならず、文系理系においても大差がないことがわかった。したがって、男女の意識の偏りに関わらず、性別役割分業意識が強いほど、科学的な見解に対する信頼は低いと考えられるため、仮説1は支持される。

3-3. 呪術信仰度・性別役割意識と男女差

まず、呪術信仰をするかしないかに対する男女の度数分布を表4に示す。

表 4 呪術信仰と男女比

	呪術信仰		総計
	しない	する	
男	133 46.18%	155 53.82%	288 100.00%
女	29 28.71%	72 71.29%	101 100.00%

性別役割分業意識は男性のほうが強い（図 1）のに対し、呪術信仰は女性の方が強い（表 4）。この状態では、性別役割分業意識と呪術信仰の関連は明らかではない。これを詳しく調べるため、作成した 3 重クロス表が表 5 である。

表 5 性別役割分業意識と呪術信仰と男女のクロス表

性別役割 分業意識	男女	呪術信仰		総計
		しない	する	
低 ($1 \leq x < 2$)	男	43 55.84%	34 44.16%	77 100.00%
	女	21 44.68%	26 55.32%	47 100.00%
	合計	64 51.61%	60 48.39%	124 100.00%
比較的低 ($2 \leq x < 3$)	男	67 44.08%	85 55.92%	152 100.00%
	女	8 16.33%	41 83.67%	49 100.00%
	合計	75 37.31%	126 62.69%	201 100.00%
比較的高 ($3 < x < 4$)	男	18 36.73%	31 62.27%	49 100.00%
	女	0 0.00%	5 100.00%	5 100.00%
	合計	29 36.25%	51 63.75%	80 100.00%
高 ($4 \leq x < 5$)	男	5 50.00%	5 50.00%	10 100.00%
	女	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
	合計	5 50.00%	5 50.00%	10 100.00%
総計		162 41.65%	227 58.35%	389 100.00%

性別役割意識の「どちらでもない」(3)を除く

表 5 から、男性の 97%、女性の 100%を占める性別役割分業意識「低」～「比較的高」において、男女それぞれ、性別役割分業意識が高まるほど呪術信仰をする割合が大きく上がっている。したがって、仮説 2 も支持された。

4. Discussion

本レポートでは、性別役割分業意識を持つ人について、相対的学者信頼度と呪術信仰に注目し、合理的見解と非合理的な見解をそれぞれ支持するかについて検討した。性別役割分業意識は、特に理系の男性に強く見られ、今回の調査対象者には理系の男性が多いというデータの偏りがある。しかしながら、合理的見解支持の指標となる相対的学者信頼度は、男女・文系理系に大きな差がないため、「性別役割分業意識が強いほど合理的見解に対する信頼度は低い」という重回帰分析の結果には問題がなく、仮説 1 は支持された。また、呪術信仰については、男女を分けて見る 3 重クロス表において、性別役割分業意識が強いほど、呪術信仰を行う人の割合が増えた。したがって、性別役割分業意識が強いほど、非合理的な見解を支持する傾向が強いと考えられ、仮説 2 も支持された。この 2 つの検証結果から、性別役割分業意識の強い人は、合理的な判断を好まない傾向にあると考えられる。これは、性別役割分業意識の解体のための合理的な説明による説得が、非合理的な現在の規範に対し、大きな訴求力を持たない可能性を示唆している。戦後の日本は、戦前を「非合理的」として否定することで、民主主義や経済発展を目指した。しかし、日本が経済大国となることで、現代の他の先進国においては非合理的に見える社会規範も、日本では日本的合理性として肯定され維持されてきた。性別役割分業意識も、その一つである。現状を打開するためには、我々は再び、非合理性と向き合う必要があるだろう。

なお、本レポートでは、性別役割分業意識の強い人の非合理的特徴のみしか捉えられておらず、彼らに対して訴求力の高いアプローチを提案することはできない。性別役割分業意識の解体のために、彼らが何に価値を置くのかを考慮に入れた分析を、今後の課題としたい。

文献

青木保, 1999, 『「日本文化論」の変容 戦後日本の文化とアイデンティティー』中公文庫.

太郎丸博, 2005, 『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』ナカニシヤ出版.

山田晃久, 2013, 「マクロ・ミクロ 日本外交・安全保障の通商戦略:『合理性と価値モデル』の新経済成長」 『横浜商大論集』47 巻 1 号: 185-240.

性役割意識と保守性の関連性

許 蔚欣

1. 研究背景とその意義

「夫は仕事、妻は家庭」という性役割意識は第二次産業への移行という産業構造の変化によって生じた考え方で、そして高度成長期に至ってこの性役割意識はさらに定着し、日本の典型的な家庭像になった。しかし、労働力不足や少子化といった問題が重ね、そして産業構造もサービス業に移行する傾向が見られたため、女性の労働力参加を促し、そして「共働き社会」を目指すべきであるといった言及もある（筒井,2015）。

内閣府による平成 23 年度の男女共同参画社会に関する世論調査によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という態度に対して、昭和 54 年調査では賛成の割合が 7 割を超えていたが、平成 19 年調査では反対が 5 割を超えた。しかし、平成 28 年度の調査によると、その考え方に対して、賛成またはどちらかといえば賛成と答える割合において、18-29 歳の割合は 70 歳以上の年齢層以外すべての年齢層の割合より大きい結果が見られた。性別分業に対して肯定的な態度をとる人はまた増えた。

1-1. 仮説

一方、若者の間の性別分業の台頭のみならず、若者の保守化という言及も盛んになった。したがって、若者の性別分業に対する肯定的な態度と若者の保守化と関連付けることを試み、以下のような仮説を構成した。

「その人は保守的であるほど、性役割意識が強い。」

性役割意識に関する研究は従来から多様で、性別や学歴、政治的態度といった側面から議論を進む研究が多く存在し、そして保守性の側面から進む研究も少なからずある。

そして小林（1989）の図式によると、保守主義の中に権威主義があるため、本稿は性役割意識と保守性の関連性を再び考察し、保守性の要素をさらに権威主義に絞って検証することによって、性役割意識に関する経験的な分析の精度をさらに上げていきたい。

2. 使用する変数

従属変数は性役割意識のため、それに関する質問項目を分析に用いることにした。性役割意識の指標として用いたのは質問票の Q5x1－Q5x5 であり、以下のような意見に対する賛成度を 5 点尺度で尋ねるものである。

Q5x1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ。

Q5x2 概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける。

Q5x3 夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事をもたない方がよい。

Q5x4 男性は「育児休業制度」を積極的に利用した方がよい。

Q5x5 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している。

独立変数は保守性であるため、それと関連する質問項目、Q4、Q5x6 と Q5x8－Q5x9 を用いた。用いた質問項目は以下のように、Q4 は 4 点尺度で安倍内閣支持度を尋ねるものであり、Q5 はその意見に対する賛成度を 5 点尺度で尋ねるものである。

Q4 あなたは安倍内閣を支持していますか。

Q5x6 伝統を守っていれば、問題は起こらない。

Q5x8 自分より権力のある人には従わなければならない。

Q5x9 この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである。

性役割意識において、5点尺度の中で値が大きいほど性役割意識が強いように示したため、Q5x1－Q5x3とQ5x5の値を回転させて、性役割意識のすべての変数の値が大きくなるほど「そう思う」に近くなるようにした。同じく保守性を表す独立変数において、値が大きいほど保守的のように、値が大きくなるほど「そう思う」に近くなるように値を回転させた。

2-1. 従属変数

分析に入る前に、まず従属変数の間の相関を確認することにした。表1は性役割意識に関する変数の間の相関を表したものである、それによると、ほとんどの変数が強い相関を示し、相関は1%水準で有意である。男性の「育児休業制度」の利用についての変数だけが相関が弱い。

表1 性役割意識に関する価値観における変数間の相関係数

		女性のフル タイム労働 は家庭に悪 影響を与え る	夫に充分な 収入があつ たら妻は仕 事をしない ほうがよい	男性は「育 児休業制 度」を積極 的に利用し たほうがよ い	男性の方が 政治的指導 者に向いて いる
夫は外で働き、妻は家庭を守るべき Pearson の相関係数	1	.545**	.623**	.178**	.430**
女性のフルタイム労働は家庭に悪影響を与える Pearson の相関係数	.545**	1	.575**	.092	.360**
夫に充分な収入があつたら妻は仕事をしないほうがよい Pearson の相関係数	.623**	.575**	1	.112*	.351**

男性は「育児休業制 度」を積極的に利用 したほうがよい	Pearson の 相 関係数	.178**	.092	.112*	1	.206**
男性の方が政治的 指導者に向いてい る	Pearson の 相 関係数	.430**	.360**	.351**	.206**	1

**：相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

*：相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

さらにこれらの変数の相関を具体化し主成分分析にかけた結果、得られた固有値と累積説明率は表 2 のとおりである。表 2 を見ると、1 次元でも充分だが 2 次元で図示するほうがより適切だと思い、2 次元解の結果を図 1 で示した。

表 2 性役割意識に関する主成分分析の結果（固有値と累積説明率）

成分	固有値	累積説明率%
1	2.514	50.270
2	.988	70.029
3	.674	83.517

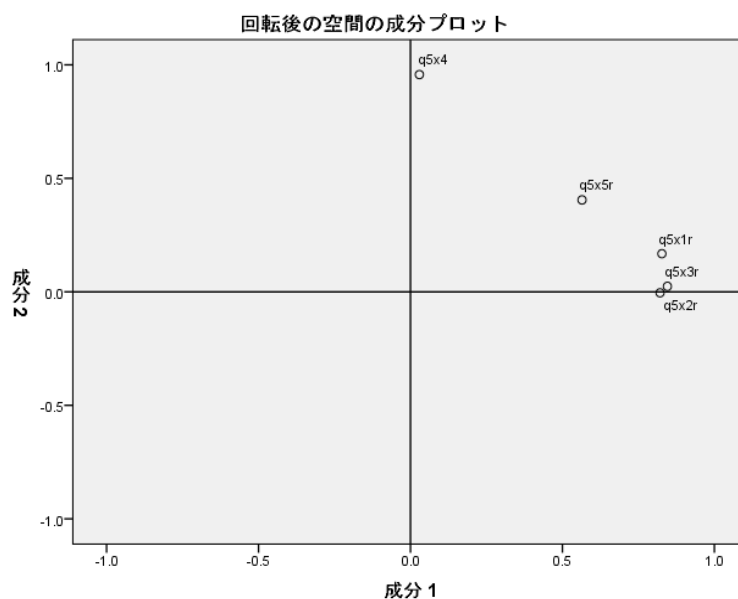


図 1 性役割意識に関する主成分分析の結果（バリマックス回転後）

図1を見るとQ5x4「男性の『育児休業制度』の利用」が他の変数から離れており、男性の「育児休業制度」の利用に対する意見は他の性役割意識に対する意見にやや異なる傾向があることがわかる。したがって、Q5x4「男性の『育児休業制度』の利用」を従属変数である性役割意識から外すことにした。そして、他の変数の値を足して平均をとり、新たな変数「性役割意識 4質問項目」を作った。

2-2. 独立変数

独立変数の間の相関も確認した。表3によると、ほとんどの変数が強い相関を示し、相関は1%水準で有意である。安倍内閣支持だけが相関がやや弱いことが見られる。

表3 保守性に関する価値観における変数間の相関係数

		安倍内閣支持	伝統を守っていれば、問題は起こらない	自分より権力のある人は従う	指導者に頼る
安倍内閣支持	Pearson の相関係数	1	.068	.167**	.180**
伝統を守っていれば、問題は起こらない	Pearson の相関係数	.068	1	.377**	.408**
自分より権力のある人は従う	Pearson の相関係数	.167**	.377**	1	.499**
指導者に頼る	Pearson の相関係数	.180**	.408**	.499**	1

**：相関係数は1%水準で有意（両側）です。

さらにこれらの変数の相関を主成分分析にかけた結果、得られた固有値と累積説明率は表4のとおりである。表4を見ると、2次元で図示するのが最適であると考えられ、その2次元解の結果を図2で示している。

表4 保守性に関する主成分分析の結果（固有値と累積説明率）

成分	固有値	累積説明率%
1	1.919	47.978
2	.955	71.844
3	.626	87.502

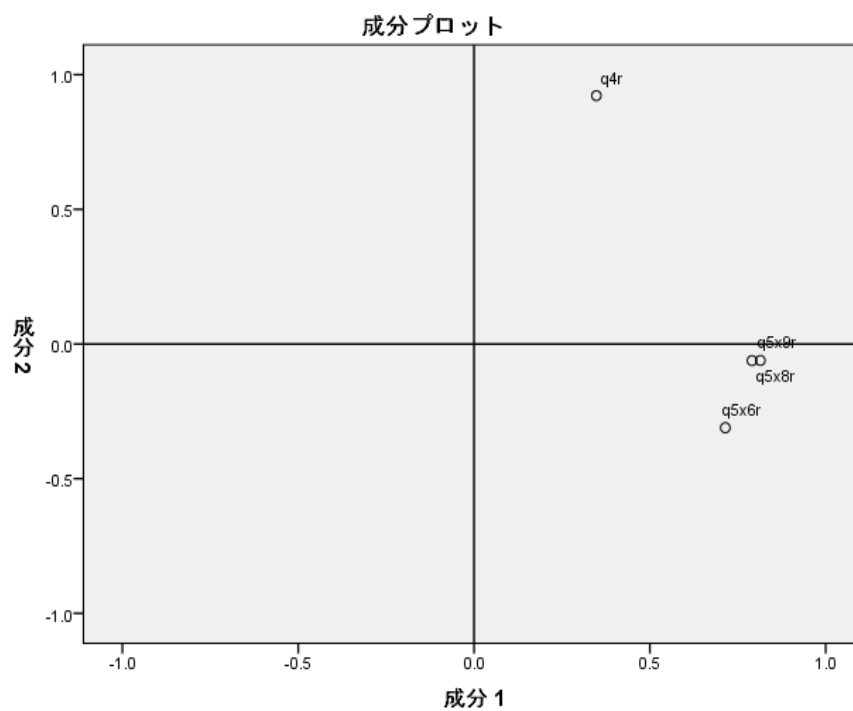


図2 保守性に関する主成分分析の結果（バリマックス回転後）

図2を見るとQ4の安倍内閣支持は他の変数から離れており、安倍内閣支持者はこれらの保守性に関する意見にやや反対の傾向があることがわかる。したがって、Q4の安倍内閣支持度を独立変数から外し、分析から除外することにした。

3. 結果分析

性役割意識の4つの変数の値を足し平均をとり、新たな変数「性役割意識 4質問項

目」の記述統計量は、表5のとおりである。表5によれば、回答者の性役割意識の平均値は2.4426で、標準偏差は0.89295である。回答者の性役割意識はやや平等的であることがみられる。

表5 性役割意識の記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
性役割意識 4質問項目	418	1.00	5.00	2.4426	.89295

また、伝統、権力のある人と指導者に対する信頼度の回答別に性役割意識の平均値を計算した結果が図3、図4と図5である。

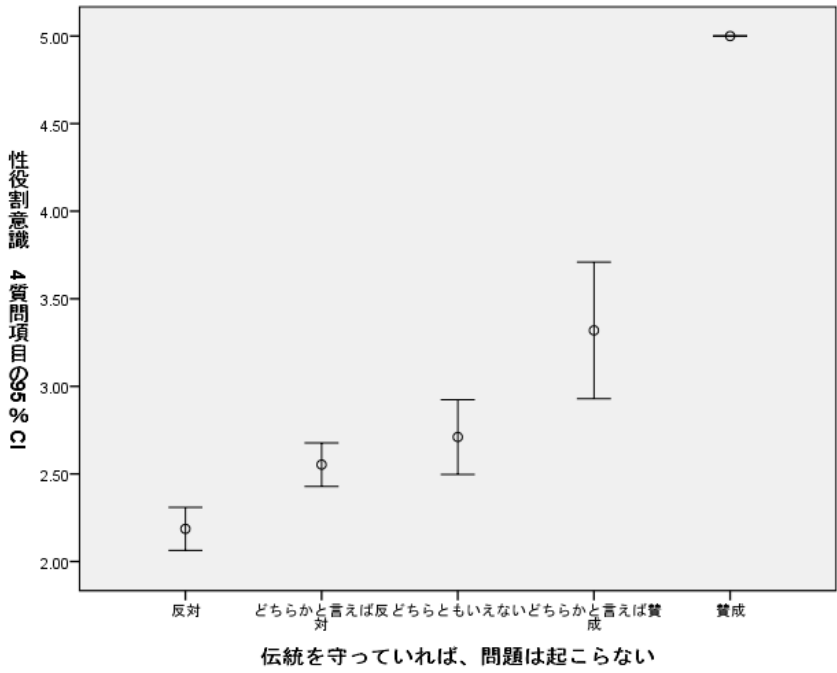


図3 伝統の信頼度別の性役割意識の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

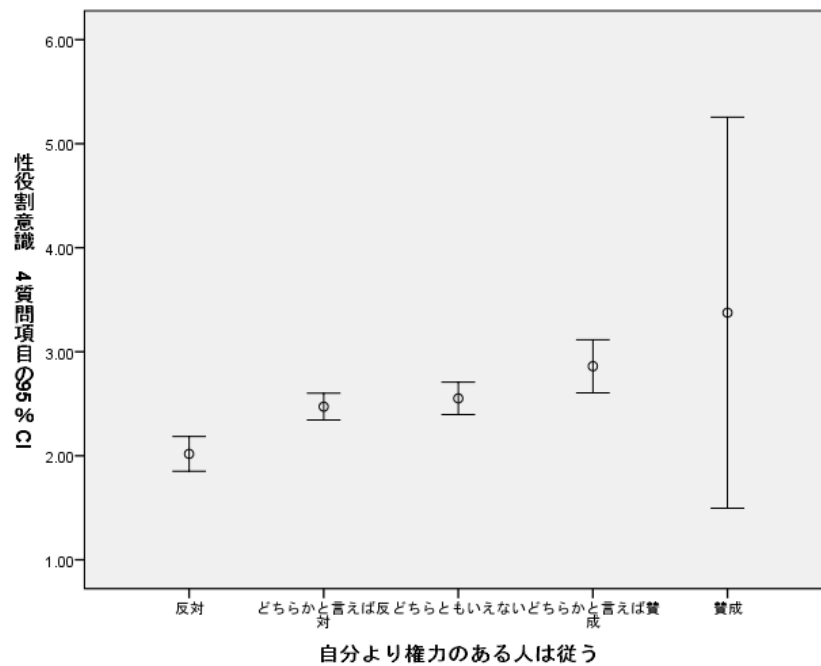


図 4 自分より権力のある人に従う度合別の性役割意識の平均値
(エラーバーは 95%信頼区間)

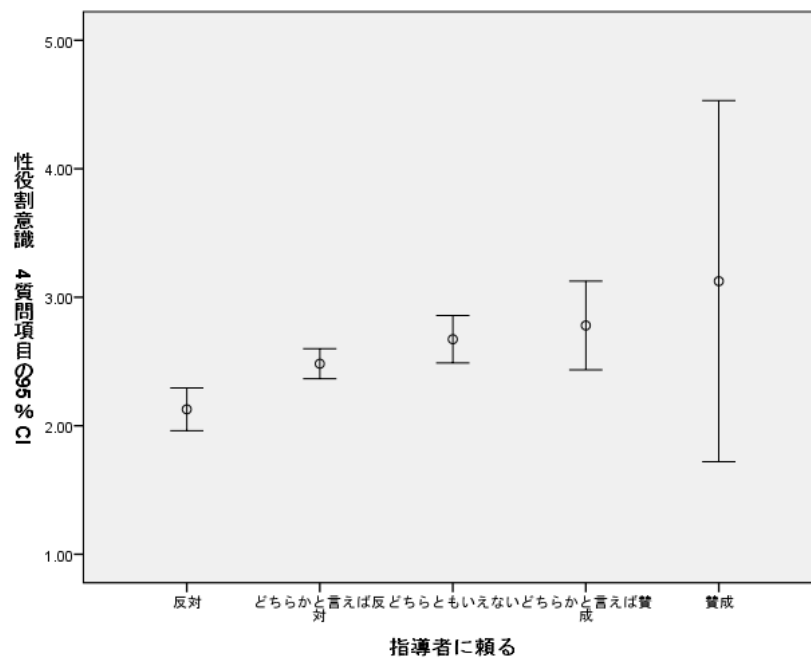


図 5 指導者に頼る度合別の性役割意識の平均値 (エラーバーは 95%信頼区間)

これらを見ると、少し極端的な結果もあったが、おおむね右肩上がりで性役割意識が

上昇する傾向が見られる。これらの保守的な価値観に対して肯定的であればあるほど、性役割意識が強いことである。さらに、性別も独立変数として重回帰分析に投入した結果が表6である。

表6 性役割意識の回帰分析の結果

	係数	標準誤差
(定数)	1.215	.129
伝統を守っていれば、問題は起こらない	.266***	.049
自分より権力のある人は従う	.157***	.044
指導者に頼る	.045	.048
男性ダミー	.405***	.090

*** p < .001

表6の結果によれば、切片と指導者に頼ること以外はすべて0.1%水準で有意な結果である。つまり、伝統を守っていれば問題は起こらないと思っているほど、自分より権力のある人は従うと思っているほど、そして女性より男性の方が性役割意識は強いという結果を得ることができた。

4. 考察

従属変数の検証において、Q5x4「男性は『育児休業制度』を積極的に利用したほうがよい」という変数だけが、他の性役割意識の変数との相関が弱いことがわかった。質問文を確認したところ、Q5x4の質問文の主語は「男性」であるのに対して、Q5x1-3の質問文の主語は「女性」であることに気づいた。今回の回答者の中で男性の割合が多く、そして全て大学生のため、育児休業の必要性を感じない、その上主語が「女性」の質問のように冷静に判断できなかったかもしれない。それでこの変数が他の変数との相関が弱いと考えられる。

独立変数において、安倍内閣支持度は他の独立変数との相関が弱いことについて、安倍内閣の政策が必ずしも保守的ではないことが原因の一つだと考えられる。権威主義では上位者に服従する特徴がある。そして安倍首相が上位者であることを否定する人がいないと思い、自由民主党も保守政党であるにもかかわらず、安倍首相は「女性の職場復帰・再就職の支援」、「女性役員・管理職の増加」といった女性の社会進出を促す政策を目指しているため、今回用いた性役割意識の内容とまさに正反対である。ゆえに安倍内閣支持度は必ずしも保革で明確に区別できるわけではないと考えられる。

他方、伝統を守ろうとする志向が強いほど、性役割意識も強いことがわかった。これは竹ノ下（2005）指摘したように、「性役割意識の固定化要因としては、伝統・因習的価値志向を有する者ほど、性役割意識を維持する傾向が強い」。伝統的な価値観は保守性の特徴の1つでもあるので、重回帰分析でこうした結果を得たと考えられる。また、「3歳児神話」は科学的な根拠を失っているにもかかわらず、規範意識として社会に残っているため、「母親就労の悪影響」という考え方も残っている（松田，2005）ので、保守性を持つ人間の中に「女は家の中にいる」という伝統的な性役割意識が残り、伝統的な性役割意識が保守性の1つとしてとらえてもいいと考え、今回の分析結果に至ったのではないかと。

自分より権力のある人に従う傾向が強いほど、性役割意識も強いという結果を得たことについて、性役割意識の強い人にとって経済力も権力の1つからだと考えられる。この男性稼ぎ手モデル社会において、男性は経済的権力を握っていることが多いため、性役割意識が強い人は夫に従う傾向があることにつながったと考えられる。黒木（1989）の調査によると、女性より男性の方が家族の扶養を男の甲斐性とする傾向が強いため、今回の調査においても男性の回答者の割合が大きく、権力が経済力として捉えられていると言え、権力と性役割意識の関係がより明瞭になったと考えられる。

一方、指導者に頼るという変数において、エラーバーでは右肩上がりの傾向が見られ

たにもかかわらず、重回帰分析では有意な結果が得られなかった。原因の1つとして考えられるのは、性役割意識が家庭に関する価値観であると理解されているからである。実際性役割意識の指標として用いられた変数も家庭に関することも多く、Q5x6政治的な側面変数も他の変数との相関が比較的に弱いこともこれで説明できた。指導者といえ、政治的な指導者を思いつく人が多いと想定し、家庭的な価値観と関連付けるのが難しく、ゆえに有意な結果が得られなかったと考えられる。

5. まとめと今後の課題

以上の分析から、保守的指向が明瞭であるほど性役割意識が強いという仮説が検証できたといえる。たださらに正確に言えば、性役割意識と保守性の中の権威主義的な志向と伝統を守ろうとする姿勢との関連性が見られたと言いたい。性役割意識の中の男性優位的な要素と権威主義の上位者に服従する特徴が一致していることが、今回の分析結果を解釈している。

また、伝統を守ろうとする姿勢は今後弱まっていくのか、それとも強まっていくのかについて、そして若者の保守性の今後の行方について、個人的に興味深く感じた。今回の調査は京大生を対象としたが、このテーマに関するコーホート調査の必要性も強く感じた。

文献

筒井淳也（2015）.『仕事と家族—日本はなぜ働きづらい、産みにくいのか』.中央公論新社,中公新書.

内閣府（2016）「男女共同参画社会に関する世論調査」.<https://survey.gov->

online.go.jp/h28/h28-danjo/index.html（閲覧日：2018年1月20日）。

内閣府（2011）「平成23年版男女共同参画白書」。

http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h23/zentai/index.html（閲覧日：2018年1月20日）。

小林久高（1989）。「権威主義・保守主義・革新主義－左翼権威主義再考－」『社会学評論』39（4）,p.392-405,478.

竹ノ下弘久（2005）。「性役割意識の変容可能性とその動態－性役割意識の動向と政治参加と節合に向けて」渡辺秀樹（編）『現代日本の社会意識』,慶応義塾大学出版社,p.17-38.

松田茂樹（2005）。「現代日本における母親の就労の子供への影響に関する規範意識」

渡辺秀樹（編）『現代日本の社会意識』,慶応義塾大学出版社,p.85-105.

黒木雅子（1989）。「伝統的性役割に関する意識－フェミニズムからの分析」『女性学評論』3,p.61-82.

男女平等主義と科学観の関係

清 菜々穂

1. はじめに

現在、研究者は圧倒的に男性が多く、日本では8割を占めている（図1）。近年、世間では男女平等主義が徐々に広がっており、実際に一部の企業では女性管理職の割合を増やす試みが行われている。一般社会と異なる点も多いとされる研究の世界においても、男女平等主義の考えを取り入れ、女性研究者が年々増加している。しかし、女性研究者は結婚や出産などのライフイベントによって途中で研究を中断する可能性が男性よりも高いと考えられるため、研究者の中には研究の世界への女性の参入を好ましく思わないという考えを持つ人も存在するのではないだろうか。そのため、世間の男女平等主義の風潮を研究の世界にまで取り入れることは、少しでも早期に研究を進めたいという人々との衝突を生む恐れがある。

今回の分析には、大学生の男女平等主義と科学研究に関する意識調査を通じて、まずは非研究者である学生の傾向を把握し、今後実際に研究者に対して同様の意識調査を行う際の基礎データを得るという意義が存在する。

本研究においては、実際に女性研究者が増加しているというデータが存在することから、「男女平等主義に賛成する人ほど科学研究の発展を希望している」という仮説を立てて解析を行った。

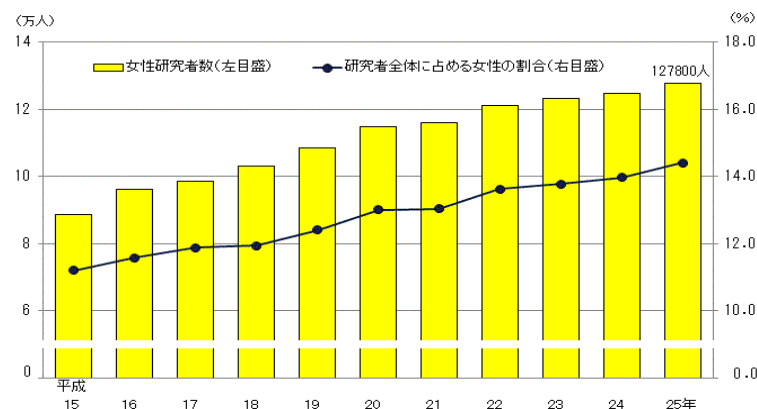


図1 女性研究者数の推移（統計局ホームページ参照）

2. 方法

本研究の分析対象は、従属変数として用いる「学問としての数学は社会をより豊かにするために有用であるか」という設問に回答した424ケースを用いる。

回答は、そう思う（1点）、どちらかというと思う（2点）、どちらともいえない（3点）、どちらかというと思わない（4点）、と思わない（5点）、の5点尺度で、「そう思う」と答えた場合に科学研究の発展を望んでいるとした。

また、独立変数として、男女平等主義か否かを調べる質問項目を用いた。アンケート調査の中で男女平等主義に関する質問は5つあるが、これらを主成分分析にかけた結果それぞれの相関が強い「夫は外で働き妻は家庭を守るべきだ」（q5x1）、「女性がフルタイムで働いていると家庭はその悪影響を受ける」（q5x2）、「夫に十分な収入がある場合には妻は仕事を持たないほうがよい」（q5x3）の3つを選択した（図2）。回答はいずれも、反対（1点）、どちらかという反対（2点）、どちらともいえない（3点）、どちらかという賛成（4点）、賛成（5点）、の5点尺度で、「反対」と答えた場合に男女平等主義であるとした。

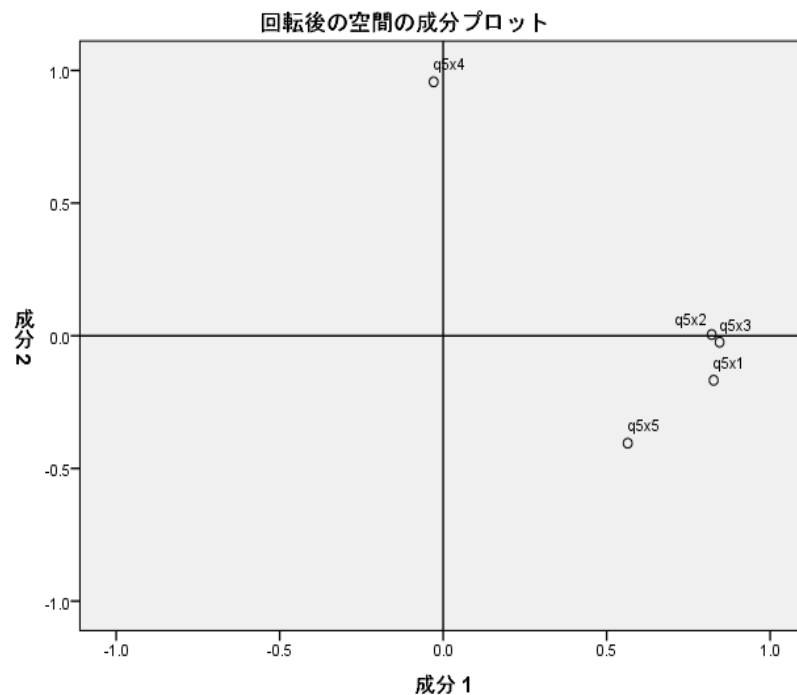


図2 主成分分析の結果（バリマックス回転後）

3. 分析

表1 「数学は社会をより豊かにする」の度数分布表

数学は社会をより豊かにする

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	174	41.0	41.0	41.0
	どちらかというと思う	137	32.3	32.3	73.3
	どちらともいえない	77	18.2	18.2	91.5
	どちらかというと思わない	27	6.4	6.4	97.9
	そう思わない	9	2.1	2.1	100.0
合計		424	100.0	100.0	

回答結果は、「そう思う」と「どちらかというと思う」と答えた人で7割を占めた。

表2 性別 と 数学は社会をより豊かにする のクロス表

			数学は社会をより豊かにする					合計
			そう思 う	どちらか という そう思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わ ない	
性別 男	度数		131	94	61	19	9	314
	性別 の %		41.7%	29.9%	19.4%	6.1%	2.9%	100.0%
女	度数		43	43	16	8	0	110
	性別 の %		39.1%	39.1%	14.5%	7.3%	0.0%	100.0%
合計	度数		174	137	77	27	9	424
	性別 の %		41.0%	32.3%	18.2%	6.4%	2.1%	100.0%

男女で、数学への肯定否定はほとんど変わらないことが分かる。

表3 男女平等主義と科学への肯定の相関

		数学は社会 をより豊か にする	夫は働き妻 は家族を守 るべき	夫に収入が ある場合妻 は働かない ほうがよい	女性が働く と家庭は悪 影響を受け る
数学は社会をより豊かにする	Pearson の相関係数	1	.131**	.132**	.003
	有意確率 (両側)		.007	.007	.955
	度数	424	417	418	417
夫は働き妻は家族を守るべき	Pearson の相関係数	.131**	1	.623**	.545**
	有意確率 (両側)	.007		.000	.000
	度数	417	417	417	416
夫に収入がある場合妻は働かないほうがよい	Pearson の相関係数	.132**	.623**	1	.575**
	有意確率 (両側)	.007	.000		.000
	度数	418	417	418	417

女性が働く と家庭は悪 影響を受ける	Pearson の相関係 数	.003	.545**	.575**	1
	有意確率 (両側)	.955	.000	.000	
	度数	417	416	417	417

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

「数学は社会をより豊かにする」と「夫は働き妻は家族を守るべき」、「夫に収入がある場合は妻は働かないほうがよい」の間にはわずかだが相関が確認できた。

科学の発展に肯定的な人と男女平等主義に賛成する人との間には正の相関が存在する可能性がある。

次に、「数学は社会をより豊かにする」と男女平等主義に対する3つの質問「夫は働き、妻は家族を守るべき」「夫に収入がある場合妻は働かないほうがよい」「女性が働く
と家庭は悪影響を受ける」のそれぞれとの測定誤差と平均値を可視化するために、エラーバーを用いた。さらに重回帰分析を行った。

結果、以下の図3と図4、図5において、平均値の95%区間はほとんど重なっており有意な差は見られなかった。また、表4の重回帰分析においても仮説を裏付ける結果は得られなかった。

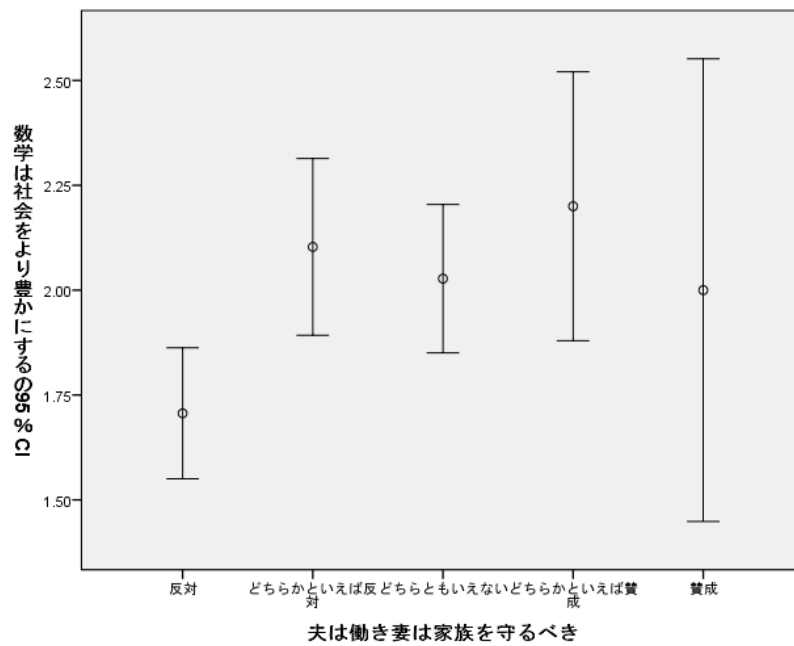


図3 「数学は社会をより豊かにする」と「夫は働き妻は家族を守るべき」のエラーバ

ー

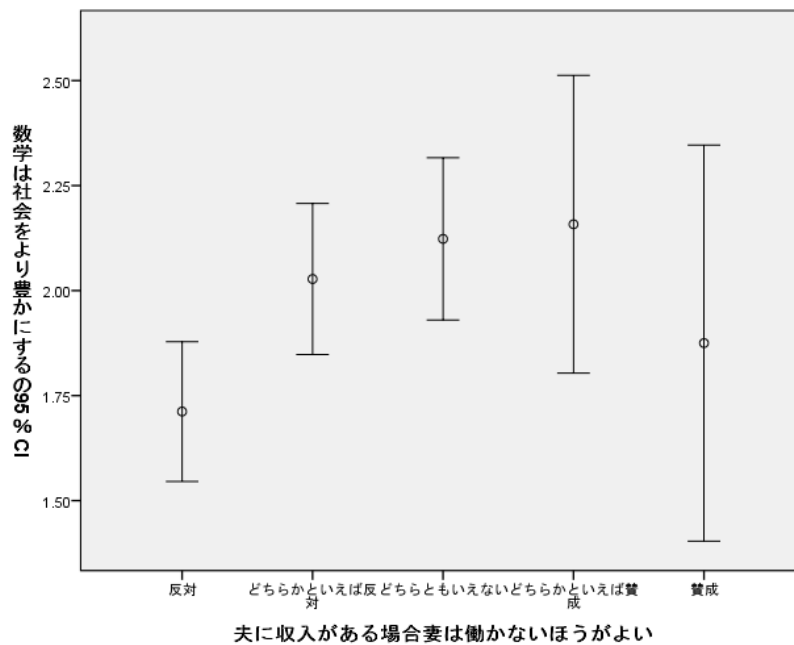


図4 「数学は社会をより豊かにする」と「夫に収入がある場合妻は働かないほうがよい」のエラーバー

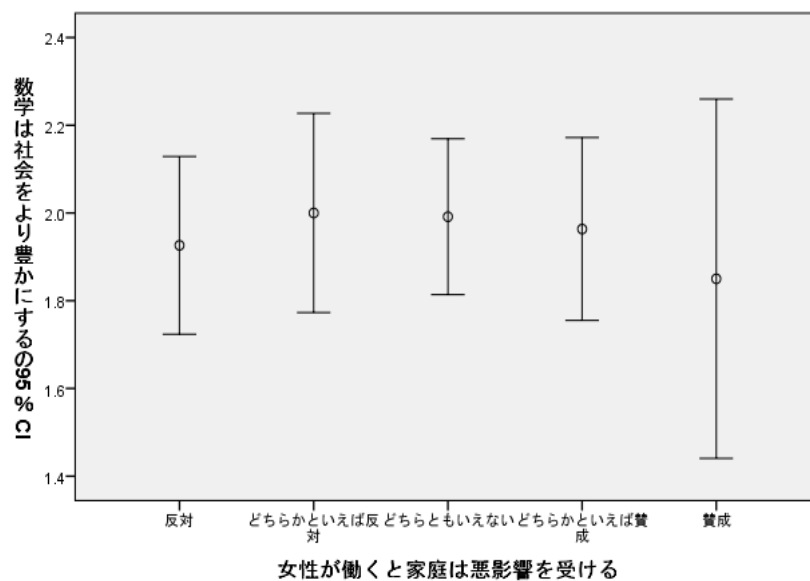


図5 「数学は社会をより豊かにする」と「女性が働くとは家庭は悪影響を受ける」
のエラーバー

表4 重回帰分析の結果

モデル		非標準化係数		有意確率
		B	標準誤差	
1	(定数)	1.613	.226	.000
	夫は働き妻は家族を守るべき	.077	.061	.207
	夫に収入がある場合妻は働かないほうがよい	.070	.058	.231
	男性は女性より政治の指導者に適する	.006	.048	.907

4. 考察

本研究では「男女平等主義に賛成する人ほど科学研究の発展を希望している」という仮説を確認するべく、学生にアンケート調査を実施しその結果を分析してきた。しかし、

残念ながらこの仮説を裏付ける有意な結果を得ることはできなかった。

まず、表 3 の相関係数が強いと言えないため、男女平等主義に賛成の人ほど科学研究の発展を希望しているとは言い難い。また、図 3 から図 5 のエラーバーでは、質問に対するそれぞれの回答有意差が見られなかった。

この結果の理由として、今回のアンケート調査の対象のほとんどが学部生であり、研究者とは言い切れないこと、科学の発展を希望するか否かの質問項目を数学に限定したことが考えられる。一口に科学と言っても社会学や文学などの人文科学、物理や化学などの自然科学など多様な種類が存在する。今後は大学の教授など実際の研究者も含めてアンケート調査を実施し、男女平等主義との関連を調べたい。その際は、今回の学生を対象とした結果との違いを調べたい。さらに、男女の研究者で違いがあるか、研究者の文理の属性も分析において考慮したい。

本研究の意義は、男女平等主義と科学観の関連を分析し、世間と研究界の考えの衝突を防ぐことである。本研究を発展させることで男女平等と科学の在り方について新たな知見を提供できることを期待している。

文献

総務省統計局, 統計トピックス No.80 「我が国の科学技術を支える女性研究者」

<http://www.stat.go.jp/data/kagaku/kekka/topics/topics80.htm>

「女性らしさ」との関連項目

藤久 可奈

1. はじめに

本稿の目的は、「女性らしさ」と関連のある質問項目を明らかにすることである。日常の様々な場面で、「女性らしい観点」や「女性らしい感性」という表現は多用されている。女性の企業での登用が取り上げられたときに、こういった理由はよくあげられるものだろう。働く女性には、単なる労働力ではなく、女性らしい感性や着眼点が求められるようになった。では、「女性らしい感性」や「女性らしい視点」は、どのような分野にあらわれているのだろうか。今回のレポートでは、そのような疑問から、男女差が出ることを「女性らしさ」が示されているとし、「女性らしさ」があらわれる項目を調査し、またさらにその項目間に相関があるのかを調べる。性別によって違いが出る項目と出ない項目があることは予想される。性差のある観点が明らかになれば、「性」への理解がより深まり、また男性女性それぞれへのサービスや政策立案に新たな尺度が生まれる可能性も考えられる。

性差が出ると予想される項目は、性役割意識、呪術に関する質問項目である。性役割は主に女性の社会での活躍や育児への男性の協力に関する質問であり、男性よりも女性の方が自身の問題ととらえ、関心がより高まると考えられる。また、呪術に関する質問項目は、おみくじや占いに関するものである。占いやパワースポットにより積極的に関わっているのは女性であるという印象が強いため、この質問項目には性差が出るように思われる。その他の学問観や内閣支持、権威主義には男女差はあまり出ないと予想される。また、性差が出たとしても性役割や呪術といったように各分野の関連は薄いように思われるため、性差が出た質問項目間の関連はあまり出ないように思われる。

2. データの概要

本稿の分析では、以下の質問項目に対する回答を使用した。

- q1x2 あなたの所属する学部と性別を教えてください。
- q2x1 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援するべきである。
- q2x2 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。
- q2x3 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。
- q2x4 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。
- q2x5 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。
- q2x6 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。
- q3a1 環境汚染の原因について 企業
- q3a2 環境汚染の原因について 政府
- q3a3 環境汚染の原因について マスコミ
- q3a4 環境汚染の原因について 大学の研究機関
- q3b1 景気対策について 企業
- q3b2 景気対策について 政府
- q3b3 景気対策について マスコミ
- q3b4 景気対策について 大学の研究機関
- q4 あなたは安倍内閣を支持していますか。
- q5x1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ。
- q5x2 概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける。

- q5x3 夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事をもたない方がよい。
- q5x4 男性は「育児休業制度」を積極的に利用したほうがよい。
- q5x5 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している。
- q5x6 伝統を守っていれば、問題は起こらない。
- q5x7 どんな状況でも法律には従わなければならない。
- q5x8 自分より権力のある人には従わなければならない。
- q5x9 この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである。
- q6x1 自分の子どもの名前を考えると、姓名判断を参考にしようと思う。
- q6x2 自然の中に、人間の力を超えた何かを感じる。
- q6x3 神社やお寺でのおみくじの結果は気になる
- q6x4 忌み言葉（受験前の「滑る、落ちる」、結婚式での「たびたび、切れる」など）は気になる
- q6x5 さまざまな占いの中には科学的なものもある

q1x2 は「1 男」と「2 女」の 2 点尺度で答える質問項目である。q2x1～q2x6 は「1 そう思う」から「5 そう思わない」までの 5 点尺度で答える。q3a1～q3b は各団体がそれぞれの問題について見解を示した場合の信頼度を尋ねる質問項目であり、「1 信頼する」から「5 信頼しない」の 5 点尺度で答える。q4 は「1 かなり支持している」から「4 ほとんど支持していない」までの 4 点尺度で答える質問項目である。q5x1～q5x9 の 9 つは「1 賛成」から「5 反対」までの 5 点尺度で答える質問項目であった。q6x1～q6x5 は「1 そう思う」から「4 そう思わない」の 4 点尺度で答える質問項目である。

q2x1～q2x6 は学問観について尋ねる質問であり、q3a1～q3b4 は企業・政府・マスコミ・大学への信頼感を尋ねる質問である。q4 は内閣支持を明らかにし、q5x1～q5x5

は性役割意識を明らかにする。q5x6～q5x9 は権威主義に関する質問項目であり、また、q6x1～q6x5 は呪術信仰に関する質問項目である。

3. 分析

まずは統計記述を表 1 で示す。表 1 記述統計では各変数の平均と標準偏差、度数を表示した。

表1 記述統計量			
	度数	平均値	標準偏差
q1x2 性別	424	1.26	.439
q2x1 科学の研究は政府が支援すべき	424	1.45	.713
q2x2 歴史学は日本の将来に役立つ	423	1.89	.940
q2x3 物理学は政策決定に役立つ	423	1.71	.902
q2x4 憲法学は憲法解釈の決定に役立つ	422	2.14	1.079
q2x5 数学は社会を豊かにする	424	1.96	1.019
q2x6 文学は社会を豊かにする	424	2.08	1.087
q3a1 環境汚染 企業	424	3.16	1.024
q3a2 環境汚染 政府	424	2.86	1.050
q3a3 環境汚染 マスコミ	423	3.65	1.013
q3a4 環境汚染 大学の研究機関	423	1.88	.820
q3b1 景気対策 企業	423	2.83	.996
q3b2 景気対策 政府	423	2.93	1.060
q3b3 景気対策 マスコミ	423	3.63	1.029
q3b4 景気対策 大学の研究機関	423	2.30	.872
q4 安倍内閣支持	409	2.49	.826
q5x1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべき	417	3.69	1.084
q5x2 女性のフルタイム労働は家庭に悪影響	417	3.47	1.233
q5x3 夫の収入が充分なら妻は働くべきでない	418	3.69	1.107
q5x4 男性は育児休業制度を利用すべき	417	1.91	.851
q5x5 男性の方が政治の指導者に適当	417	3.38	1.154
q5x6 伝統を守れば問題は起こらない	415	4.25	.900
q5x7 常に法律には従うべき	416	3.15	1.186
q5x8 権力者には従うべき	416	3.66	1.050
q5x9 何をなすべきかは指導者にきくのが最良	416	3.92	.970
q6x1 子どもの名前は姓名判断を参考にする	415	2.87	.916
q6x2 自然に人間の力を超えた何かを感じる	415	1.85	.868
q6x3 おみくじの結果は気になる	414	2.39	.985
q6x4 忌み言葉は気になる	415	2.93	.949
q6x5 占いの中には科学的なものもある	415	2.84	.910
有効なケースの数（リストごと）	399		

次に性別と各質問項目との関連を調べる。先に述べたように、各質問項目はいくつか

のテーマに関する質問群の集合である。そのテーマは、q2x1～q2x6 は学問観、q3a1～q3b4 は企業・政府・マスコミ・大学への信頼度、q4 は内閣支持、q5x1～q5x5 は性役割意識、q5x6～q5x9 は権威主義、q6x1～q6x5 は呪術信仰である。テーマごとに性別との相関を下に表 2 から表 7 で示す。

表2 学問観との相関		
		q1x2 性別
q2x1 科学の研究は政府が支援すべき	Pearson の相関係数	.079
	有意確率（両側）	.104
	度数	424
q2x2 歴史学は日本の将来に役立つ	Pearson の相関係数	-.201**
	有意確率（両側）	.000
	度数	423
q2x3 物理学は政策決定に役立つ	Pearson の相関係数	-.042
	有意確率（両側）	.389
	度数	423
q2x4 憲法学は憲法解釈の決定に役立つ	Pearson の相関係数	-.225**
	有意確率（両側）	.000
	度数	422
q2x5 数学は社会を豊かにする	Pearson の相関係数	-.036
	有意確率（両側）	.457
	度数	424
q2x6 文学は社会を豊かにする	Pearson の相関係数	-.218**
	有意確率（両側）	.000
	度数	424
**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。		
*. 相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。		

この中で特に強く相関しているのが、q2x2、q2x4、q2x6 の 3 つの質問項目である。相関が強く出たものは黄色く色づけることにする。どれも負の相関となっていることから、女性のほうがこの 3 つの質問項目の意見に賛成していることがわかる。残る 3 つの質問項目との相関は相対的に弱い。学問の内容を見てみると、相関が強く出ているのは歴史学、憲法学、文学という文系科目であり、科学、物理学、数学という理数系の科目は相関が小さい。

表3 信頼感との相関		
		q1x2 性別
q3a1 環境汚染 企業	Pearson の相関係数	-.052
	有意確率（両側）	.285
	度数	424
q3a2 環境汚染 政府	Pearson の相関係数	-.021
	有意確率（両側）	.660
	度数	424
q3a3 環境汚染 マスコミ	Pearson の相関係数	-.048
	有意確率（両側）	.326
	度数	423
q3a4 環境汚染 大学の研究機関	Pearson の相関係数	-.029
	有意確率（両側）	.546
	度数	423
q3b1 景気対策 企業	Pearson の相関係数	-.091
	有意確率（両側）	.061
	度数	423
q3b2 景気対策 政府	Pearson の相関係数	-.080
	有意確率（両側）	.100
	度数	423
q3b3 景気対策 マスコミ	Pearson の相関係数	-.144**
	有意確率（両側）	.003
	度数	423
q3b4 景気対策 大学の研究機関	Pearson の相関係数	-.142**
	有意確率（両側）	.003
	度数	423

**、相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

各機関への信頼感の中で相対的に性別と相関しているのは、q3b3 と q3b4 の 2 つである。この 2 つはどちらも負の相関となっており、女性のほうが景気対策に関するマスコミ（q3b3）と大学の研究機関（q3b4）への信頼感が高いことがわかる。

表4 内閣支持との相関		
		q1x2 性別
q4 安倍内閣支持	Pearson の相関係数	.167**
	有意確率（両側）	.001
	度数	409

**、相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

これも相対的に強く相関しているといえる。正の相関であることから、女性のほうが

内閣支持率は低いことがわかる。

表5 性役割意識との相関		
		q1x2 性別
q5x1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべき	Pearson の相関係数	.219**
	有意確率（両側）	.000
	度数	417
q5x2 女性のフルタイム労働は家庭に悪影響	Pearson の相関係数	.111*
	有意確率（両側）	.023
	度数	417
q5x3 夫の収入が充分なら妻は働くべきでない	Pearson の相関係数	.254**
	有意確率（両側）	.000
	度数	418
q5x4 男性は育児休業制度を利用すべき	Pearson の相関係数	-.102*
	有意確率（両側）	.037
	度数	417
q5x5 男性の方が政治の指導者に適当	Pearson の相関係数	.076
	有意確率（両側）	.120
	度数	417
**, 相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。		
*, 相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。		

相対的に強く相関しているのは q5x1 と q5x3 である。2 つとも正の相関であることから、女性のほうがこれらの意見（「q5x1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」「q5x3 夫の収入が充分なら妻は働くべきでない」）には反対の姿勢をとっていることがわかる。この 2 つの質問は妻である女性の働く権利や機会を否定する意見である。

表6 権威主義との相関		
		q1x2 性別
q5x6 伝統を守れば問題は起こらない	Pearson の相関係数	.052
	有意確率 (両側)	.293
	度数	415
q5x7 常に法律には従うべき	Pearson の相関係数	-.003
	有意確率 (両側)	.948
	度数	416
q5x8 権力者には従うべき	Pearson の相関係数	-.013
	有意確率 (両側)	.792
	度数	416
q5x9 何をなすべきかは指導者にきくのが最良	Pearson の相関係数	.025
	有意確率 (両側)	.604
	度数	416
**. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。		

相対的にみて強く相関しているものはない。権威主義に対して男女での差がないことがわかる。

表7 呪術信仰との相関		
		q1x2 性別
q6x1 子どもの名前は姓名判断を参考にする	Pearson の相関係数	-.113*
	有意確率 (両側)	.021
	度数	415
q6x2 自然に人間の力を超えた何かを感じる	Pearson の相関係数	-.040
	有意確率 (両側)	.418
	度数	415
q6x3 おみくじの結果は気になる	Pearson の相関係数	-.111*
	有意確率 (両側)	.023
	度数	414
q6x4 忌み言葉は気になる	Pearson の相関係数	-.073
	有意確率 (両側)	.139
	度数	415
q6x5 占いの中には科学的なものもある	Pearson の相関係数	-.074
	有意確率 (両側)	.131
	度数	415
*. 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。		
**. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。		

相対的にみて相関はほとんどない。呪術信仰に対して男女での差がないことがわかる。

表 2 から表 7 より、性別と相対的に関連しているのは学問観、信頼感、内閣支持、性

役割意識に関する質問項目だった。相対的に相関すると結論付けた結果には黄色く目印を付けた。では次に、目印を付けた 8 つの質問項目間に関連があるのか調べる。8 つの質問項目間の相関を下の表 8 に示す。そしてこの相関行列を主成分分析にかけた結果得られた固有値と累積説明率は表 9 に示す。また 2 次元解の結果は図 1 に示す。図 1 はバリマックス回転したものである。

表8 項目間の相関									
		q2x2	q2x4	q2x6	q3b3	q3b4	q4	q5x1	q5x3
q2x2	Pearson の相関係数	1	.372**	.379**	-.012	.182**	-.215**	-.056	-.124*
	有意確率 (両側)		.000	.000	.802	.000	.000	.255	.011
	度数	423	421	423	422	422	408	416	417
q2x4	Pearson の相関係数	.372**	1	.343**	.141**	.166**	-.119*	-.118*	-.061
	有意確率 (両側)	.000		.000	.004	.001	.017	.016	.215
	度数	421	422	422	421	421	407	415	416
q2x6	Pearson の相関係数	.379**	.343**	1	-.050	.019	-.134**	-.143**	-.153**
	有意確率 (両側)	.000	.000		.308	.690	.007	.003	.002
	度数	423	422	424	423	423	409	417	418
q3b3	Pearson の相関係数	-.012	.141**	-.050	1	.174**	-.061	.034	.008
	有意確率 (両側)	.802	.004	.308		.000	.220	.485	.873
	度数	422	421	423	423	423	409	417	418
q3b4	Pearson の相関係数	.182**	.166**	.019	.174**	1	.056	-.036	-.047
	有意確率 (両側)	.000	.001	.690	.000		.261	.469	.342
	度数	422	421	423	423	423	409	417	418
q4	Pearson の相関係数	-.215**	-.119*	-.134**	-.061	.056	1	.272**	.184**
	有意確率 (両側)	.000	.017	.007	.220	.261		.000	.000
	度数	408	407	409	409	409	409	408	409
q5x1	Pearson の相関係数	-.056	-.118*	-.143**	.034	-.036	.272**	1	.623**
	有意確率 (両側)	.255	.016	.003	.485	.469	.000		.000
	度数	416	415	417	417	417	408	417	417
q5x3	Pearson の相関係数	-.124*	-.061	-.153**	.008	-.047	.184**	.623**	1
	有意確率 (両側)	.011	.215	.002	.873	.342	.000	.000	
	度数	417	416	418	418	418	409	417	418

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。
* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

表 8 の色づけた部分は相対的に相関が強く出た結果のマスである。全体的に見て、互いに強く相関している項目が多いことがわかる。学問観や各機関への信頼感など、ほかのテーマに関する項目とも相関している。表 2 から表 7 までの結果から、女性のほうが文系科目への期待度は高く、景気対策に関するマスコミと大学への信頼感も高く、内閣支持率は低く、妻が働くことを否定する意見には反対していることが分かった。表 8 では、強く相関している部分に注目すると、上の傾向は互いに正の相関にあることがわか

る。

表9 説明された分散の合計			
成分	初期の固有値		
	合計	分散の %	累積 %
1	2.125	26.558	26.558
2	1.476	18.449	45.007
3	1.164	14.550	59.557
4	.957	11.968	71.526

因子抽出法: 主成分分析

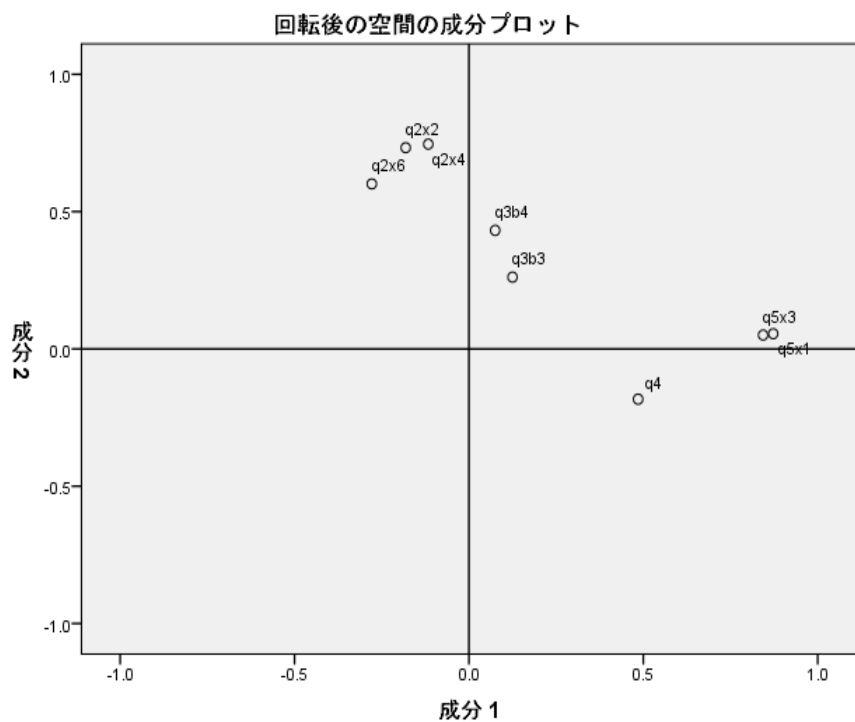


図 1

表 8、また図 1 より互いに相関が強く出ている項目が多いことが分かる。表 8、図 1 より、同種の問題に関する質問間の相関は強く出ている。しかし他群の質問との相関も高い。このことから、性差のある質問項目間の相関は部分的にあることが分かる。

4. 考察

本稿では、男女差がある質問項目を「女性らしさ」のあらわれる質問項目であるとし、それらはどのような質問項目であるのか、またその項目間に相関はあるのかを分析してきた。ここでわかったことは以下の2点にまとめられる。

第一に、「女性らしさ」があらわれたのは「①文系学問に関する質問」「②景気対策についてのマスコミと大学への信頼感」「③内閣支持率」「④妻が働くことに関して否定的な意見」の4つであった。男女差があらわれたということは、ある項目に男性が賛成しているとき女性はその反対の意見を持っているということだ。①は文系学問の存在意義や社会への貢献度について女性のほうが期待を持っているという結果だった。文系学生には女性が多く、理系学生には男性が多いことはこのことと関連があるのかもしれない。所属学問も考慮し、関連を検討することが必要だろう。②はなぜ相関が出たのかわからない。マスコミ、大学への信頼感は大気汚染に関する質問の場合、相関は出なかった。大気汚染や景気対だけでなく、その他のテーマに関する質問項目を設定した場合に何か関連が明らかになるだろうか。③は内閣が行ってきた政策への評価、またこれからへの期待に男女差が出たということだろう。女性は男性と比べ支持率が低いという結果だった。女性のための政策も実施されているが、それでも男性よりも不満に思うことがあるのか。育児や雇用など、女性向けの政策に関する質問項目を設置した場合、どのような結果が得られるだろうか。その結果から、内閣支持率が低いことの要因も明らかになる可能性がある。④は性役割意識に関する質問項目の中でも特に、「夫がいるのに」という、夫の存在が強調された妻の働き方に関する項目だ。夫は仕事をし妻は家事をするという保守的な役割分担を女性は窮屈に感じているのかもしれない。逆に男性はこのような意見に対して女性ほど敏感ではないということもわかる。性役割意識の改善は女性だけではなしえない。女性と男性のこの意識の差が埋まらなければ、性役割意識の改善は

難しいだろう。

第二に、①から④は相対的に見て強い相関で結ばれている部分が多いことが分かった。これは性別がこれらの項目に対して意見を示すうえでの主要因になっていることも可能性の一つとして考えられる。しかし性別以外の要因がある可能性も残される。この相関の理由を明らかにするためにどのような調査、質問が有用であるのかはさらなる検討や実験が必要に思われる。

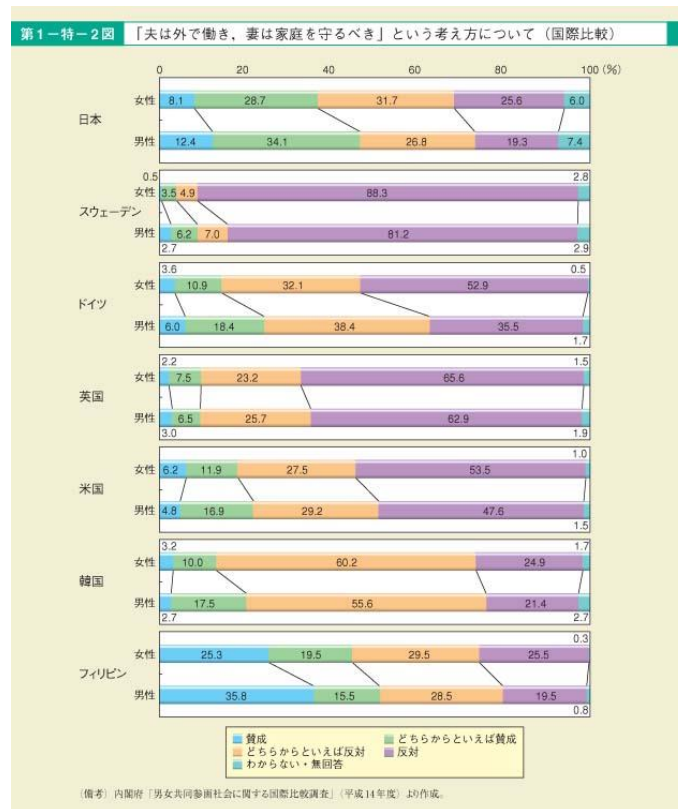
以上より、性役割意識と呪術に関する項目は性別と相関が出て、相関が出たものの間には相関がないだろうという仮説は性役割意識を除き誤りであったことがしめされた。男女間に認識の差があるだろうとはよく言われることだが、感覚的にとらえられることも多く、わかりやすくあらわれるものではないこともある。男女での認識の差がどのような点であらわれるのかを具体的に明らかにできたことは意義があっただろう。しかし性別と相関が出た要因や、それらの項目間の相関の原因の解明にはさらなる調査、分析が必要だ。

権威主義的態度と性役割意識の相関

平手 千賀

1. はじめに

「女性が輝く日本」アベノミクスの3本の矢の3本目である「成長戦略」の中で、女性の社会進出がこのように課題として挙げられている。しかし、女性の社会進出が進んでいるとはいえ、2017年には日本のジェンダー・ギャップ指数は144カ国中114位と過去最低を記録した。女性議員の少なさや男女の収入格差が大きな要因となっている。また、下のグラフ1を見ると、世界の中でも日本人の性役割意識は強いことが分かる。性役割意識には生物学的なものや歴史的なものなど様々な要因がある。歴史的に見てみると、武家社会において戦乱で男性が活躍するようになり、男性の地位が上がっていったということが一因と考えられている。これは、職業上男性が強い権威を持っていたということである。すなわち、性役割意識の根源には、男性が権威を持っていると感じているということがあるのではないか。そこから男性に従うべきであるという考えに至り、性役割意識へと繋がっているのではないだろうか。そこで今回は、「権威主義的態度が強いほど、性役割意識を強く持つ」という仮説を立て、権威主義的態度と性役割意識の相関について検証した。



グラフ1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について
（国際比較）

出典：平成19年度版男女共同参画白書

2. 方法

まず、権威主義的態度に関しての尺度について考えてみる。権威主義的態度に関しては、以下の4つの質問に対して、「賛成」「どちらかと言えば賛成」「どちらともいえない」「どちらかと言えば反対」「反対」の5点尺度で尋ねた。

Q5⑥ 伝統を守っていれば、問題は起こらない。

Q5⑦ どんな状況でも、法律には従わなければならない。

Q5⑧ 自分より権力のある人には従わなければならない。

Q5⑨ この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである。

これらの相関行列は以下の表 1 である。

表 1 権威主義的態度に関する相関行列

	伝統	法律	権力	指導者
伝統	1	.137	.377	.408
法律	.137	1	.375	.205
権力	.377	.375	1	.499
指導者	.408	.205	.499	1

この相関行列についての主成分分析の結果が以下の図 1 である。第 2 主成分までの累積説明率は 73.406%で、第 1～第 3 主成分の初期固有値は、2.033、0.904、0.600 であった。

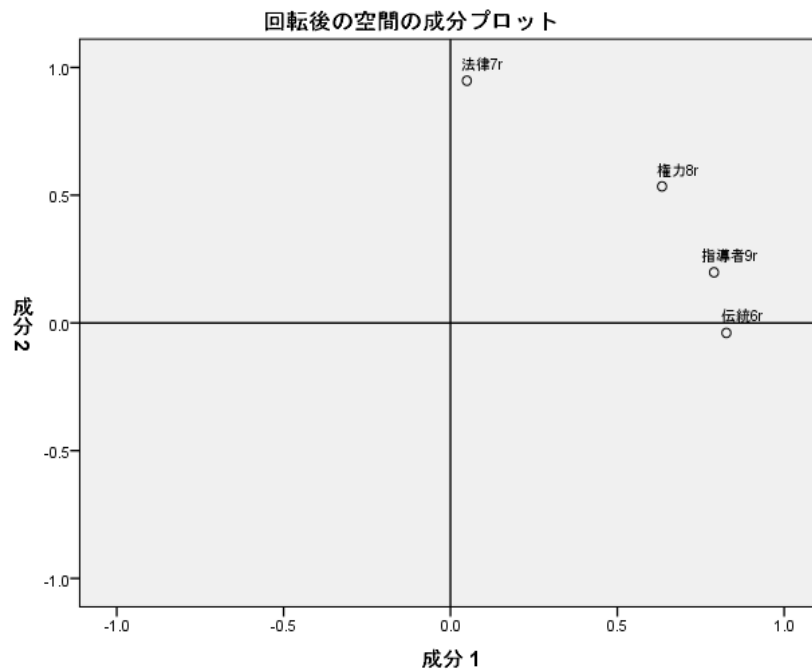


図 1 主成分分析の結果

上の結果から、Q5⑥～Q5⑨のうち Q5⑦のみ比較的相関が弱いことが分かる。以上より、権威主義的態度に関しては、Q5⑥、Q5⑧、Q5⑨に対する回答を反転させ、足し合わせたものを尺度として用いる。足し合わせた権威主義的態度の最小値は3、最大値は15で、以下の図2のような分布である（数値が大きいほど権威主義的態度が強い）。

平均値...6.1783 標準偏差...2.29934

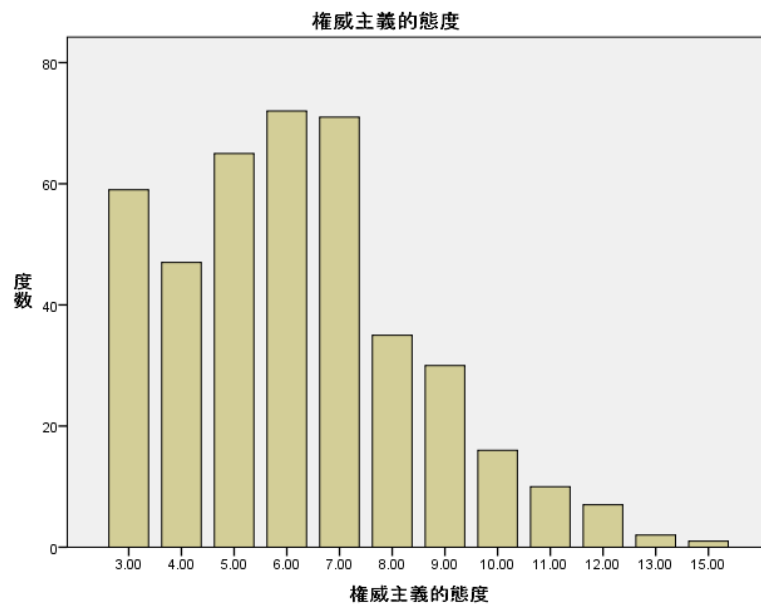


図 2 権威主義的態度の度数分布

次に、性役割意識についての尺度について考えてみよう。性役割意識に関しては、以下の 4 つの質問に対して、「賛成」「どちらかと言えば賛成」「どちらともいえない」「どちらかと言えば反対」「反対」の 5 点尺度で尋ねた。

Q5① 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ。

Q5② 概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける。

Q5③ 夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事を持たない方がよい。

Q5④ 男性は「育児休業制度」を積極的に利用した方がよい。

Q5⑤ 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している。

これらの相関行列は以下の表 2 である。

表 2 性役割意識に関する相関行列

	家庭	フルタイム	収入	指導者	政治指導者
家庭	1	.545	.623	.178	.430
フルタイム	.545	1	.575	.092	.360
収入	.623	.575	1	.112	.351
育児休業	.178	.092	.112	1	.206
政治指導者	.430	.360	.351	.206	1

この相関行列についての主成分分析の結果が以下の図 3 である。第 2 主成分までの累積説明率は 70.029% で、第 1～第 3 主成分の初期固有値は、2.514、0.988、0.674 であった。

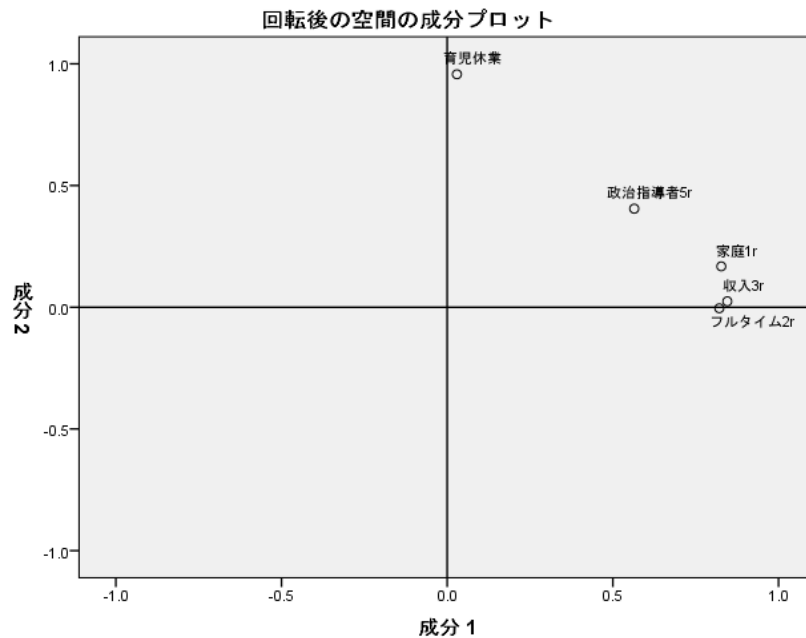


図 3 主成分分析の結果

上の結果から、Q5①～Q5⑤のうち Q5①～Q5③の 3 つの質問に対する回答の相関が

比較的強いことが分かる。以上より、性役割意識に関しては、Q5①～Q5③に対する回答を反転させ、足し合わせたものを尺度として用いる。足し合わせた性役割意識の最小値は 3、最大値は 15 で、以下の図 4 のような分布である（数値が大きいほど性役割意識が強い）。

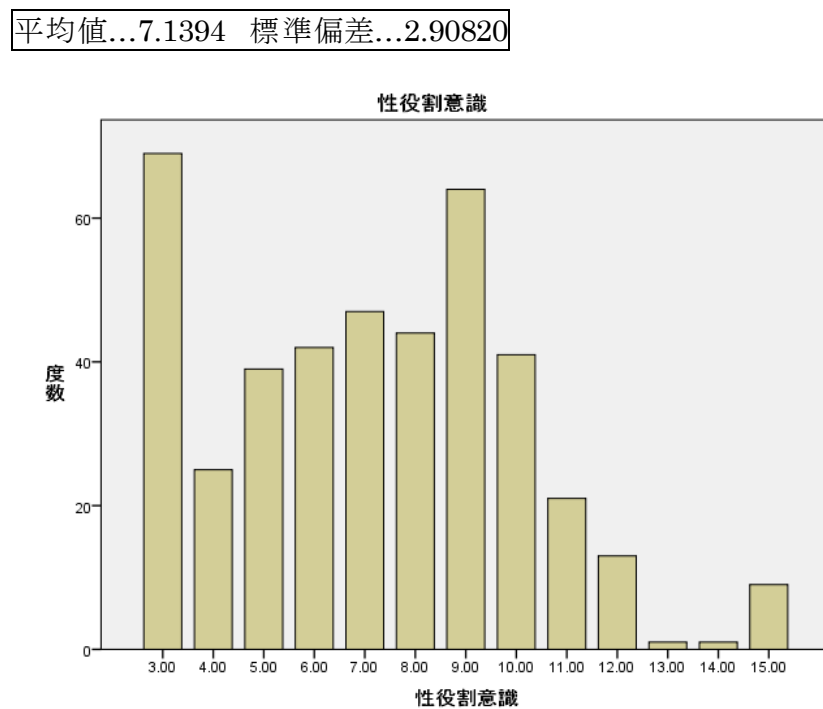


図 4 性役割意識の度数分布

3. 分析

3-1. 権威主義的態度と性役割意識の相関関係

上記の尺度を用いて、権威主義的態度と性役割意識の間の相関関係があるという仮説を検証した結果が以下の図 5 であり、相関係数は 0.367 であった。図 5 を見ると、多少の上下はあるものの、全体的には右上がりのグラフになっている。すなわち、権威主義的態度が強いほど性役割意識も強まることが分かる。なお、権威主義的態度の数値が

13.00 や 15.00 の場合に関しては、データのサンプルが少ないため、統計的に正確な結果とは言い難い。

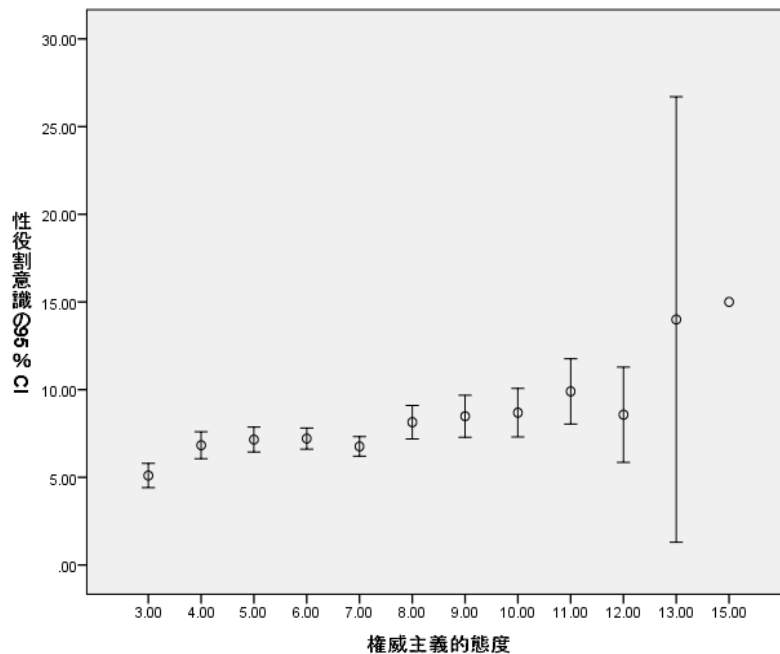


図5 権威主義的態度と性役割意識の相関

3-2. 性別ごとの権威主義的態度と性役割意識の相関関係

次に、上と同様に権威主義的態度と性役割意識の相関を性別ごとに検証してみた。その結果が以下の図6、図7である。男性の場合の相関係数は0.392、女性の場合は0.293であった。これより、女性に比べ男性のほうが権威主義的態度と性役割意識の相関が強いことが分かる。図6の男性のグラフを見ると、かなり全体でのグラフ（図5）に近い相関を持っていることが分かる。図7の女性のグラフを見てみると、エラーバーの95%信頼区間がほぼ重なっているため、あまり相関があるとは言えない（権威主義的態度の数値が10以上の場合はデータのサンプルが少ないため、有用な結果とは言い難い）。

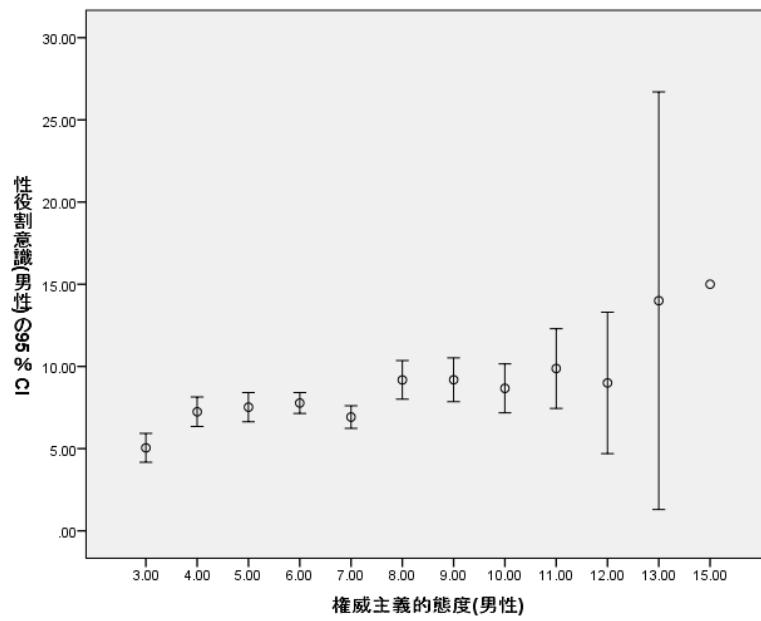


図6 権威主義的態度と性役割意識の相関（男性）

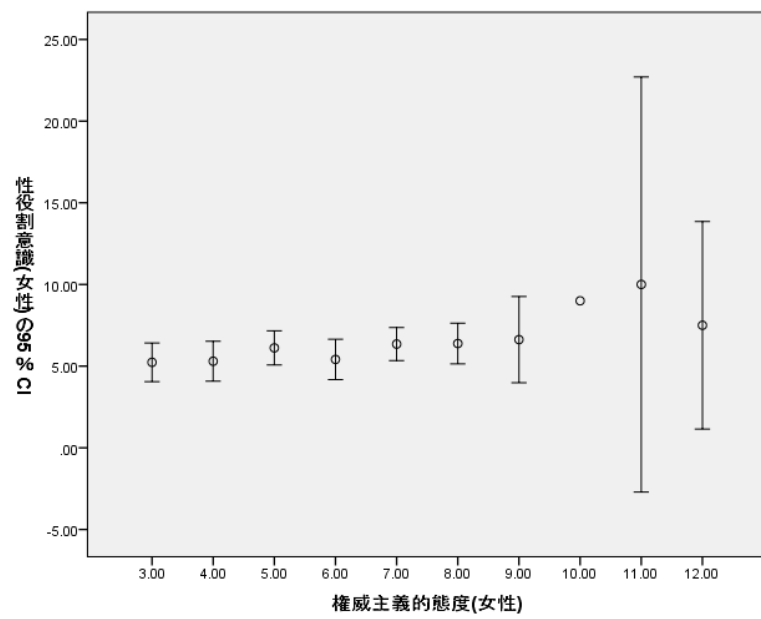


図7 権威主義的態度と性役割意識の相関（女性）

4. 考察

今回は「権威主義的態度が強いほど、性役割意識を強く持つ」という仮説を立て、アンケートのデータを元に検証した。その結果、京都大学の学生の権威主義的態度と性役割意識には相関関係があることが明らかになった。しかし、男女別の検証においては、男性より女性のほうが相関が小さく、女性に関してはあまり相関関係があるとは言えなかった。これは、男性が権威を持っていると感じていることが性役割意識の根源にあるのではないかというそもそもの仮説の根本を揺るがしかねない。この結果の要因を考えると、まず母集団が京都大学の学生に限られているということもあり、比較的女性の性役割意識が弱かったのではないかということが推測される。また、年代の偏りも大きい。他の要因としては、女性よりも男性の方が、男性が権威を持っていると感じている可能性もあるのではないだろうか。

今後の展望としては、まずより幅広い母集団の分析を行いたい。それに際して、権威主義的態度と性役割意識を測る尺度について見直しを行うべきである。加えて、男性が権威を持っていると感じているかどうかに関しても調査する余地がある。また、性役割意識に影響を与える他の要因についての検証も有意であると考えられる。

文献

内閣府男女共同参画局「男女共同参画に関する国際的な指数」

(http://www.gender.go.jp/international/int_syogaikoku/int_shihyo/index.html,

2018.1.20)

内閣府男女共同参画局「平成19年版男女共同参画白書」

(http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h19/zentai/danjyo/html/zuhyo/fig01_00_02.html,2018.1.20)

性役割分業意識と性別、政治的態度の関連

鈴木 かな

1. はじめに

近年、女性の社会進出、ライフスタイルの多様化が注目される一方で、若年層では性役割分業を肯定するなど伝統意識が復活、保守化の進行が最近の研究によって示されている（山田,2009）。雇用状況の厳しさが影響を及ぼしていると言われるが、他にも様々な社会的要因が複合的に絡み合っていることが推測される。中井（2000）による女子学生におけるライフコース観や性役割分業意識の研究により、性別役割分業を支持する人ほど女性の社会進出には消極的である傾向や、性別役割分業と女性性の内面化は強い正の関連をもち、性別分業を支持する人は控えめな態度を受容することが示されている。しかし、大学生、特に女子学生における総合職就職割合の高い、国公立や上位私立と呼ばれる四年制の大学に在籍する学生男女に特化した研究は見当たらなかった。今後当事者となりうる層に焦点を当てて比較を行うところに、本調査の意義があると言える。

本稿では、従属変数を性役割分業意識、独立変数を性別および安倍内閣支持度とし、性役割分業意識と性別、安倍内閣支持度との間にある相関の有無や強さを調べることでより京大生の性役割分業意識の背景にあるものを考察する。

また、分析に先立って、性役割分業意識と性別の間、性役割分業意識と安倍内閣支持度との間にはいずれも相関が見られるが、性別の方がより性役割分業意識を強く決定づけるという仮説を立てて検証を行う。苦米地（2012）によると、母親が主婦である場合に子どもの教育達成が高くなることが示されている。京大生は非常に高い教育を達成していると言え、彼らの家庭背景としては父親が働き、母親は主婦という性役割分業モデ

ルが比較的多いと推測できる。一方で、国立の四年制大学に通う女子学生はキャリア志向が強いため、男女差が大きく開くのではないかと考えた。

2. 調査方法

調査は 2017 年 10 月下旬に、京都大学の学生を対象に実施した。講義終了時に調査票を配布し、退室時に回収を行う形式をとった。

主に全学共通科目の講義で調査を実施したため、回答者は学部 1、2 回生が中心となるが、調査票では学年を尋ねる項目は設けていないため詳細な内訳は不明である。

2-1. 従属変数

性役割分業意識については以下の質問項目を用い、賛成、どちらかといえば賛成、どちらとも言えない、どちらかと言えば反対、反対の 5 点尺度で尋ねた。

1. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ。(q5x1)
2. 概して、女性が外で働いていると、家庭はその悪影響を受ける。(q5x2)
3. 夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事を持たないほうがよい。(q5x3)
4. 男性は「育児休業制度」を積極的に利用したほうがよい。(q5x4)

1~3 は賛成が性役割分業に肯定的、4 は賛成が否定的な立場となるため、1~3 の値が反転するように置き換えた変数を作成した。

これらの変数の相関行列は以下表 1 の通りである。

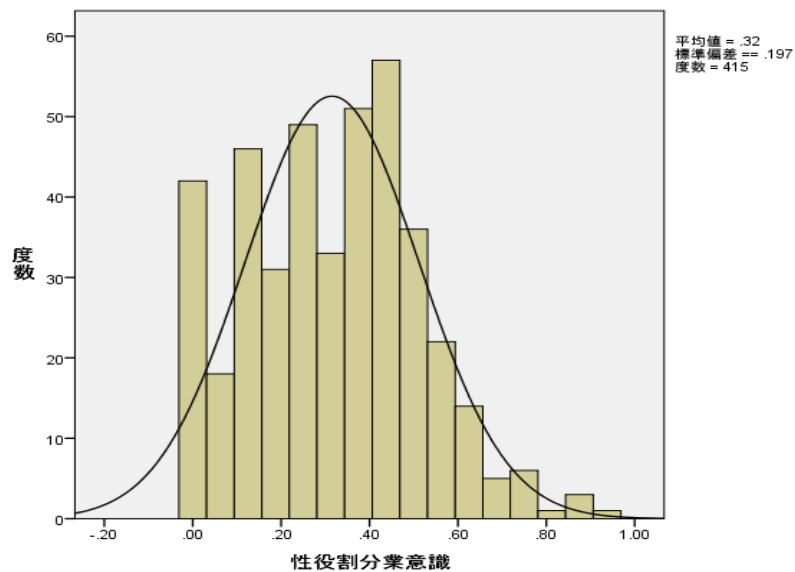
表 1 性役割分業意識の相関係数

	夫は働き、 妻は家族を 守るべきだ	女性がフルタ イムで働くと 家庭は悪影響 を受ける	夫に十分な収入 があるなら妻は 働かないほうが よい	男性は育休を 利用すべき
夫は働き、妻は家族 を守るべきだ	1	.545**	.623**	.178**
女性がフルタイムで 働くと家庭は悪影響 を受ける	.545**	1	.575**	.092
夫に十分な収入があ るなら妻は働かない ほうがよい	.623**	.575**	1	.112*
男性は育休を利用す べき	.178**	.092	.112*	1
**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）。				
*. 相関係数は 5% 水準で有意（両側）。				

表 1 によると、概ねすべての変数の間に正の相関が見られるが、2（女性のフルタイム勤務と家庭への影響）と 4（男性の育休取得）の間には有意な相関は見られなかった。

次に、これら 4 つの変数を足しあわせた。この状態の最大値は 20、最小値は 4 だが、ここにさらに正の一次変換を施し最大値 1、最小値 0 となる新たな変数（性役割分業意識）を作成した。グラフ 1 のヒストグラムに示したものが性役割分業意識の分布であ

る。平均値は 0.32 であり、全体としては性役割分業に否定的な傾向が読み取れる。左に偏っているのは 4 項目すべてについて最低値をつける、性役割分業に対し非常に否定的な立場を示した回答が一定数存在したためである。



グラフ 1 性役割分業意識の分布

2-2. 独立変数

安倍内閣支持度については、「あなたは安倍内閣を支持していますか」という質問項目に対して「かなり支持している」「やや支持している」「あまり支持していない」「ほとんど支持していない」の 4 点尺度で回答を求めた。回答の内訳は下の表 2 に示した通りである。「やや支持している」という回答が 53.5% を占め、中央値もここであった。「かなり支持している」「やや支持している」を合わせると安倍内閣支持の割合は約 6 割と、世論調査の内閣支持率を大きく上回った。

表 2 安倍内閣への支持度の度数分布

	度数	有効パーセント
かなり支持している	26	6.4
やや支持している	219	53.5
あまり支持していない	102	24.9
ほとんど支持していない	62	15.2
合計	409	100

また、独立変数として性別・内閣支持度を組み合わせた新しい変数を作成した。内閣支持率は「かなり支持している」と「やや支持している」を足して「支持」、「あまり支持していない」と「ほとんど支持していない」を足して「不支持」となるように変換した。これを性別と合わせて「男性・支持」「男性・不支持」「女性・支持」「女性・不支持」とした。

表 3 性別・内閣支持度の度数分布

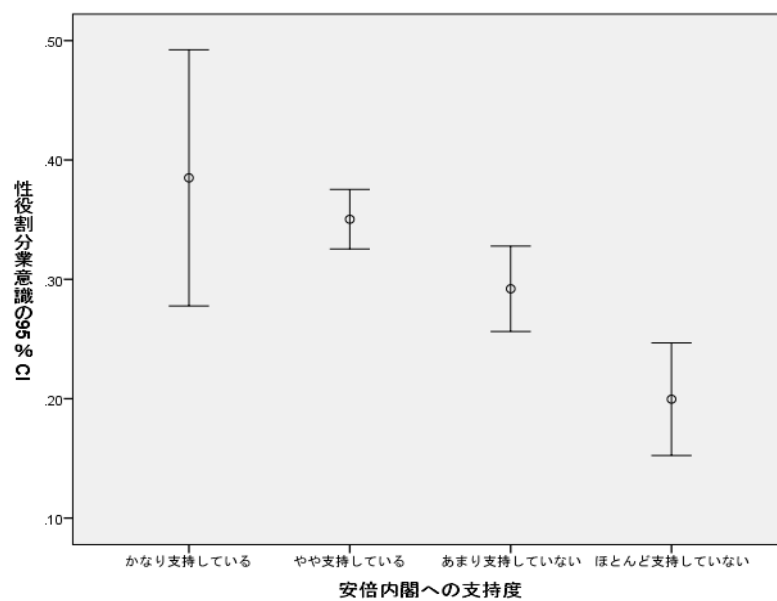
	度数	有効パーセント
男性・支持	198	48.4
男性・不支持	106	25.9
女性・支持	47	11.5
女性・不支持	58	14.2

合計	409	100
----	-----	-----

3. 調査結果

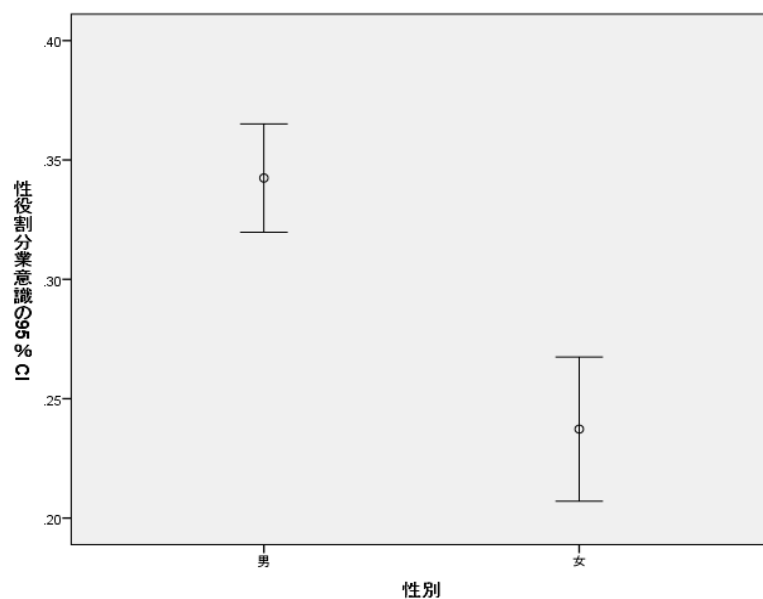
グラフ 2、3 はそれぞれ安倍内閣支持度別の性役割分業意識の平均値、性別ごとの性役割分業意識の平均値をエラーバーによって示したものである。グラフ 2 からは、安倍内閣支持度が高いほど性役割分業意識が強いことがわかる。ただ、最も平均値が高い安倍内閣を「かなり支持している」と回答した集団でも平均値は 0.5 を越えていなかった。

また、グラフ 3 より男性が女性よりも平均値が 0.1 高いことが示された。



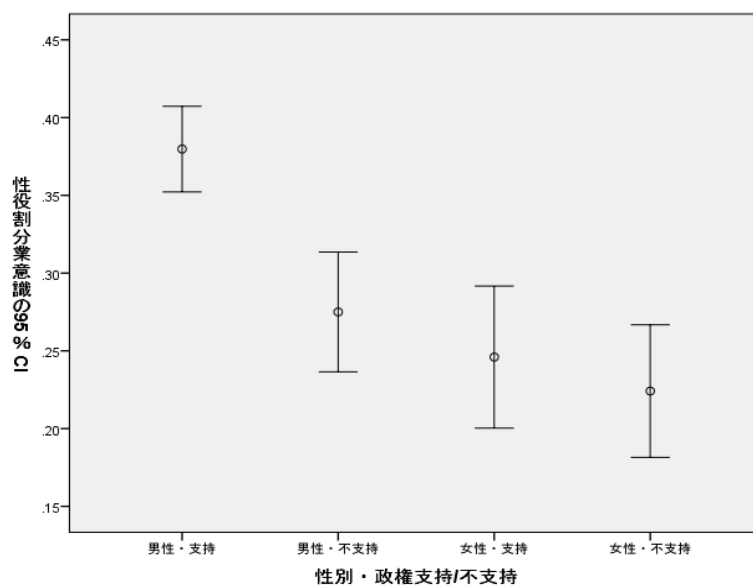
グラフ 2 安倍内閣支持度別の性役割分業意識の平均値

(エラーバーは 95%信頼区間)



グラフ 3 性別ごとの性役割分業意識の平均値（エラーバーは 95%信頼区間）

続いて、性別・内閣支持度を組み合わせた変数との相関および平均値を調べたのがグラフ 4 である。男性・不支持の平均値と女性・支持の平均値を比較すると、前者の方が値が大きいことがわかった。



グラフ 4 性別・内閣支持度別の性役割分業意識の平均値

4. 議論・考察

分析の結果、仮説を裏付ける結果が出たと言える。性別、安倍内閣支持・不支持で分けて見た性役割意識について安倍内閣を支持しないと回答した男子学生の性役割意識の平均値が、安倍内閣を支持すると回答した女子学生のそれを上回った。このことから、京大の学生にとって性役割意識を決定づけるのは政治的立場というよりもむしろ、性別による影響が大きいことがわかった。ただし、この調査でサンプルとしているのは一般に高学歴と呼ばれる層であり、必ずしも大学生や日本の若年層全体の傾向とは一致しないことに注意したい。

また、安倍政権は女性活躍推進政策や野田聖子大臣による女性向け政治塾の設立構想など、安倍内閣支持=保守態度とすることは必ずしも正確ではない。それは全体を通しての性役割意識の数値の低さにも見られた。とは言ってもやはり一定の相関があり傾向を読み取ることができたが、冒頭で述べたような大学生の保守化との傾向をより詳しく見るとすれば、保革自己認知を測る内閣支持以外の尺度の採用と、継続的な調査が必要になるだろう。

文献

- 苫米地なつ帆（2012）『教育達成の規定要因としての家族・きょうだい構成』社会学年報 41 巻 p. 103-114 東北社会学会
- 中井美樹（2000）『若者の性役割観の構造とライフコース観および結婚観』立命館産業社会論集 36（3） p.117-126 立命館大学産業社会学会

- 稲増一憲,三浦麻子（2015）『オンライン調査を用いた「大学生の保守化」の検証』関西学院大学社会学部紀要 p53-63
- 宮木由紀子（2014）『日本の男性の子育てを考える』Life Design Report Autumn 第一生命経済研究所ライフデザイン研究本部
- 脇坂明（2001）『高学歴女性の就業の研究』学習院大学経済経営研究所年報 15 p.35-83 学習院大学
- 山田昌弘（2009）『なぜ若者は保守化するか』東洋経済新報社

第 4 章

文理間の比較分析

学問の信頼感におけるジェンダー差と文理差について

—京大生へのアンケート調査に基づいて—

王 毅青

1. はじめに

日本の高等教育水準は、世界では上位に位置付けられている（文部科学省、2009）。そのうち特に理系教育が世界的な水準を保持し、大量の理系人材の育成に成功してきた。そのような努力の結果として、多くのノーベル賞受賞者が生み出された。特に2000年以降はノーベル賞受賞ラッシュに沸き、そのうち日本の大学出身者合計18人が受賞した。しかし、受賞者は自然科学に関する学者であり、文学賞、経済学賞と平和賞を受賞した日本人はおらず、また女性でノーベル賞を受賞した日本人もいない（2000年以降）。このような現状は日本の理系教育を肯定した一方、文系教育の貧弱さが明らかになった。

元々、日本における文系科学と理系科学への態度差はノーベル賞受賞で表されただけではない。戦後の大学政策は一貫して「文系軽視」を行っており、大学への投資にも、理系教育に投資を優先してきたあおりで、文系に対する投資は数十年にわたって貧弱な状態が続いている（吉見、2016）。さらに、経済発展と技術革新に「役に立つ」理系が重視され、「役に立たない」文系が軽視される社会風潮が、日増しに強固になっていく保守的な安倍政権に伴い、社会のいたる所に蔓延した。一方、文系と理系における差別視はそれ自体の重要性についてだけでなく、男女差別にも関わっている。大学進学率が高いレベルで安定している今の時代において、女性の大学進学率がだんだん男性のそれに近付いていくなかで、文理差別が際立つ。2016年の「学校基本調査」によると、「理学」、「工学」、「農学」と「医学」という理系科学における女性の比率は34.3%であり、

そのほかの文系科学における女性の比率は60%以上であった。しかも、このような文理別の男女格差は大学から形成されたのではなく、小学校のすでに早い段階で形成されている。それに、この「女子＝文系，男子＝理系」というジェンダー秩序は、学年の進捗とともに強化され、中学時代では明確的な有意差が現れてくる（伊佐・知念、2014）。

以上の格差に基づいて、高等教育を受けている人は文系科学と理系科学にどのような眼差しを向けているのか、また、その認識は自分自身の所属と性別に関わっているのか、それらの問題を解明するのが本レポートの目的である。よって、本稿では以下の仮説を立てる。

1. 文系科学と理系科学への態度は自分自身の所属（文系と理系）によって異なる。文系所属の人が理系所属の人より文系科学を重視する傾向がある。逆に理系の人が文系の人より理系科学を重視する。

2. 文系科学と理系科学への態度は性別によって異なる。女子が文系、男子が理系を重視する傾向が予測できる。

なお、文系科学における信頼感は個人の保革イデオロギーと相関している（太郎丸、2016）ため、今回の分析は保革自己認識をコントロールし、さらに権威主義的態度もコントロール変数に加えてから、性別と所属と学問の信頼感の関連性をさらに検討しようとする。

2. データと変数

2-1. データ

今回使ったデータは京都大学の学部生及び院生を対象として行った「科学と政治に関する意識調査」から得られたものであった。有効サンプルサイズは424であった。

2-2. 従属変数

学問に対する肯定度について、まず主成分分析を用いて以下6つの学問分野を分類した。この質問に対して、1を「そう思う」から5を「そう思わない」までの5点尺度で尋ねた。

Q2x1 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援すべきである。

Q2 x 2 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。

Q2 x 3 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。

Q2 x 4 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。

Q2 x 5 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。

Q2 x 6 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

主成分分析の結果が図1の通りである。

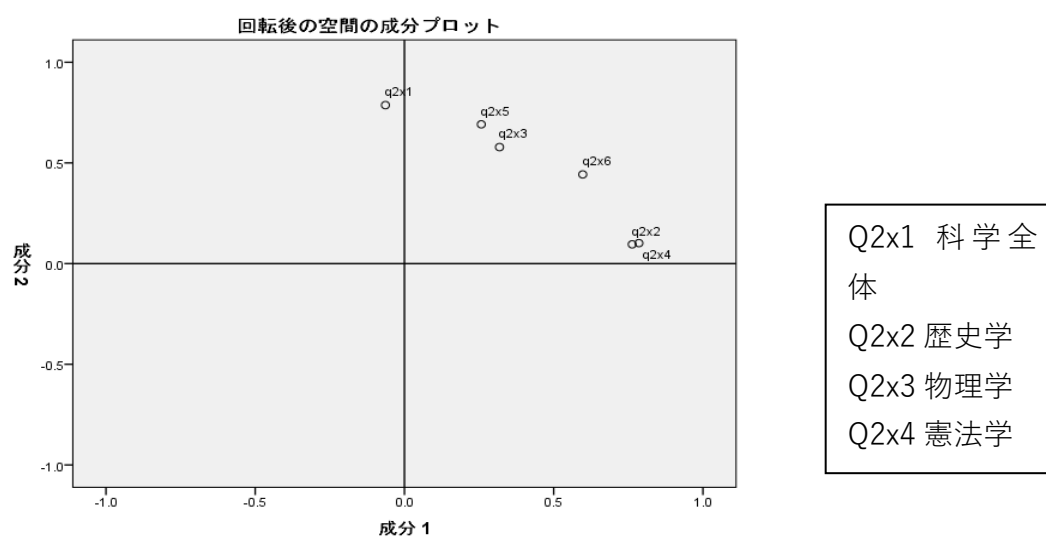


図1 学問観における主成分分析の結果（バリマックス回転後）

主成分分析の結果を見てみよう。2次元の結果を見ると、第2主成分までの累積説明率は56.25%で、第1～第3主成分の初期固有値は、2.42, 0.96, 0.86であった。また、Q2x2（歴史学）とQ2x4（憲法学）が近く、その他の変数とは離れているのが分かる。そこで、この2つの変数を反転させて足し合わせた新たな変数を作成し、「文系科学」とした。Q2x6（文学）は、文系学問であるにも関わらず、ほかの文系学問にも理系学問にも離れている。よって、今回の分析は文学独自を一つのパラメータとする。一方、Q2x3（物理学）とQ2x5（数学）が1つのグループになったことが分かる。故に、本稿では、「理系科学」として、物理学と数学を反転させて足し合わせた新たな変数を用いることにする。以上の変数をまとめた結果は表1に示した。いずれも点数が高いほどその学問に対する信頼感が高いことを表す。

表1 学問における記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
文系科学	421	2	10	7.9596	1.67497
理系科学	423	2	10	8.3262	1.55086
文学	424	1	5	3.9175	1.08733

注) 有効サンプルサイズ=421

2-3. 独立変数

今回使っていた独立変数は、アンケート回答者自身の性別と学部所属である。学部所属について、今回は文学部、教育学部、法学部、経済学部とそれぞれの研究科に所属する人数を足し合わせて、「文系」という新しい変数を作った。その他の学部と研究科に所属する人は「理系ほか」というパラメータに入れた（1＝文系、2＝理系ほか）。そして、もう1つの独立変数は性別（1＝男性、2＝女性）である。学部所属と性別のクロス

表は表2に示した。

表2 学部別と性別のクロス表

	男	女	合計
文系	115	72	187
	0.615	0.385	1
理系ほか	197	38	235
	0.838	0.162	1
合計	312	110	422
	0.739	0.261	1

表2を見ると、今回の回答者の構成は男性73.9%、女性26.1%ということが分かった。一方、2014年から2017年までの京都大学の学部入学状況をみれば、学部入学の女子比率は23.6%、23.4%、22.7%、23.1%であった⁴。つまり、今回のサンプルサイズにおける性別構成割合が学校全体を代表することができる。

2-4. コントロール変数

偏相関分析を行うため、性別と所属以外の要因をコントロールすることが不可欠である。今回は権威主義的態度と保革自己認識を使う。まず、以下の権威主義的態度を測定する4変数（5点尺度）の相関関係を理解するため、主成分分析を行う。質問項目は以下の4つであった。この質問に対して、1を「そう思う」から5を「そう思わない」までの5点尺度で尋ねた。

Q5 x 6 伝統を守っていれば、問題は起こらない。

Q5 x 7 どんな状況でも法律には従わなければならない。

⁴ この数値は京都大学の学部入学状況によって算出されたものである。詳しくは <http://www.kyoto-u.ac.jp/ia/about/data/admissio> に参照。今回の回答者には大学院生が少ないため、それが性別構成割合に与える影響を無視することができる。

Q5 x 8 自分より権力のある人には従わなければならない。

Q5 x 9 この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである。

次に、主成分分析を用いて権威主義的態度について変数の相関関係を分析した。2次元の結果を図示したのが以下の図2である。第2主成分までの累積説明率は73.41%で、第1～第1主成分の初期固有値は、2.03, 0.90, 0.60であった。

図2を見ると、Q5x6（伝統を守る）, Q5x8（権力者に従う）とQ5x9（指導者に頼む）との相関関係が相対的に大きくて、1つのグループを形成した、それに対して、Q5x7（法律に従う）がそのほかの質問から離れて、特に関係ないということを示された。よって、今回はQ5x7を除いて、ほかの3つの質問項目を反転させて足し合わせた変数を「権威主義的態度」とした。新しい変数は最小値3、最大値15の変数になり、点数が高いほど権威主義的態度が強くなる傾向を表す。

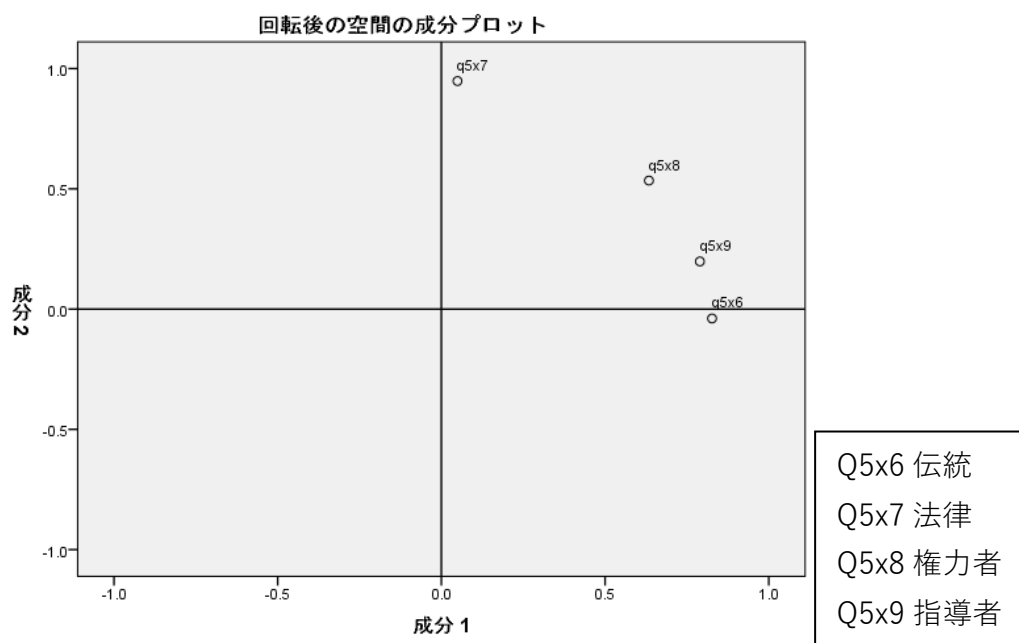


図2 権威主義における主成分分析の結果（バリマックス回転後）

最後に、保革自己認識の尺度を測定するため、今回は「あなたは安倍内閣を支持していますか。」という質問に対して「1 かなり支持している」から「4 ほとんど支持していない」までの4点尺度を用いて、その質問に対する回答を反転させたものを用いる。つまり、得点が高いほど、安倍内閣を支持する傾向が強い。すなわち保守的傾向が強いことを表す。以上の独立変数とコントロール変数をまとめた結果は表3のようになった。

表3 独立変数及びコントロール変数の記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
権威主義	415	3	15	6.18	2.3
安倍内閣態度	409	1	4	2.51	0.83
性別					
男性	312 (0.74)				
女性	110 (0.26)				
学部別					
文系	187 (0.44)				
理系	235 (0.56)				

注) 有効なケースの数=404

3. 結果

3-1. 男女別学問に対する信頼感の性差

まず、表1から文系科学と理系科学への全体的信頼度を見てみよう。この表によれば、理系科学への信頼感の平均得点は8.2362である。一方、文系科学に対する信頼感の平均値は7.9596なので、全体的には理系科学への信頼感が高いということが分かった。さらに、各学問に対する信頼感における男女と所属の差異を比較するため、変数の値を揃える必要がある。よって、今回は「文系科学」、「理系科学」と「文学」という3つのパラメータをすべて標準化する。まずは男女で文系科学、理系科学と文学に対する態度に

差があるかを検討した。男女別の平均値を以下の図3、図4、図5に示した。

「文系科学」及び「文学」の平均値は女性のほうが男性より高く、男女の95%信頼区間は重なっていなかった。よって男女の平均値には統計的に有意な差があると言えるし、女性は男性より文系科学と文学に対する信頼感が高かった。

それに対して、「理系科学」の平均値は男性より女性のほうが高かったものの、男女の95%信頼区間が重なっており、有意な差があるとは言えない。

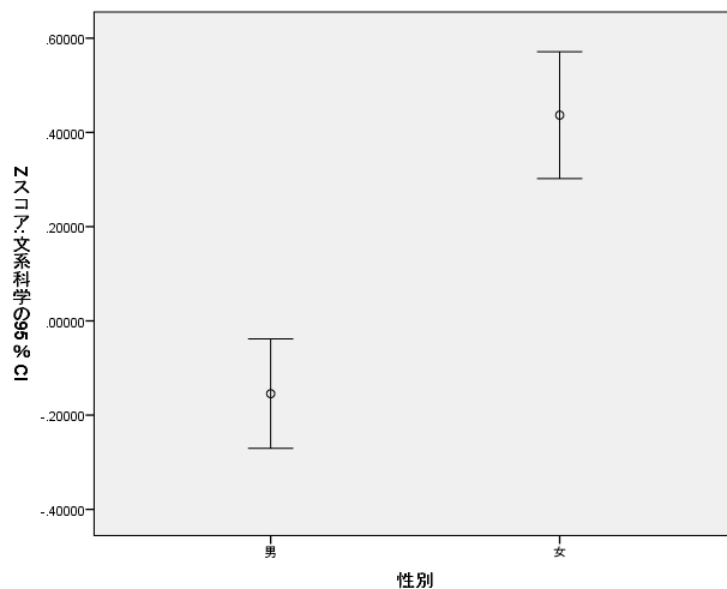


図3 「文系科学」の男女別の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

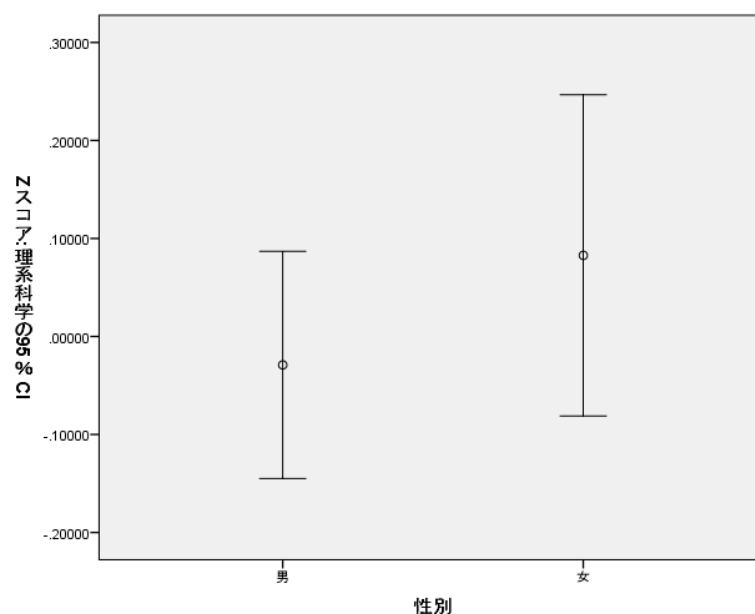


図4 「理系科学」の男女別の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

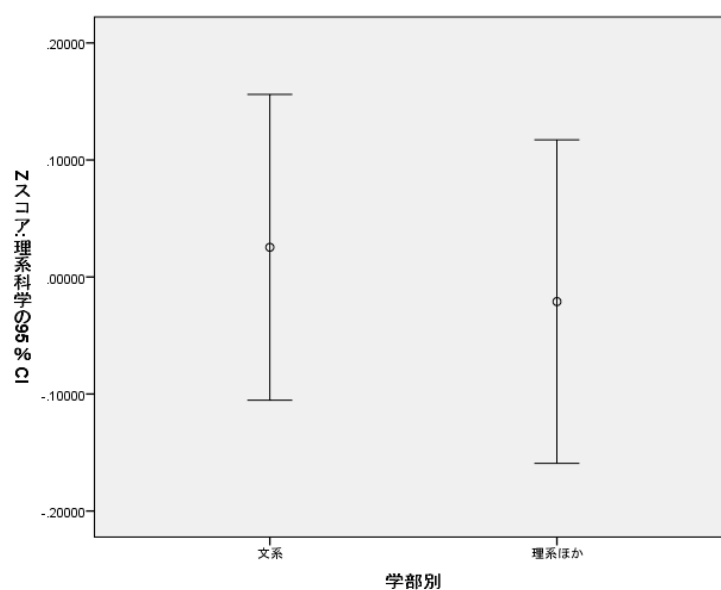


図5 「文学」の男女別の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

3-2. 所属別学問に対する信頼感の性差

次に、回答者の所属（文系、理系）で学問に対する信頼感に差があるかを検討した。「文系科学」、「理系科学」、「文学」の所属別の平均値を図6、図7、図8に示した。いずれの分野においても、文系に所属する人が理系の人より学問の信頼感がたかかつ

た。しかし、「理系科学」に対して、所属の95%信頼区間が重なっているため、有意の差があるとは言えない。

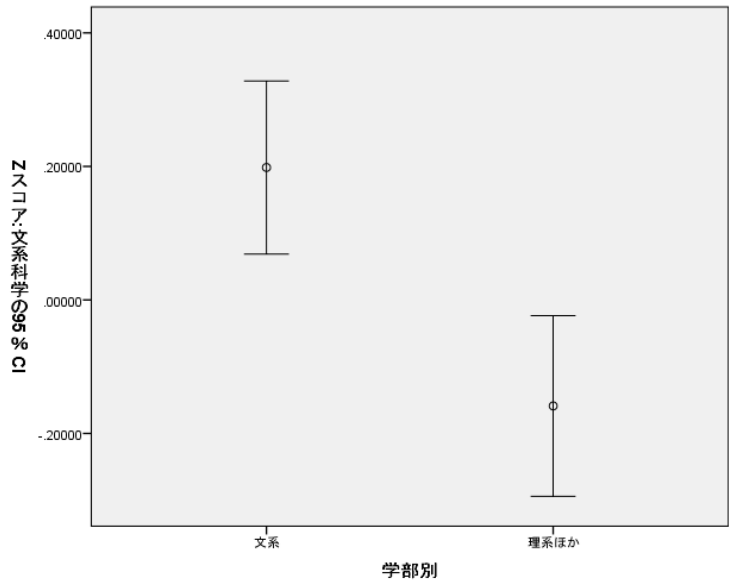


図6 「文系科学」の男女別の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

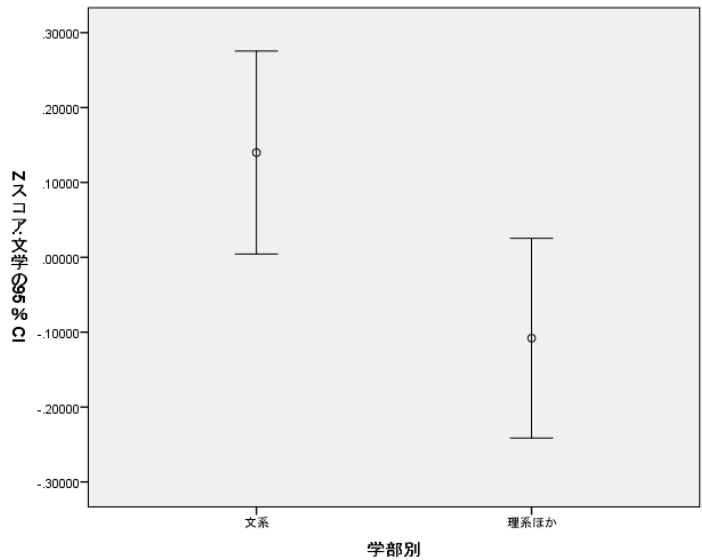


図7 「理系科学」の男女別の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

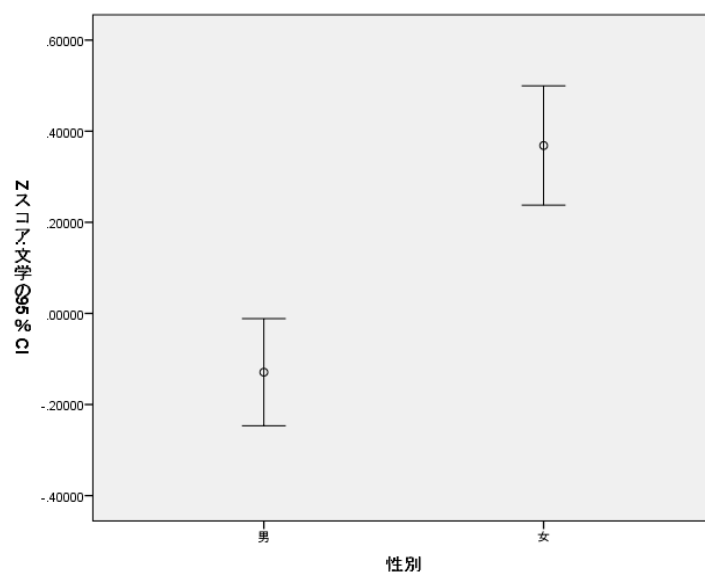


図8 「文学」の男女別の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

3-3. 男女別・所属別と学問に対する信頼感の関連性

以上の分析を踏まえて、女子が男子より文系科学と文学を重視する傾向があるということが分かった。そして、文系に所属する人が理系に所属する人より文系科学と文学を重視することも示された。しかし、理系科学の信頼感に対して、性別と所属による有意差が見られなかった。仮説を検証するため、上にあげた変数を用いて、さらに権威主義的態度と保革自己認識を加えて、その間の相関を調べた。結果は以下の表4のようになった。

表4 学問に対する信頼感と性別、所属、権威主義、保革自己認識の相関行列

	文系科学	理系科学	文学
性別	0.260**	0.049	0.218**
所属別	-0.177**	-0.023	-0.123*
権威主義	-0.121*	-0.170**	-0.106*
保革自己認識	-0.196**	-0.023	-0.134**

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)
 * 相関係数は 5% 水準で有意 (両側)

結果を見ると、性別と文系科学 (0.260) 及び文学 (0.218) の相関は相対的に高いことが分かる。つまり、女性が男性より文系科学と文学を重視することが証明された。それに対して、理系の方がより文系科学 (-0.177) と文学(-0.106)を軽視することも分かった。しかしその関連性は性別より弱かった。一方、権威主義的態度と保革自己認識も学問に対する信頼感にも有意な相関が見られた。疑似相関を防止するため、この2つの変数をコントロールして、さらに偏相関を求める。計算した結果が表5である。

表5 学問に対する信頼感と性別、所属の相関行列 (権威主義、保革自己認識制御)

	文系科学	理系科学	文学
性別	0.236**	0.051	0.192**
所属別	-0.159**	-0.031	-0.114*

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)
 * 相関係数は 5% 水準で有意 (両側)

結果を見ると、権威主義的態度と保革自己認識をコントロールされたとしても、相関係数と有意確率はあまり変わらなかった。

さらに、所属と性別との交互効果を明らかにするために、回答者を「文系男子」、「文系女子」、「理系男子」、「理系女子」に分けて、学問観との相関係数を計算した。その結果が表6である。

表6 性別・所属と学問に対する信頼感の相関行列（権威主義、保革自己認識制御）

	文系科学	理系科学	文学
文系男子	0.025	0.006	0.008
文系女子	0.176**	0.03	0.142**
理系ほか男子	-0.234**	-0.054	-0.174**
理系ほか女子	0.127*	0.036	0.107**

** 相関係数は 1% 水準で有意（両側）

* 相関係数は 5% 水準で有意（両側）

女子は文系や理系に関わらず、文系科学と文学との間に正の相関関係がみられる。それに対して、理系男子は文系科学と文学の間には、負の関係が認められたが、文系男子の場合には有意な関係が見られなかった。

4. まとめ

本稿では、京都大学の学生の性別と文理所属と学問に対する信頼感との相関関係を検証した。その際の仮説を「文系所属の人が理系所属の人より文系科学を重視する傾向がある。逆に理系の人が文系の人より理系科学を重視する」と「女子が文系、男子が理系を重視する傾向がある」と設定した。分析の結果、文系の人と女子は理系の人と男子より文系の学問（文系科学と文学）を重視することが分かったが、理系の学問に対してそういう差異が見られなかった。しかも権威主義の態度と保革自己認識が制御されても、その相関関係は変わらなかった。所属と性別をさらに分析すると、回答者の所属より性別の方は学問にもっと相関していることが分かった。従って、仮説1と仮説2に対して、文系学問に対する部分は証明されたものの、理系学問に関する部分は否定された。

このような結果が出た理由を以下で考察する。科学技術の発達は、科学技術の成果に対する受容性を高めた（小林、1991）。従って、科学自体への信頼感も高くなるかもしれない。しかし、数学や物理学のような理系学問は、従来「科学」として認められてい

た一方、文学、憲法学と歴史学のような文系学問は世間に科学として認められなかった。このような認識は国の政策とマスメディアの宣伝に影響を受けたかもしれないが、ノレッジの加増に伴って変えるはずだと想定した。しかし、今回の研究から見ると、文系科学と理系科学に対する差別視は根強いものである。しかもこの差別は性別と強く関連している。

よって、今後の課題としては、性別は如何にして学問観に影響することが挙げられる。今回の調査では、その関連を明確したが、具体的なメカニズムを解明しなかった。また、文学がほかの文系学問から離れた原因についての分析も、今後の課題としたい。

文献

伊佐夏実, 知念渉, 2014, 「理系科目における学力と意欲のジェンダー差」『日本労働研究雑誌』 56(7) : 84-93.

小林信一, 1992, 「『文明社会の野蛮人』 仮説の検証: 科学技術と文化・社会の相関をめぐって」『研究 技術 計画』 6(4) : 247-260.

太郎丸博, 2016, 「保守主義者は反学問的なのか? 政治と科学に関する意識調査より」第89回日本社会学大会研究報告

文部科学省, 2009, 『平成21年度 文部科学白書』, http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200901/1295623.htm (2017年1月15日閲覧)

吉見俊哉, 2016, 『「文系学部廃止」の衝撃』, 集英社新書

文理別の学問肯定感と権威主義

岡本 奈々

1. 問題設定

文部科学省が 2015 年 6 月に国立大学改革の一環として各大学に通知した「国立大学等の組織及び業務全般の見直しについて」が文系軽視であると批判を浴びた。後に文部科学省は文系軽視というのは誤解であると釈明したものの、同文書中にある「社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努める」との文言からも政府は「社会的要請」の高い学問を重視し、文系学問はそれに当たらないと解釈されるのもやむを得ないだろう。この背景には「理系学問は役に立つが文系学問は役に立たない」という風潮があるものと思われる。このように文系学問に対する風当たりが強い現在、文系学問の権威は理系学問の権威に比べて不当に低くみられているともいえる。

ここで、権威あるものへ無批判に服従や同調を示す権威主義的パーソナリティがこのような理系学問、文系学問といった区分における現在の権威の高さの違いにも敏感に反応するとすれば、「権威主義的な態度を示す人ほど理系学問に比べて文系学問に対する肯定感が低い」という一つの仮説を立てることができる。原田（1992）によると、権威主義的な攻撃性や服従傾向を強く持つ傾向は、保守的な政治的態度を持つ程度の強まりに応じて増大するから、上の仮説が支持された場合、政治的保守派は彼らがもつ権威主義的パーソナリティによって文系学問に否定的になるという構図が解明される。アメリカでは保守主義と科学の対立から共和党政権下での科学関連予算の削減という事態が起きたが、日本では文系学問に限ってそのような事態が起きることも考えられる。権威主義的態度が文系学問と理系学問への肯定感に違いをもたらすかを分析することは今後の政情の変化に伴う文系学問への処遇を予測する際の材料の一つとなるだろう。した

がって本稿では「権威主義的な態度を示す人ほど理系学問に比べて文系学問に対する肯定感が低い」という仮説を検討していく。

2. 方法

2-1. 権威主義的態度の指標

まず、権威主義を表す指標を作成する。質問票では、以下の4つの考え方に対して、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらともいえない」「どちらかといえば反対」「反対」の5点尺度であてはまるものを尋ねた。

- 伝統を守っていれば、問題は起こらない。
- どんな状況でも法律には従わなければならない。
- 自分より権力のある人には従わなければならない。
- この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである。

これら四つの相関行列は次のようになる。

表 1 権威主義的態度の 4 変数の相関行列

	伝統を守る	法律に従う	権力者に従う	指導者に頼る
伝統を守る	1	0.137	0.377	0.408
法律に従う	0.137	1	0.379	0.208
権力者に従う	0.377	0.379	1	0.497
指導者に頼る	0.408	0.208	0.497	1

そして権威主義についての変数の相関関係を主成分分析して 2 次元解の結果を示したのが図 1 である。第 2 主成分までの累積説明率は 73.4%で、第 1～第 3 主成分の初期固有値は、2.0、0.9、0.6 であった。

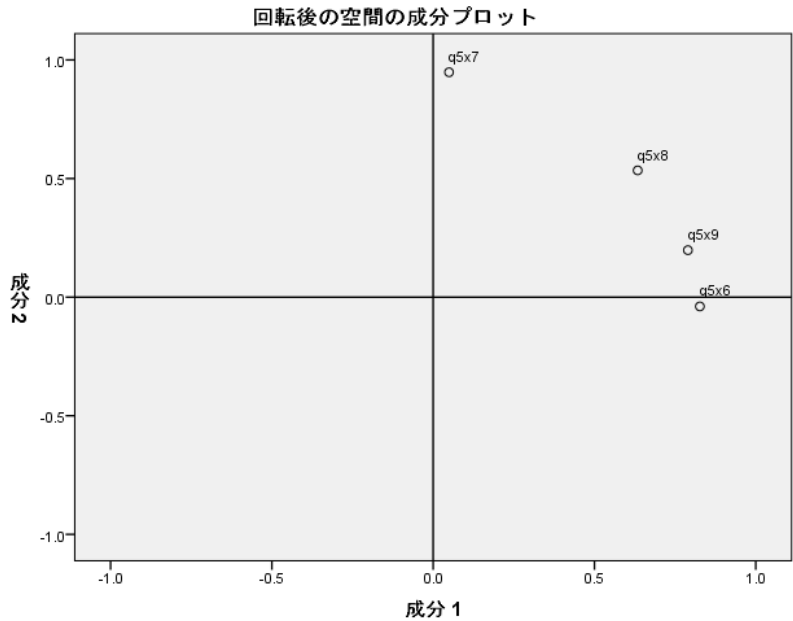


図1 権威主義的態度の4変数の主成分分析結果（バリマックス回転後）

図を見ると、q5x7(法律に従う)だけが他の三つの変数から離れており、比較的相関が弱いと判断できるので権威主義を測る変数からはこれを取り除くことにする。

さらにq5x7（法律）を除いた三つの変数の主成分分析を行う。四つの相関行列は表2のようになり、2次元解を示したのが図2である。第2主成分までの累積説明率は83.3%で、第1～第3主成分の初期固有値は1.9、0.6、0.5であった。

表2. 権威主義的態度の3変数の相関行列

	伝統を守る	権力者に従う	指導者に頼る
伝統を守る	1	0.377	0.408
権力者に従う	0.377	1	0.497
指導者に頼る	0.408	0.497	1

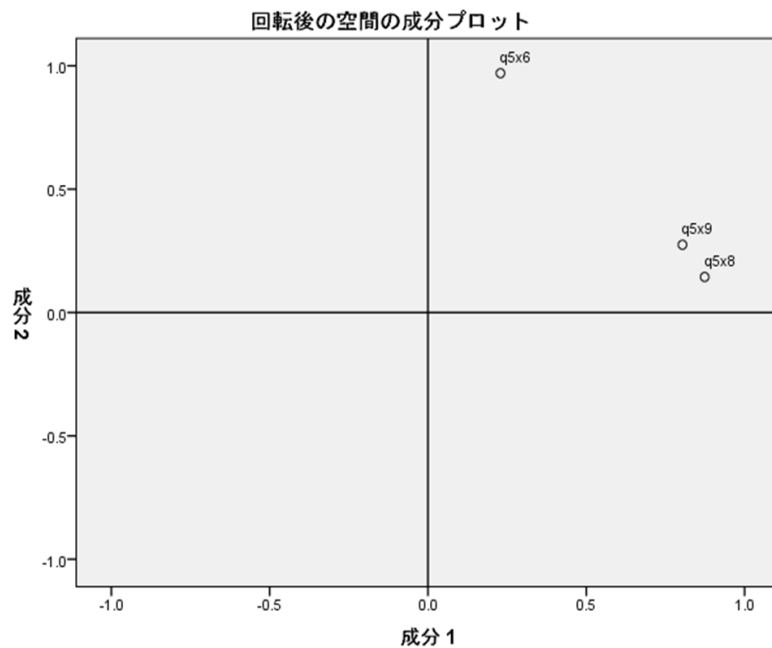


図2 権威主義的態度の3変数の主成分分析結果（バリマックス回転後）

図2を見るとq5x8（権力者に従う）とq5x9（指導者に頼る）が近い位置にあり、q5x6（伝統を守る）は他の二変数から離れた位置にある。そこで近い位置にある「権力のある人に従う」と「指導者に頼る」を足し合わせて、権威主義的態度の中でも現在権威を持っている人物に追従する傾向を示す一つの変数「権力者追従」を作り、「伝統を守る」はそれひとつでこれまでの伝統に追従する傾向を示す変数「伝統遵守」とした。さらにそれぞれ数値を逆転させ、数値が大きいほど権威主義的態度を強く示すように変換した。つまり、「権力者追従」は2～10の値をとり数値が大きいほど権力者に追従する傾向が強く、「伝統遵守」は1～5の値をとり数値が大きいほど伝統を遵守する傾向を強く示すということになる。

「権力者追従」と「伝統遵守」について、それぞれの度数分布表を図3と図4に示す。度数分布表を見ると権力者に追従する傾向も伝統を遵守する傾向も弱い点数に大きく偏っていることがわかる。

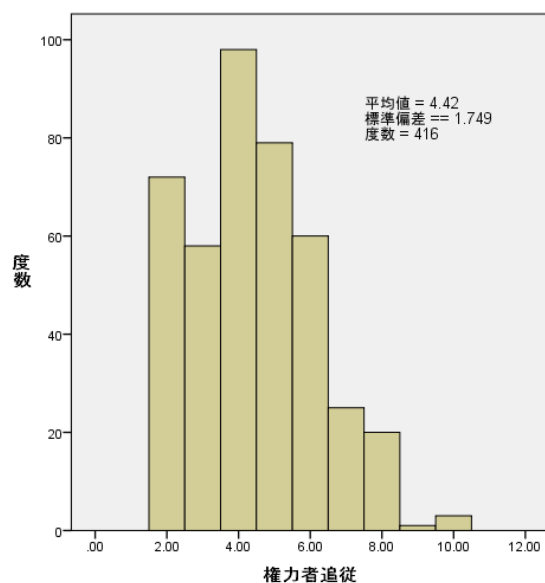


図3 「権力者追従」のヒストグラム (左)

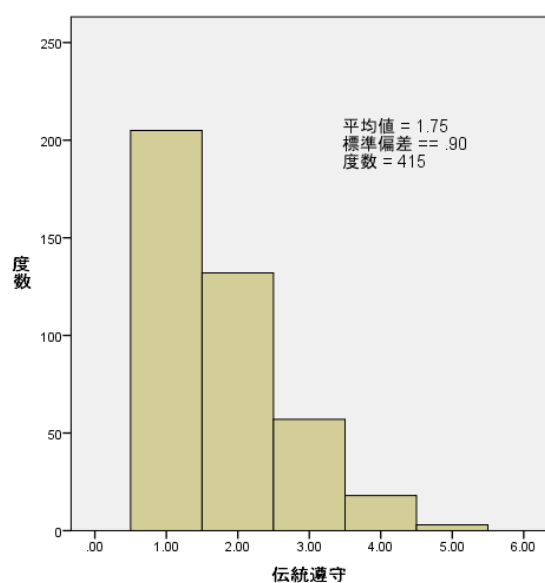


図4 「伝統遵守」のヒストグラム (右)

2-2. 各学問への肯定感の指標

次に科学・学問観に対する以下の六つの質問項目から学問への肯定感を示す変数を作成する。以下の質問項目は、それぞれの意見に対して「そう思う」「どちらかというそう思う」「どちらともいえない」「どちらかというと思わない」「そう思わない」の五点尺度で尋ねたものである。

- 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援するべきである。
- 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。
- 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。
- 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。
- 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。

- 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

これらの変数の相関行列は以下のようになる。

表3 学問観の6変数の相関行列

	科学研究	歴史学	物理学	憲法学	数学	文学
科学研究	1	0.199	0.287	0.127	0.257	0.198
歴史学	0.199	1	0.232	0.372	0.177	0.378
物理学	0.287	0.232	1	0.33	0.301	0.265
憲法学	0.127	0.372	0.33	1	0.232	0.344
数学	0.257	0.177	0.301	0.232	1	0.494
文学	0.198	0.378	0.265	0.344	0.494	1

2次元解を示したのが図5である。第2主成分までの累積説明率は56.2%で、第1～第3主成分の初期固有値は2.41、0.96、0.86であった。

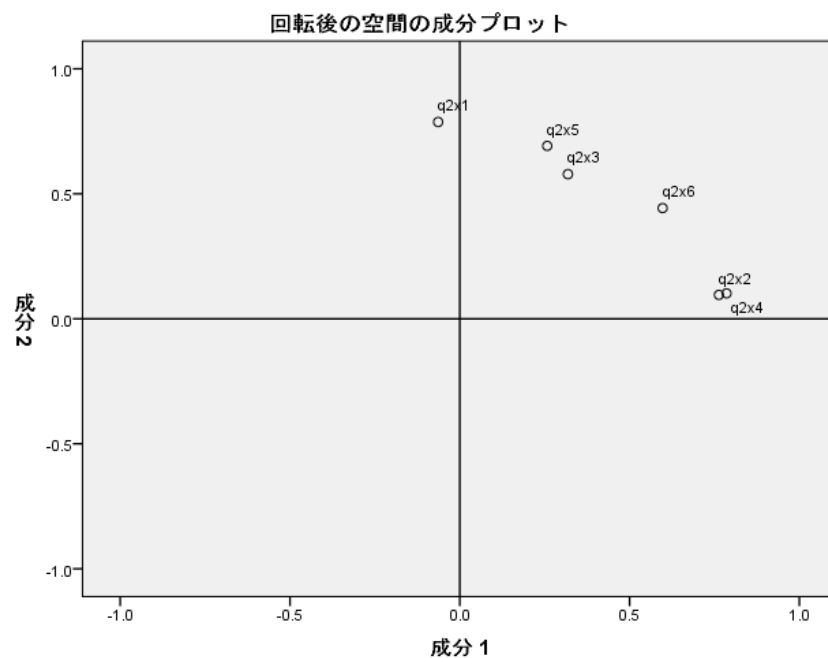


図5 学問観の6変数の主成分分析結果（バリマックス回転後）

図5を見ると、q2x2（歴史学）とq2x4（憲法学）の二つが近く、q2x3（物理学）とq2x5（数学）が近い。これらをそれぞれ合わせて、歴史学と憲法学を「文系科学」、物理学と数学を「理系科学」とする。Q2x1（科学研究）とq2x6（文学）はそれぞれそのまま「科学研究」と「文学」という指標として扱う。また、これらも数値が大きいほうが「そう思う」となるように数値を逆転させ、それぞれ最小値が0、最大値が1となるように正の一次変換を施す。

「科学研究」「文系科学」「理系科学」「文学」のヒストグラムが以下の図6～9である。図を見ると、いずれもそれぞれの学問への肯定感が高い傾向にある。特に「科学研究」は平均値が0.89であり、0.6以下とそれ以上との間に大きな度数の差があることから京大生の科学研究への政府の支援に対する肯定感の高さが見て取れる。

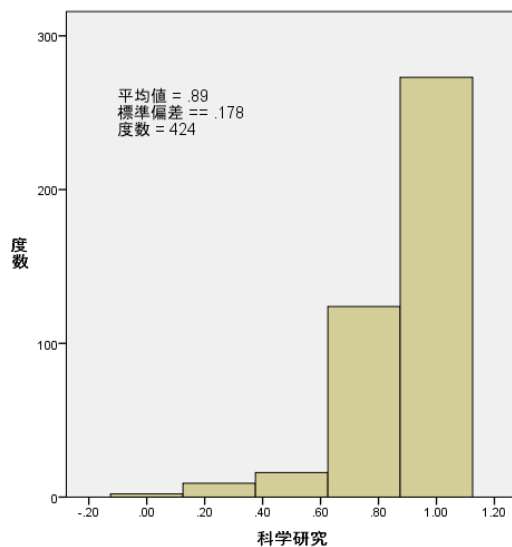


図6 「科学研究」のヒストグラム（左）

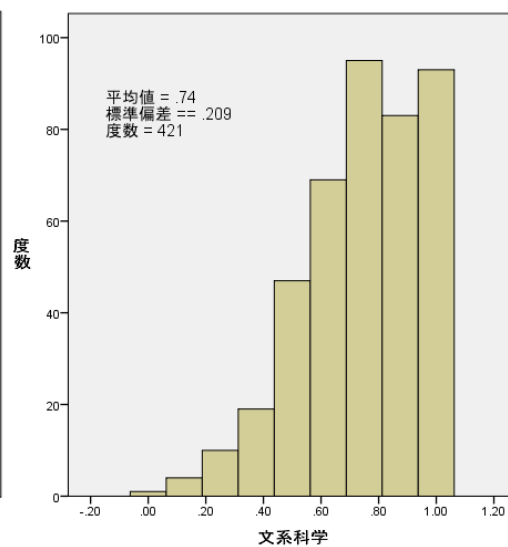


図7 「文系科学」のヒストグラム（右）

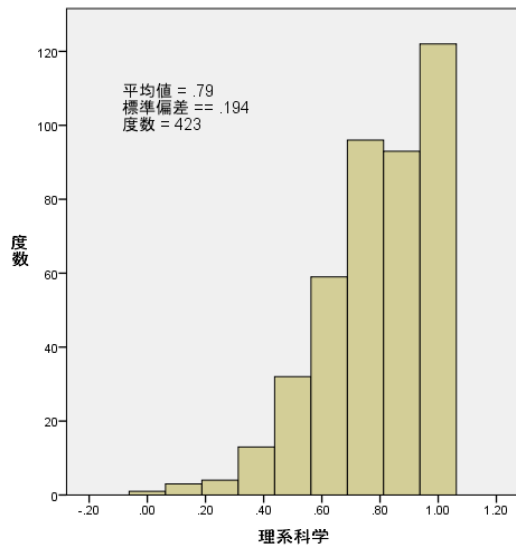


図8 「理系科学」のヒストグラム (左)

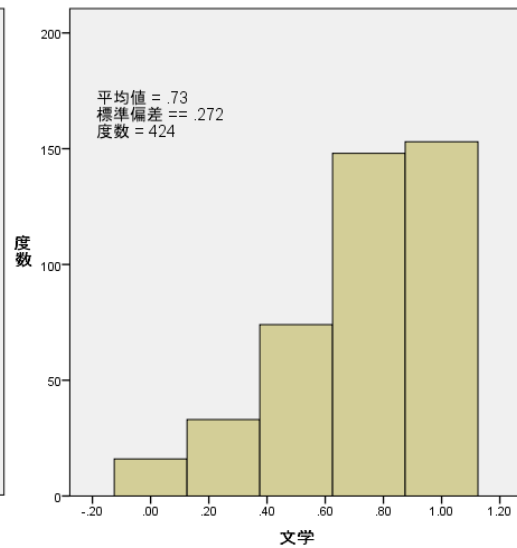


図9 「文学」のヒストグラム (右)

さらに理系、文系学問の肯定感を示す指標として環境汚染の原因と景気対策に対する言説への相対的学者信頼度を用いる。質問票のQ3ではAとBのそれぞれに対して「信頼する」「どちらかという信頼する」「どちらともいえない」「どちらかという信頼する」「信頼する」の五点尺度で尋ねた。

A. 環境汚染の原因について

- a. 企業
- b. 政府
- c. マスコミ
- d. 大学の研究機関

B. 景気対策について

- a. 企業
- b. 政府

c. マスコミ

d. 大学の研究機関

今回、A,Bそれぞれに関して、大学の研究機関に対する信頼度からその他三つに対する信頼度の平均を引いて相対的学者信頼度を算出し、学問研究への肯定感を示す変数の一つとして利用する。相対的学者信頼度の値がプラスの場合は大学の研究機関への信頼度が企業や政府、マスコミへの信頼度の平均より高いことを示し、逆にその値がマイナスになるときは大学の研究機関への信頼度がその他三つへの信頼度の平均よりも低いということを示す。今回、A環境汚染の原因についての相対的学者信頼度は理系学問への肯定感を示し、B景気対策についての相対的学者信頼度は文系学問への肯定感を示すと考えてこの指標を使用する。

「学者信頼度・環境汚染」と「学者信頼度・景気対策」のヒストグラムが以下の図10と図11である。図を見ると、環境汚染の平均値は-1.34、景気対策の平均値は-0.83であり、それぞれ平均値付近に度数が集中していることがわかる。平均値を比較すると「学者信頼度・景気対策」の方が「学者信頼度・環境汚染」よりも高い。

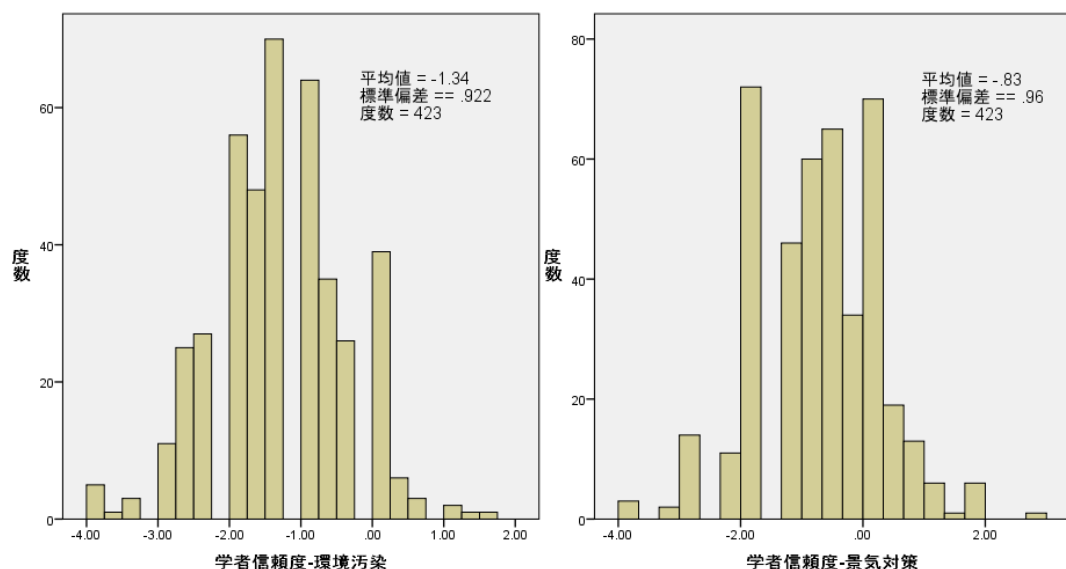


図10 「学者信頼度・環境汚染」のヒストグラム（左）

図11 「学者信頼度・景気対策」のヒストグラム（右）

3. 結果

3-1. 権威主義的態度と学問肯定感の相関

「権力者追従」と「伝統遵守」という二つの権威主義を示す変数と、「科学研究」「文系科学」「理系科学」「文学」「学者信頼度・環境汚染」「学者信頼度・景気対策」という六つの学問への肯定感を測る変数との相関係数を表4に示す

表4 権威主義と学問肯定感の相関係数

	権力者追従	伝統遵守
科学研究	-0.053	-0.077
文系科学	-.137**	-0.052
理系科学	-.155**	-.134**
文学	-.124*	-0.03
学者信頼度-環境汚染	.158**	0.092
学者信頼度-景気対策	.188**	0.09

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

表4を見ると、権威主義の指標でも「伝統遵守」は「理系科学」との間にしか有意な相関がないのに対して、「権力者追従」は「科学研究」を除く五つの学問観の指標と有意な相関があることがわかる。また、「科学研究」は「権力者追従」「伝統遵守」のどちらとも有意な相関はなく、今回使用した指標では権威主義との相関がないという結果になった。

3-2. 権威主義的態度の点数別の学問肯定感

続いて、上で相関がみられた「権力者追従」の点数別の「文系科学」「理系科学」「文学」「学者信頼度-環境汚染」「学者信頼度-景気対策」のそれぞれの平均値と、「伝統遵守」の点数別の「理系科学」の平均値をグラフに示した。

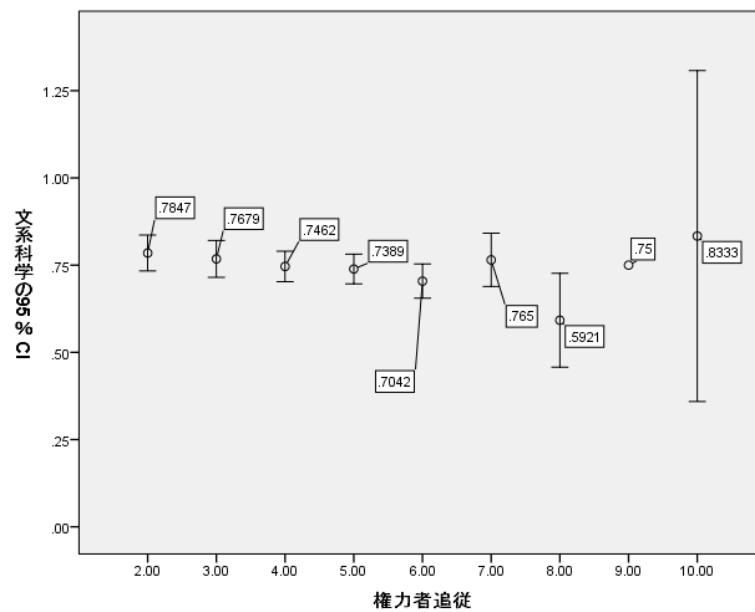


図12 「権力者追従」の点数別の「文系科学」の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

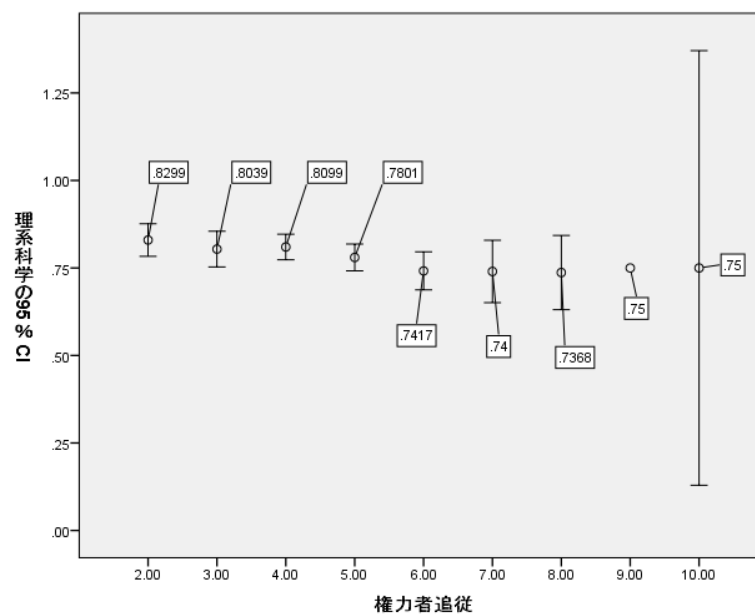


図13. 「権力者追従」の点数別の「理系科学」の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

「権力者追従」の点数ごとの「文系科学」の平均値は、「権力者追従」の点数が8のとき比較的顕著に低くなっているがそれ以外ではあまり点数による平均値の違いは見られず、95%信頼区間も重なっているので有意な違いはないといえる。

「理系科学」に関しては「権力者追従」の点数が低い2～5までは平均値が比較的高く0.8前後であるのに対して、点数が6～10では平均値が下がり0.75前後となっているためやや右下がりな印象は受けるものの、95%信頼区間が重なっているので有意な違いがあるとは言えない。

図12と図13、すなわち「文系科学」と「理系科学」の平均値をそれぞれ比べると、「権力者追従」の点数が低い2～6では「理系科学」が「文系科学」を上回っているものの、「権力者追従」の点数が7以上になると「理系科学」と「文系科学」の肯定感の平均値のどちらが大きいかは点数によって異なり、一定の関係を導き出すことはできない。したがって権威主義的態度が強いほど比較的文系学問の肯定感が低く理系学問の肯定感が高いとは言えないという結果となった。

同様に「伝統遵守」の点数別の「理系科学」の平均値を見る。

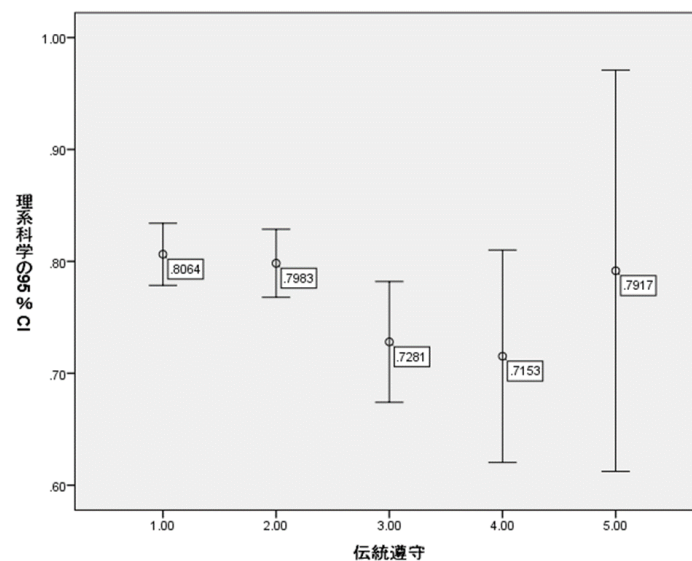


図14 「伝統遵守」の点数別の「理系科学」の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

「伝統遵守」の点数別の「理系科学」の平均点を見ても、点数が5の時を除いて右肩下がりであり、点数が5になると「理系科学」の平均値が高くなっているが、95%信頼区間が重なっているため「伝統遵守」の点数で「理系科学」の平均点に有意な違いはないといえる。

次に「権力者追従」の点数別に「文学」の平均値を見る。

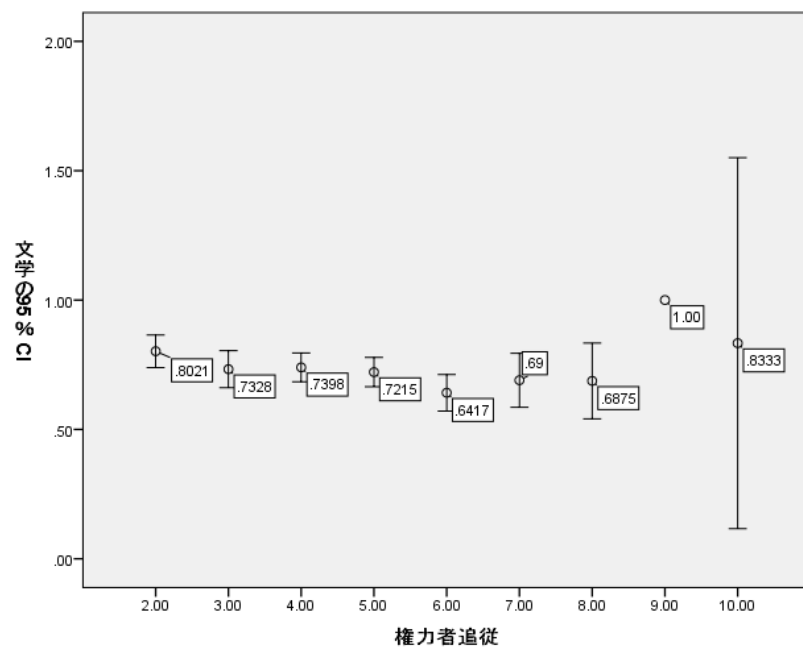


図15 「権力者追従」の点数別の「文学」の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

「権力者追従」の点数別の「文学」の平均値は8点まではやや右肩下がりだが、権威主義的態度の強い人ほど文系学問の肯定感が低いという仮説に反して、「権力者追従」の点数が高い9、10の方が「文学」の平均値は高くなっている。ただ、こちらも95%信頼区間が重なっているため有意な差があるとは言えない。

最後に「権力者追従」の点数別の環境汚染と景気対策の学者信頼度を見る。

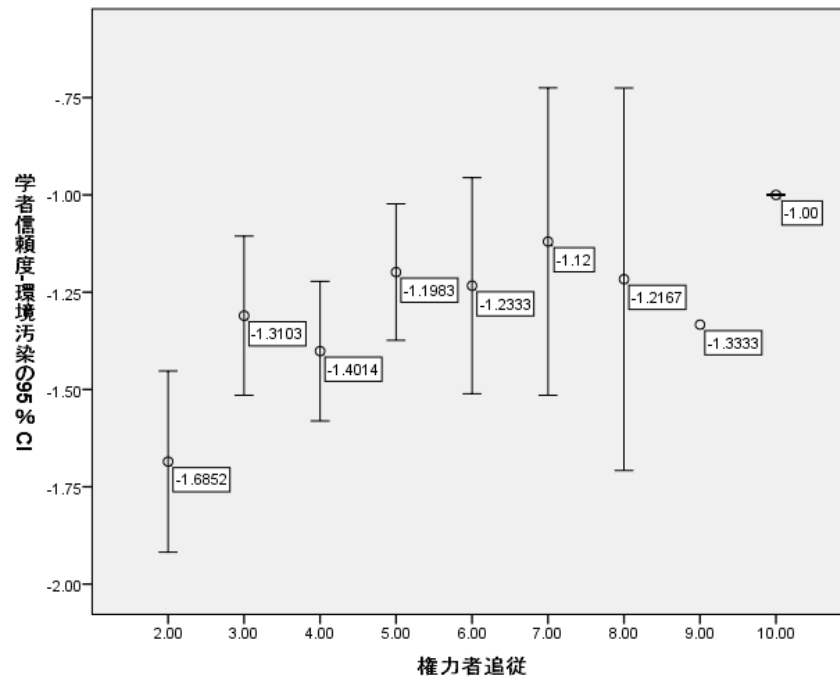


図16 「権力者追従」の点数別の「環境汚染」の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

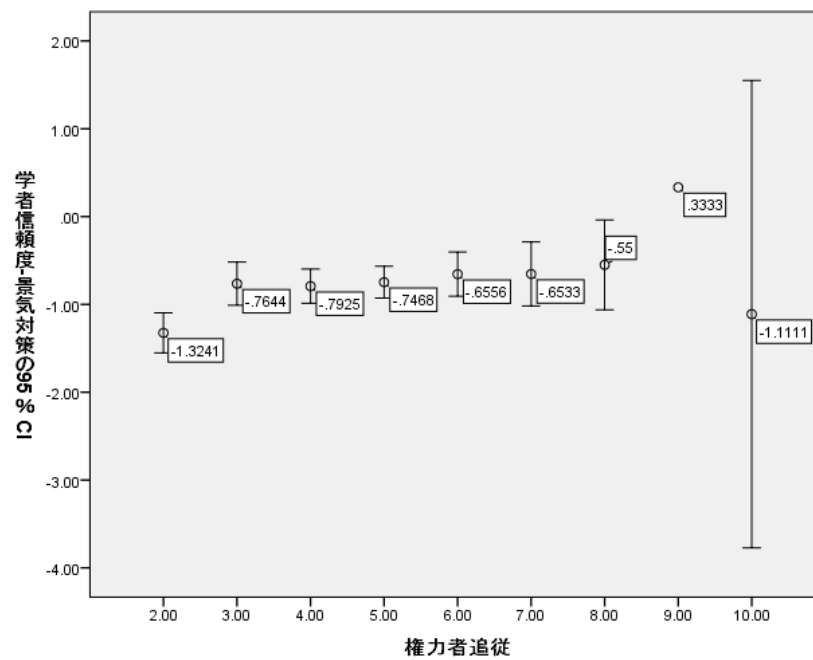


図17 「権力者追従」の点数別の「景気対策」の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

「学者信頼度・環境問題」は、「権力者追従」の点数が高いほど平均値が高い右肩上がりの印象を受けるが95%信頼区間は重なっているため有意な差はない。

「学者信頼度・景気対策」は、「権力者追従」の点数が最も低い2では10以外の点数とエラーバーが重なっていないため有意に差がありその平均点が低いと言えるが、他の点ではほぼ横ばいで信頼区間も重なっているため有意な差はないといえる。

図16と図17、「権力者追従」の点数別の「学者信頼度・環境汚染」と「学者信頼度・景気対策」の平均値を比べても、点数が10の場合を除き「環境汚染」より「景気対策」の方が平均値は高い。また、点数が10の場合だけは「景気対策」より「環境汚染」の平均値の方が高いものの、「景気対策」の95%信頼区間の広さを見るに有意な差はないといえる。

したがって「環境汚染」（理系学問）と「景気対策」（文系学問）の相対的学者信頼度に関して、権威主義的態度が強いほど前者が後者より高くなるという仮説は支持されなかった。

4. 考察

本稿では、文系学部軽視の風潮から、「権威主義的態度の強い人は文系学問と理系学問を比較すると前者に対する肯定感が低い」という仮説の検討を行った。結果として権威主義的態度の中でも「権力者追従」の態度と各学問の肯定感に相関がみられたもののその相関係数はすべて絶対値が0.2未満と小さく、権威主義的態度を測る変数の点数における各学問への肯定感の平均値に有意な差は見られなかった。また、「権力者追従」が同じ点数のときの理系学問と文系学問への肯定感を比較しても、「権力者追従」の態度が強いほど理系学問よりも文系学問に対する肯定感が低いという結果は得られなかった。

しかし、今回の結果だけでこの仮説は完全に誤りであるとは断言できないのではないだろうか。今回の調査のサンプルは京大生のみであり、図6～図9のヒストグラムからわかるように、各学問に対する肯定感も軒並み高い方向に集中している。これは京大生が受験段階で文系、理系科目の両方において一定以上の習得を要求されてきたことと、大学入学以降も一般教養科目として求められる単位の修得のために文系科目にも理系科目にもある程度触れていることによって各学問への肯定感が一般よりも底上げされているからという理由が考えられる。調査対象を京大生に限らずさまざまな教育程度や年齢の人々に広げるとまた違った結果が出るのではないだろうか。さらに、権威主義的態度のヒストグラムを見ても今回は権威主義的態度を測る質問に「そう思わない」と答えた人が著しく多いことも考慮する必要がある。そもそも今回の仮説では特に権威主義的態度が強い人に注目して分析していたのだが、あまりそのような人が多くなかったために分析がうまくいかなかったということが考えられる。もともと京大生に権威主義的態度が強い人が少ないということもあるかもしれないが、今回使用した権威主義的態度を測る質問の内容によって回答が権威主義的態度の弱い方向に偏った可能性もあると考える。今回の質問は4つとも権威主義的態度が強ければ「賛成」を選び弱ければ「反対」を選ぶものであったが、反対に権威主義的態度が強ければ「反対」を選び弱ければ「賛成」を選ぶという質問を混ぜても良いのではないだろうか。例えば「伝統を守っていれば、問題は起こらない」という考え方に対しては「どちらかというと思う」「そう思う」を選んだ人数が極端に少なかったが、「伝統を破って変化することは重要である」というような言い方に変えると異なった結果が出るかもしれない。このように質問文をさらに工夫して調査を行うのも有効だと考えられる。

今回、設定した仮説を支持するような結果は得られなかったが、検討の中で権威主義的態度のうち、これまでの伝統を遵守する傾向より現在の権力者に追従する傾向の方が学問の肯定感に相関することがわかったのは意義がある。一般的に保守的な人は科学や

学問に否定的だと言われるが、それに対して新しい科学や学問がこれまでの伝統と対立するからと理由付けするのは適切ではないかもしれない。このことを裏付けるためにも、調査対象を拡大し、権威主義的態度を測る質問項目を吟味したうえでさらなる調査を行うことが今後の課題となるだろう。

文献

文部科学省「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて（通知）」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/062/gijiroku/_icsFiles/afeldfile/2015/06/16/1358924_3_1.pdf (2018.1.22)

原田唯司,1992,「権威主義的傾向、権威に対するイメージと政治的態度」

https://shizuoka.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=183&item_no=1&page_id=13&block_id=21 (2018.1.22)

文系学問に対する有効感と保守主義的態度の関係性

久松 春陽

1. はじめに

2015年6月8日、文部科学省は「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」という通知において国立大学法人宛てに「特に教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については、18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割等を踏まえた組織見直し計画を策定し、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努めることとする」（文部科学省、2015）と改革の要請をした。この通知は文系学部の軽視であると波紋を呼ぶこととなった。これは2013年第二次安倍内閣においてに発表された「国立大学改革プラン」の一環とされている。このような「文系軽視」の論考は、理系は役に立ち文系は役に立たないという一般に蔓延する考えと保守政権である安倍政権とが関係して語られている。したがって本稿では保守主義傾向にある人ほど文系学問に対してひていてきであると仮説を立て、文系学問に対する有効感と保守主義的態度の関係について考察する。

2. 使用する変数

従属変数は文系学問に対する有効感とし、これは次のような過程で制定した。まず、以下の5つの学問分野に対する有効感を「そう思う」から「そう思わない」までの5点尺度で尋ねた。

Q2x2. 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。

Q2x3. 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。

Q2x4. 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。

Q2x5. 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。

Q2x6. 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

これらの変数の相関行列は以下の表 1 である。

表 1 学問の有効感の相関係数

	歴史学	物理学	憲法学	数学	文学
歴史学	1	.232**	.372**	.178**	.379**
物理学	.232**	1	.331**	.301**	.265**
憲法学	.372**	.331**	1	.231**	.343**
数学	.178**	.301**	.231**	1	.496**
文学	.379**	.265**	.343**	.496**	1

**：相関係数は 1% 水準で有意（両側）

続いてこれらの主成分分析の結果を 2 次元解で図示したのが図 1 である。

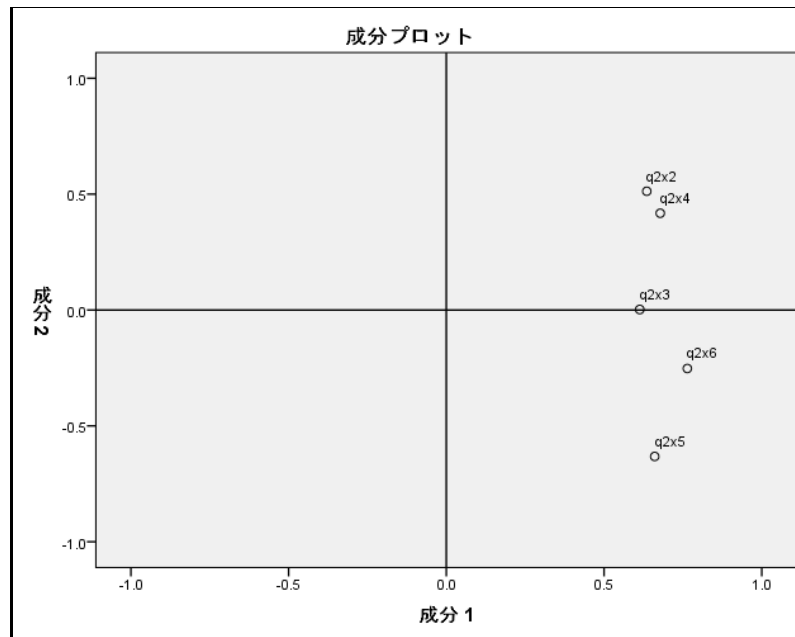


図 1 主成分分析の結果

図 1 をみると、Q2x2（歴史学）と Q2x4（憲法学）が近く、同じ文系学問である Q2x6（文学）は 2 つから離れていることが読み取れるため、本稿では Q2x2（歴史学）と Q2x4（憲法学）を文系学問として抽出する。したがって、

「歴史学は、見本の将来を考えるうえで役立つ。」

「憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。」

という 2 つの質問を反転して足し合わせたものを文系学問に対する有効感とする。（最小値 2 最大値 10）数値が大きくなるほど「そう思う」に回答は近くなり、文系学問に対する有効感を強く持っていることを示す。

独立変数には保守主義態度を測る尺度として、安倍政権支持、性役割意識、権威主義に関する質問を用いる。

安倍政権支持については「あなたは安倍内閣を支持していますか？」という問いに対

し「かなり支持している」から「ほとんど支持していない」までの4点尺度で尋ねたものを反転し、数値が大きくなるほど支持に近くなることを示す。

性役割意識については以下の質問に対して「賛成」から「反対」の5点尺度で尋ねたものを反転して足し合わせた。(最小値2、最大値10) 数値が大きくなるほど性役割意識を強く持っていることを示す。

「概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける。」

「夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事を持たない方がよい。」

権威主義については、以下の質問に対して「賛成」から「反対」の5点尺度で尋ねたものを反転して足し合わせた。(最小値2、最大値10) 数値が大きくなるほど権威主義的思想が強いことを示す。

「伝統を守っていれば、問題は起こらない。」

「この複雑な世の中で何をなすべきか知る最良の方法は指導者に頼ることである。」

3. 分析結果

3-1. 文系学問に対する有効感に関する基本統計量とヒストグラム

表2 文系学問に対する有効感の基本統計量

度数	有効	421
	欠損値	3
平均値		7.9596

平均値の標準誤差		0.08163
中央値		8
最頻値		8
標準偏差		1.67497
分散		2.806
範囲		8
最小値		2
最大値		10
合計		3351
パーセンタイル	25	7
	50	8
	75	9

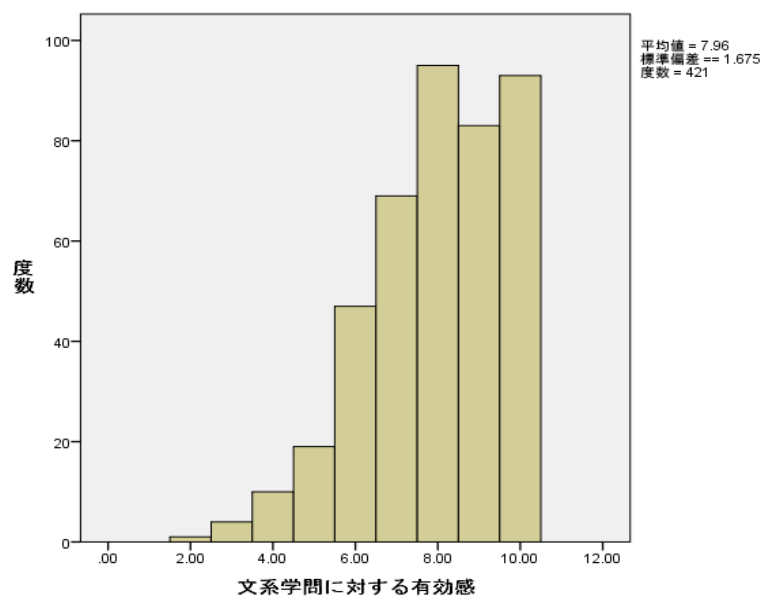


図 2 文系学問に対する有効感のヒストグラム

図 2 を見ると、4 以下の文系学問に対する否定的な回答は少なく、文系学問に対しておおむね肯定的であることが読み取れる。

3-2. 文系学問に対する有効感と保守主義質問項目の相関

3-2-1. 安倍内閣支持度

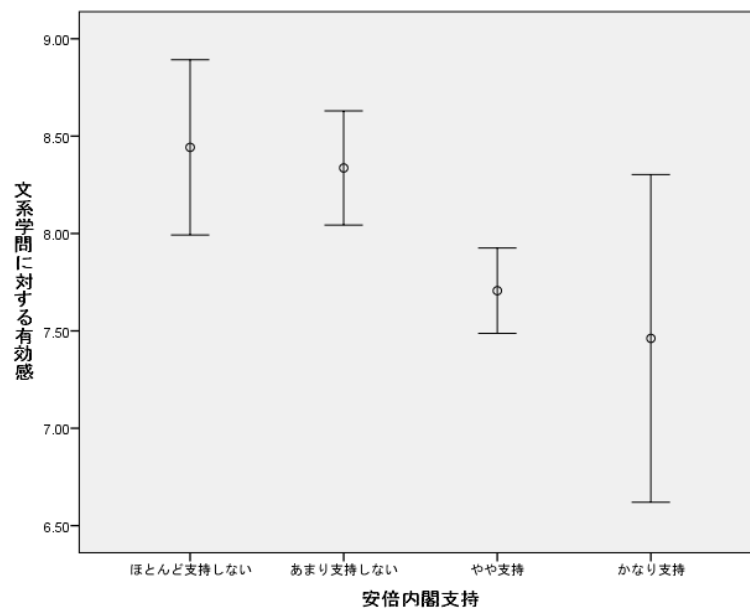


図 3 文系学問に対する有効感の安倍内閣支持別の平均値
(エラーバーは 95%信頼区間)

図 3 を見ると安倍内閣を支持する人ほど文系学問に対する有効感は低くなっていることが分かる。しかし安倍内閣を「かなり支持」する人でも文系学問に対する有効感は 7.0 以上であるため、否定的であるとは言えないだろう。

3-2-2. 性役割意識

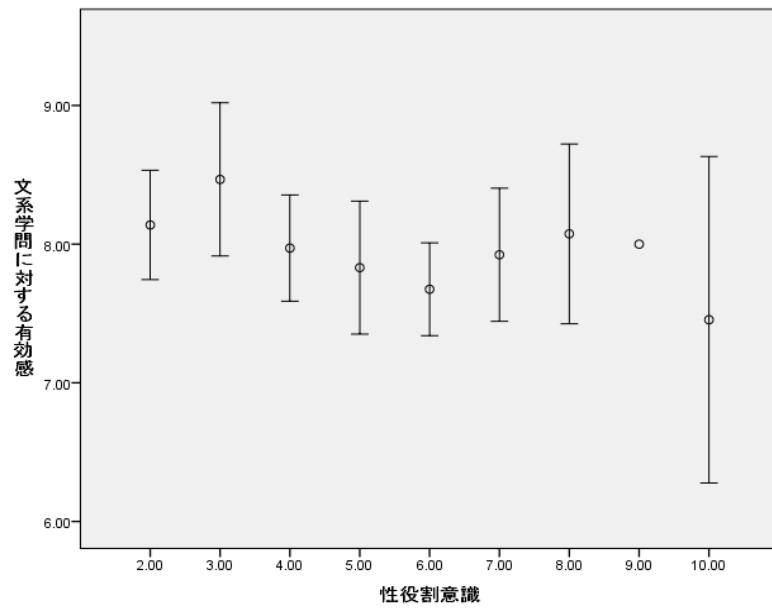


図 4 文系学問に対する有効感の性役割意識別の平均値 (エラーバーは 95%信頼区間)

図4を見ると、若干の右肩下がりの傾向すなわち性役割意識の強い人ほど文系学問に対する有効感は低いという傾向が見られるが、エラーバーの信頼区間が重なっており有意な傾向とは言えないだろう。

3-2-3. 権威主義

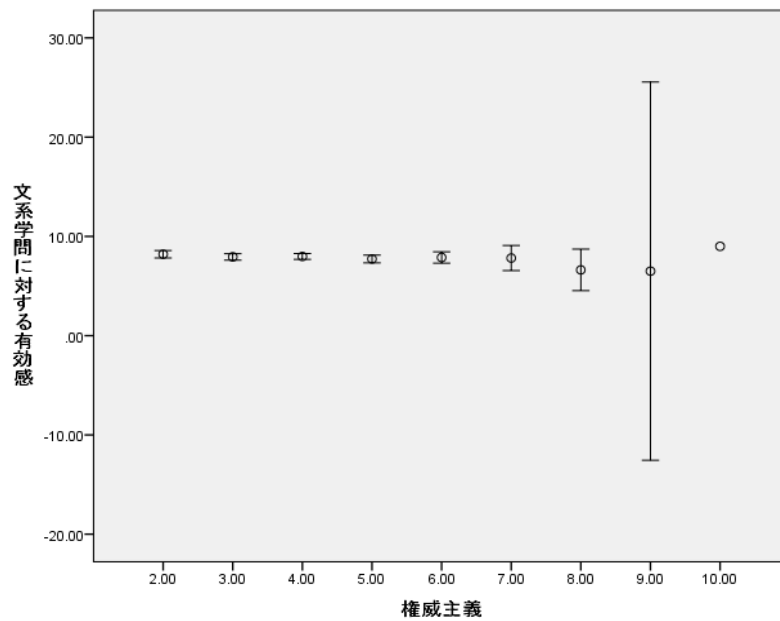


図 5 文系学問に対する有効感の權威主義別平均値（エラーバーは 95%信頼区間）

図 5 を見るとわずかに右肩下りの傾向、すなわち權威主義的な人ほど文系学問に対する有効感が低くなる傾向が見られるがエラーバーの信頼区間は重なっており有意な傾向とは言いにくい。

3-2-4. 相関係数

文系学問に対する有効感、安倍内閣支持、性役割意識、權威主義、それぞれの相関は次の表3のようにになっている。

表3 文系学問に対する有効感と保守主義傾向の相関係数

	文系学問有効感	安倍内閣支持	性役割意識	權威主義
文系学問有効感	1	-.196**	-0.086	-.115*
安倍内閣支持	-.196**	1	.202**	.147**

性役割意識	-0.086	.202**	1	.303**
権威主義	-.115*	.147**	.303**	1

**．相関係数は 1% 水準で有意 （両側）

*．相関係数は 5% 水準で有意 （両側）

文系学問に対する有効感と有意な相関がみられたのは安倍内閣支持度（相関係数 -.196）と権威主義（相関係数-.115）であり、どちらもマイナスの相関であるため保守主義傾向の強い人ほど文系学問に対する有効感は低くなると言えるがあまり大きな相関とはいえない。

3-3. 各項目における性差

文系学問に対する有効感と保守主義傾向にあまり強い相関が見られなかったため、それぞれの質問項目における性差を検証する。

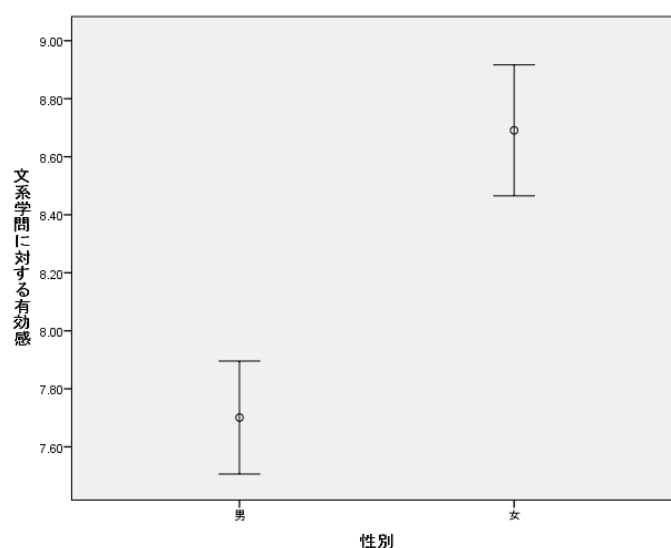


図 6 文系学問に対する有効感の男女別平均値（エラーバーは 95%信頼区間）

図 6 より、女性のほうが男性よりも文系学問に対する有効感が強いことが分かる。

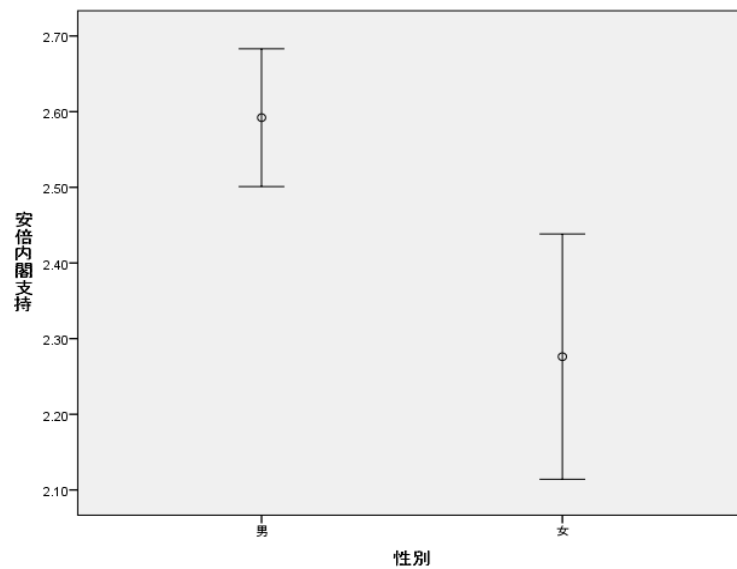


図 7 安倍内閣支持度の男女別平均値（エラーバーは 95%信頼区間）

図 7 より、男性のほうが女性よりも安倍内閣を支持する傾向があることが読み取れる。

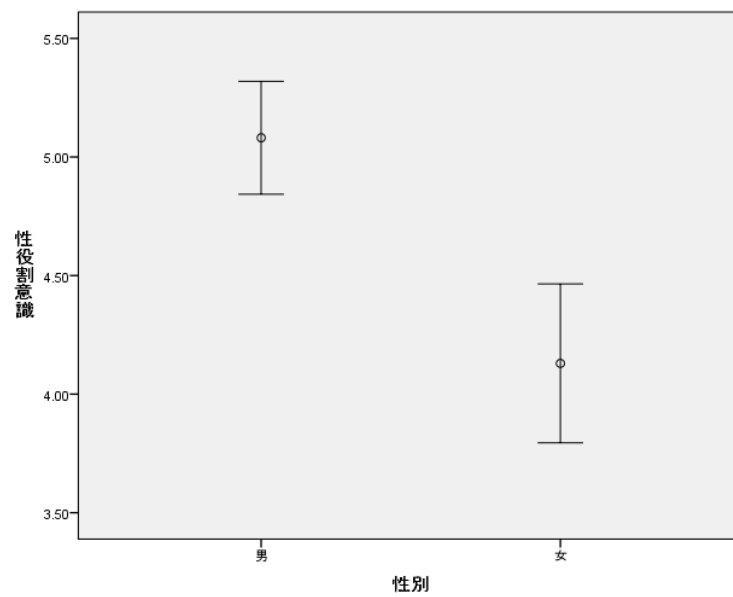


図 8 性役割意識の男女別平均値（エラーバーは 95%信頼区間）

図 8 より、男性のほうが女性よりも性役割意識が強くなっていることが分かる。

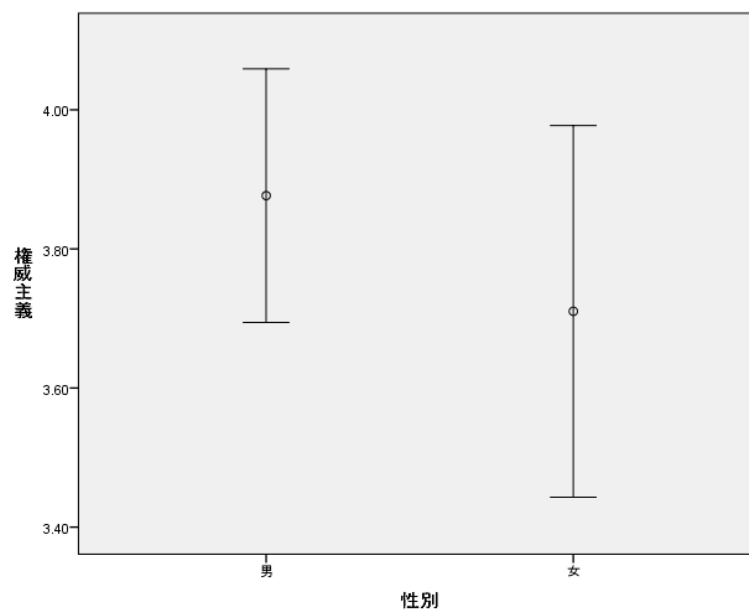


図 9 権威主義の男女別平均値（エラーバーは 95%信頼区間）

図 9 より、男性のほうが女性よりも権威主義的であることが分かるが、エラーバー信

頼区間が重なっており有意な傾向とは言えない。

表4 性別と文系学問に対する有効感、保守主義傾向の相関係数

	性別	文系学問有効感	安倍内閣支持	性役割意識	権威主義
性別	1	.260**	-.167**	-.201**	-0.046
文系学問有効感	.260**	1	-.196**	-0.086	-.115*
安倍内閣支持	-.167**	-.196**	1	.202**	.147**
性役割意識	-.201**	-0.086	.202**	1	.303**
権威主義	-0.046	-.115*	.147**	.303**	1

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）

*．相関係数は 5% 水準で有意（両側）

表4より、性別とは、文系学問に対する有効感（相関係数.260）、安倍内閣支持度（相関係数-.167）、性役割意識（相関係数-.201）がそれぞれ有意な相関を持っている。

4. 結果のまとめおよび考察、課題

4-1. 結果のまとめおよび考察

本稿では、保守主義的な態度が文系学問に対する有効感に負の効果を持つのかを検証しってきた。結果として、安倍内閣支持、権威主義という保守主義的態度は文系学問に対し負の相関を示したが、相関係数は0～-.2の範囲に収まっており、その効果はわずかであった。これに比べて性別と文系学問に対する有効感の相関係数は.260をとり、女性のほうが文系学問への有効感が強いという結果になった。これには自信が所

属している学部が大きく関係していると思われる。本調査で回答者の所属学部は、女性（文系65.5%、理系13.6%、その他20.9%）、男性（文系36.9%、理系51.6%、その他11.5%）となっており、文系学部に所属する割合の高い女性のほうがより文系学問に対して肯定的となったのだと考えられる。

また、今回の調査では文系学問に対する有効感が4.0以下であったのはわずか3.6%であり、肯定的である6.0以上が91.9%を占めていた。すなわち保守主義的態度の人が、男性が文系学問に対して否定的であるというよりは、彼らは肯定感が弱くなるという方が正しいであろう。

4-2. 今後の課題

今回文系学問として抽出した歴史学、憲法学の他に文学も5つの質問項目に含まれていたが、主成分分析にかけ2次元解でみると2つからは離れ、理系学問である数学に近い位置をとった。これには質問文が関係したのではないかと考える。歴史学、憲法学については、日本の将来を考えるうえで役立つか、政府の憲法解釈に役立つかと活用しうる方法を具体的に示したのに対し、文学と数学では「社会をより豊かにするのに役立つか」と概念的であいまいな問いとなっていた。この質問方法をどちらかに統一すべきであったと考える。

文献

文部科学省（2015）「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて（通知）」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/062/gijiroku/_icsFiles/afileldfile/（2018年1月15日アクセス）

吉見俊哉（2016）『「文系学部廃止」の衝撃』集英社新書

京大生の保守的態度と文系学問観

竹内 竜生

1. はじめに

保守政権とされる安倍内閣においてはこれまで、歴史認識や安全保障関連法案、憲法改正などの議論の場において、文系学者との意見対立がみられている。中でも我々大学生にとって特に印象的であったのが、文系学部廃止をめぐる議論であろう。この発端は、2015年6月8日付文部科学大臣の通達、「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」において、「教員養成系や人文社会科学系の学部・大学院については、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努めること」が「要請」されたことにある。室井（2015）によれば、この「要請」は従わなければ運営交付金が削減されることになるという、「命令」に等しい強いものであった。これは『技術革新』に直結せず、将来に向けた目に見える成果がすぐには期待しにくい」という文系学問の弱みや、税金の効率利用への政府の目論見を受けたものであると説明される。（室井、2015）このようなことから、日本の政治の場においては、保守主義によって文系学問が批判的にみられているといえる。また一般の人々についても、この傾向が見られるということが示されている（太郎丸、2016）。

一方で大学生においては、保守/革新のイデオロギーは「顕出性の高い」一部の政策論点についての態度を表す「記号」として機能しているにすぎず、保革イデオロギーが関連しない争点も存在しないことを示す研究結果もある（稲増ほか、2015）。そこで今回の調査では、京都大学の学生において、保守主義的な態度が文系学問への否定的態度に関連しているか検証していくことにする。保守的政権によって文系学問の有用性が疑問

視されている現在において、選挙年齢の引き下げによって政治参加の機会を得、また将来の政治や企業、学問など場での中心的な活動が期待される京大生の文系学問に関する態度を明らかにすることは、今後の文系学問のあり方を考えていくうえで有意義であると考える。

2. 分析手法

2-1. 用いるデータ

今回用いるデータは、2017年10月中旬に京都大学の授業内で実施した調査「科学と政治に関する意識調査」から得られたものを用いる。

このデータにおける学部生・大学院生の所属内訳は、表1の通りである。

表1 所属学部・研究科

学部・研究科	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 総人	41	9.7	9.7	9.7
文	118	27.8	28.0	37.7
教育	10	2.4	2.4	40.0
法	28	6.6	6.6	46.7
経済	11	2.6	2.6	49.3
理	39	9.2	9.2	58.5
医	7	1.7	1.7	60.2
薬	3	.7	.7	60.9
工	110	25.9	26.1	87.0
農	15	3.5	3.6	90.5
文学研究科	16	3.8	3.8	94.3
教育学研究科	2	.5	.5	94.8
法学研究科	1	.2	.2	95.0

理学研究科	2	.5	.5	95.5
人間・環境学研究科	18	4.2	4.3	99.8
公共政策	1	.2	.2	100.0
合計	422	99.5	100.0	
欠損値 システム欠損値	2	.5		
合計	424	100.0		

2-2. 変数の設定

本稿では、保守主義的態度を独立変数、文系学問を有用視しているかという「文系学問観」を従属変数として、問題の検証を行う。

保守主義的態度を測る指標としては、保守政権とされる安倍内閣への支持度合と、保守主義との結びつきが強いとされる性役割意識と権威主義的態度の計 3 つを用いる。

まず、安倍内閣支持には、以下の質問から得られた回答を使用する。

Q4 あなたは安倍内閣を支持していますか。

(かなり支持している、やや支持している、あまり支持していない、ほとんど支持していない、の 4 点尺度。)

得られた回答は、数値が大きいほど安倍内閣支持の度合いが強くなるよう反転させた。

(最小値 1、最大値 4)

次に、性役割意識は、以下の質問から得られた回答をもとに変数を設定する。

次の考え方について、あなたはどのように思いますか？ あてはまるものに○をつけてください。

Q5x1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ。

Q5x2 概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける。

Q5x3 夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事をもたない方がよい。

Q5x4 男性は「育児休業制度」を積極的に利用したほうがよい。

Q5x5 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している。

(賛成、どちらかと言えば賛成、どちらともいえない、どちらかと言えば反対、反対の 5 点尺度。)

これらの回答について、相関行列は表 2 の通りである。(ほかの回答とは反対に、Q5x4 は数値が大きいほど男性の「育児休業制度」の利用には否定的であり、性役割意識が強いことを示すといえるため、回答を反転させておく。表・図中では q5x4r と表記している。)

表2 性役割意識の相関行列

	q5x1	q5x2	q5x3	q5x4r	q5x5
q5x1	1.000	.544	.622	.180	.430
q5x2	.544	1.000	.574	.091	.360
q5x3	.622	.574	1.000	.112	.350
q5x4r	.180	.091	.112	1.000	.207
q5x5	.430	.360	.350	.207	1.000

この相関行列を主成分分析にかけた結果得られた、第 1～3 主成分の固有値と累積説明率は表 3 の通りである。

表 3 固有値と累積説明率

	固有値	累積説明率
1	2.514	50.270

2	.988	70.029
3	.674	83.517

因子抽出法: 主成分分析

表 3 より、第 3 軸の固有値が 1 未満になっており、二次元で示しても大きな誤差はないと考えられる。以上のバリマックス回転後の結果を図示したものが、図 1 である。

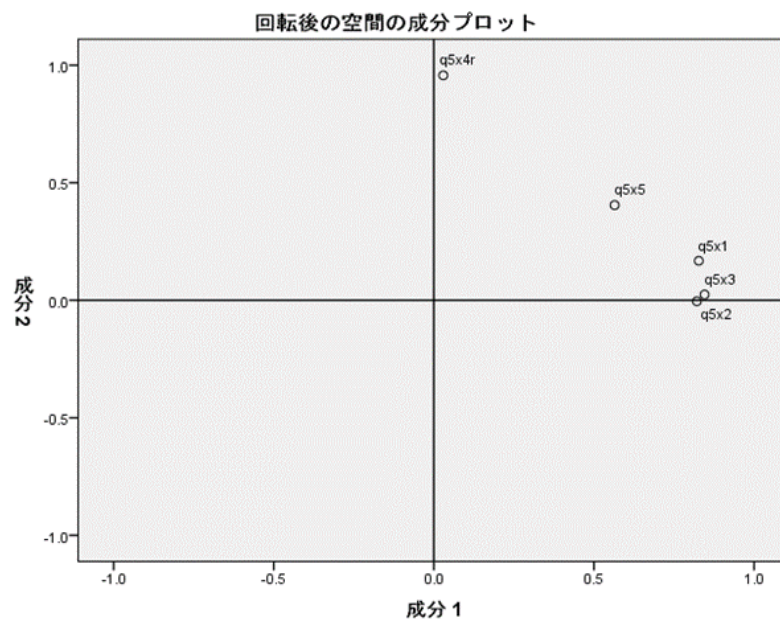


図 1 主成分分析の結果

図 1 より、Q5x4 以外の回答がそれぞれ近い。そこで Q2x1、x2、x3、x5 の間の信頼性係数 α を計算したところ、0.785 であった。よってこの 4 つの回答を合算し、数値が大きいほど性役割意識が強いことを表すようにするため、回答を反転させる。これを「性役割意識」の指標として用いることにする。(最小値 1、最大値 17)

権威主義的態度は、以下の質問から得られた回答をもとに変数を設定する。

次の考え方について、あなたはどのように思いますか？ あてはまるものに○をつけてください。

Q5x6 伝統を守っていれば、問題は起こらない。

Q5x7 どんな状況でも法律には従わなければならない。

Q5x8 自分より権力のある人には従わなければならない。

Q5x9 この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである。

(賛成、どちらかと言えば賛成、どちらともいえない、どちらかと言えば反対、反対の 5 点尺度。)

これらの回答について、相関行列は表 4 の通りである。

表4 権威主義の相関行列

	q5x6	q5x7	q5x8	q5x9
q5x6	1.000	.137	.377	.408
q5x7	.137	1.000	.379	.208
q5x8	.377	.379	1.000	.497
q5x9	.408	.208	.497	1.000

この相関行列を主成分分析にかけた結果得られた、第 1～3 主成分の固有値と累積説明率は表 5 の通りである。

表5 固有値と累積説明率

	固有値	累積説明率
1	2.033	50.813
2	.904	73.406
3	.600	88.417

因子抽出法: 主成分分析

表 5 より、第 3 軸の固有値が 1 未満になっており、二次元で示しても大きな誤差はないと考えられる。以上のバリマックス回転後の結果を図示したものが、図 2 である。

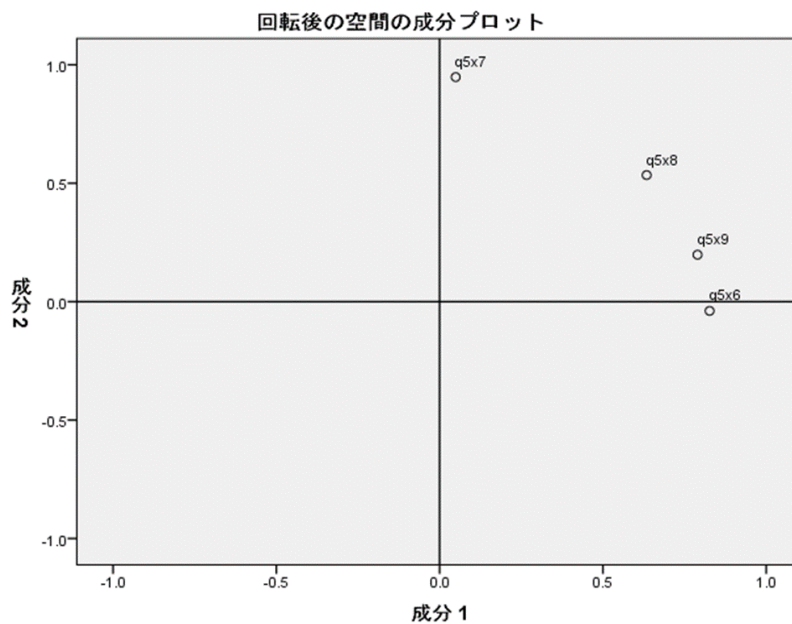


図 2 主成分分析の結果

図 2 より、Q5x7 以外の回答がそれぞれ近い。そこで Q2x6、x8、x9 の間の信頼性係数 α を計算したところ、0.691 であった。よってこの 3 つの回答を合算し、数値が大きいほど権威主義的態度が強いことを表すようにするため、回答を反転させる。これを「権威主義的態度」の指標として用いることにする。(最小値 1、最大値 13)

ここで、独立変数として用いる以上の 3 変数にそれぞれ相関関係があることを確認しておく。3 変数間の相関係数を計算した結果が、表 6 である。

表 6 独立変数間の相関

	内閣支持 2	性役割意識	権威主義
相関 内閣支持	1	.291**	.175**
性役割意識	.286**	1	.392**
権威主義	.175**	.392**	1

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）

表 6 より、独立変数として用いる 3 つのデータのいずれの間にも、1%水準で有意な正の相関があることが確認された。

次に、従属変数である文系学問観を測る指標として、以下の質問から得られた回答をもとに変数を設定する。

さまざまな学問や科学に対する以下の意見についてどう思いますか？あなたの考えに一番近いものを一つ選んでください。

Q2x1 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援すべきである。

Q2x2 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。

Q2x3 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。

Q2x4 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。

Q2x5 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。

Q2x6 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。

（そう思う、どちらかというと思う、どちらともいえない、どちらかというと思うわない、そう思うわない、の 5 点尺度。）

これらの回答について、相関行列は表 7 の通りである。

表 7 学問観の相関行列

	q2x1	q2x2	q2x3	q2x4	q2x5	q2x6
q2x1	1.000	.199	.287	.127	.257	.198
q2x2	.199	1.000	.232	.372	.177	.378
q2x3	.287	.232	1.000	.330	.301	.265
q2x4	.127	.372	.330	1.000	.232	.344
q2x5	.257	.177	.301	.232	1.000	.494
q2x6	.198	.378	.265	.344	.494	1.000

この相関行列を主成分分析にかけた結果得られた、第 1～3 主成分の固有値と累積説明率は表 8 の通りである。

表 8 固有値と累積説明率

	固有値	累積説明率
1	2.418	40.299
2	.957	56.251
3	.864	70.655

因子抽出法: 主成分分析

表 8 より、第 3 軸の固有値が 1 未満になっており、二次元で示しても大きな誤差はないと考えられる。以上のバリマックス回転後の結果を図示したものが、図 3 である。

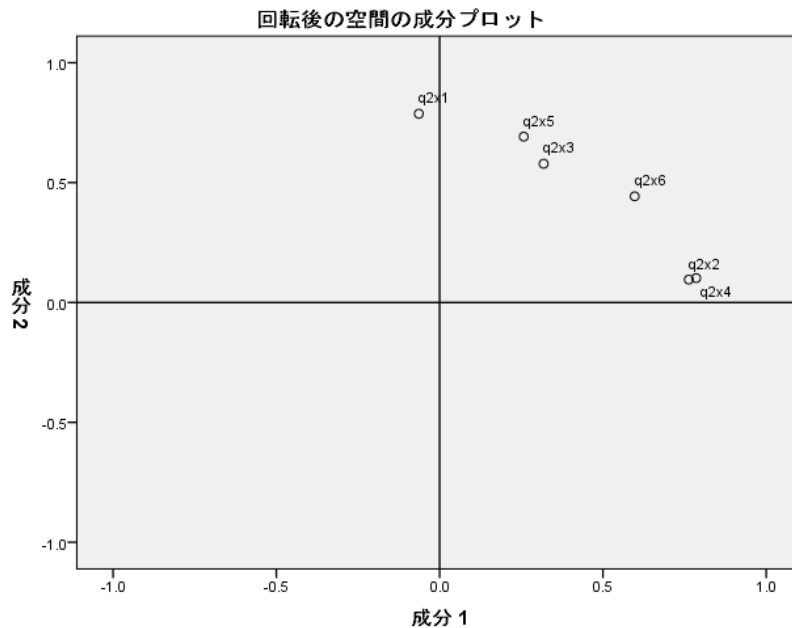


図 3 主成分分析の結果

図 3 より、Q2x2（歴史学）と Q2x4（憲法学）が相対的にみて回答が近い。そこで Q2x2 と x4 の間の信頼性係数 α を計算したところ、0.538 であった。そこで、その 2 つと最も近い Q2x6（文学）も加えて信頼性係数 α を計算したところ、0.629 であった。よってこの 3 つの回答を合算し、数値が大きいほど肯定的な文系学問観を持つことを表すようにするため、回答を反転させる。これを「文系学問観」の指標として用いることにする（最小値 1、最大値 12）。

3. 分析結果

本節では、第 2 節で定めた変数を用い、保守主義的態度と文系学問観との関係を重回帰分析によって明らかにしていく。

まず、安倍内閣支持と性役割意識、権威主義的態度の変数別に、文系学問観についての回答の平均値をエラーバーでまとめたものが、図 4～図 6 である。

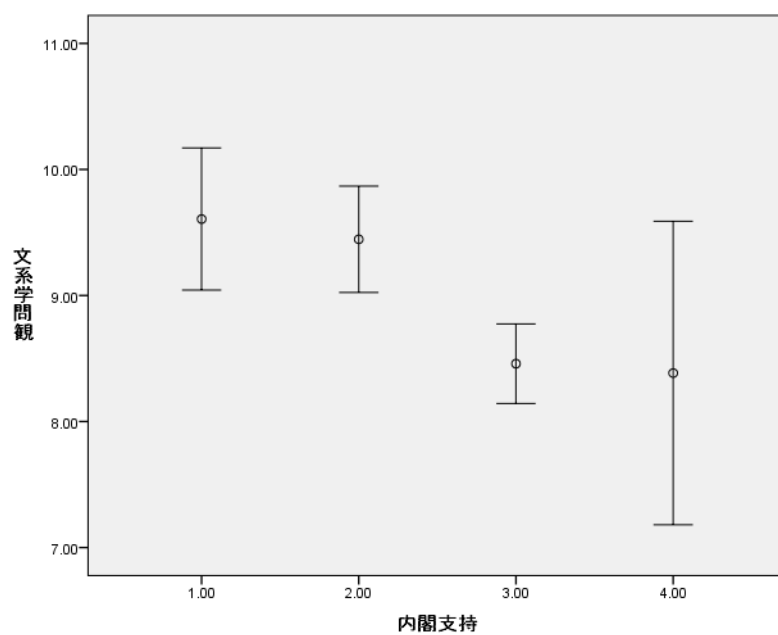


図4 安倍内閣支持度別の文系学問観の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

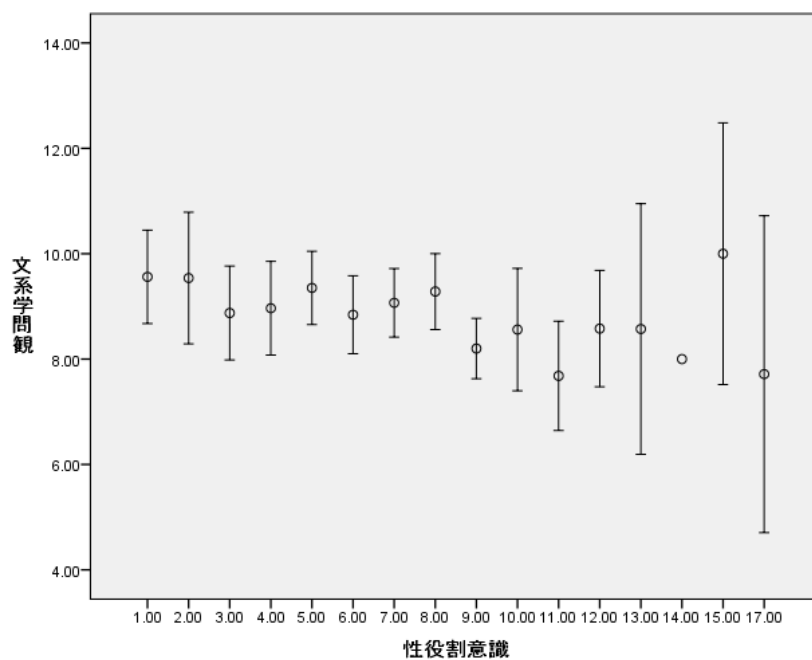


図5 性役割意識の強さ別の文系学問観の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

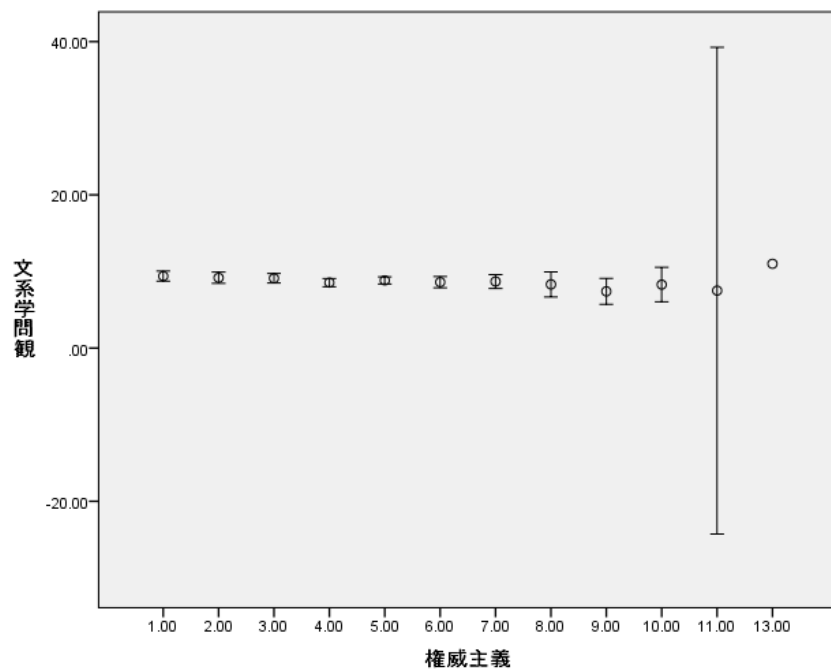


図6 権威主義的態度の強さ別の文系学問観の平均値（エラーバーは95%信頼区間）

図4では、安倍内閣支持の変数が1と2であるものと3と4であるものとで差が出ており、内閣を支持している人はそうでない人に比べ、否定的な文系学問観を持っていることがわかる。図5、図6では有意な関係は明らかにならなかった。

次に、内閣支持・性役割意識・権威主義的態度という3つの保守主義的態度を独立変数、文系学問観を従属変数とし、重回帰分析をした結果が表9である。

表9 重回帰分析の結果

	係数	標準誤差
(定数)	10.245	.321*
内閣支持	-.462	.148*
性役割意識	-.053	.036
権威主義	-.077	.055

従属変数 文系学問観

* $p < 0.01$

表 9 より、0.01%水準で有意な結果を得られたのは内閣支持度合が独立変数の時だけである。このことと図 4～図 6 での結果をふまえると、保守主義的態度として設定した 3 つの指標のうち、「性役割意識」と「権威主義的態度」は文系学問観との関連がないことが想定される。

4. 考察

分析結果のうち、安倍内閣の文系学問に否定的な態度や政策が顕著であることを考えると、安倍内閣支持が否定的な文系学問観に結び付いているのは当然ともいえる。一方で残り二つの保守主義的変数で同じ分析結果が得られなかったことから、京大生においては保守主義的態度が必ずしも否定的な文系学問観に結び付くわけではないことも示された。このことについて、どのような説明ができるだろうか。

ひとつには、稲増ほか (2015) が示したように、大学生における保革イデオロギーと一部の政治的争点との分離がここでもみられたのだということが考えられる。すなわち、文系学問をめぐる問題を、今の内閣が文系学問を軽視しているのだと表面的に捉えたのみで、それが「保守的」な内閣によるものだという、保革イデオロギーとの関連にまで捉えきっていなかったという解釈である。文系学部廃止など、文系学問の否定は大学生にとっても「顕出性の高い」問題であるとはいえる。しかし稲増ほか (2015) の論文中でも言われているように、日本の保革アイデンティティーは安全保障関連の問題対立を軸に成立している。政界の人間でなく、大学生にとっては、その軸に学問観が含まれることを理解しきっていないことが予想される。

また、保守主義を図る尺度として、内閣支持以外の変数が機能していなかったことも考えられる。本稿において、保守主義的態度を示す 3 変数には、相関関係があることが示されたのみに過ぎない。しかし性役割意識や権威主義の度合いによって安倍内閣の支

持度合いも決まる、といったように、内閣支持とほかの 2 指標については、一方が原因でもう一方が結果という関係があることも考えられる。これを考慮せず、3 つの変数を同列に扱ってしまったことに問題があったのかもしれない。

別の問題として、今回の結果が「文系学問」全般に対して言えるとは限らない。本調査で得られたのは歴史学と憲法学、文学のみに対する学問観のデータである。これらは、冒頭でも述べた歴史認識や改憲などに関連が深く、内閣との対立が「顕出性の高い」ものであったために、内閣支持との関係が明確に現れたに過ぎないことが考えられる。例えば地理学や人類学など、他の文系学問についても同様の関係がみられるかどうかは、本調査だけでは示すことができないのだ。

以上で述べてきた問題によって、実態と反する分析結果となっている可能性が考えられるし、今後の研究においてこれらは検証されるべき課題の一部であるだろう。しかしひとまず本稿の結論として、京大生においては、保守主義的な態度であるからといって、それがすぐに否定的な文系学問観に結びつくわけではないこと、内閣支持が文系学問観の決定因のひとつとなっているということを再度示しておく。

文献

文部科学省 (2015) 「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて (平成 27 年 6 月 8 日文科高第 269 号文部科学大臣通知)」 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/10/01/1362382_1.pdf (最終閲覧 2018/1/22)

室井尚 (2015) 『文系学部解体』 角川新書

太郎丸博 (2016) 「保守主義者は反学問的なのか? 政治と科学に関する意識調査より」 <http://www.gakkai.ne.jp/jss/research/89/pdf/218.pdf>、<http://tarohmaru.web.fc2>

com/etc/PIAS_Nissya16_Slide.html#1（最終閲覧 2018/1/22）

稲増一憲・三浦麻子（2015）「オンライン調査を用いた「大学生の保守化」の検証—彼らは何を保守しているのか—」『関西学院大学社会学部紀要』120：53-63

科学と政治に関する意識調査

この調査は文学部の社会学実習という授業（担当教員：太郎丸博）の課題のために行っています。データは匿名化されたうえで部外秘として扱い、**教育と研究**以外の目的には一切利用いたしませんので、ご協力をお願いいたします。また、すでにこのアンケートに回答してくださった方は再び回答していただく必要はありません。

Q1 あなたの所属する学部と性別を教えてください。

<div style="border-bottom: 1px solid black; display: inline-block; width: 90%;"></div> 学部	1 男	2 女
---	-----	-----

Q2 さまざまな学問や科学に対する以下の意見についてどう思いますか？

あなたの考えに一番近いものを一つ選んでください。

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらともいえない	どちらかという そう思わない	そう思わない
① 未知の領域を切り開く科学の研究は、すぐに利益を生み出さなくても政府が支援するべきである。	1	2	3	4	5
② 歴史学は、日本の将来を考えるうえで役立つ。	1	2	3	4	5
③ 物理学は、政府のエネルギー政策の決定に役立つ。	1	2	3	4	5
④ 憲法学は、政府の憲法解釈の決定に役立つ。	1	2	3	4	5
⑤ 学問としての数学は、社会をより豊かにするために役立つ。	1	2	3	4	5
⑥ 学問としての文学は、社会をより豊かにするために役立つ。	1	2	3	4	5

Q3 以下に挙げる団体が、A. 環境汚染の原因について、B. 景気対策について、それぞれ見解を表明したとして、あなたはそれをどれくらい信頼しますか。あなたの考えに最も近いものを a～d のそれぞれについて、一つずつお答えください。

A. 環境汚染の原因について

	信頼する	どちらかという 信頼する	い どちらともいえな い	どちらかという 信頼しない	信頼しない
a 企業	1	2	3	4	5
b 政府	1	2	3	4	5
c マスコミ	1	2	3	4	5
d 大学の研究機関	1	2	3	4	5

B. 景気対策について

	信頼する	どちらかという 信頼する	い どちらともいえな い	どちらかという 信頼しない	信頼しない
a 企業	1	2	3	4	5
b 政府	1	2	3	4	5
c マスコミ	1	2	3	4	5
d 大学の研究機関	1	2	3	4	5

Q4 あなたは安倍内閣を支持していますか。

1 かなり支持している	2 やや支持している	3 あまり支持していない
4 ほとんど支持していない		

Q5 次の考え方について、あなたはどのように思いますか？ あてはまるものに○をつけてください

	賛成	賛成 どちらか と言えば	い どちらとも いえない	反対 どちらか と言えば	反対
① 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ。	1	2	3	4	5
② 概して、女性がフルタイムで働いていると、家庭はその悪影響を受ける。	1	2	3	4	5
③ 夫に十分な収入がある場合には、妻は仕事をめたない方がよい。	1	2	3	4	5
④ 男性は「育児休業制度」を積極的に利用したほうがよい。	1	2	3	4	5
⑤ 一般的に、男性の方が女性より政治の指導者として適している。	1	2	3	4	5
⑥ 伝統を守っていれば、問題は起こらない。	1	2	3	4	5
⑦ どんな状況でも法律には従わなければならない。	1	2	3	4	5
⑧ 自分より権力のある人には従わなければならない。	1	2	3	4	5
⑨ この複雑な世の中で何をなすべきかを知る最良の方法は指導者に頼ることである。	1	2	3	4	5

Q6 次の考え方について、あなたはどのように思いますか？

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらかという そう思わない	そう思わない
① 自分の子どもの名前を考えると、姓名判断を参考にしよと思う。	1	2	3	4
② 自然の中に、人間の力を超えた何かを感じる。	1	2	3	4
③ 神社やお寺でのおみくじの結果は気になる	1	2	3	4
④ 忌み言葉（受験前の「滑る、落ちる」、結婚式の「たびたび、切れる」など）は気になる	1	2	3	4
⑤ さまざまな占いの中には科学的なものもある	1	2	3	4

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

単純集計表

学部／研究科		
	度数	%
総合人間学部	41	9.7
文学部	118	27.8
教育学部	10	2.4
法学部	28	6.6
経済学部	11	2.6
理学部	39	9.2
医学部	7	1.7
薬学部	3	0.7
工学部	110	25.9
農学部	15	3.5
文学研究科	16	3.8
教育学研究科	2	0.5
法学研究科	1	0.2
理学研究科	2	0.5
人間・環境学研究科	18	4.2
公共政策大学院	1	0.2
合計	422	99.5
欠損値 無回答	2	0.5
合計	424	100
性別		
	度数	%
有効数 男	314	74.1
女	110	25.9
合計	424	100
q2x1 科学は政府が支援すべき		
	度数	%
有効数 そう思う	273	64.4
どちらかといえばそう思う	124	29.2
どちらともいえない	16	3.8
どちらかといえばそう思わない	9	2.1
そう思わない	2	0.5
合計	424	100
q2x2 歴史学は役立つ		
	度数	%
有効数 そう思う	171	40.3
どちらかといえばそう思う	160	37.7
どちらともいえない	67	15.8

どちらかといえばそう思わない	17	4
そう思わない	8	1.9
合計	423	99.8
欠損値 無回答	1	0.2
合計	424	100

q2x3 物理学は役立つ		
	度数	%
有効数 そう思う	223	52.6
どちらかといえばそう思う	122	28.8
どちらともいえない	62	14.6
どちらかといえばそう思わない	10	2.4
そう思わない	6	1.4
合計	423	99.8
欠損値 無回答	1	0.2
合計	424	100

q2x4 憲法学は役立つ		
	度数	%
有効数 そう思う	143	33.7
どちらかといえばそう思う	136	32.1
どちらともいえない	97	22.9
どちらかといえばそう思わない	31	7.3
そう思わない	15	3.5
合計	422	99.5
欠損値 無回答	2	0.5
合計	424	100

q2x5 数学は役立つ		
	度数	%
有効数 そう思う	174	41
どちらかといえばそう思う	137	32.3
どちらともいえない	77	18.2
どちらかといえばそう思わない	27	6.4
そう思わない	9	2.1
合計	424	100

q2x6 文学は役立つ		
	度数	%
有効数 そう思う	153	36.1
どちらかといえばそう思う	148	34.9
どちらともいえない	74	17.5
どちらかといえばそう思わない	33	7.8

そう思わない	16	3.8
合計	424	100
q3a1 環境汚染・企業		
	度数	%
有効数 信頼する	11	2.6
どちらかという信頼する	118	27.8
どちらともいえない	128	30.2
どちらかという信頼しない	125	29.5
信頼しない	42	9.9
合計	424	100
q3a2 環境汚染・政府		
	度数	%
有効数 信頼する	27	6.4
どちらかという信頼する	157	37
どちらともいえない	120	28.3
どちらかという信頼しない	90	21.2
信頼しない	30	7.1
合計	424	100
q3a3 環境汚染・マスコミ		
	度数	%
有効数 信頼する	6	1.4
どちらかという信頼する	50	11.8
どちらともいえない	132	31.1
どちらかという信頼しない	135	31.8
信頼しない	100	23.6
合計	423	99.8
欠損値 無回答	1	0.2
合計	424	100
q3a4 環境汚染・大学		
	度数	%
有効数 信頼する	145	34.2
どちらかという信頼する	207	48.8
どちらともいえない	53	12.5
どちらかという信頼しない	14	3.3
信頼しない	4	0.9
合計	423	99.8
欠損値 無回答	1	0.2
合計	424	100
q3b1 景気対策・企業		
	度数	%

有効数 信頼する	21	5
どちらかという信頼する	158	37.3
どちらともいえない	143	33.7
どちらかという信頼しない	72	17
信頼しない	29	6.8
合計	423	99.8
欠損値 無回答	1	0.2
合計	424	100
q3b2 景気対策・政府		
	度数	%
有効数 信頼する	27	6.4
どちらかという信頼する	139	32.8
どちらともいえない	124	29.2
どちらかという信頼しない	101	23.8
信頼しない	32	7.5
合計	423	99.8
欠損値 無回答	1	0.2
合計	424	100
q3b3 景気対策・マスコミ		
	度数	%
有効数 信頼する	5	1.2
どちらかという信頼する	60	14.2
どちらともいえない	120	28.3
どちらかという信頼しない	139	32.8
信頼しない	99	23.3
合計	423	99.8
欠損値 無回答	1	0.2
合計	424	100
q3b4 景気対策・大学		
	度数	%
有効数 信頼する	70	16.5
どちらかという信頼する	195	46
どちらともいえない	126	29.7
どちらかという信頼しない	25	5.9
信頼しない	7	1.7
合計	423	99.8
欠損値 無回答	1	0.2
合計	424	100
q4 安倍内閣支持		
	度数	%

有効数	かなり支持	26	6.1
	やや支持	219	51.7
	あまり支持していない	102	24.1
	ほとんど支持していない	62	14.6
	合計	409	96.5
欠損値	無回答	15	3.5
合計		424	100

q5x1 夫は外、妻は家庭

	度数	%
有効数	賛成	13 3.1
	どちらかといえば賛成	35 8.3
	どちらともいえない	146 34.4
	どちらかといえば反対	97 22.9
	反対	126 29.7
	合計	417 98.3
欠損値	無回答	7 1.7
合計		424 100

q5x2 女性フルタイム家庭悪影響

	度数	%
有効数	賛成	20 4.7
	どちらかといえば賛成	82 19.3
	どちらともいえない	118 27.8
	どちらかといえば反対	75 17.7
	反対	122 28.8
	合計	417 98.3
欠損値	無回答	7 1.7
合計		424 100

q5x3 夫に十分な収入妻働かないほうが

	度数	%
有効数	賛成	16 3.8
	どちらかといえば賛成	38 9
	どちらともいえない	130 30.7
	どちらかといえば反対	109 25.7
	反対	125 29.5
	合計	418 98.6
欠損値	無回答	6 1.4
合計		424 100

q5x4 男も育児休業

	度数	%
有効数	賛成	157 37
	どちらかといえば賛成	156 36.8
	どちらともいえない	91 21.5
	どちらかといえば反対	12 2.8
	反対	1 0.2
	合計	417 98.3
欠損値	無回答	7 1.7
合計		424 100

q5x5 男のほうが政治指導者向き

	度数	%
有効数	賛成	29 6.8
	どちらかといえば賛成	52 12.3
	どちらともいえない	157 37
	どちらかといえば反対	90 21.2
	反対	89 21
	合計	417 98.3
欠損値	無回答	7 1.7
合計		424 100

q5x6 伝統守れば問題なし

	度数	%
有効数	賛成	3 0.7
	どちらかといえば賛成	18 4.2
	どちらともいえない	57 13.4
	どちらかといえば反対	132 31.1
	反対	205 48.3
	合計	415 97.9
欠損値	無回答	9 2.1
合計		424 100

q5x7 どんな状況でも法律順守

	度数	%
有効数	賛成	27 6.4
	どちらかといえば賛成	121 28.5
	どちらともいえない	96 22.6
	どちらかといえば反対	108 25.5
	反対	64 15.1
	合計	416 98.1
欠損値	無回答	8 1.9
合計		424 100

q5x8 権力者には従うべき

	度数	%
有効数	賛成	4 0.9
	どちらかといえば賛成	61 14.4
	どちらともいえない	117 27.6
	どちらかといえば反対	125 29.5
	反対	109 25.7
	合計	416 98.1
欠損値	無回答	8 1.9
合計		424 100

q5x9 指導者に頼るべき

	度数	%
有効数	賛成	6 1.4
	どちらかといえば賛成	33 7.8
	どちらともいえない	78 18.4
	どちらかといえば反対	170 40.1
	反対	129 30.4
	合計	416 98.1

欠損値 無回答	8	1.9
合計	424	100

q6x1 姓名判断参考に

	度数	%
有効数 そう思う	25	5.9
どちらかといえばそう思う	130	30.7
どちらともいえない	135	31.8
どちらかといえばそう思わない	125	29.5
合計	415	97.9
欠損値 無回答	9	2.1
合計	424	100

q6x2 自然の中に人間超えた力

	度数	%
有効数 そう思う	162	38.2
どちらかといえばそう思う	181	42.7
どちらともいえない	43	10.1
どちらかといえばそう思わない	29	6.8
合計	415	97.9
欠損値 無回答	9	2.1
合計	424	100

q6x3 おみくじ気になる

	度数	%
有効数 そう思う	75	17.7
どちらかといえばそう思う	178	42
どちらともいえない	85	20

どちらかといえばそう思わない	76	17.9
合計	414	97.6

欠損値 無回答	10	2.4
合計	424	100

q6x4 忌み言葉気になる

	度数	%
有効数 そう思う	28	6.6
どちらかといえばそう思う	118	27.8
どちらともいえない	124	29.2
どちらかといえばそう思わない	145	34.2
合計	415	97.9
欠損値 無回答	9	2.1
合計	424	100

q6x5 占いの中に科学的なものも

	度数	%
有効数 そう思う	30	7.1
どちらかといえばそう思う	119	28.1
どちらともいえない	152	35.8
どちらかといえばそう思わない	114	26.9
合計	415	97.9
欠損値 無回答	9	2.1
合計	424	100

京大生の科学観と保守性 2017

京都大学文学部社会学研究室 2017 年度社会学実習 報告書

2018 年 3 月発行

編集・発行： 太郎丸 博

京都大学文学部社会学研究室

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
